

中津川市総合計画 2027-2036

資料編

中津川市総合計画 2027-2036

資料編 目次

第1章 策定の体制	1-1
第2章 策定の経過	2-1
第3章 中津川市総合計画審議会	3-1
第4章 基礎調査	4-1
第5章 市民意向調査	5-1
第6章 指標一覧	6-1

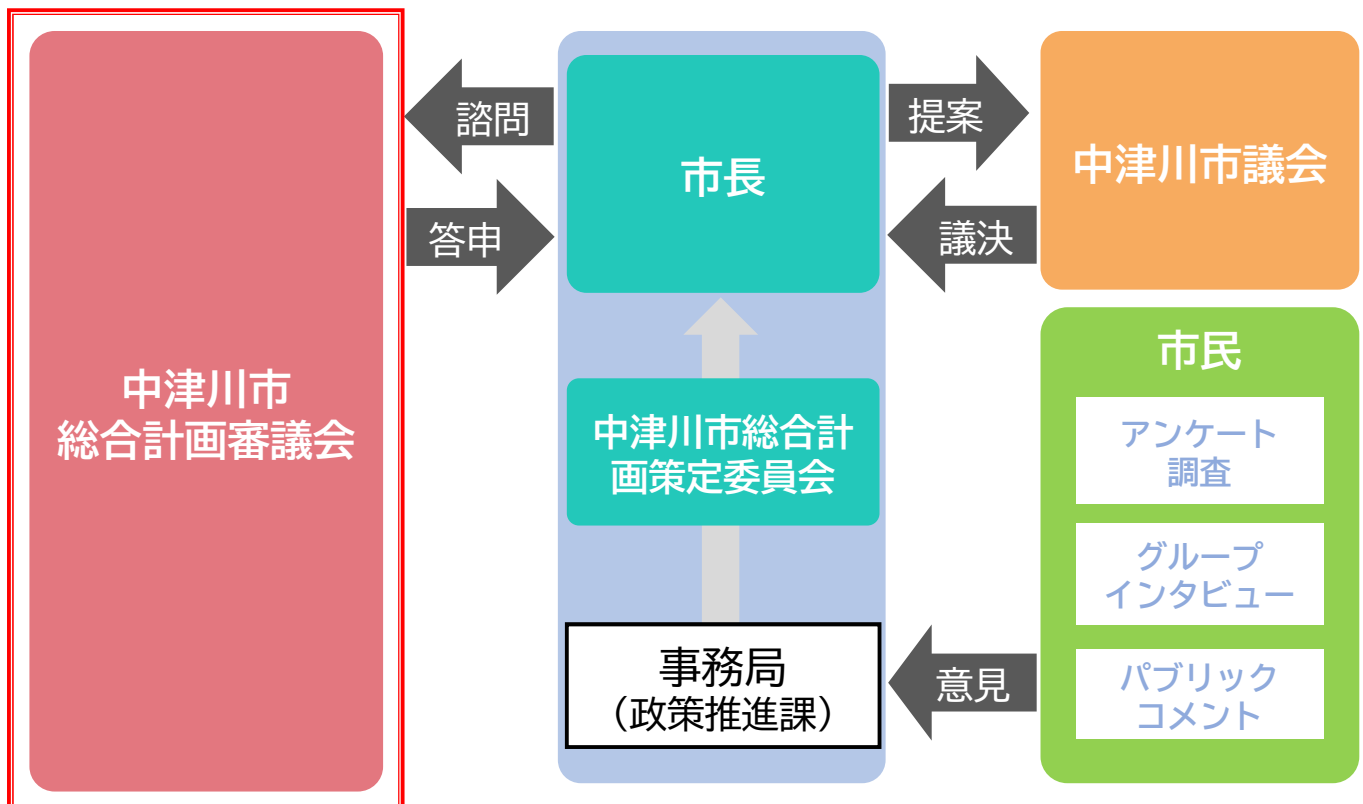
第1章 策定の体制

総合計画の策定体制

中津川市総合計画の策定は、市民の意見に基づいた案を市において作成し、中津川市総合計画審議会に諮問を行い、基本構想及び基本計画について中津川市議会の議決を得て策定しました。

●総合計画策定の体制

- ・中津川市総合計画審議会
総合計画に必要な審査や審議を行う。
識見を有する者、各種団体の推薦する者、住民等21名で構成。
- ・中津川市総合計画策定委員会
全体的な計画の方針等について決定を行う。庁内15名で構成。



第2章 策定の経過

【諮問・答申・議決・策定】

中津川市総合計画審議会への諮問	令和7年8月30日
中津川市総合計画審議会からの答申	令和7年10月23日
中津川市議会議決	令和7年11月27日
中津川市総合計画基本構想基本計画策定	令和8年1月23日

【会議等】

・総合計画審議会

	開催日	審議内容
第1回審議会	令和6年8月30日	次期総合計画策定の方針など
第2回審議会	令和7年2月18日	次期総合計画策定の政策の目指す姿など
第3回審議会	令和7年7月7日	総合計画基本構想素案、基本計画素案など
第4回審議会	令和7年7月28日	将来都市像、重点施策など
第5回審議会	令和7年8月26日	総合計画基本構想素案、基本計画素案など
第6回審議会	令和7年10月23日	中津川市総合計画基本構想及び基本計画答申(案)、答申など

・総合計画策定委員会

	開催日	審議内容
第1回委員会	令和6年8月22日	次期総合計画策定の方針など
第2回委員会	令和7年1月28日	次期総合計画策定の政策の目指す姿など
第3回委員会	令和7年4月1日	次期中津川市総合計画の指標及び施策の内容など
第4回委員会	令和7年7月22日	将来都市像、重点施策など

第3章 中津川市総合計画審議会

中津川市総合計画審議会 委員名簿 (敬称略・順不同)

役職等	委員氏名	選出団体等	分野	任期
会長	須栗 大	中京学院大学	学識経験者	R6. 8. 30～R8. 3. 31
副会長	郷原 基幸	中津川商工会議所	商工	R6. 8. 30～R8. 3. 31
副会長	岩木 健	中津川北商工会	商工	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	古谷 慎悟	中津川市区長会連合会	地域	R6. 8. 30～R7. 5. 9
委員	小縣 智彰	中津川市区長会連合会	地域	R6. 7. 7～R8. 3. 31
委員	佐々木 淳二	一般社団法人 中津川青年会議所	商工	R6. 8. 30～R6. 12. 31
委員	鈴木 佑将	一般社団法人 中津川青年会議所	商工	R7. 1. 1～R8. 3. 31
委員	今井 睦美	中津川市農業委員会	農業	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	安江 恒明	加子母森林組合	林業	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	前田 雅生	一般社団法人 中津川市観光局	観光	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	橋本 あみる	中津川市教育委員会	教育	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	武川 治宏	中津川市 PTA 連合会	子育て	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	水野 皓介	中津川市子ども・子育て会議	子育て	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	吉村 直樹	社会福祉法人 中津川市社会福祉協議会	福祉	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	鈴木 昭	中津川市民生委員児童委員協議会連合会	福祉	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	田口 正弥	一般社団法人 中津川市文化協会	文化	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	若山 真毅	NPO 法人 中津川市体育協会	スポーツ	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	加藤 修己	中津地区災害対策協議会	防災	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	荒井 幹広	中津川市環境推進協会	環境	R6. 8. 30～R7. 6. 2
委員	後藤 大作	中津川市環境推進協会	環境	R6. 7. 7～R8. 3. 31
委員	栗谷本 征二	中津川市自然環境団体等連絡会議	環境	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	成瀬 重男	中津川市公共交通会議	交通	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	大嶋 晋一	公募	住民	R6. 8. 30～R8. 3. 31
委員	小島 未来	公募	住民	R6. 8. 30～R8. 3. 31

中津川市総合計画審議会について

審議会の概要

「中津川市総合計画審議会」は、中津川市附属機関の設置等に関する条例に基づき、市長の附属機関として設置される。

24人以内の委員で構成され、総合計画の策定に関する必要事項についての調査及び審議を行う。

審議会の任期等

委員の任期：令和6年8月30日から令和8年3月31日まで

審議の内容：総合計画基本構想及び基本計画の素案の審議

審議会設置に関する例規等

○中津川市附属機関の設置等に関する条例（平成10年中津川市条例第2号）〈抜粋〉
（趣旨）

第1条 この条例は、別に条例で定める場合を除き、市長の附属機関（以下「審議会等」という。）の設置等に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 別表に定めるところにより、審議会等を設置する。

（組織）

第3条 審議会等は、別表に定める委員定数により組織する。

（任期）

第4条 審議会等の委員の任期は、別表に定めるとおりとする。ただし、再任を妨げない。

2 前項本文の規定にかかわらず、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第5条 この条例に定めるもののほか、審議会等に関し必要な事項は、市長が定める。

別表（第2条—第4条関係）

審議会等の名称	担任する事項	委員の任期	委員の定数
中津川市総合計画審議会	総合計画の策定に関する必要事項についての調査及び審議	諮問期間	24人以内

○中津川市附属機関の設置等に関する条例施行規則（平成10年中津川市規則第19号）

《抜粋》

（趣旨）

第1条 この規則は、中津川市附属機関の設置等に関する条例（平成10年中津川市条例第2号）第5条の規定に基づき、市長の附属機関（以下「審議会等」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（委嘱等）

第2条 審議会等の委員は、別表に掲げる者のうちから市長が、委嘱又は任命するものとする。

（会長等）

第3条 審議会等に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員のうちから互選する。

3 会長は、会務を総理し、審議会等を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第4条 審議会等の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会等の会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3 審議会等の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第5条 審議会等の庶務は、別表に定める課等において処理するものとする。

（委任）

第6条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

別表（第2条、第5条関係）

審議会等の名称	委員選任の基準	庶務担当課等の名称
中津川市総合計画審議会	識見を有する者 各種団体の推せんする者 住民（公募による者）	政策推進部政策推進課

○中津川市総合計画審議会委員の代理出席に関する要綱（令和6年8月30日策定）

（趣旨）

第1条 この要綱は、中津川市総合計画審議会（以下「審議会」という。）の代理出席に関して必要な事項を定める。

（代理の定義）

第2条 この要綱において代理とは、各種団体の推せんを受けて委嘱された委員が、やむを得ない事由により審議会の会議（以下「会議」という。）に出席することができないとき、当該委員の委任を受けて会議に出席し、意見を述べる者のことをいう。

（委任できる範囲及び代理の所属）

第3条 前条に規定する代理に委任できる権限は発言権のみとし、その他委員に属する権限を代理に委任することはできない。

2 代理は、当該委員を推せんした団体に所属していなければならない。

（定足数及び表決権）

第4条 代理は、中津川市附属機関の設置等に関する条例施行規則（平成10年中津川市規則第19号。以下「規則」という。）第4条第2項に規定する定足数に含まない。

3 代理は、規則第4条第3項に規定する表決権を有しない。

（委任）

第4条 この要綱に定めるもののほか、代理出席に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

（施行期日）

1 この要綱は、令和6年8月30日から施行する。

（この要綱の失効）

2 この要綱は、令和8年3月31日限り、その効力を失う。

中政第10号
令和6年8月30日

中津川市総合計画審議会会長 様

中津川市長 小 栗 仁 志

中津川市総合計画の策定について（諮問）

本市を取り巻く社会環境は、急速な少子高齢化の進行による人口減少などによりますます厳しくなるとともに、新型コロナウイルス感染症、頻発する想定外の災害等に代表されるように、予測の困難さを増しております。

その中にあっても持続可能な都市として市民が安心して暮らせる中津川市を目指していくため、令和9年度を計画の初年度とする中津川市総合計画を策定することといたしました。

よって計画策定にあたり、中津川市附属機関の設置等に関する条例の規定に基づき貴審議会の意見を求めます。

令和7年10月23日

中津川市長 小栗 仁志 様

中津川市総合計画審議会
会長 須栗 大

中津川市総合計画の策定について（答申）

令和6年8月30日付け中政第10号により諮問のありました中津川市総合計画の策定について、当審議会において慎重に審議を重ねた結果、別冊のとおり取りまとめましたので、答申します。

今後の市政運営にあたっては、少子高齢化の影響による人口減少の急速な進行、新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行、想定外の災害等の頻発などに代表されるように、将来の予測の困難さが増す中にありますが、持続可能な都市として市民が安心して暮らせる中津川市を目指す必要があります。

そのために、この答申と本審議会等の意見を踏まえて、魅力にあふれた将来都市像の実現に努められるよう要望します。

I 開催日時

令和6年(2024年)8月30日(金) 10:00~12:00

II 開催場所

中津川市役所 4階 大会議室

III 委員 21名(うち欠席1名:前田委員(代理出席あり))

【資料0-2】総合計画審議会委員名簿

IV 次第

- 1 開会
- 2 委嘱書交付
- 3 市長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 会長及び副会長の選出
- 6 会長及び副会長あいさつ
- 7 中津川市総合計画について(諮問)
- 8 議事
 - (1) 会議の公開等について
 - (2) 中津川市総合計画審議会の代理出席に関する要綱の制定について
 - (3) 中津川市総合計画の策定方針
 - (4) 総合計画策定の進め方について
 - (5) 市民意向調査について
 - ①まちづくり市民アンケート調査
 - ②グループインタビュー
- 9 その他
- 10 閉会

V 議事録

<開会>

- ・令和6年度、第1回中津川市総合計画審議会を開会

<委嘱書交付>

- ・市長より本審議会委員へ委嘱書を交付

<市長あいさつ>

【要旨】

- ・中津川市総合計画審議会の委員にご就任いただきましたこと御礼申し上げます。
- ・中津川市総合計画は中津川市の中でも最上位に位置づけられる計画であり、中長期的にまちづくりをどうしていくのか、それを位置づけるのが、この総合計画になる。今日をスタートに令和9年度からの10年間の中津川市の将来像を審議、議論いただくことがこの会議の趣旨となる。
- ・中津川市はリニア中央新幹線の岐阜県駅の開業を控えるまちであり、その開業は当初の予定よりも遅れて約10年後に開業するという見込みで進んでいる。開業までにどのような中津川市を作っていくのか、いわば中津川市の今後の基盤となる大変重要な10年間だと捉えている。
- ・中津川市のまちづくりに日頃からご協力をいただいている皆様から、各分野からの意見をいただき、総合的に中津川市の未来のまちづくりの計画をつくっていく。中津川市にとってとても重要な計画となるため、力添えをいただきたい。
- ・会議を進めていく中で、それぞれの団体、立場で参加いただいているため、それぞれの所

属する団体としての意見を挙げていただきたい。実際に計画が進む段階になってから、所属する団体から意見が出てくることがないように、会議の資料を事前配布するので、資料をもとに各団体で意見をまとめてこの審議会に臨んでいただきたい。

- ・これから中津川市が大きく変わろうとしている令和9年度からの総合計画は非常に意味のある大切な計画だと捉えている。忌憚のない意見をいただきながら、より良いものを作り、それを確実に実行していく。そんな計画作りに力添えをいただきたい。

<委員紹介>

- ・事務局より委員の紹介

<会長及び副会長の選出、あいさつ>

- ・会長に須栗委員、副会長に郷原委員と岩木委員を選出

<中津川市総合計画について（諮問）>

- ・市長より中津川市総合計画審議会へ「中津川市総合計画について」諮問

<議事>

協議事項（1）会議の公開等について

（事務局から説明）

- ・本審議会の会議は公開とする

【資料1】中津川市審議会等の会議の公開に関する指針

協議事項（2）中津川市総合計画審議会の代理出席に関する要綱の制定について

（事務局から説明）

- ・「中津川市総合計画審議会の代理出席に関する要綱」を決定

【資料2】中津川市総合計画審議会委員の代理出席に関する要綱（案）

協議事項（3）中津川市総合計画の策定方針

（事務局から説明）

【資料3-1】中津川市総合計画について

【資料3-2】中津川市総合計画審議会について

【資料3-3】次期総合計画の策定方針

（質疑）【要旨】

質問	基本計画は前期と後期で5年ごとに分かれているが、この審議会では前期の5年間分だけ審議をして、後期の基本計画は別に作っていくということでしょうか。
回答	この審議会においては、基本構想と基本計画の前期について策定に携わっていただく。後期の計画は、また改めて前期の計画の終了前に策定を進めさせていただく。

協議事項（4）総合計画策定の進め方について

（事務局から説明）

【資料4】総合計画の策定の進め方について

（質疑）【要旨】

質問	総合計画以外に個別の分野別の計画があり、期間が前期の計画に関わってくるものが多くあると思う。事前に個別計画を作成した担当課から説明を受ける機会を作って、専門的な個別計画と総合計画のすり合わせができるのではないかと。
回答	個別計画に関しては、総合計画の策定期間にかかっているものもある。しかし、計画も様々な分野があり、かなりの数となるため、全ての説明は難しい部分がある。可能な範囲で必要な計画があれば、担当部署とも連携して説明することもできるため、また意見いただきたい。
質問	基本構想を作る段階で、若い職員の意見を聞く場を設けていただきたい。
回答	若い職員の意見もその都度、こういった形かは未定であるが、聞いていきたい。

質問	委員の所属する団体の中で調整や意見を確認する時間も必要である。事前の資料配布について、完璧にした資料でなくて良いので、粗いものでも一ヶ月前を目途に配布していただきたい。
回答	最終的な資料の前段階となるが、一ヶ月前を目途に資料を送らせていただく。
質問	会議の場では回数が限られているので、委員は市の関係部署に対して質問をしても良いか。
回答	直接関係部署に質問いただくことはできるが、会議以外にいつでも事務局に話を頂ければ、担当部署に繋げて話を聞く場を設けることもできる。

協議事項 (5) 市民意向調査について

①まちづくり市民アンケート調査 ②グループインタビュー

(事務局から説明)

【資料 5-1】市民意識調査（アンケート調査）

中津川市アンケート案内文

中津川市アンケート調査票

【資料 5-2】グループインタビュー

中津川市グループインタビューチラシ

中津川市グループインタビューシート

(質疑)【要旨】

質問	アンケート調査の「施策」の 25 番「ごみ」と「し尿」が一緒にくくられているが、ごみの問題は産廃も含んでいるため、分けて設問にしてはどうか。
回答	「ごみ」と「し尿」を分けることについて検討させていただき、アンケートに反映をしていきたい。
質問	アンケート調査の「施策」の 33 番は「農業の振興」のみあるが、県内 2 番目の飛騨牛の飼育をしている中津川市において、畜産が項目から外れているのは不本意なので、検討をお願いしたい。
回答	「農業」と「畜産」を分けて項目とすることについて検討させていただき、アンケートに反映をしていきたい。
質問	アンケート結果は目標設定の部分にも関わってくるという認識でよいか。
回答	基本計画の部分で将来の都市像に向けて目標設定、数値目標等を決めて進めていくため、目標設定に関わってくるものとする。
質問	子育ての目標で、例えば子育て環境に満足しているかを評価すると思うが、年代によって回答が変わる。無作為抽出の場合は、高齢の方が多くサンプリングされると思うので、実際に子育てを行っている世代の意見が正しく反映されるかを心配している。それぞれの施策において、関わる人の属性の重み付けを行うことができるか。
回答	調査については、無作為抽出ではあるが、回答いただいた方の属性を把握する設問があるため、子育て世代の意見を抽出して満足度や重要度を把握することが出来る。施策において回答の属性に重み付けを行うかどうかを含めて、検討することができるアンケートとなっている。
質問	アンケート調査の対象者の中で、例えば留学生や研修生というアンケートへの回答が難しい層があると思うが、そういった層の意見が無回答で終わってしまって反映されないのが、アンケートの難しい点であると考えている。多言語化することは、別の点でまた難しくなると思うので、回答が難しいと思われる層に対してはグループインタビューで対応することを担保するといった方がいいか。
回答	多言語化については検討したが、難しい部分がある。意見をいただいたとおり留学生のグループやそのような団体に対してグループインタビューさせていただき、意見をいただくことは可能であると考えている。アンケート調査では意見を頂き難い層には、グループインタビューなどで意見を集めたい。
質問	グループインタビューにおいて調査対象となるグループは、どのように抽出するか。委員からの提案も受け入れるか。

回答	グループインタビューについては、まずは市役所内部での調査により調査対象を選出して意見を聴取し、その後、広く募集する予定である。委員から推薦をいただければ、その団体にも案内を送るので、是非推薦を頂きたい。
質問	現総合計画を作る際も同様のアンケートをしているが、本アンケートと内容は同じか。
回答	内容としては近いものであるが、次期総合計画を策定するにあたって項目などの見直しを行っているため、全く同一というわけではない。
質問	このアンケート調査では、すべての施策に対してとても重要であるという評価をつけることができってしまう。 先日、岐阜県から県民アンケートの依頼があり回答をしたが、県のアンケートはカテゴリーごとに、より重要度の高いものを選ぶといったように、極端な回答を避ける方法をとっているため、一度確認いただきたい。 また、アンケート調査にあたって、施策に対して知識の無い人は適当に回答してしまう可能性や、回答ができない可能性がある。市の課題や現状を把握できるような資料の案内があってもいいのではないか。
回答	県のアンケート調査については、確認をさせていただく。 市の施策等の案内については、アンケートの回答に方向性を与えてしまわないよう注意して検討させていただきたい。
質問	グループインタビューについて、市から依頼した団体を審議会の委員が知ることはできるか。グループインタビューを実施した方がよい団体があるので、市が依頼していないなら団体に声をかけたい。
回答	グループインタビューの依頼団体については、審議会委員に共有させていただく。 市が依頼を行った団体以外でグループインタビューを実施した方がよい団体があれば、別途依頼をさせていただくので、是非推薦いただきたい。

全体を通しての意見、質問

【要旨】

意見	今年の4月頃に人口戦略会議で消滅可能性自治体が公表された。岐阜県内では16市町村、恵那市が含まれて中津川市は入っていなかった。おそらく公表された市町村は、危機感を持って様々な対策を考えていると思う。中津川市は含まれていなかったが、この消滅可能性自治体への参考となる次期総合計画を策定できるとよい。
回答	事前に資料を配布している通り、市としてもこれまでに人口ビジョンを策定し、人口減少に対応していくことを考えております。
質問	総合計画の中に位置づけられる個別計画を一覧表にして配布いただきたい。
回答	個別計画については、一覧表にして委員に共有させていただく。
質問	示された工程表の中には前期事業実施計画についての工程が載っていない。総合計画（基本構想・基本計画）と実施計画は合わせて作っていくのか、それとも総合計画（基本構想・基本計画）を策定した後に事業実施計画を策定するのか。
回答	令和7年度に基本構想、基本計画を策定した後、次期総合計画の事業実施計画については、令和8年度に策定することを想定している。

<その他>

- ・ 次回の日程は、来年1月～2月頃を予定している。詳細は改めて連絡・調整する。
- ・ 次回以降の資料は、およそ1ヶ月前を目途に送付する。

<閉会>

- ・ 令和6年度、第1回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

I 開催日時

令和7年(2025年)2月18日(火) 14:00~16:00

II 開催場所

中津川市役所 4階 大会議室

III 委員 21名(うち欠席3名)

IV 次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 資料確認
- 4 会長及び副会長あいさつ
- 5 中津川市総合計画について(諮問)
- 6 議事
 - (1) 基礎調査の実施報告 【資料1】～【資料5】
 - ・市民意向調査の結果(アンケート調査結果、グループインタビュー調査結果)
 - ・現行計画の検証(各課ヒアリング結果)
 - ・課題と強み
 - (2) 基本構想素案について 【資料6】～【資料8】
 - ①政策の目指す姿(案)
 - ②将来都市像(案)
- 7 その他
- 8 閉会

V 議事録

<開会>

- ・令和6年度、第2回中津川市総合計画審議会を開会

<委員紹介>

- ・事務局より委員の紹介

<資料確認>

- ・事務局より資料の確認と説明

<会長、あいさつ>

- ・会長あいさつ

<議事>

協議事項 (1) 基礎調査の実施報告について

(事務局から説明)

(質疑)【要旨】

質問	市民意向調査の回答者の年齢構成について、半数が60歳以上である。無作為抽出だとしても補正した方が良い。総合計画が10年である事を考えると、若い世代の意見が大事だと思うがどうか。
回答	Webによる別途調査において、多くの若い方の意見を取り入れている。紙面の都合上、資料3には無作為抽出のみ掲載しているが、計画策定の検討においては別途調査等も含めて検討していく。

協議事項 (2) 基本構想素案について

①政策の目指す姿(案)
(事務局から説明)

(意見)【要旨】

【分野】子育て・教育	
意見	<ul style="list-style-type: none">・子育て・教育に関して、教育委員会から提出した内容が反映されていると感じる箇所と、少子化・人口減少のトレンドを反転させるといった、今まで教育委員会で挙がっていないものがある。中津川市教育大綱とのすり合わせも必要なのではないか。・政策の案について、「心身ともにたくましい子が、生まれ育つ」とあるが、イメージが古い。これからの時代の人口減少を意識して、結婚・妊娠・出産・子育ての希望が叶うまち、みたいな現在の少子化問題に対応するかを政策の中心にして、もっと打ち出した方がよい。子育てに関しては、若い人のイメージに合うテーマを出した方がよいと思う。・人口減少を受け入れるか受け入れないかが根本的な話で、市のあるべき姿でどちらを取るか明確にしておかないと、政策がぶれるのではないか。・政策案の「心身共にたくましい子が、生まれ」の「生まれ」が引っかかる。中津川市にいる子がたくましく育つならいいが、様々な要素を混ぜた結果、この文章になっていると思う。人口が増えるのと、たくましい子を育てるのは別の方がよいのではないか。・子育て・教育に関して、目指すべき姿が女性中心の記載に見える。結婚・妊娠・出産・子育てについては、男性も非常に重要な立場である。結婚等が増えない理由には、若者の仕事や賃金などの将来の不安も考えられるため、市のあるべき姿に安心して働けるまちを入れていただきたい。

【分野】健康・福祉	
意見	<ul style="list-style-type: none">・この先高齢化率が上昇し、一人暮らしの方が増えてくる。その方々の困り事に対応するため、地域と専門職をつなぐコミュニティソーシャルワーカーを配置し、重層的な支援をしながら柔軟な相談ができる仕組みが必要なので、そのような文言がほしい。・この中に医療という言葉はあるが、介護という言葉がないので必要だと思う。・3ページのあるべき姿の場所に、より多くの医療職員を目指す学生を支援・育成し、市内に就職できる事で地域医療をできる人材を確保とあるが、政策の目指す姿の場所にない。・全般的に坂下地区・恵北の問題がよく出ている。政策で安心して医療が受けられるまちと記載しているが、この地区で明確に強みを作っていくといけない。・あるべき姿のところにある救急医療体制を維持することができると思うが、今年度指令所が統合されてしまう問題が出ている。その点を弱体化しないような施策を考える必要がある。

【分野】共生・協働・定住	
意見	<ul style="list-style-type: none">・中津川市の現状を見ると、外国人の数が増えていくと思われるが、表現がかなり抑えてある。誰もが(国籍問わず)活躍できるとあるが、その前に誰もが同じように住める環境を作っていくのが大事ではないか。今後外国人の数が増加していく中で市の在り方の方向付けをする必要がある。・地域の中で、地域内に居住している外国の方と交流したいが、雇用している事業所と連絡が取れないということがあある。企業においても共生の数字の目標、企画などがあるとよい。・リニア開通で外国人の数や人口が増えていく中で、国際感覚・リーダーシップを持つグローバルな人材育成を目指すのならば、もっと地域に住む外国人と地域の人達の交流を増やす方に進んでいった方がよいのではないか。

【分野】生涯学習・文化・スポーツ	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・この分野に限らず、課題を政策に反映しきれていない箇所がある。政策や目指す姿の中に、課題として掲げられた文言が入ってこないのはもったいない。調査によって「文化や歴史が活用できていない」という課題が明らかになったならば、次期計画において、政策に入れるか、難しければ目指すべき姿に入れたほうがよいのではないか。

【分野】防災・防犯	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団員の年々減少が止まらない。消防団でも施策を行うが、市でも加入を増やすような施策がほしい。それが防犯・防災に繋がると思う。

【分野】環境	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自然というキーワードが多く出てくるが、汗を流す人が少ない。そういった人を守り育てていくシステムがないと、農地などは減っていく一方である。 ・子育ての場所でもそうだが、「未来の人材が育つまちと」あるが、他人事のように見える。地域の人が育て、市がそれに投資をしていくことをしないと、中津川に未来がないと思う。学校教育だけではなく、中津川全体で関わって人材を育てていくような画一的なものではなく、もっと広い分野での教育システムを作っていけたらと思う。「人が育つまち」から「人を育てるまち」という意識が必要 ・岐阜県は小水力発電が盛んで、潜在的なエネルギーが豊富な場所である。自然エネルギーについてももう少し記載がほしい。加子母地区では既に県営の小水力発電施設がある。中津川市の自然のポテンシャルを考えると、自然エネルギーについて何かもう少しできるのではないか。 ・ごみの関係だが、今のごみ処理というのは家庭にごみ袋があって、なんでも入れれば回収日に回収されることになっている。しかし、これからのことを考えると、住民の負担が増えたとしても、もう少し違う施策していかないと、立ち行かなくなるのではないか。 ・脱炭素やカーボンニュートラルや数値目標等の文言が、目指すべき姿の場所に見られないので記載してほしい。

【分野】産業	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の工業生産に関しては頑張っているが、街中の商業施設、市民が憩う場所・遊ぶ場所が欠けていると思う。せつかくリニアが開通されるので、そこを目指してなんらかの施設を考えていくべき。 ・市長が目指す宿場町構想も一つの大きな商業・産業施策になると思うので、これも見据えた上で追加していくのもよいのではないか。 ・政策案の冒頭に「自然や文化を活用」とあるが、冒頭にこれを持ってくると、重きを置きすぎている気がする。文言を外した方がよいのではないか。強みの方に大規模な製造業があるのに、市が限定した産業分野に誘導しているように見える。 ・あるべき姿の中で、市としてアントレプレナー（起業家、新たに事業を起こす人）への支援を明記した方がよい。 ・市には知的労働ができる企業が少ない。若者が帰ってくるための受け皿としてそれらを誘致、確立することが必要なもので、あるべき姿の中に入れておいた方が施策をやりやすいのではないか。 ・アンケート結果で自然について強調されているが、実際の農業人口は減り続けている。目指す姿のところで持続可能な農業のまちと書いてあるが、この言葉だけで具体的な人材育成等の施策等が書かれていないのは気になる。 ・課題の設定のところで、遊ぶ場所が不足しているというのは、遊び方を知らないのが問題であって、遊ばせてもらうのではなく、遊ぶ方法を工夫して考えられる人を育てていかないといけない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川の森について、林業が盛んだが、今は林業だけでなく、林業を介したさまざまな取り組みが出てきている。そういった環境を利用して、もっと市がアピールをして自然と遊ぶ方法を考えられる人材を育成してほしい。 ・今の時代、森林空間の利用について広く叫ばれているので、何か文言を入れてほしい。 ・産業のところで林業は市にとって誇り高い産業であると書いてあり、将来の目指すべき姿にも建築物に多くの市産材が使用されると書いてある。木造建築はCO₂の排出を50年間固定し、環境にも優しいので、市の公共建築物に積極的な木材の使用や木造建築にする施策がほしい。 ・産業という区分は幅広すぎるのではないかと。自然や文化と工場生産両方を無理やり取り入れているので、軸がぶれている気がする。産業という区分を広く取ることが本当によいことなのか。あるべき姿も政策もますます広がっていき、できるものだけを採用する危険性がある。 ・目指すべき姿にリニアの記載がない。基盤整備ではリニアの記載が多いが、この線引にはルールがあるのか。10年後の答えを出しやすくするために、分野を1つにしてないかと想像してしまう。確実に物事をやっていくのであれば、細分化された記載が産業の中にあってもよいのではないかと。 ・観光関連についてだが、観光を産業化していこうという段階で、まだ産業化できていない認識で動いていると思うので、立ち位置を一緒に考えていただきたい。観光協会・会議所・商工会と足並みをそろえて、政策の目指すべき姿というものを作っていただきたい。 ・中山間地域の商業インフラは将来的には無くなってしまおうと思われる。ただ、目指すべき姿の文言では、商業の持続的な発展と書いてある。計画に入ってくるのかもしれないが、もう少し明確な施策の記載がほしい。 ・商業の持続的な発展を目指すのであれば、中山間地域の商業インフラに対する施策を具体的に示してほしい。 ・農業の中で、栗が温暖化の影響で例年の半分程度の収穫であった。栗は中津川市の特産品であるので、産業や観光の支援として、市もやっていくべきではないか。 ・観光に関しては、コロナ禍以前より観光客が増加している。日本各地でオーバーツーリズムが問題となっているので、中津川市も観光客の分散を市の施策等でお願したい。
--	---

【分野】 基盤整備	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行に関して、最大の課題は乗務員の確保である。乗務員の高齢化が進んでいる。この先、企業だけでは旅客業は厳しいので、市としても公共交通の確保・人材確保という面で施策を行っていただきたい。

【分野】 行政運営	
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・行政運営が保守的であると課題にもあるが、中津川市は2005年に1市7町村が合併して、15地区で運営されている。これが10年先も可能なのか。行政区も地区の中に細かく分かれているが、区長のなり手がいない。更に民生委員の数が多すぎる。原因は15地区も維持されていることではないか。10年の中で必ず出てくる課題だと思う。 ・15地区の維持が本当に必要なのか検討をする必要がある。 ・行政運営が保守的であることに関してだが、合併して一つの中津川市になってから20年経過している。職員が、自分が生まれ育った地域以外の場所では、攻めた施策は遂行できないのではないかと。攻めた施策ができる環境を皆で整えていく必要があると思う。 ・総合計画というのは、将来を作る戦略だと思うが、戦略をチューニングしていく中で市役所の組織もそれに対応して変わるべきだと思う。マーケティング課や人材育成課等、時代の様相に合わせた組織づくりが必要ではないか。

②将来都市像（案）
（事務局から説明）

（意見）【要旨】

意見	<ul style="list-style-type: none">・この部分のキーワードが、中津川市の将来の空気を作っていく。中津川にいたら楽しいとか、ワクワクするという空気感がいいまちを作っていく。中津川市は教育に関して見せ方が下手なだけで、中身はうまくやっている。ワクワクすることは大事であるが、3つの将来像の人づくり・地域づくり・安心づくりの中身の文言がワクワクしない。表現が硬く感じる。一貫してつながっている空気感が大事である。・「笑顔があふれる」と言わなくてもよいのではないか。未来がワクワク中津川のように、短くても伝わるものもある。・できるだけキャッチーにして、「中津川」が入ってなくても良い。差別化する必要もなく、大事なのは中津川市民が愛着を持てることである。現在AIで3つの将来像を入力するだけでさまざまな表現が出てくるので、こういうのも活用してみてもよいのではないか。・「自然」というキーワードは中津川市の特徴なのでほしい。・残したいキーワードを会議で決め、公募で募集するのも面白いのではないか。・中津川が一つになっていないので、中津川が一つになれるようなフレーズがほしい。
----	--

<その他>

- ・次回の日程は、来年5月～6月頃を予定している。詳細は改めて調整する。
- ・次回の資料は、およそ1ヶ月前を目途に送付する予定である。

<閉会>

- ・令和6年度、第2回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

I 開催日時

令和7年(2025年)7月7日(月) 14:00~15:40

II 開催場所

中津川市役所 会議棟2階 大会議室

III 委員 21名

IV 次第

1 開会

2 報告

第2回中津川市総合計画審議会における意見への対応方針について 【資料1】

3 議事

(1) 中津川市総合計画基本構想素案について 【資料2】 ~ 【資料4】

(2) 中津川市総合計画基本計画素案について 【資料5】 ~ 【資料7】

4 その他

5 閉会

V 議事録

<開会>

・令和7年度、第3回中津川市総合計画審議会を開会

<報告>

・第2回中津川市総合計画審議会における意見への対応方針について、事務局から説明

<議事>

協議事項 (1) 中津川市総合計画基本構想素案について

(事務局から説明)

(質疑)

委員

・将来都市像についてはB案で進めるということだが、市長の発信だと「ワクワク」というキーワードが多いため、そのあたりの整合をどう捉えているのか、どう発信をしているのか。メッセージは非常に大事だと思っていて、このキャッチフレーズが空気感をつくっていくと思うので、その点を確認したい。

・29歳以下の方の意見は非常に大事で、中津川市は他の自治体と同様に若者が都市部へ流出をしている。流出した方の意見は反映されていないと思うが、人口減少をとめるのを考えるならば、「なぜ外に出たのか」意見を聞いた上で、課題化をして施策・政策に入れ込んでいくことが大事だと思う。中津川にとどまってもいいと思っている人たちだけでなく、できればとどまらなかった人たちへの調査もしてほしい。

事務局

・市長が言っている「ワクワク」との整合については、特に後半での「より良くなるまち」、「住めば住むほどよい」、「ほど、よい」というフレーズで「ワクワク」について発信していきたい。「住めば住みほどよい」、「訪れるほどよい」というようにワクワクするまちだと、「ワクワク」を使いながらも「より良くなる」という意味で同時に発信できると思う。それにプラスして、中津川市の既存の魅力であるちょうどよい、ここに住みたいという「ほどよい」の両方の意見を取り入れたいという思いで、「ワクワクする」「楽しくなる」という意味合いを落とすわけではなく、「ほどよい」という言葉を使って、「ワクワク」を前に出していければと思っている。

・外に出た人たちの意見についてはその通りだが、現状では中津川市から出た人たちから意見を収集する手法がなかなか取りづらい。ただ、今回は特に小中学校全体にアンケートを送付し、まだ外に出ていく選択肢のない子どもたちから意見収集や投票をしてもらっているので、人口比に比べると子供たちの割合がかなり高くなっていると考えている。

・補足すると、市外へ流出していく若い人たちの意見について、今回の市民投票という中ではなかなか拾うことは難しいところはあるが、今後、市外へ行く方の意見を聞けるような仕組みや手法等を考えて、事業や施策に基づいた手立てを行っていく中でやっていけたらいいと考えている。

委員

・一点目については、結構難しい発信の仕方になると思うので、相当工夫が必要だろうと思う。「ほどよい」というのと「ほど、よい」というのは全然違う言葉で、このダブルミーニングを発信するのは難しいと思うので、頑張ってほしい。

・二点目は、いつのタイミングでどういう理由で流出しているのか、いつかのタイミングはおそらく学校（高校、専門学校、大学、短大）なので、そういった方々の意見がどうなのか。例えば、大勢が一堂に会する成人式とかでアンケートを行えばいいと思うが、出るか出ないか狭間の方々に意見をとるのは、非常にいいのではないか。ご検討いただければと思う。

・「ほどよいまち」は区切るか区切らないかですごく意味が変わってくると思う。説明を聞くとすごくいいと思ったが、そのまま「ほどよいまち」と言ってしまうと、目標としては中途半端というか、ネガティブな意味になってしまうので、やはり使い方は大事だと思っている。

事務局

・発信については、何かダブルミーニングがわかるような手法を検討させてもらう。

委員

・最初にこのアンケートを見た時に私が一番良くないと思った案が1位になっていた。「ほどよい」という中途半端な、大変良くもなく大変悪くもなくちょうどよい、その中津川なのかと思っていたら、事務局からそういう意味ではなくて「住めば住むほど、良い」とかいろんな意味が含まれていると説明を受けたからやっとわかっただけで、このキャッチフレーズを見ただけではわからない。委員のみなさんも「ほどよいまち なかつがわ」に違和感を抱かれたのではないかと思う。事務局からの説明で、なるほどこういう捉え方の「ほどよい」もあるんだと、やっとそこでわかったのが正直な話である。

・発信の仕方は、「ほどよいまち」を前面に押し出していくのであれば、かなり細かな説明をするのはわからないが、慎重にやられた方がいいのではないかと思った。

事務局

・逆に「ほどよい」というのがフックになって、なんだ？と引っかかって、そこから見てもらえるような仕組みをぜひつくっていきたいと考えている。

委員

・みなさんと同じ意見で、「ほどよいまち」というキーワードに発展への諦めを感じるので、その辺を教えてください。

・有効回答数の多くの割合が小中学生との回答とあったが、実際はどのくらいの数字か。

事務局

・実際の票数だと、B案は18歳未満が34票、18～19歳が0票、20～29歳が16票、29歳以下の合計が50票となっていて、資料4の左下にも記載がある。

委員

・言葉なのでどれでも言い回しはきくが、おそらく書面で出されるわけで、誰が説明についてまわるのかわからないけど、絶対にできない。確認だが、市民7万人いる中で、475票で決定なのか。

事務局

・決定ではなく、案として持ってきていて、あくまで最終的には議決をする話になるが、こちらの案を主で持っていきたいと考えている。

委員

・現状では説明が必要、つまり行政の仕事が増えるということになるし、誤解を招く可能性もある。なので、避ければいいのではないかと思う。475票の中で順位はあるが、市民全体で考えれば大差ではないと考えても問題はないと思う中で、なぜB案の「ほどよい」をゴリ押しするのがわからない。理由を教えてください。

事務局

・B案をゴリ押ししているわけではなく、むしろ、この審議会の中でB案ではなくこちらの案の方がいいのではという意見をいただければと思う。それらの意見を総合的に考えて、最終的な案とする流れになるので、ぜひ審議会としての意見をいただければと思う。

委員

・説明がいろいろあると仕事が増えるので、わかりやすい内容の方がいいだろうと思う。
・P14 将来都市像の下のイメージ図で、「時をつなぐ 地域の資源とリニアのアドバンテージを最大限に活用したまちづくりによって、子どもたちの笑顔を未来へつなげていく」とあるが、リニアは今から10年以上先だが、残りの7、8年は捨てるという理解でよろしいか。

事務局

・こちらは文章的に色々つないだところもあって、まちづくりは「リニアにより」だけではないところになるので、「子どもたちの笑顔」について、決してここ何年かを捨てるという話ではない。

委員

・リニアの部分は誤解を招く可能性がある。この10年間の計画の中でリニアがスタートするのは2、3年分くらいの可能性が大きい。まちをつくる部分の方が大きくて、完成がいつなのかはまだ見えてない中で、リニアの影響を受けるのは今回の計画では比率的に少ない。そこまでリニアを推す理由がよくわからない。もちろん、リニアをやるのは片側で進めてもらって構わないが、イメージ図の輪の中にリニアをどうしても入れたいという意図を感じてしまう。だから、完成するまでの8年間は捨てるという意図になってしまうので、リニアが来る来ないに関わらず、中津川はやっていかないといけない。アドバンテージでプラスになるわけだから、リニアが来なくても中津川はやっていけるという内容にしないといけない。
・中間の2031年時点ではリニアは全く関係しないので、目標のなかでリニアの拡充が大きい気がするので、そこら辺はバランスよくしてほしい。

事務局

・リニアについては、開業自体は先になるが、それに向けてのまちづくりという部分は、やはり進めていく部分もあるので、書きぶりとかも含めてもう少し検討させていただく。

委員

・リニアの話題が出たが、実際に10年後にしか動かないという動きがあるが、例えば坂本駅の周辺で区画整理を行っているが、実際に宅地造成して宅地供給ができるとか、あるいは駅周辺の整備をして、駐車場が無くなってしまっただけで名古屋に行く方は結構困っている。リニアのまちづくりで10年待つのではなく、どこで何ができるか総合計画の範疇のなかでどういう考え方があるのか。

・坂本地域の都市計画の考え方、宅地開発はさらに進んでいるが、整備・開発・保全という都市計画のポイントをここでもう少し表示していく必要があるだろうと思うが、その辺については、ほとんど触れられていない。

・市では病院や医療の問題がある。市民病院は35年が経ち、建て替えをしようとするれば補

助金が出て事業ができる年数である。今後 10 年間、医療や介護について整備の方向性をどう考えるのか、建て替えや新築など論議はあるのかもしれないが、病院をもっと充実してほしいという声があって、市外へ受診される割合も高くなってきている。救急の対応も市外ということが増えているとも聞くので、その辺りも整備するという方針を 10 年間白紙で待つのではなく、課題として入れてほしい。

事務局

・具体的にリニアのまちづくりの坂本地区での進捗や医療、特に市民病院について意見をいただいた。具体的な方針については、この後の基本計画でもう少し踏み込んだ記載をしているので、そちらで回答させていただければと思う。
・こちらは全体的な大きな方針としては、リニアを活用したまちづくりを進めていく、健康については安心して医療が受けられる、人材確保も含めて地域医療を安定して供給、市民の方に安定して中津川市が医療を供給するというところまでが、基本構想の領域であると考えている。また、基本計画の段階で改めて説明する。

会長

・各団体から出てきているので、政策も確認していただきながら、将来都市像の素案では 3 つの中では「ほどよいまち なかつがわ」が選ばれたことを共有されているが、この審議会の中でどうするのか。

委員

・B 案の「ほどよい」をつなげなければ、これが一番いいと思う。「ほど」と「よい」の間に空白にするとか何かを入れるとかして少し直せば、私は B 案に賛成である。

副会長

・みなさんから意見をいただいて直していく段階だが、「ほどよい」というところでみなさんには疑問がかなりあるようなので、その部分では一考していくという形でよろしいか。
・進め方としては、構想があって後で細かい話があると意見が出しにくいので、素案まで説明してからの方がいいと思う。

協議事項 (2) 中津川市総合計画基本計画素案について (事務局から説明)

(質疑)

委員

・重点施策の部分、A3 の説明で、基本計画内に基本政策が何個かあって、その中に緑色で塗られているのが集まって重点施策と書かれている。そこで、突然重点施策テーマがワンダフルウッズ、これを見ていくと、時をつなぐ、地域をつなぐ、人をつなぐと書かれているが、先ほど基本構想の中で同じような輪っかの絵があったが、その内容とはリンクはしていないという状態。挙句の果てに、今やろうとしているのは 10 年間の構想、または計画等をやろうとしている。でも、突然この重点施策は 10 年以内でやるものが何個か集まった重点施策、そのテーマがワンダフルウッズ、なのにワンダフルウッズが何十年も先まで見込んだものというような説明になってくると、逆に今度は何十年も先のものがこの重点施策に選ばれるということであって、10 年間で結論出さないといけないものは選ばないということを説明されたという理解でよろしいか。

事務局

・コンセプトブックでは、将来の 5 年、10 年先ではなく、もっと先の未来の絵である。総合計画の中に入れるものではなく、あくまでも将来に向けたこんなまちになったらいいなという絵を描かせていただいた。そこに向かっていくためにこの 5 年、10 年はどんな計画にしていっていいのか、どうしたらこの未来のまちの姿に近づいていけるだろうかということの位置づけになる。

委員

・あくまでも 2027～2036 年までの総合計画について今揉んでいる状態で、突然、何十年も未来を見据えて、当然その継続が何十年も未来を指すのだろうが、今の説明の仕方だとそこがベースでその下に基本構想がある位の内容である。

・今 10 年をやるようとしていて、もちろん未来をつながる 10 年だけれど、それでもリニアを押しやる。リニアのない 7 年間をどう考えるかということもあるが、どっちがやりたいのか、重点施策をベースにその上で他のものは後回しということなら、順位付けをすればいいと思うが、重点施策ではないものに対しては、この中に入らなかったものに関しては適当にやるのか、重点施策のベースになるこれだけの資料を揃えられるわけだから、別の力でやられるのか、それがよくわからない。事のスタートは A3 の紙で、重点施策という説明が既にしてある。重点施策の説明があった上で、コンセプトブックが出てきて、延々と説明までされた。挙句の果てに、これは何十年も先を考える。これは必要なのか。

事務局

・重点施策は、施策の中で重点的に行っていく施策で、テーマとして今計画ではワンダフルウッズを掲げている。重点施策をワンダフルウッズに基づいて抽出して進めていくというだけでは伝わりにくい部分もあると思っており、そもそもワンダフルウッズのテーマとはなんだという説明として、コンセプトブックにもつながってくる。

・今回の審議会で揉んでいるのは総合計画の 10 年で、基本計画で 5 年ずつの計画になるが、将来の姿という夢を描くという部分も踏まえた上で、重点施策を考えるべきという思いがあって、そのためのコンセプトブックを総合計画の別冊として位置づけ、最初の 5 年の計画の中でやっていきたい、重点施策として基本計画の中で決めていく 5 年の事業、施策というところを計画の中に入れていきたいと考えている。説明の流れや仕方が悪く、わかりにくい部分も多々あったと思うが、思いとしてはそういったところで、まずはテーマの部分の将来の姿も含めて説明した上で、重点的なテーマとして示したものである。

委員

・思いはわかるが、重点施策がある以上はこの 10 年の計画の中で重点施策である。

・何十年も先の未来を描かれるのは、片側で作っておくべき内容で、今現状もあるという内容である。そうであれば、5 年の間にこれを別で、重点施策がひも付けされるからおかしくなるわけで、ひも付けせずにこれはこれでやっていくべきという案で、別でつくられた上でやった方がいい。重点施策はあくまで 10 年ではなくもっと先の未来という説明になってしまうので、そうであればこの重点施策はこの 10 年でゴールを目指すわけで、必ず 10 年で答えを出さないといけない。重点施策という枠にもう書かれているので、これは関係ないという説明であれば、実は別冊であって、これもやっていくという説明の方がわかりやすいと思う。一度考えていただき、その上でどういう風に運用されるかはお任せする。

事務局

・基本計画の中で定めさせていただく重点施策については、基本計画の中で施策として入れさせていただくものになるので、こちらも含めて説明の仕方等も含めて、もう少し練らせていただきたいと思う。

委員

・委員の話もよくわかって、これは重点施策と定めてしまうからダメな話だが、ある意味、市としては画期的なことだと思う。今までもただ何々計画というのだけでずっと来た中で、こういったものをつくるというのは、良い悪いは別として、非常にいい案が出てきているなというように思う。アンケートを取った後なので申し訳ないが、本来ならアンケートのところにワンダフルウッズという大きな見出しが来てよかったのかなという印象をまず受けるのと、これは非常に行政としては、くだけていい発想が出てきているなと思う。

・これを思いついたので、これが重点施策だという認識に結びつけたくなるのだろうけど、これはあくまでも基本構想の素案の解説パンフレットの的なものであって、重点施策というのはここに入っているので、重点施策として定めるというよりは、未来の中津川のまちづくりとして、子供にもよくわかるもので非常にいいと思うので、その辺のニュアンスの違いだけ

で、私は非常に良いと思う。

事務局

・位置づけ等も含めて、この重点施策を考える中では、コンセプトブックは並行した部分もあるので、その辺でなかなか位置づけ的なところも分かりづらく、本来はこうではないかという話もおっしゃる通りである。その中で今回あくまでもコンセプトブックについては、総合計画の別冊という形で位置づけたいという思いで作ってきたものである。

委員

・私もこれが出てきて、非常にいいと思った。ワクワクして、結構震えている。説明も少し整理をしないといけない点があるかもしれないが、これそのものが出てきたことはすごくポジティブだし、中津川市がこれを出すだけで変わったなと思われるという、一市民の感想だが、いいと思う。NならNextとかもあるし、このトーンも好きである。

事務局

・ぜひ他にもNのなにかあれば、いろんなアイデアをもらえればと思う。

委員

・今までみなさんの話を伺ったり説明を聞いていて、そもそも論になるが、この会議で基本構想と基本計画を伺って、基本計画の中から重点施策をピックアップする作業が必要で、それを私たちが審議したり話し合ったりするのか、事務局がピックアップしたのに対して意見や感想を言ったりするのかと思うが、この施策などはすべて、土地の問題や医療とか教育とか中津川市がリードしていかないといけない問題で、例えば土地なら基本構想の第7章に土地利用構想というのがあって、大前提を市で作ってもらってそれを元にさらに具体的な、現場が判断基準としていくものだと思うので、今後10年とか100年先、リニアが来る来ないとかを見越して、何を重点的にリードしていったらいいのかを教えてもらえると、私たちは意見が言えると思う。

事務局

・重点施策に関しては、そこでまたコンセプトブックにつながってしまうが、先ほどからの基本計画、基本構想とともに、全体的な全てのあらゆる分野についてそれぞれの項目が書かれているが、この中で中津川市が何をしたら、中津川市がどうなったら、子供たちがワクワクする、みんな楽しく、ほどよく心地よく、自然体で暮らせて、かつ子供たちがワクワク楽しく暮らせるにはどうすればいいのかを考えた上で、出てきたのがこのコンセプトブックである。将来的に遠い未来、中津川市がこんな姿になっていたら、中津川市がこうなっていたら楽しいのではないかと、こうなっているのが素晴らしいのではないかとということコンセプトブックで挙げて、重点施策はそれに資する内容を現在の基本計画、基本構想の中からピックアップして持ってきていたいと考えている。なので、コンセプトブック、つまり中津川市の何十年後かのある未来の姿、楽しくなる、ワクワクする姿についてぜひ意見をいただいて、その方向に向かうことができる施策を事務局の方で抽出したいと考えている。なので、要素的にワンダフルウッズ、このコンセプトブックの構成、こういったものがないとか、例えばワンダフルウッズをやるなら、教育が必要だろうとか、やはり公共交通が必要だよとか、そういった将来のまちをどうしたら、どうなったら楽しくなるのか、どうしたらワクワクするのか、そういったものについてぜひ意見をいただいて、コンセプトブックを定めさせていただいて、それに資する内容、そこに向かえる内容を重点施策として掲げさせてもらえればと考えている。

委員

・話を聞いていて、モニターに書いてあるコンセプトブックがずっとあるものというイメージと重点施策を基本施策の中から抽出した感じのものと図表が2つあって、そこが混同しているような感じがしているので、10年ではなくてずっと続いていくものであるとすれば、全部の施策はすべてを網羅しているので、その中でこの5年間では中津川市ではこれをやっていると、一般市民に伝えるという意味では伝わりやすいと思う。そういう意味では、上手

にやるならば使っていただいて、5個なり10個なり視覚的にぱっと今これをやっているんだとわかるように、そして詳しく見ると冊子で細かいことまでわかりつつも、市民にとっては、総合計画を見たところでどこに力を入れているかはわからないので、それがわかるかなと思う。これが5年ごとや10年ごとで変わるものなのか、コンセプトブックとしてはずっとあって、内容がどんどん変わっていく感じかなと思った。

事務局

・コンセプトブックはコンセプトブックとして長期にわたってあって、それを実現するために重点的に取り組む施策は基本計画の中に5年ごとに掲載する。5年ごとに目標をつくって、未来のまちの姿をゴール地点として、それに向かっていく重点施策として、この基本計画の中に位置づけさせてもらう。

委員

・重点施策をこれから選んで、こういうのを入れたらどうかという話があると思うが、目標が先ほど言っていた「ほどよいまち なかつがわ」を実現するためにどれがいいのかと考える頭と、未来のまちの姿を実現するためにはどれを選んだらいいのかという2つの目標ができてしまって、どっちかなと思っている。どっちにパワーバランスを置いて選ぶのかは、今後考えていく必要があると思う。

事務局

・今の話は大事なところで、将来都市像がこの10年で目指すべきところで、それに向けて計画の中の重点施策はあくまでそちらに向けて力を入れて進めていくということになるので、流れとしては大きく違う方向を向いているものではないと思っているので、そこもきちんとそれがわかるような形に、つながっていることがわかるように示していきたいと思う。今はそのつながり部分がわかりにくい、わからないという声もあるので、それも含めてわかりやすく説明できればと思う。

委員

・今話を聞いていると、整理があまりされていない気がする。重点施策のテーマの案を見ると、基本構想P14のイメージ図とほぼ一緒だが作りが違う。同じものであれば、同じように作っておかないと意味が分からなくなって混同してしまう。ここどこをどういうふうにかえるのかといった時に見えない。このものとコンセプトブックがどうつながるのという所も捉えている人で感覚が違うような感じがする。今日テーマにしたいもの、どう組み立てて、どういう結論にしたいのかというところがはっきりしていないので、どこからどう攻めていったらいいのかわからないのが、この会議の状態ではないかと思う。

・基本構想と基本計画で同じ言葉が2種類の言葉で書かれている。例えば、安全安心と安心安全があり、安心の方が多いので安心をテーマにしたいとか強くしたいという意味合いがあればいいが、一般的には安全安心が通常の言葉の使い方なので、そこに意味合いを持たせるのであれば、その点の説明もいると思う。少し統一されていないように感じる。

事務局

・文言の統一されていない項目に関しては、再度チェックをして統一する。
・計画の全体の整合や整理がされていないという印象を受けたというのが、強く感じているところなので、きちんと整理をして説明ができるように整えたいと思う。

会長

・やはり資料のところや計画全体を一つ一つ丁寧にやっていくところは大変重要なと思う。概要の重点施策を見ると、将来都市像に向かって力強く牽引する施策を抽出したものと最初の資料に書かれているのが、それが変更になるのかどうかも含めて、このコンセプトブックは大変考えられて、いいものが出てきていると思うが、そこをほんとにみんなが納得してうまく使っていくという所の建付けがもう少し必要ではないかと思った。

・ここの場の中で、さきほど小委員も言われてように、なにか結論を出してだとか、この方向に行こうという結論を出すのは、今の段階ではちょっと難しいかなというのが私の意見だが、みなさんいかがでしょう。もう一度、事務局の方で建付けのことも含めて、将来都市

像についてもさまざまな意見があったので、決を採るというよりももう少ししっかり整理して、提示していただければと思う。一回会議が増えるのかもしれないが、ぜひ今まで出ている資料も確認しながら、今ここでこの方針で行こうというのは少し難しそうではあるが、みなさんはいかがか。

事務局

・全体的なスケジュールとしては、10月下旬に最終的に市長に答申、12月の議会に上程させていただき、つまり10月末、11月頭くらいには案として完成させていただきたい。また、パブリックコメントも実施したいと考えているので、答申までにととなると9月半ばまでにはパブリックコメント用に固めたいと思う。

・あくまで策定するのは中津川市なので、審議会の意見として完全に固めて、ひとつの意見としてこうだという必要はない。できればそれを目指してはいるが、異なる意見があっても、最終的には付帯として意見をいただき、中津川市として答申としてはこうだということではできる。8月、9月の間になんとか予定を組ませていただければと思う。

副会長

・素案とか計画案があるが、これが決定事項で議会に通るというわけではなく、ここから提案したものが、市長も含めた市の決定機関で決定した上、議会に通すということだね。だから、完全なものが出来上がるわけではない。

・今たぶんみなさんが思っているのは、これについての意見を言うだけなのか、それともこれに対してまだ足してほしいというものを言っているのかどうなのかがまず明確ではないということだろう。

・それから、この資料だけならいいが、アンケート結果もありワンダフルウッズもあって、どこが主となるのかといえばこの2つの計画、基本計画とコンセプトブックだと思う。

事務局

・その通りで、様々な意見をいただきたいところだが、審議会には各団体の代表としてお越しいただいているので、基本的な考え方として、各分野のそれぞれ所属している団体の目線で、こちらの各項目について、これが本当に中津川市として向かうべき方向性かを確認いただき、意見をいただきたい。足りない言葉やもう削ってもよいという内容があれば教えていただければと思う。

・コンセプトブックについては、まだ変えることは可能である。意見をいただき、変えさせてもらう。

副会長

・基本計画が決まってからのコンセプトブックであり、ものすごく良いものを作っていると思うが、コンセプトブックを押し通す前に、まず基本計画をしっかり決めて、それに合わせたコンセプトブックをつくるべきというのが、私個人の意見である。

・もう一つ付け加えてほしいのが、先ほどもハコモノの話が市民病院も含めて出たが、会議棟は物凄くいいものをつくっていただいたが、本庁舎、消防署、各支所も含めて、市町村合併後の建物を一度見直す時期に来ていて、それから新しいものは建っていないと思うので、それを見直すことと坂下病院を含めた医療関係を見直すのも、これだけ地震等の自然災害が大きい中で、一級河川のところに会議棟も含めて、この場所が行政としていいのか悪いのかでいえば、私は現状ではそぐわないだろうと思う。だから、それも踏まえて計画もできないかは別として、これを今入れておかないと次の5年先になってしまうので、駅前のにぎわいとかも含めて、ハコモノ行政に対してもやはりある程度計画を盛り込んでおかないと、災害や地震が起きて壊れてしまって行政が止まってしまったではダメだと思うので、それも含めたワンダフルウッズだと思うので、その辺は盛り込むのか、大きなニュアンスで捉えてもらえればいいと思うが、一度整理してやっていただきたい。

事務局

・今いただいた意見も含めて、まずはこの作りとか検討いただく内容、こういったゴールに向けてか、そういった整理も含めて、また次回、この会議を増やすのか、次の会議の中でそ

ういった説明をするのか、まずは整理をしてから説明をさせていただければと思うのでよろしくお願ひしたい。

会長

・いただいた意見等については、事務局で検討していただくものとし、スケジュールもあるので、また次の委員会までに進めていくところは進めながら、もう一度みなさんから意見をいただく機会を持ちたいと思っている。

<その他>

- ・次回以降の日程は、改めて検討させていただき、改めて連絡する。
- ・意見の用紙については、7月22日までにお願ひしたい。

<閉会>

- ・令和7年度、第3回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

I 開催日時

令和7年(2025年)7月28日(月) 10:00~11:30

II 開催場所

中津川市役所 4階 大会議室

III 委員 21名

IV 次第

1 開会

2 議事

(1) 将来都市像について 【資料1】、【資料2】

(2) 前期基本計画における重点施策について 【資料3】

(3) まちづくりコンセプトについて 【資料4】

3 その他

4 閉会

V 議事録

<開会>

・令和7年度、第4回中津川市総合計画審議会を開会

<議事>

協議事項 (1) 将来都市像について

(事務局から説明)

(質疑)

委員

・「ほどよいまち なかつがわ」(「くらすほどよいまち」「あそぶほどよいまち」、「はたらくほどよいまち」という将来都市像に対して、資料1の「くらすほどよいまち」についての重点施策は子育て、教育あたりになるが、働くことに対しては重点施策に選ばれていないのはよいのか。

・また、コンセプトブックで「ワンダフルウッズ」と言っているのに、林業分野が重点化していないというのは、何もつながりがなく、これでよいのかと感じた。

事務局

・「働く」については、重点施策の中では誘致、観光という分野が「働く」という点に関わると考えている。起業の推進や、企業誘致等も含めて、様々な誘致、働く場所等の強化をしていく。そのような部分から「働く」につながっていくと考えている。

・林業については、重点施策として最初の5年間で進めていく内容という中で、まず市の魅力を向上させる最初の一步として注視するもの考えた。

委員

・将来都市像は、ビジョンやゴールみたいなものとして考えたらよいか。

事務局

・このまちがどのような形になるとよいかというゴールに近いものだが、そのゴールのビジョンというようなニュアンスになる。このまちがどういった形になるとよいか、どこを目指していくかが目指すべき将来都市像ということになる。

委員

・いろいろな企業の理念、目的、ビジョンを考える際に、ビジョンの共有が大事であり、最近のトレンドはビジュアル化である。テキストベースで共有するよりも、どのようなイメージを持ってもらうかが大事である。このビジュアル化された時のイメージと下のイメージ図があまり繋がらないというのが率直なところである。もし「ほどよいまち なかつがわ」で行くのであれば、その要素も含めて、もうすこし整理した方がよい。また「ワンダフルウッズ」が僕はイメージだと思っており、新たな森のイメージで、そういうものの方がビジョンやゴールに近く、共有できるイメージだと思う。

・議論の対象とは違うかもしれないが、将来ビジョンは「ワンダフルウッズ」でよいのではないか。ただ、森というイメージが先行すると林業みたいな感じになるので、あくまでイメージ。言葉を変える必要があるかもしれないが、市民に対して、ビジュアルのイメージをいかに共有させるかを大事にしていきたい。

事務局

・策定する総合計画の将来都市像が「ほどよいまち なかつがわ」となれば、今後10年間で目指す将来のイメージは「ほどよいまち なかつがわ」となる。

ただし、さらにその先にある中津川市のビジョンやイメージ的な部分について、イメージを共有するための道具として「ワンダフルウッズ」という別冊のコンセプトブックを使い分けていきたいと考えている。

委員

・二つあると分かりづらいという印象を受ける。

委員

・「ほどよいまち なかつがわ」が市民から選ばれたものであり、将来都市像はこれでいくという考えであれば審議対象から外してはどうか。

・資料のイメージ図の中に「ほどよい」とは一言も書いていないし、ど真ん中に書かれているのが「笑顔」と「ワクワク」である。それならば、「笑顔とワクワクのまち中津川」でよいのではないか。

・長い説明をつけないと理解してもらえない可能性がある将来都市像の了承を求めていると取れる。「ワンダフルウッズ」が将来都市像であってしかるべきであり、そうでなければこの構図が成り立たないように感じる。

・「ほどよいまち なかつがわ」を将来都市像として定め、それとは別で、審議対象外として「ワンダフルウッズ」が伴走すると言われても、なぜ「ワンダフルウッズ」が将来都市像になり得ないのかがわからない。

事務局

・この案を進めることを決定しているというのではなく、案について審議会からご意見をいただきたいと考えている。

・「ワンダフルウッズ」を将来都市像にという意見があったが、コンセプトブックは、遠い将来のイメージを共有するものとして作ってきた経緯がある。今回指摘されているが、「ワンダフルウッズ」は、総合計画の基本構想の将来都市像として、時間軸も含めて足りない部分や、少しそぐわない部分がある。計画期間を持った将来のまちの姿という観点で、市民投票にかけたことも踏まえ、前回会議で示した三案から選出したいと考えて示した。

・資料のイメージ図は、「ほどよいまち なかつがわ」を含む、各種案を募集する時に基となった図である。「ひとづくり、地域づくり、安心づくり」という点から、「絆、未来、持続可能性」というようにつながり、最終的に「笑顔、ワクワク」につながるとい流れであり、そのイメージを基に将来都市像の案を作成している。

・「笑顔、ワクワク」について、笑顔や幸福が「ちょうどよい」、「ほどよい」という表現につながっている。また、「暮らせば暮らすほど」、「遊べば遊ぶほど」、「働けば働くほど」といったところが未来へのワクワク、期待感につながっている。直接的ではないが、その趣旨はこの中に含まれていると考えている。

委員

・今後「ほどよいまち なかつがわ」と書かれた場合、ここまで説明しないと誤解を招くと考える。

副会長

・このイメージ図をベースに出してきた案が、この「ほどよいまち」ということでよいと思う。イコールで考えるとイメージ図の中になぜ「ほどよい」がないのかという疑問が出てくるので、その辺を皆様の意見で訂正ができるとよいと思う。
・「ワンダフルウッズ」を将来都市像とした方がよいとの皆様からの意見は、行政として新しいことを試みている結果であると思う。しかし、行政としては市民からいただいた意見をアンケートした以上は、それを一つの土台にしていかなければならないということは、理解できる。

会長

・見せ方、イメージの持たせ方というところにまだ工夫が必要である。将来都市像が決まって、イメージ図をどう変えていくのかも含め、また将来都市像を市民に共有するにあたり、どのような見せ方がよいのか、ロゴなどによる工夫や、配置の工夫などもしていただきたい。
・併記形式の「ワンダフルウッズ」についても、委員から意見があったことも入れながら、市で検討していただきたいと思う。
・また、次回に対応案等も提示することをお願いしたいと思う。議事1についてはこのような形でよろしいか。

協議事項 (2) 前期基本計画における重点施策について (事務局から説明)

(質疑)

委員

・重点施策として選ばれたものに対して、その努力的な目標や投資的な予算、どれぐらいの差を持ってやっていくかが具体的にわかると重点を本気でやるとわかる。重点的でやると決めたのはよいが、なぜここが重点なのかという説明を全部やってこそ、将来像、未来像に繋がる。
・観光の部分で、書かれている内容としてはその通りだが、そこから次へ入っていききたいという思いもあるので、行政としてこの案を重点施策としてあげた段階で、どれぐらいの規模と考えているか。

事務局

・総合計画の基本構想・基本計画に、予算規模等は記述しないので、どれぐらいの規模等は掲載しないが、重点施策が案のとおり固まれば、その後、実施計画として予算等を含む計画を立てていく。その段階で、重点的な扱いとして考えることになる。

会長

・市で優先的に予算配分するとか、枠があるとかいうわけではないのか。

事務局

・明確にこの枠というものは持っていないが、総合計画の重点政策として定める以上は、何らかの形で求めていきたい。

会長

・関連しているところが重点として入っているところ、入っていないところもあると思う。この主な取り組みの濃度が、このぐらいの表記でよいのか、もう少し具体的な方がよいのか見当が必要である。目指す姿のところは、抽象度が高い形で書かれているので、こういったことを入れた方が市民にとってわかりやすいのではないかという意見も含めて、その通りと思う。

委員

・子育ての分野の一つ目の「地域や地元企業など様々な人と協働し」の部分がしっかりこない。内容を見ると教育というイメージを持たれる内容なので、教育と子育てで同じ大きなくくりとしているところがあるが、この違いを聞かせていただきたい。

事務局

・教育と子育ての部分は、密接不可分でもあると思う。特に子育て世帯への支援、環境の整備という部分含め、地域、地元企業との協働という部分も重要との考えで、目指す姿で書かせていただいた。

・別に関連してくるのが教育で、大きい分野としては子育て・教育になるが、子育てで力を入れていく点と教育で力を入れていく点で、魅力あるまちにしていくと考えている。

委員

・子育てはもっと包括した内容であげた方が分かりやすい。それで重点施策がまとめられるなら、もう少し違うところも追加できるのではないか。今ここに6個ある中で、まだ政策のうちで重点施策になっていないものが3番から7番までであるということもあるので、前半はこういった重点施策をして、後半はこういったところを目指すということも見せながら、なぜここを最初に重点施策にするのかを見せてもらえると、もっと長い、広い視野で考えられると思う。資料の追加やまとめられるものはまとめて、きちんとした線引きをしっかりと項目を分け、施策を考えていただけるとよい。

事務局

・総合計画の前期の5年間での重点施策になるので、前期が終了すると後期の重点施策で検討していく形になる。その時に重点的にやるのは引き続き同じかもしれないし、違うものになってくるかもしれない。前期と後期という部分に向けては、説明等でまた加えていきたい。その際に将来を見据えた進め方を入れていきたいと思う。

委員

・市民にこれを重点的にやると理解してもらうことが計画を立てる上で大事だと思うので、ぜひ中津川市らしいところに積極的に予算をつけたとか、市民の目に触れるところでアピールしてほしい。これを中津川市は重点的にやっているということが、市民によく理解してもらえるようなものにしてほしい。

・リニア整備についても、やむなく取り組んだことなのか、中津川市が重点的にやったことなのかという違いが市民に伝わればよいと思う。将来都市像を「ほどよいまち なかつがわ」にするのであれば、例えば、木育の授業をする場合に、子どもたちにも「木育するほどよいまち なかつがわ」として、市がこういう事業を推進しているから、木育の先生たちが学校に来るとか、医療でも「医療現場が整うほどよいまち なかつがわ」というように、いろんなところでそのビジョンを市民に、重点的にやっていることをアピールしながら、この計画を進めていって、市民にここに力を入れているということを、なるべく理解してもらえるような進め方をしてほしい。

事務局

・大変重要な観点だと思う。中津川市として重点的にやったとしても、知られていない、理解されていない等その部分が伝わらなければいけないので、しっかりとアピールして、これをやっている、という部分を広くお知らせしていきたい。

委員

・先ほど目指すところの項目が抽象的になってしまうという話があった。これを仮に重点施策にしても、結局抽象的になってしまう。このまちをよりよくするとか、人に来てもらうとかは地域間競争で、他の行政はライバルで、競合他社みたいな状態である。するとより具体的に、例えば子育てなどのよい施策を打っているところをターゲットにして、重点になるなら、それを超えていかなければならないというような書き方が必要だと思う。

・総合計画の枠組み自体にもかかってくるかもしれないが、比較対象として、他の行政を超えていくような枠を一個追加して、ここは超えていくとの書き方をしたらどうか。先ほどから話し合っている「ワンダフルウッズ」とこの「ほどよいまち なかつがわ」のつながりから、一番上に何十年も先に向かっている「ワンダフルウッズ」があり、それを少し噛み砕いて説明すると「くらすほど よいまち」、「はたらくほど よいまち」、「あそぶほど よいまち」という将来像がある。例えば「よりよいまち なかつがわ」があり、他の市よりもよいまちのようにすると、もう少しわかりやすいのではないか。

事務局

・他市等との比較は、この中で記述するのに適しているかを含め、検討させていただきたい。

委員

・自然という言葉が非常にたくさん出てくる。この自然環境をどうやって維持していくかについて、重点になっていないのが、全て都会化されて中津川の良さがなくなるというところにもつながると思う。自然環境とか農業とか林業、この辺ももう少し中津川の基盤産業として残せるような重点施策を打ち出していくと、他とは違うというところが出てくるのではないか。

事務局

・自然環境や農業、林業等について、当然重要な分野であると捉えており、さまざまな検討を行ってきた。そのなかで、まずは市の魅力をさらに上げて、各種人口増加につなげていくという点を、この5年間取り組んでいく第一歩という形で考えたものになる。今後の検討事項としても考えていきたいが、重点施策をあまり広げすぎると、逆に重点として薄れてしまうというところもあるので、その点のバランスを考えながら検討できればと思う。

委員

・教育分野が目指す姿に書いてある通り、規模適正化とか、なかなか学校に行けない子に対する環境を整えるとか、基礎学力の向上とか、そういうところで教育委員会も頑張っているのだから、そこをピックアップしてもらえたのがすごく嬉しいし、ますます頑張らないといけない。今後5年間でますます頑張れるように、みんなで意見共有しようと思う。

委員

・重点施策6点に載っているが、将来の都市像の「くらすほど よいまち、あそぶほど よいまち、はたらくほど よいまち」、これがどこにつながっているか教えてほしい。
・将来都市像からいくと、例えば資料1の都市計画とかは重点施策になるのではと考える。

事務局

・基本施策は35項目あるが、これが全て基本的には将来都市像に向けたところでつながっていると考えている。その中で重点的に取り組むものということで重視したものになる。子育て、教育、それから健康という部分では、「暮らす」という部分が強く、観光やリニアという部分では「遊ぶ」につながり、誘致、観光、リニアという部分では「働く」がつながってくると考える。明確にこの分野はこれだけという話ではなくて、様々な要素がつながりながら、将来都市像に向けていくものと考えている。

委員

・観光では、主な取り組みも目指す姿の中にも「持続可能」という言葉が入っている。将来都市像にも「持続可能」という言葉が入っているが、「持続可能」と書いてあるのは観光だけで、他の子育て、教育などに記載がない。観光だけなぜ「持続可能」という言葉を使って書かれているのか。誰が持続可能なのか、行政がお金を払い続けるという持続可能なのか。持続可能という意味を確認したい。

事務局

・他の分野も当然、持続可能という観点は持っている。持続可能は他の分野も含めて、重要

な観点と考えているが、観光で特に持続可能というのは、観光産業として自立的に持続ができていくという部分が重要な点と考えているからである。

委員

・持続可能な観光関連産業は、単純に下呂温泉なら温泉が湧いて宿をつくったら勝手に回っていくだろう。これは単純明解その通りで、中津川市ではこれがないから観光が薄い。観光地になりきれない、何を売るかというのわからないというのが、中津川の観光の現状である。

・ひと・まちテラスを建てる時、スマートインターを設置するとき、すべて観光という言葉で2番目ぐらいにあげているが、実際に観光はやらない。スマートインターも馬籠という名を使わず、神坂スマートインターという名前前で用意された。持続可能とは、持続可能な状態まで持っていけない限り、持続可能にはならない。そこを持続可能な状態に持っていくために重点施策にあげているということであれば理解はできる。

事務局

・観光で特に持続可能と書いた大きい理由は、委員からのご意見の通り、中津川市の観光の持続性、具体的には消費額、お金を落とす観光というのはどうしても弱いとヒアリングで示された点がある。観光において目標値を観光消費額として、そちらをしっかりと見て行って持続可能にしていくという観点で、課題の裏返しとして出ているところがある。その意図で持続可能という言葉を入れているので、観光消費額を目標値として特に重点的にこちらに取り組んでいきたい。

会長

・オーバーツーリズム対策とか、地域の住民たちの対策も含めて考えていくことかと考えていた。観光産業の技術的な発展というところもあるだろうが、それも市としては考えているから、ここに入れたのではないのかと思っていたが、どちらかというところ、それよりも産業の消費額を目標値として掲げていくイメージでよいか。主な取り組みの書き方の問題だと思う。やはり捉える人によっていろいろ違ってくると思う。

事務局

・オーバーツーリズムは最近では特に付知峡の問題もあり、オーバーツーリズムで圧迫してしまっている状態では消費も上がらないし、来客数も頭打ちになってしまう。それも含めて持続可能という表現になっている。

・持続可能としていくには、住民との調和がとても重要な観点になる。「持続可能」この一言でも、複数の意味が込められており、この場で全てを説明できないが、可能な限りこの文章で表せるように、また、文章で表せなくても指標、目標値を達成した時にはそれができているというように形を整えたい。

委員

・よく論議で出るのは、防災である。この防災・防犯という項目は重点施策にはないが、これからどういう形で重点施策としてまとめていくのか、あるいはどういう形でコンセプトを持って広報していくのかというあたりが少々見えないので、なぜこの重点施策を選んだのかと疑問である。

・もう一つは防災・防犯のところで、防災に関する情報の伝達や緊急時に避難できるインフラ整備などが目指す姿に載っているが、今、避難所の取り組みをしてほしいという声がある。学校の体育館などの避難所となる公共施設で、非常用発電、あるいは充電機能、冷房、Wi-fiをつけてほしいというような意見があり、これからは必要ではないかという話はある。取り組み内容にはそのあたりの話が具体的には全く載っていないので、少し再考していただきたい。

事務局

・防災については、地域でも話がたくさん出ている部分かと思う。今回、重点政策として分野をあげていないが、取り組みとしては大事なことと考えている。重点政策として抽出をす

るにあたり、基本的に将来都市像の実現に向けた市の魅力の向上を目的とし、暮らす、遊ぶ、働くという部分での組み立てを重点的にしている。抽出した6分野は前期5年間の案としており、これを動かしていく中で、後期に向けてどのように検討をしていくのかというところもあると思う。詳しい内容は、主な取り組み等を、記載の仕方も含め、工夫して分かりやすくできるようにしていきたい。

委員

・持続可能な観光の推進について、私は持続可能なというところで、いわゆる受け入れ態勢の強化になると思った。特に中津川市は、馬籠を訪れるインバウンドが非常に増えているところで、バスで運べる人員には限りがあり、いろいろと対策も考えているが、そういう意味では、消費額を増やすというところでもあっても、やはりオーバーツーリズム対策というところをいろいろ考えないといけないと思う。

・誘致のところ、リニア関係の誘致もあるが、それ以外にも観光関係、特に中津川市は宿が少なく、宿泊するところがないので、馬籠や市内を巡っても市外に泊まるということもある。そのあたりも含めた観光に関する誘致も加えてもらえるとういと思う。インバウンドは、今年度上期が昨年より2割ほど訪日客が増えているところもある。今回の総合計画の期間に入るが、国の目標は2030年度に6,000万人ということで、昨年度が3,800万人強なので、1.6倍の訪日客が来るという計算になる。受け入れる体制も計画の中に入れられると、観光等も含めて、中津川市内での消費も増えると思う。

・リニアのところ、リニア岐阜県駅周辺の整備で、リニア駅に限ったところが記載されているが、今後、リニア駅周辺のみが整備されていくと、中心市街地が空洞化してしまうということも危惧されるため、リニア岐阜県駅とあわせて中心市街地も整備できるような施策を検討していただけるとありがたい。

事務局

・いただいたご意見を踏まえ、検討を進めていきたい。

委員

・前回、都市計画の話があり、今後10年間の計画で、都市計画法による様々な面整備だとか街路だとか、そういうものは想定されているものと思う。そのことが今回はまるでない。都市計画の用途は人口減少で難しいかもしれないが、できそうな用途配置、特に坂本周辺では絶対に必要になってくるということと、街路についても記載がない。市民としては病院と駅をつなぐ街路、これがやはり本筋だと思う。また、坂本地域は開発規制がないので、そういうことも含めて、目標をきちんと記載すべきではないか。どこまでどのような整備をするのかということもある程度明確にするべきだと思う。岐阜県が作っている濃飛横断自動車道も、何年ぐらいに供用できるのか、そういうことも市民の疑問に答えていくようなハードのコンセプトが必要だと思う。

事務局

・この総合計画は都市計画も含んだ計画になるが、都市計画は同じく令和9年度からの都市計画マスタープランの策定を今まさに進めようとしているところで、用途や街路、開発規制も含めた具体的な計画は、都市計画マスタープランの方で定めていきたい。

委員

・観光のところ、指標として入込客数とか消費額という点が触れられたが、この目指す姿の中で、自然、歴史、文化、食などの地域の魅力を活用とある。観光も今ある中津川の伝統文化、文化財、建物、街並みを保存継承するというのが非常に難しくなってきた、人口減少によって地域の力を弱まっているので、観光にはそういうところも重要なことになっているというところを、触れてもらえるとうい。

事務局

・自然、歴史、文化、食なども、考え方としては、重要な点と考えている。検討をさせていただく。

会長

・重点という言葉で、分かりづらいところがあると思う。最初に配ってもらったアンケート調査結果で見ると、重点維持分野と重点改善分野という分けがされていた。今回の重点施策は、改善を目指しているところ、自然環境とか防災は重点で維持していくところだから、この中では扱っていないという説明が必要だと思う。重点で維持していくところと、より将来都市像や市の魅力を向上するために、改善していくところの重点施策としてあげられているということがわかる。それから、よりよくしていくために、こういったことを考えていくということとか、主な取り組みのところでもう少し具体的にしていこうとよい。

・委員からは、最初の将来都市像との関連みたいなものが、主な取り組みの中で見えると市民にはわかりやすいのではないかという話もあったので、もう一度、少し整理してもらって調整をお願いしたい。私の意見だが、主な取り組みではなく、ほどよい取り組みとか、何かそういう将来都市像と結びつく取り組みをここに入れていくというような工夫をすると、将来都市像とこの重点施策がうまく結びついていく。主な取り組みなので、特徴的なことを出していったらよいのではないかと、委員の皆様の意見を伺って思った。実施計画のところまで具体化していった中で、ここに載せていこうとの話になるかという想像はするが、重点施策の見せ方や内容も含めて、意見の中で修正等をお願いできればと思う。

協議事項 (3) まちづくりコンセプトについて

(事務局から説明)

(質疑)

・なし

<その他>

・次回の日程は、8/26(火) 14時より会議棟2階の第2会議室で実施予定。計画書の内容を固めて、会議後に計画書をパブリックコメントに付ける予定。

・最後の会議は、10/23(木) 16時より市役所4階の大会議室で実施予定。計画書を市長へ答申する予定で、会議には市長も参加予定。

・意見の用紙については、8月6日までをお願いしたい。

<閉会>

・令和7年度、第4回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

I 開催日時

令和7年(2025年)8月26日(火) 14:00~15:30

II 開催場所

中津川市役所 会議棟2階 大会議室

III 委員 21名(うち欠席3名)

IV 次第

1 開会

2 報告

第3回及び第4回中津川市総合計画審議会における意見への対応方針について
【資料1】

3 議事

(1) 中津川市総合計画基本構想素案について 【資料2】

(2) 中津川市総合計画基本計画素案について 【資料3】

4 その他

5 閉会

V 議事録

<開会>

・令和7年度、第5回中津川市総合計画審議会を開会

<報告>

・第3回及び第4回中津川市総合計画審議会における意見への対応方針について、事務局から説明

<議事>

協議事項 (1) 中津川市総合計画基本構想素案について
(事務局から説明)

(質疑)

委員

・将来都市像を変えたことで大きく変わったと思う。ただし、「ほどよいまち中津川」は消しきれないという思いが伝わってくる。委員は「ワンダフルウッズ」に関して、内容を知っているので、いいのではとなるが、これを初めて見る方は「ワンダフルウッズ」が「ほどよいまち中津川」を表すという意味合いになってくる。

・副題としてというのは、題が二つあるという考え方なのか、「ワンダフルウッズ」が伝わりにくいと考えると、伝わりやすい説明として「ほどよいまち中津川」を持ってきたのか。

・単純にウッズと言われると木で森ではない。ただ、それはそういう意味ではないということも含めて、いろんな説明がされているが、であるならば、ワクワクする森と計画に書いてあるので、これを使えばいいのではないかと単純に思う。それをあえてまた「ほどよいまち中津川」を持ってくるのが気になる。

・「ほどよいまち中津川」を考えたのは市の職員で、審議会委員に確認を取らずに市民に投票を呼びかけたという流れなので、この会議体から「ほどよいまち」を外してもらいたい。市民と市役所が決めた事なので、委員は無視された状態である。その中で、この提案書はこの会議体が出したということになるので、その進め方に違和感がある。ただ過去の話なので、それはどうしようもないのかもしれないが、せっかく「ワンダフルウッズ」というように、将来都市像をひっくり返してでも変えてきたという思いがあり、「ワンダフルウッズ」

の説明文としての副題が書けるのであれば、もっとわかりやすいワクワクする森中津川でもいいし、そういった文言の方がもっと浸透してもらえると思う。

事務局

- ・まずは「ワンダフルウッズ」を説明するためとして副題を置いてはどうかという提案をいただいた。副題に「ほどよいまち」をおいた理由の一つとしては、「ワンダフルウッズ」というテーマを目的として各種人口増につなげていくためである。「ワンダフルウッズ」だけでは、そういったところが伝わりにくいと考えている。「ワンダフルウッズ」が目指す先、例えば働く、暮らす、遊ぶといった各種人口の増につながるという、それを「～するほど、よいまち」という方が、「ワンダフルウッズ」に対してワクワクする森というサブタイトルよりも、より目的地の部分が明確になるのかなと考えていて、こういった形で案としている。
- ・ウッズについては、木という意味だが、複数形になることで森という意味にもなるということである。
- ・過去の市民投票の際に、たしかに市の職員が考えた案で募集して、市民投票という形をとらせていただいた。その際に審議会を無視したという事ではなく、委員の皆様にはこういう形で市民投票をすると連絡もした上で実施したという経緯があるので、その点も含めてご理解いただきたいと思う。
- ・こちらの案でパブリックコメントを実施し、市民の皆様へ意見をいただく段階に入りたいと思う。その上で、また意見を踏まえて検討させていただきたい。

委員

- ・「ほどよいまち中津川」、本当にほどよいだけでは伝わらない。だからいろんなものを付けようと前回でも書いてある。そして、今度は「ワンダフルウッズ」これもわからない。委員は知っているから分かるが、そうなると分からない名目が2つ並ぶだけにとれてしまう。会議に出ていないと全く分からず、なんのことかという話になる可能性が高いので、「ワンダフルウッズ」で腹を決めたのであれば、「ワンダフルウッズ」を推す形で、もっとわかりやすい日本語を掲載した方が、まだ市民の方に伝わりやすいのではないかと。
- ・「ほどよいまち中津川」だと、また説明しないといけないので、さらにわかりにくくなるのではないかと。2つともわかりにくいと思う可能性があるため、せっかく「ワンダフルウッズ」でこのままいけるのであれば、「ワンダフルウッズ」を説明した副題の方が、市民の方々に理解してもらえるのではないかと。

事務局

- ・一点追加で、「ワンダフルウッズ」については、コンセプトブックの作成を並行して進めていて、完成した時には市民の皆様にも共有させていただく。そちらにコンセプトブックがあるという文言はないが、「ワンダフルウッズ」の考え方については、そういったところで示しながら皆様にも考え方を含めて知っていただくというふうには考えている。

委員

- ・「ワンダフルウッズ」のウッズは元々英語では木材である。ウッズは木、木材。「ワンダフルウッズ」のリードは森の中津川などの素直な表現にして「ワンダフルウッズ」を広めた方がよいのではないかと。一発で「ワンダフルウッズ」だけを提案すると、少し理解しづらいのかなというように思う。

事務局

- ・木材という意味も中津川市では大事なところにもなるし、森という意味もニュアンスが違ってもいいかもしれないが、そういった意味も調べた上ではあったので、それも含めていろんな意味に取れるというところが、このウッズという部分では重要だと思っている。そこはキャッチフレーズというところもあるので、そういったところも少し関わるという部分で意見いただければと思う。

委員

- ・「ワンダフルウッズ」と副題の2つが引っ張り合ってしまうと、よくわからなくなるという

うのが正直な感想である。せっかく「ワンダフルウッズ」を持ってきているのに、「ほどよい」がよくわからなくて、良さを消し合っていると感じた。やはり、基本的に人は物事を1つずつしか処理できないので、これは処理しきれないのではないかと。

・前々から話しているが、雰囲気、空気をどう作っていくのかがすごく大事だと思っていて、この打ち出しが、エッジが効いているかどうか、空気を作る上ではとても大事な部分だと思っている。やはり、ここはもう少し大事にというか、ぼやっとさせずに、一本筋を通したいというのが正直な感想である。

・さっき委員が話していた森みたいなのは単純に副題で、「ワンダフルウッズ ワクワクする森 中津川」にすれば伝わるので、それではダメなのかと思った。細かいところでは、この「くらすほどよい」などが下にあるのもいいのかなとは思いますが、やはり最初に出るところでは、2つ持ってきてほしくない。

事務局

・こちらは意見として伺い、先ほどのパブリックコメントとしては、そういう意見がある中で出した上で、市民からの意見も踏まえて、検討させていただきたいと思う。

委員

・欲張りすぎているのは確かなのかもしれないが、最初からこの「ワンダフルウッズ」、もしくは「ほどよいまち中津川」というキャッチフレーズを出してきたのは、今までの行政にはない非常に良いところなので、そこをもう少しわかりやすく表現できたらいいと思ってずっと押し続けているが、再度、どのような表現がいいのか、今の皆さんの意見を踏まえながら考えたい。

・「ワンダフルウッズ」のウッズというところで皆さん引っかかっている部分があると思うが、ある意味ここで注目というか、疑問が湧いてもらえればいいのかと思う。ただ、「〇〇ほどよい」も意味が先に来ると、そのインパクトが強くて、「ほどよい」はあまり良いイメージを与えないので、「〇〇ほどよい」、「〇〇ほどよい」、「〇〇ほどよい」ときて、その後、だから「ほどよいまち中津川」を持ってきた方がいい。「ワンダフルウッズ」と「ほどよいまち中津川」がダブルスタンダードみたいに進んでいってしまっているの、そこを整理する必要がある。ただ、なんとかこの「ワンダフルウッズ」というテーマを持ってきたというところは、これから行政が、ある意味変わろうとしている部分があるので、これを上手いこと生かしていけたら良い。

委員

・「ワンダフルウッズ」という言葉自体はキャッチーなイメージを持っているが、委員の言う通り、やはりここに引っ張られてしまう部分と、内容を理解しづらいところもあるし、ウッズとなると、やはり木というイメージも確かに持つてしまうかなと思う。そもそもの話になるが、前回この「ワンダフルウッズ」がいいということで、その部分をこうやって表に持ってきたら、いい形になると考えたのではないかなと思うが、やはり将来都市像というのは、「ワンダフルウッズ ほどよいまち中津川」というところに引っ張られすぎてしまって、実際に揉むべき場所が今ここなのかどうか疑問に思えてきた。

・本来であれば、計画の中身をもっとしっかり揉んだ上で、そこで共通する言葉が出てきて、その中から自ずとスローガンみたいなものが浮き上がってくるのではないかなと思うので、本質がずれてしまうと、このタイトルも読み取れなくなるとか、実際中身が分かりづらいということになるので、一度フラットに考えてもらい、正しいことを、ここの「ワンダフルウッズ ほどよいまち中津川」に引っ張られない状態で一回考えて、もう少し施策とかそういったところから何か言葉が出てくるようなものにした方がいい。

協議事項 (2) 中津川市総合計画基本計画素案について

(事務局から説明)

(質疑)

委員

・基本計画の数値目標の設定の根拠、考え方を説明いただきたい。政策ごとで延べ率など設

定した数値が大きく違うもの、また前期の計画の実績を踏まえると、この数字でいいのかと疑われる数値もあるので、数値をどう設定したのかを教えてください。

・具体的には、例えば 39 ページの政策6の目標値、総ごみ排出量で見ると、目標値が-75となっているが、前期計画だと目標値が-370、減少値を見ると前回の計画から1112下がっている。そこから考えた時に、今回の-75は何を根拠に、例えば他の要因があるのかなどが気になる。具体的に目標値についての説明がない、これから実施計画を作る上で重大なことだと思うので、説明していただければと思う。

事務局

・満足度については、基本的に政策ごとにアンケートの満足度の上昇値を目標数値として設定させていただいた。

・まず、現計画において平成25年にアンケートを取り、そちらと令和6年度にアンケートを取った結果を比較して、約10年ちょっとになるが、満足度スコアが平均で0.53上がっていた。過去10年間かけて上昇させたものを、今度は前期5年間で同等の数値を上げていくことを目標にして、まず現状値、令和6年度の平均満足度が-0.10、満足でも不満足でもないという状態が0という数値になるので、若干、不満足要因という数値が出ている状況であるが、こちらを過去10年間で上がってきた数値と同等に、前期の5年間で上げていきたいと考えている。

・目標として0.65上昇を目指し、0.55にする。まずこちらをベースに全体として考えさせていただいた。市民満足度は、満足、ある程度満足、どちらでもない、あまり満足ではない、満足ではないのは5段階評価をしてもらっていて、満足は10点、ある程度満足は5点、どちらでもないのは0点、あまり満足ではないは-5点、満足ではないは-10点と点数をつけ、それをアンケート人数で平均して、全体の満足度を出していくという計算方法になる。

・今回、数値として0.65を上げるという部分を、前回調査だと、満足から不満足までの数値、この黄色い線の部分が人数になるが、それをそれぞれ一段階ずつ、満足でない方はあまり満足でない、あまり満足でない方はどちらでもない、どちらでもない方はある程度満足、ある程度満足の方は満足、満足の方はもうマックスなのでそのままになるが、そういった形で人数をそれぞれ約12%ずつ移動すると0.59、それぐらい増加するという計算になる。10人中1人程度で、過去よりも満足度が上昇させる形で、それぞれの数値を目指していく。

・元々満足度が高い数値はそれ以上に上がりやすく、逆に元々の満足度が低いものについては、できるだけ上げていきたいというところから、元の満足度スコアが低い項目については上昇率を高く設定、元が高い項目はそこそこの上昇率で計算というような区分けをして、満足度の上昇の目標を設定させていただいた。こちらについては、項目ごとの元々の満足度を考慮しながら、目標の数値、将来数値を設定させていただいたということである。

委員

・提案なのだが、課題が人口減少なので、重点指標のところ、NPSという考え方を少し持ってもらいたいと思っていて、ネットプロモータースコアというが、要は知り合いや親族とかに中津川市に住むことを勧めるかという質問の仕方、これは最近、たぶん何かしらのサービスのアンケートで満足度を調査するための一番取りやすい数字と言われているが、これを取り入れたらどうかと思っている。住民の方々が中津川市を強く勧めたいということは、それは満足しているという話なので、それが満足度を知るには一番いい聞き方だと思う。アイデアというか、これを重点のところに加えてもらえると、課題に対して評価しやすいのではないかと考えている。

事務局

・現状はそういった調査自体はやっていないが、今後、アンケートのあり方もどのように行ったらいいかを調査し、そういったものを検討したいと思う。

委員

・これは単発で出せるもので、このスコアが何以上だと非常に満足度が高い、何以下だと非常に低いと絶対値で分かる。経年で測ることがないので、時間がかからない。比較はしなくて、その場に出るとというのがポイントなので、瞬発性のある取り方である。

事務局

・勉強させていただきたい。

委員

・私の方からも一つ質問というか、重点施策だから目標値をちょっと高めに設定するということはないのか。ここに対して重点的に取り組んでいくので、計画通りでいくとこういう目標値を立てるが、重点だからここはこう伸ばしたい、市としてのやる気みたいなことを示すということはないのか。

事務局

・重点施策の重点指標について、各施策の満足度の上昇率は12~14%という形にしているが、重点指標については、もう少し高い数値、約20%の上昇というのを設定している。こちらについては、重点的に取り組もうというものなので、他の指標よりは高く設定している。

委員

・あともう一点、最後の評価のところだが、「計画推進のために」の「4-2 絶え間ない事業の改善」というところで、今回皆様に意見を伺った中でも出てきたと思うが、途中で目標が達成されたことに対して再度設定し直さないのか、そんな質問もあったと記憶している。これまでは目標設定の組み替えみたいところはやらないというのが市のスタンスだったと思うが、そこらへんについても、もう一度検討していただけるといい。途中で達成したなら、次の目標を立てて計画を推進していくというのは、事業の改善に向けては大事なことではないかと思うので、もう少し検討していただき、可能であれば入れてもいいのかと感じた。

事務局

・今後のこの計画の評価・検証という部分で、そういった目標を達成した後も含めて、検討していきたいと考えているので、よろしく願いたい。

委員

・細かい話だが、政策の目標値というものもある。18 ページで確認したいが、中津川市民の健康寿命が、現在は男性が80.8、女性が85.0となっているが、日本の平均だと、2022年で男性72.57、女性75.45という数字がある。例えば、2024年の平均寿命を見ると、男性81.09、女性87.13という数字があるので、この健康寿命は、ひょっとしたら平均寿命ではないかという気がしているが、どこから拾い出したのか。

事務局

・こちらの満足度以外の数値については、担当部署の方から数値を出してもらっているが、今話を伺い、もう一度担当部署に確認したい。

委員

・やはり計画の目標数値については、後からも変更できるとした方がいい。今の段階で、すべての数値に対して検証ができているわけでもないので、一度ここでパブリックコメントを実施して、その後変えられないものだと、いろいろな環境の変化がある中で適切ではなくなる可能性がある。

委員

・観光の件でちょっと聞きたい。重点施策で盛り上げていく一端を担うと理解している。その数値目標が、実は観光の部分だけでいくと、市内観光消費額（推計）の+3,518という目標、将来値というだけの数値になっていて、これの算出方法というのが、全てを網羅しているわけではなく、特定の宿泊だとかが多く入っている現状がある。それを本当に数字として認めるのか、要は分母が少ない。なかなか協力していただけないといったこともあるので、

そういった部分の重点施策ということであれば、今の数値の情報収集先の数というのは、やはり増やしてほしい。要は高級旅館にお願いすると単純に単価が上がる。ビジネスホテルに全部お願いすると単価は下がってしまう。

・単純にそれだけの違いもあるので、そういった部分も含めて重点政策であれば、その拾い上げている数字の先というところまで、その担当部署の方に一回確認してもらって、その上で本当にこの数字で重点施策の目標値を考えられるのかということも考えていただきたい。重点施策としては本当にクリアが難しい目標を設定してほしい、そうでなければ意味がないので、行政でこういう目標を挙げていただければ、目標に対して思い切り進んでいくつもりではいる。でないと特別に重点施策に選ばれた理由にならないし、それだけのポテンシャルがあるということは全部書かれているので、それを実行していきたい。

・50 ページの観光の部分で書かれているが、やはりリニアがかなり強い、中央新幹線のアドバンテージが得られるのは、たぶんもっと先で考えた方がいいだろう。インフラの整備に関しては、事前にやってもらえる可能性はあるが、それを活かしたと言われても、活かせるのはもっと先なので、どちらかというインフラの整備で潤う先というのは、観光ではなくて地元産業じゃないのかなという部分がちょっと見えてくるので、リニアがダメと言っているわけではなく、リニアという項目で重点施策は存在するので、できれば観光でリニアが関係する部分の年数を考えてもらって、文言をチョイスしてほしい。

・毎回言っているが、リニアは人を運ぶ機械というか、そういった運搬の部分で考えるべきで、リニアに乗ったから来るわけではないので、リニアに乗ってでも行きたいと思ってもらえるまち、観光であるべきである。時間は短縮されるが、お金はやはりかかるので、それでも途中で山梨、飯田、相模原があるし、名古屋や東京まであるので、それでも中津川で降りたいと思ってもらえるだけの観光の魅力をどう発信するかと考えてもらった方が、リニアができれば勝手に稼げるという感覚は捨ててほしいという思いがある。あくまでおまけというつもりで行かないと、たぶんこの10年の枠内でいうとリニアの効果は関係ないので、リニアを反対するわけではなく、リニアはプラスアルファだという感覚で、施策を進めてほしい。

事務局

・数値目標については、担当部署の方と相談したいと思う。また、リニアに関係する部分の表現についても、再度検討させていただきたい。

委員

・農林畜産分野で質問したいのだが、52 ページ数値目標が3つあるが、真ん中の子牛・肉牛の出荷頭数で目標+1頭、2,229頭から+1して将来値2,230頭というのはおかしな数値のような気がする。これは担当部署に確認してほしいと思う。たった1頭を増やすだけを目標にするのは目標ではないような気がする。それと、下の森林整備面積も、私が思っている面積よりかなり少ないので、これも担当部署に確認してほしいと思う。

事務局

・こちらも担当部署に確認するが、設定を依頼して確認していく中で、出荷頭数については、現状として、何もしないとかなりの減少が見込まれるというのが現実で、その中でなんとか5年後も同数に近い数を維持するという考え方である。現況ではかなり生産業者も高齢化が進んでおり、新規参入者も少ない。この中で同数を維持するのはかなり厳しいというのが担当部門からの意見である。専門分野の知見から見ていただいて、まだ上昇させることができるということがあれば、ぜひ意見をいただきたい。

委員

・この満足度調査は、前回5年前のものでトレンドしていくということか。将来値は今後5年間、全体的な将来値が将来もマイナスのままというのが、地域医療への満足度と商業の振興への満足度の2つあるが、少なくとも目標としては、そういう遅れている部分を5年のうちに、プラスマイナス0の部分まで持っていこうというような目標にするべきではないのか。このマイナスの将来値をそのままにするのは、計画としてはどうなのか。

事務局

・将来値については、5年後に目指す数値を書かせていただいている。そして、将来値でもマイナスの満足度はいかなものかということだが、そういった点についても事務局で議論したが、目標として定めるものなので、達成不可能と言ったらいけないのかもしれないが、そういった現実味が薄いものを追求するよりも、やはりこうしっかりと事業を行っていく中で、そういったものを上げていけるように、書き方として、現状値と将来値という書き方ではなく、地域医療の満足度であれば、将来値については-0.57になっているが、目標としては+0.79上げていく、それを目標というふうに捉えて、ここで上げていくという形で設定させていただいたものになる。

・今回は目標として、こういったマイナスのものについては、より上昇の割合を大きくしっかりと上げていきたいということになる。そして先ほどの話で、こちらは前期5年間の数値になるが、これを達成したら、次はまたより上げていくという形で、時間がかかるかもしれないが、将来的にプラスの方に持っていくというようなことになるので、ご理解いただきたいと思う。

委員

・前期の目標値なので、少なくとも目標を積み上げるところは、もともと回答がどちらでもないから、いいか悪いか、あるいはもう少し悪いか、そういう評価の中でそれを真ん中、普通に持っていこうという考え方である。だから、これでいけばワンランクずつアップ、プラス悪いものをなくすという発想も意見の取り方、単なる傾向の取り方だから、悪い部分についてはまあまあその位置まで持っていくという計画を僕は作るべきではない、逆にそういうふうに目標、弱いところを考慮する目標を持つべきではないと、計画としては思う。

委員

・先ほどの畜産のところ、飛騨牛をメインに考えられている取り組みの内容とを感じるが、やはり中津川のブランド力向上のためには飛騨牛だけでいいのかということも考えた方がいい。栗旨豚なども中津川で出てきているし、恵那鶏も中津川では有名なものになってきているなかで、今から飛騨牛のみに力を入れてしまうというのも考え直した方がよい。まだこれから先中津川のブランドとして何が出てくるかわからない状態だと思うので、考慮した方がよい。

事務局

・こちらを担当部署と話して、どういった設定が良いか、適切かということを含めて、検討していきたい。

本審議会の答申の作成方法について

事務局

・中津川市総合計画審議会の方針の作成について、提案させていただく。本日、資料2、資料3として示させていただいた中津川市総合計画基本構想と基本計画の素案について、今、様々な意見をいただき、当然修正すべきところもあるが、ひとまず、これからまたお持ち帰りいただき意見書等もあるので、こちらの現在示させていただいた内容で9月中旬にパブリックコメントし、様々、市民の方から意見をいただきたい。

・その後、意見書を踏まえていただいた委員の皆様からの意見とパブリックコメントによって寄せられた市民の皆様の見解、こちらを踏まえて、市において、総合計画の基本構想と基本計画の案、素案から今度は案としてまとめさせていただき、そちらをもとに、一度、会長、副会長と相談させていただいたうえで、審議会での答申の案を作成させていただきたい。

・答申の案については10月上旬を目途に、委員の皆様にご覧いただき、この内容でいかがかという依頼をさせていただき、前回相談させていただいた10月23日の第6回総合計画審議会において、正式にそちらの方で議論いただき、答申書として決議をいただいて、市長へ答申をいただきたいと考えている。

以上のような方法で答申を作成することについて提案をさせていただく。

会長

・ただいま事務局より提案のあった方法で答申を作成することについて、その方法でよろしいか。何か質疑、質問等あればどうぞ。よろしければ、この方法で作成することについて、認めていただける方は拍手でお答えをお願いしたい。

～拍手～

・答申の作成については、事務局の提案の通り作成することと決した。また、事務局において答申の案を作成したら、委員の皆様にご連絡を差し上げる。

<その他>

・次回の第6回総合計画審議会は、10月23日（木）16時～開催予定

<閉会>

・令和7年度、第5回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

I 開催日時

令和7年(2025年)10月23日(木) 16:00~16:40

II 開催場所

中津川市役所 4階 大会議室

III 委員 21名(うち欠席4名)

IV 次第

1 開会

2 報告

(1) 第5回中津川市総合計画審議会における意見とその対応について 【資料1】

(2) 次期中津川市総合計画基本構想及び基本計画の素案に対する市民意見とその対応について 【資料2】

3 議事

(1) 中津川市総合計画基本構想及び基本計画答申(案)について 【資料3】

4 答申

5 閉会

V 議事録

<開会>

・令和7年度、第6回中津川市総合計画審議会を開会

<報告>

・以下の2つについて、事務局から説明

(1) 第5回中津川市総合計画審議会における意見とその対応について

(2) 次期中津川市総合計画基本構想及び基本計画の素案に対する市民意見とその対応について

・質疑なし

<議事>

(1) 中津川市総合計画基本構想及び基本計画答申(案)について
(事務局から説明)

<答申>

会長

・答申の案を本審議会の答申とすることについて、賛成の方は拍手をお願いしたい。

～拍手～

・賛成多数と認め、中津川市総合計画基本構想及び基本計画答申(案)について本審議会の答申とさせていただく。以上で審議すべき議事は全て終了した。

～市長入室、会長より答申、市長挨拶～

市長

・長きにわたり闊達なご意見をいただき感謝申し上げます。

- ・第1回目の時に総合計画は最上位に位置づけられる計画であり、中長期的なまちづくりの指針になるという話をさせていただいた。
- ・それぞれの立場で出席する中で、会の代表としてご意見いただきたいとお話させていただいた。
- ・当初5回の会議予定から1回増えてご苦労をかけた。改めて感謝申し上げる。
- ・いただいた様々な意見を令和9年度からスタートする次期総合計画にしっかりと入れ込んでいきたい。
- ・民間企業で働いてきて、今、市役所で働く中で、行政機関の計画として、20年30年先のいわゆる夢を語るような、そういうビジョン的なものが行政として立てづらいように思いつつ仕事をしているなかで、次期総合計画の将来都市像を「WONDERFUL WOODs」として、別冊としてこれからの長期的な中津川市、こんなまちになったらいいという夢を描いたコンセプトブックを作成させていただいた。
- ・ワクワクするまちというところ、これを是非市民の皆さんにも感じていただきながら、夢を持って市民の皆さんとこのまちを作り上げていくことがこれからの中津川市にとってとても重要だと思っている。
- ・中津川市はリニアの開業を控え、しっかりとそれを活用しながら、今の子供たち孫たちのためにも先を見た夢のあるまちづくりをしていかなくてはいけない。
- ・その第1歩として、この次期総合計画がある。皆さんから答申いただいたことがゴールではないので、これをしっかりと落とし込みながら、これから始まる庁内での議論にも生かしていきたい。
- ・皆さんには、引き続きいろいろな立場でご意見をいただいて、これからの中津川市の方向性を示すこの次期総合計画の実施に向けて、引き続きお力添えをいただきたい。

事務局

- ・本日で中津川市総合計画審議会は最終回となるので、委員を代表して会長・副会長より一言ずつご挨拶を頂戴したい。

副会長

- ・計6回の長きにわたり多角的、専門的な視点から真摯にそして熱意を持って議論を重ねていただいた。
- ・この計画が行政運営の指針となり、市民にとって希望が持てるものになることを願っている。
- ・新たなこの計画の実行について、多くの政策、その事業実施には当然、進捗管理や評価検証がとても重要な取り組みになると思うので、何かの機会があればその後の状況を共有いただけると非常に嬉しい。

副会長

- ・まだまだ議論が足りない部分があったかと思うが、行政では類を見ない「WONDERFUL WOODs」というネーミングを計画に入れ、答申を出せたということが、行政も変わっていくという期待感が持てた。
- ・これをしっかりと、もう一度噛み砕いて、市長を先頭に計画を実現できるように頑張ってもらいたい。
- ・私たち民間からも惜しみなく協力していきたい。

会長

- ・委員の皆さんのおかげでいい答申ができたことを感謝したい。
- ・全体として委員の皆さんがこの中津川市をもっと良くしたい、全体としてもっといい市にしていけるにはどうしたらいいのかというのを本当に真剣に考えていただけた。
- ・ここからが本番で、この皆さんの思いを具体的に、どのように市の中で計画を立てて実施していくのが重要である。私たち市民も期待するだけでなく、一緒にやっていくことが大切だと思うので、そういった仕組みを整えていただければとてもありがたい。
- ・私は中津川市民であり、大学の教員の2つの立場でこの総合計画に携わらせていただいた。大変残念だが大学が令和9年から移転という形になっている。

- ・この総合計画を実施計画まで落とし込んでいただき、大学がいつか戻ってきたいと思えるような中津川市になってくれることを期待している。
- ・市民としては、変わらずこの地の中で自分たちの子供たちがしっかり成長していける中津川市になると期待しているので、この答申を実施計画まで大変だとは思いますが進めていただきたい。

<閉会>

- ・令和7年度、第6回中津川市総合計画審議会を閉会

以上

第4章 基礎調査

第1節 中津川市の現況と特性

1-1 概況

(1) 位置・地勢

本市は、日本列島のほぼ中央、岐阜県の東南端に位置し、東は長野県、西は恵那市、下呂市、白川町、東白川村に接し、東西 28km、南北 49km、面積 676.38 km²（県内6番目）の市域を有する。岐阜県内においては、東濃圏域（多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市）に属している。

江戸時代より中山道の宿場町として栄え、現在でも広域的な交通網として中央自動車道、国道 19 号、JR 中央本線が本市を東西に貫いており、名古屋まで自動車でも鉄道でも 1 時間程度の距離にある等、広域的な交通アクセスに恵まれたまちである。



図 中津川市の位置

(2) 自然・気象

東は木曽山脈、南は三河高原に囲まれ、中央を木曽川が流れている。恵那山をはじめ中央アルプスの雄大な自然を背景に、東は木曽山脈、南は三河高原、北は阿寺山地など、標高 1,000m を超える山々に囲まれ、市の総面積の約 80%を森林が占める。北から川上川や付知川、南からは阿木川および中津川など清流が流れる、豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちである。

内陸型高冷地気候に属し、年平均気温は 14℃前後で市の南北で 1～2℃の気温差がある。年間降雨量は、2,000mm 前後と多雨であり、夏は南東の季節風が吹き温暖であるが、冬は北西の季節風が強く、冷え込みの厳しさに比べ降雪は少ない。市の最北端、飛騨地方に隣接する加子母地域では山岳地帯特有の雷雨及び梅雨前線による集中豪雨により、年によっては 3,000mm (年間) を超える降雨量があり、また、冬期も年により 1 m におよぶ積雪がある。

表 土地利用の状況 (地目別面積)

		中津川市		都市計画区域		用途地域	
		構成比		構成比		構成比	
自然的 土地 利用	田	3,047.9	4.5%	1,126.7	8.6%	110.5	12.2%
	畑	1,632.4	2.4%	733.7	5.6%	60.5	6.7%
	山林	54,436.3	80.5%	7,413.7	57.0%	43.9	4.8%
	水面	925.7	1.4%	330.2	2.5%	11.0	1.2%
	その他自然地	1,847.0	2.7%	819.6	6.3%	35.7	3.9%
	小計	61,889.3	91.5%	10,423.9	80.0%	261.6	28.8%
都市的 土地 利用	住宅用地	1,879.9	2.8%	907.7	7.0%	255.0	28.2%
	商業用地	322.2	0.5%	165.0	1.3%	61.3	6.7%
	工業用地	478.0	0.7%	291.3	2.2%	116.0	12.8%
	農林漁業用地	133.4	0.2%	49.8	0.4%	3.1	0.3%
	公益施設用地	414.1	0.6%	200.6	1.5%	43.8	4.8%
	道路用地	1,899.5	2.8%	648.4	5.0%	111.7	12.3%
	交通施設用地	58.6	0.1%	41.0	0.3%	15.4	1.7%
	公共空地	150.7	0.2%	96.6	0.7%	5.8	0.6%
	その他の空地	412.3	0.6%	204.7	1.6%	34.7	3.8%
	小計	5,748.7	8.5%	2,605.1	20.0%	646.8	71.2%
計		67,638.0	100.0%	13,029.0	100.0%	908.4	100.0%

資料：平成27年都市計画基礎調査

(3) 災害リスク

南海トラフ巨大地震等の発生が危惧されている。また、山林が大部分を占める本市では、降雨や地震に伴う土砂災害の危険性が高いことから、土砂災害警戒区域（土砂災害特別警戒区域を含む）、河川の洪水浸水想定区域が指定されている。

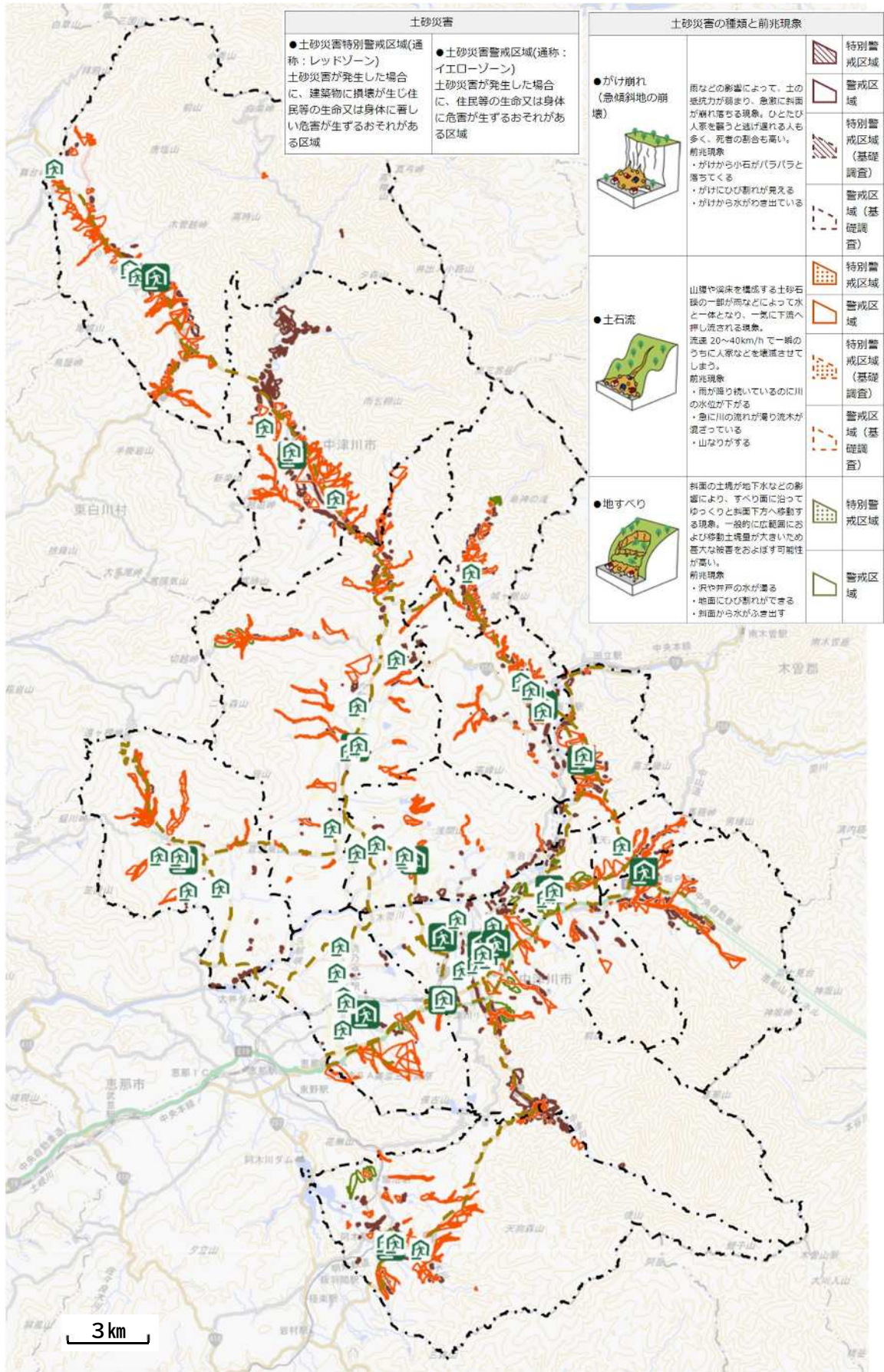


図 中津川市土砂災害ハザードマップ (令和6年2月)

(4) 歴史・沿革

市内には中山道の宿場である馬籠宿、落合宿、中津川宿の三宿があり、街道文化が栄えたまちとして、今でも“うだつ”のある建物や枡形などの歴史的な街なみや街道文化が色濃く残るまちである。また、栗きんとんに代表される和菓子のまちとして全国に名が知られている。

本市は、日本のほぼ中央、二大都市、東京・大阪の真ん中に位置し、さらに三河地方（太平洋側）と北陸地方（日本海側）の間でもあり、文字通り日本の真ん中のまちである。

奈良・平安時代には都と東国を結ぶ東山道がこの地を通り、江戸時代には江戸と京都を結ぶ重要な幹線道路として中山道が整備され、その宿場となった中津川は、中山道や木曾川沿いの地域、飛騨街道や付知川沿いの地域を結ぶ経済の拠点となった。

さらに、明治に入ると名古屋まで鉄道（JR中央本線）が敷かれ、製糸業や製紙業などの近代工業に牽引される形で大きく発展し、戦後の車社会を迎えた中では、国道19号の整備、中央自動車道の開通などによる交通アクセスの向上や中核工業団地の整備などにより、東濃東部の工業都市として発展してきた。

このように、本市は古くから交通の要衝として重要な役割を果たし発展してきたまちであり、未来に向けてはリニア、濃飛横断自動車道などさらなる交通網の充実が見込まれている。

昭和27年4月に市制が施行されて以来、多くの合併が行われ、平成17年2月に現在の中津川市が誕生した。本計画期間がスタートする令和9年度には市政75年を迎える。

表 中津川市の合併の経緯

年 代	できごと
昭和27年4月	市制が施行され、中津川市となる
昭和29年7月	中津川市と恵那郡坂本村が合併
昭和31年9月	中津川市と恵那郡落合村が合併
昭和32年11月	中津川市と恵那郡阿木村が合併
昭和33年10月	長野県西筑摩郡神坂村のうち峠、馬籠、荒町の3地区が同郡山口村に編入したうえで、中津川市と残部の神坂村が合併
平成17年2月	岐阜県恵那郡坂下町・川上村・加子母村・付知町・福岡町・蛭川村、ならびに長野県木曾郡山口村を編入 現在の中津川市となる

(5) リニア中央新幹線の状況

1) 概要

リニア中央新幹線は、我が国独自の技術である超電導リニアによって結ぶ新たな新幹線である。

2011年5月、全国新幹線鉄道整備法に基づく整備計画が決定され、東海旅客鉄道株式会社（JR東海）に対して建設の指示が出された。その後、2014年10月にはJR東海による全国新幹線鉄道整備法に基づく工事実施計画（品川・名古屋間）が認可され、2024年現在もリニア中央新幹線は建設中となっている。

リニア中央新幹線の開業により、時速 500 kmの超高速性を活かした大幅な時間距離の短縮と、我が国の三大都市圏を結ぶ東海道新幹線のバイパス機能が期待されている。東京都から甲府市付近、赤石山脈（南アルプス）中南部、名古屋市付近、奈良市付近を経由し大阪市まで行く全長約 438 キロメートルのルートとなっており、JR東海は東京－名古屋間は 40 分、東京－大阪間を 67 分で結ぶことを想定している。

本市においては、リニア岐阜県駅が設置されることとなっており、交流人口の拡大とそれによる観光や産業などの振興、暮らしの利便性向上や移住・定住の促進など地域活性化につながるような効果が期待されていることから、リニアを活かしたまちづくりが進められているところである。

リニア中央新幹線のルート及び駅位置図（品川－名古屋間）



図 リニア中央新幹線のルート及び駅位置図（品川－名古屋間）

出典：第2次岐阜県リニア中央新幹線活用戦略（令和5年3月）

2) 第2次岐阜県リニア中央新幹線活用戦略（令和5年3月）

3つの基本戦略として、開業効果の波及が期待される「リニアを活かした観光交流人口の拡大」、「リニアを活かした新たな住まい方の実現」及び「リニアを活かした産業活性化と地域づくりを支える基盤づくり」を掲げており、優先度が高く重点的に展開する施策を設定している。

現戦略の地域づくりの方向性「観光振興・まちづくり戦略」「産業振興戦略」「基盤整備戦略」の三本柱を維持しつつ、新たな戦略の視点を踏まえた展望へブラッシュアップ

1 観光振興・まちづくり戦略

- リニア岐阜県駅半径約50km圏域の集中的な観光振興
- リニア岐阜県駅から東西南北への観光軸の形成
- リニア岐阜県駅周辺から県全体、隣接県への観光振興
- 広域観光による海外誘客の推進
- リニア中央新幹線、総合車両基地の観光資源としての活用
- 観光から移住・定住人口の拡大
- 移住・定住の推進
- 人口流出の抑制
- 新** ○人材育成の強化

2 産業振興戦略

- 企業誘致の促進
- 事業継続の観点からの都市代替機能の誘致
- 総合車両基地の活用
- 建設段階経済効果の享受
- 新** ○クリエイティブ人材の呼び込み
- 新** ○持続可能な地域づくりの推進

3 基盤整備戦略

- 新** ○岐阜県らしい駅及び駅周辺の整備
- 駅からの道路ネットワークの整備
- 駅からの鉄道ネットワークの整備
- 駅からのバスネットワークの整備

戦略の基本的方向性の実現に向けて、既存施策の見直しを行うとともに「4つの新たな施策」を加え、18の重点的に展開する施策を設定

新 4つの新たな施策

東美濃地域での「住みたい岐阜県」の実現に向けて、同地域の豊かな自然環境や伝統文化等を十分に活かしながら、クリエイティブな人材を呼び込み、イノベーションが生まれやすい地域づくり（「森のまちづくり」）を推進

職の選択肢の拡大や教育の充実等による地域を担う人づくり

- ・幅広い人材供給のニーズに応える地元教育環境の充実
- ・岐阜県ならではの魅力的な教育環境の充実
- ・女性や若者の魅力的な職場確保や中山間の小さな拠点整備を通じた地域人材の育成

東美濃の森林や伝統文化を活かし、創造性あふれるまちづくり

- ・研究機関等の誘致
- ・「森の中のスタートアップ拠点（仮称）」の整備
- ・産学官連携による支援

森のまちづくり

リニア岐阜県駅及び駅周辺の「岐阜県」らしさの追求

- ・道路・バスネットワーク強化やシームレスな二次交通実現による交通のハブ化
- ・個人的な空間の整備
- ・新モビリティを見据えた整備（MaaS、自動運転等）

防災や環境に配慮した安全・安心なまちづくり

- ・リニア建設工事の進捗に伴う環境保全・防災対策の徹底
- ・開発と規制のバランス
- ・経済のグリーン化の推進

図 戦略の基本的方向性と重点施策

3) 中津川市リニアのまちづくりビジョン（平成 25 年 8 月）

本市が首都圏と大阪都市圏という二大都市圏の真ん中に位置する地理的優位性を活かした市全域の活性化につなげていくため、豊かな自然、産業、歴史文化、人材といった地域資源に磨きをかけ、外の地域から人やモノを呼び込み、多くの人を訪れ活気とにぎわいのある「訪ねてよし」のまちづくりと、リニアのもたらす効果を暮らしの利便性やビジネスなどに役立てるとともに、広い地域からの移住・定住や二地域居住などを促し、市民誰もが多様なライフスタイルを実現できる暮らしやすく潤いのある「住んでよし」のまちづくりを進めていくことを示している。

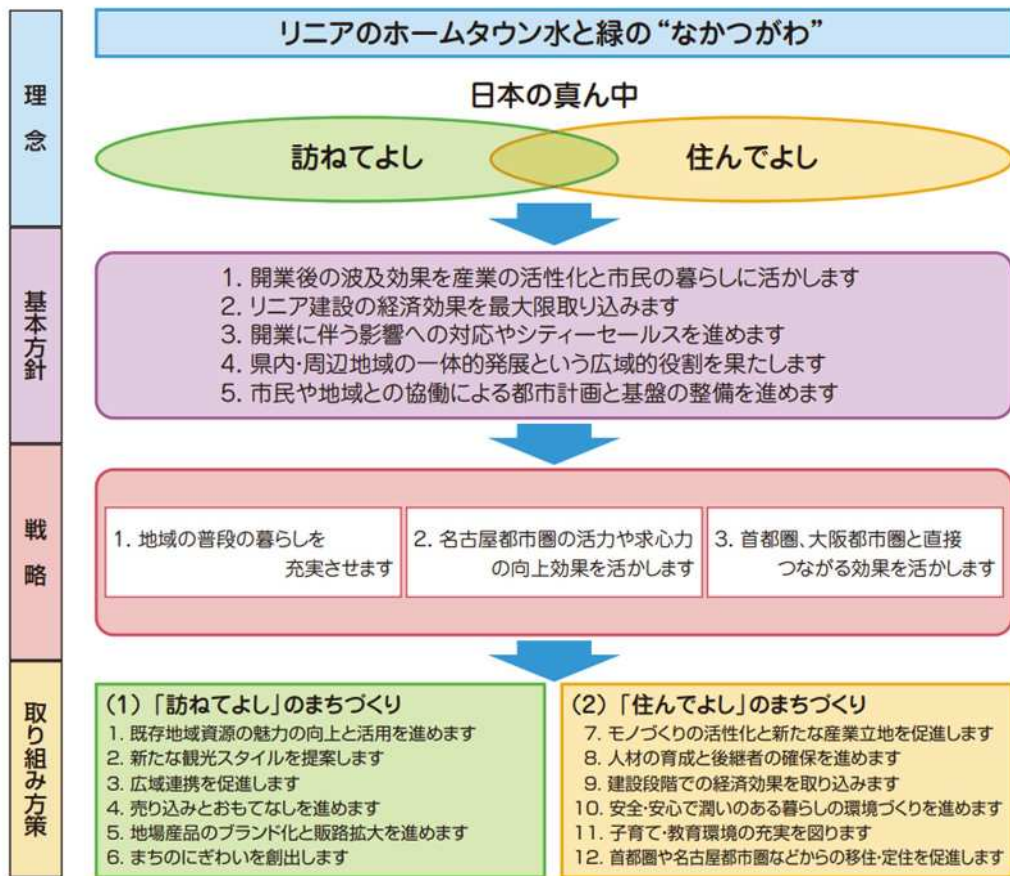
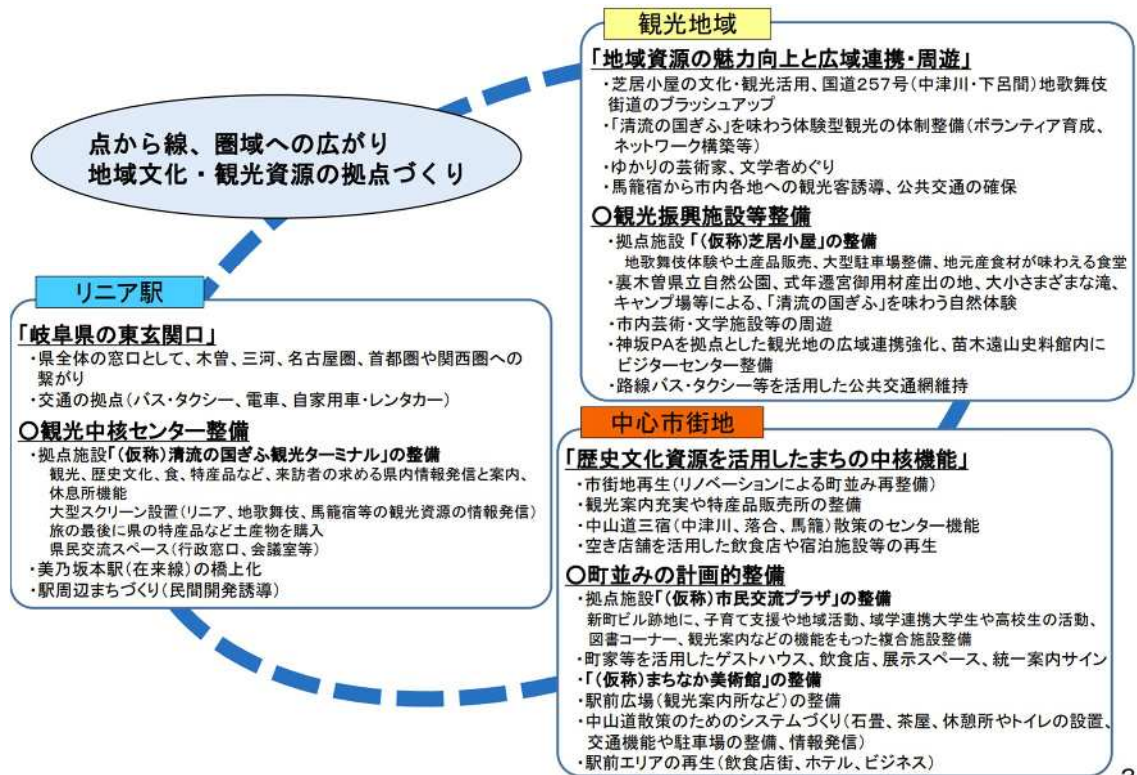


図 まちづくりの理念・基本方針・戦略・取り組み方策の関係

4) 中津川市リニアを活用したまちづくり構想 (令和元年7月)

まちづくりビジョンの実現に向け、中津川市総合計画中期事業実施計画 (2019~2022年) において抽出された課題であるリニア駅周辺のまちづくり、中心市街地の活性化、市域全体をつなぐ観光振興に関し、3つの視点でまとめている。



3

図 中津川市リニアを活用したまちづくり構想

(6) 自治会区域の状況

中津川市の自治会（区）は、13地区に分かれており、地域の特色に合わせた様々な活動が行われている。市の広報紙の配布や、地域をよく知る住民が主体となって地域の課題等を解決する取組に関し、市では活動を支援している。



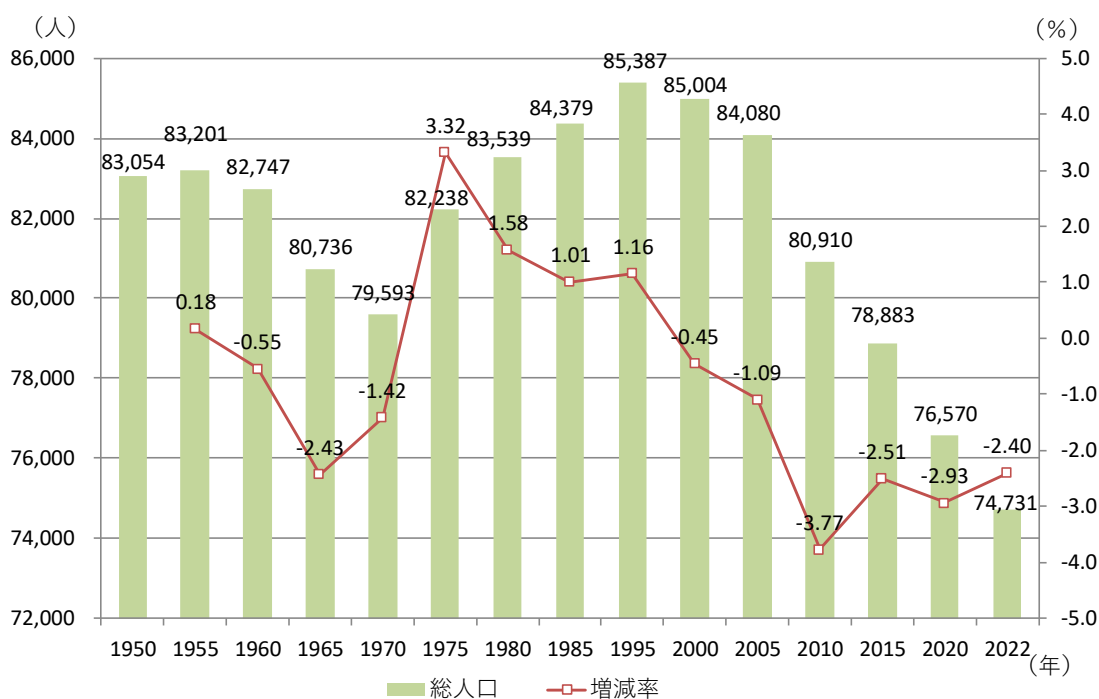
図 自治会区域

1-2 人口動向

(1) 人口と世帯数の推移

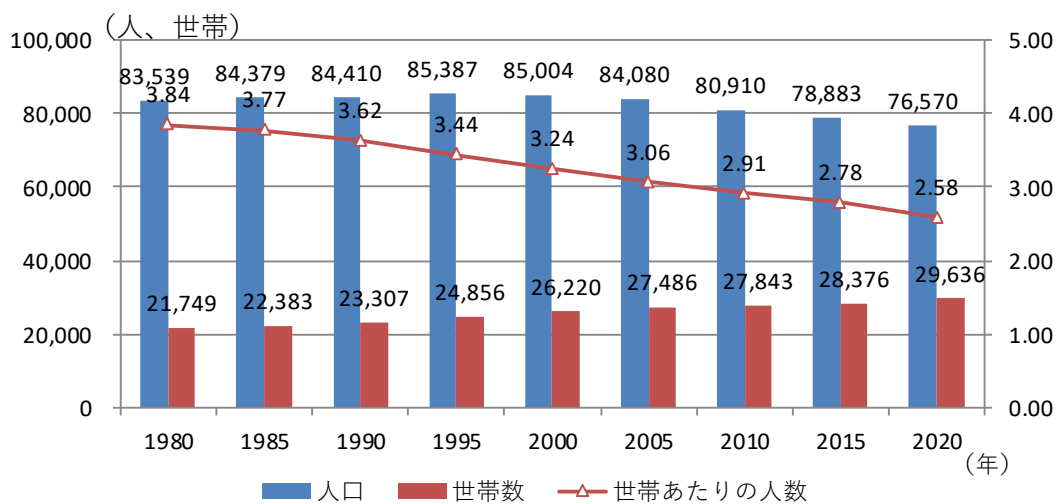
本市の総人口は、2020年（R2）で74,731人となっている。総人口の推移をみると、1960年（S35）から1970年（S45）にかけて減少した後に増加してきたが、1995年（H7）の85,387人をピークに再び減少に転じ、その後、減少基調で推移している。増減率をみると2000年（H12）以降はマイナスとなり、特に2005年（H17）から2010年（H22）までは▲3.77%と過去最大の減少率となった。2015年（H27）には▲2.51%となり、その後は2020年（R2）▲2.93%、2022年（R4）▲2.4%と減少率は微動しているが、総人口は減少傾向が続いている。

また、本市の世帯数は、2020年（R2）で29,636世帯と増加傾向にある。人口は1995年（H7）の85,387人をピークに減少していることから、世帯あたりの人数は低下している状況にある。2010年（H22）以降3人／世帯を下回る状況になっており、本市においても核家族化が進んでいるといえる。



資料：国勢調査（1950-2020）、岐阜県「人口動態統計調査」（2022）

図 総人口の推移



資料：国勢調査

図 世帯数、1世帯あたりの人数の推移

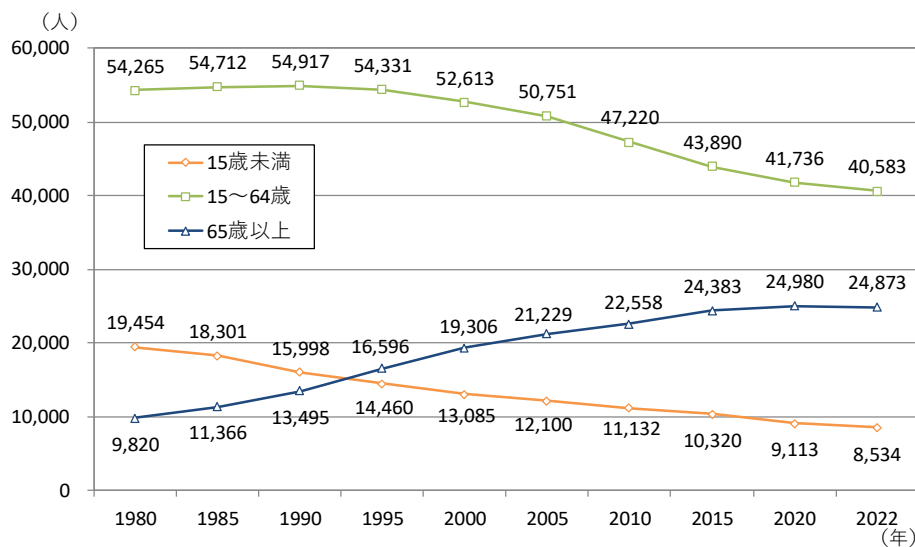
(2) 年齢別人口構成の推移

年齢3区分別人口の推移をみると、15歳未満は1980年（S55）以降減少傾向にあり、2020年（R2）以降は1980年（S55）の半分以下まで減少している。

15～64歳の生産年齢人口は、1990年（H2）をピークに減少しており、2010年（H22）以降は50,000人を下回り、2022年（R4）は40,583人になっている。

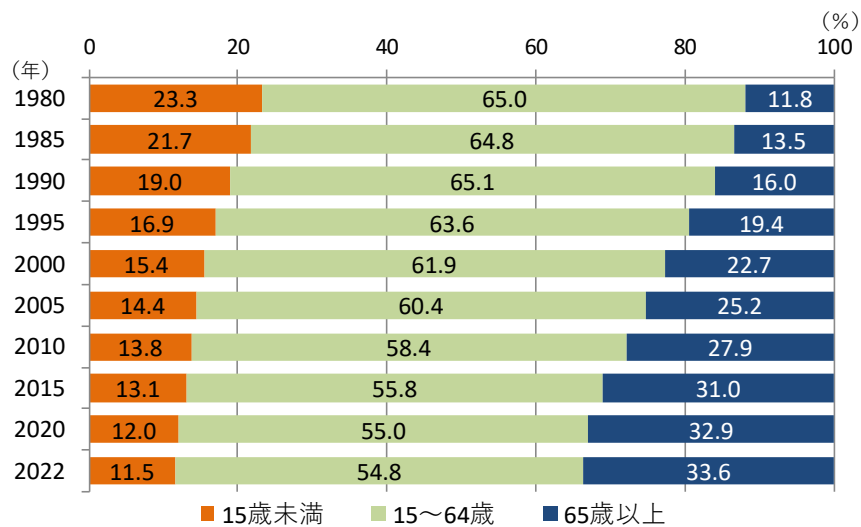
一方、65歳以上は、増加基調で推移し、2022年（R4）は24,873人になっている。

構成比でみると、65歳以上の割合は年々拡大し、2022年（R4）では33.6%に達している。



資料：国勢調査、岐阜県「人口動態統計調査」（2022）（年齢不詳者数を除く）

図 年齢3区分別人口の推移

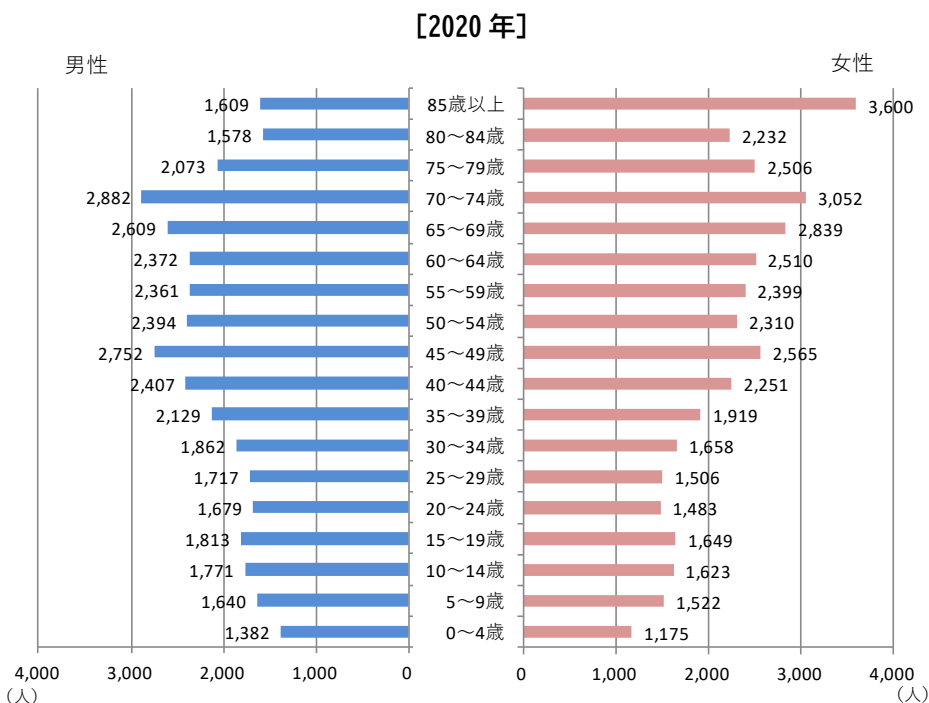
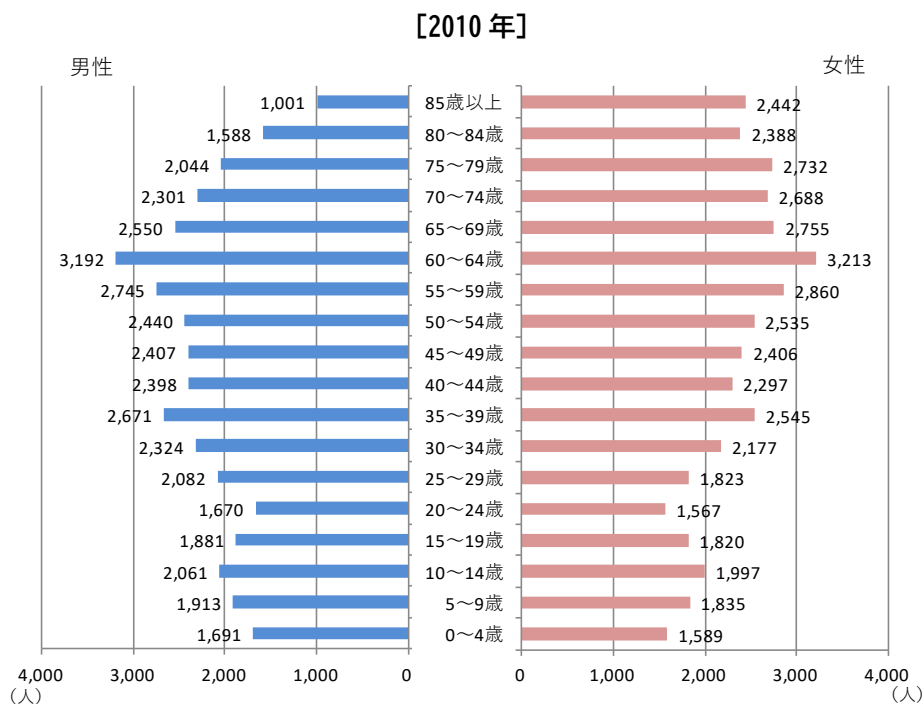


※四捨五入の関係で割合の合計値は100%にならない場合がある

資料：国勢調査、岐阜県「人口動態統計調査」（2022）（年齢不詳者数を除く）

図 年齢3区分別人口割合の推移

年齢別の人口をみると、「団塊の世代」にあたる70～74歳で他の年代より人数が多くなっている一方、就学や就職時における若い世代の市外流出の影響がある20～24歳、25～29歳の年代の人数は男女ともに少なくなっている。また、2010年（H22）の調査結果より0～4歳の世代が男性300人、女性400人程度減少しており、出生数の減少が影響している。



資料：国勢調査

図 年齢別人口の推移

(3) 地区別人口の推移

地区別の1980年(S55)から2020年(R2)の人口増減率をみると、坂本地区と苗木地区では25.0%以上の人口増加が見られたが、その他の11地区は人口減少となっており、特に山口地区、阿木地区、坂下地区、加子母地区が30.0%以上の人口減少となっている。

なお、山口地区は55.5%と急激に減少しているが、これは、2019年(R1)4月1日より山口地区内にあった馬籠地域を神坂地区に変更したためであり、神坂地区と山口地区の合計では37.6%の人口減少となっている。

表 地区別の人口増減率 (1980年~2020年)

	中津	苗木	坂本	落合	阿木	神坂	坂下
1980年	28,675	5,065	10,197	4,142	3,209	1,338	6,368
2020年	27,037	6,401	13,076	3,667	2,083	1,222	4,305
人口増減率 (1980-2020年)	-5.7%	26.4%	28.2%	-11.5%	-35.1%	-8.7%	-32.4%

	川上	加子母	付知	福岡	蛭川	山口	合計
1980年	987	3,620	6,896	6,868	4,026	2,148	83,539
2020年	719	2,498	5,332	6,197	3,078	955	76,570
人口増減率 (1980-2020年)	-27.2%	-31.0%	-22.7%	-9.8%	-23.5%	-55.5%	-8.3%

【参考】神坂地区と山口地区

	神坂	山口	合計
1980年	1,338	2,148	3,486
2020年	1,222	955	2,177
人口増減率 (1980-2020年)	-8.7%	-55.5%	-37.6%

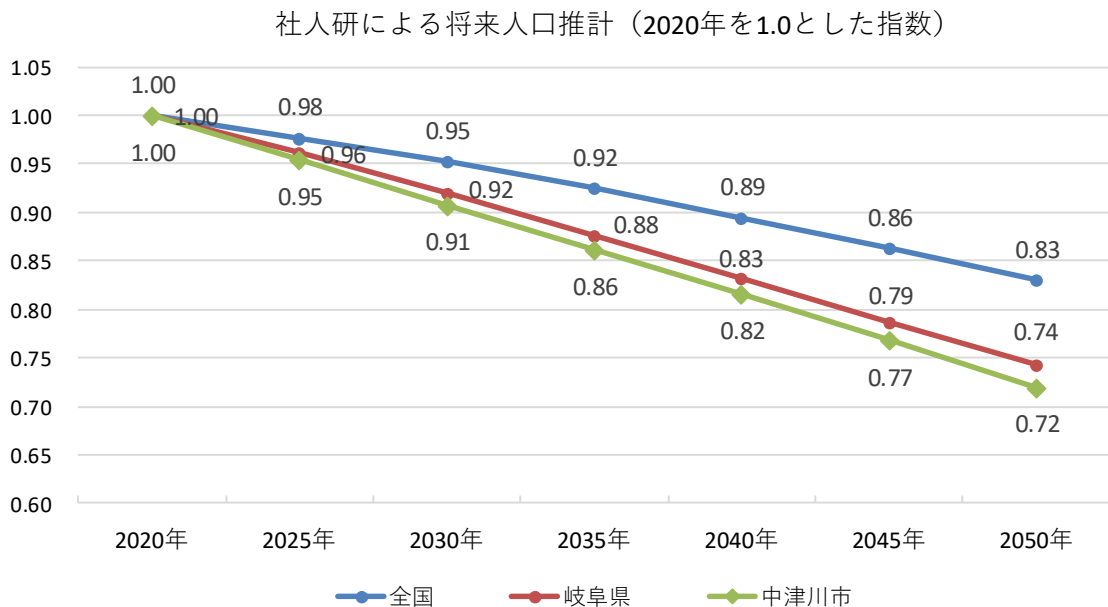
(4) 将来推計人口

2023年(R5)12月に公表された社人研による全国、岐阜県、本市の将来人口推計では、2020年(R2)を1.0と指数化して比較してみると、2050年には全国は0.83、岐阜県は0.74、本市は0.72という結果になった。

中津川市は今後30年間で全国よりも0.11ポイントも早く人口減少していくと推計されており、より一層の人口減少対策が必要となっている。

表 社人研による将来人口推計(国・岐阜県・中津川市)

	全国 (千人)	岐阜県 (人)	中津川市 (人)
2020年	126,146	1,978,742	76,570
2025年	123,262	1,901,307	73,087
2030年	120,116	1,819,881	69,514
2035年	116,639	1,734,135	66,022
2040年	112,837	1,645,767	62,493
2045年	108,801	1,556,632	58,824
2050年	104,686	1,468,392	55,136



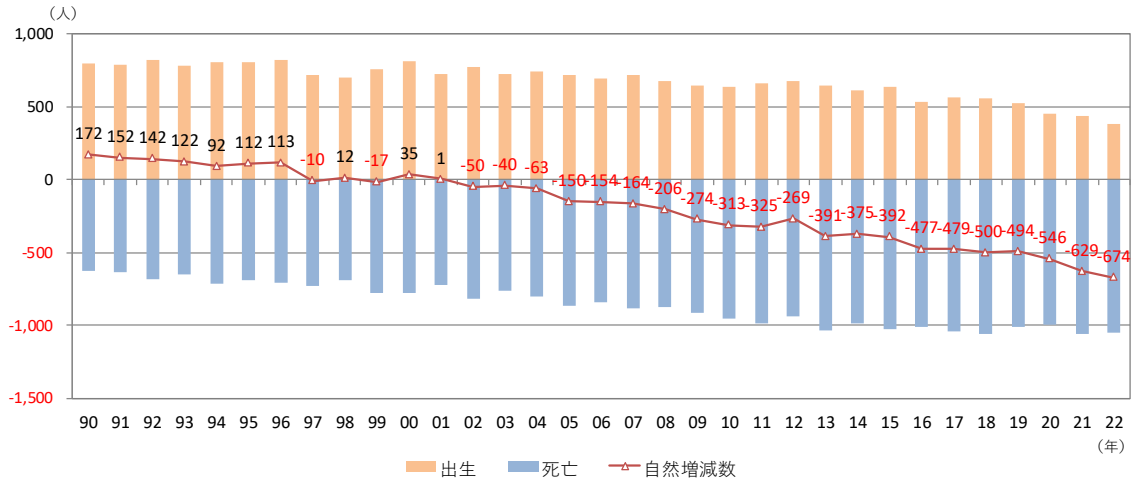
資料：社人研「将来人口推計(出生中位(死亡中位)推計)」(2023)

図 社人研による将来人口の推移

(5) 自然動態及び社会動態の推移

1) 自然増減数

本市の自然増減数は、1990年（H2）以降、減少傾向にあり、2002年（H14）から毎年出生数が死亡数を下回る「自然減」の状況にある。



	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年
出生数	800	791	824	777	808	801	822	720	704	760	811	724	769	722	743	714	690	718	673	641
死亡数	628	639	682	655	716	689	709	730	692	777	776	723	819	762	806	864	844	882	879	915
自然増減数	172	152	142	122	92	112	113	-10	12	-17	35	1	-50	-40	-63	-150	-154	-164	-206	-274

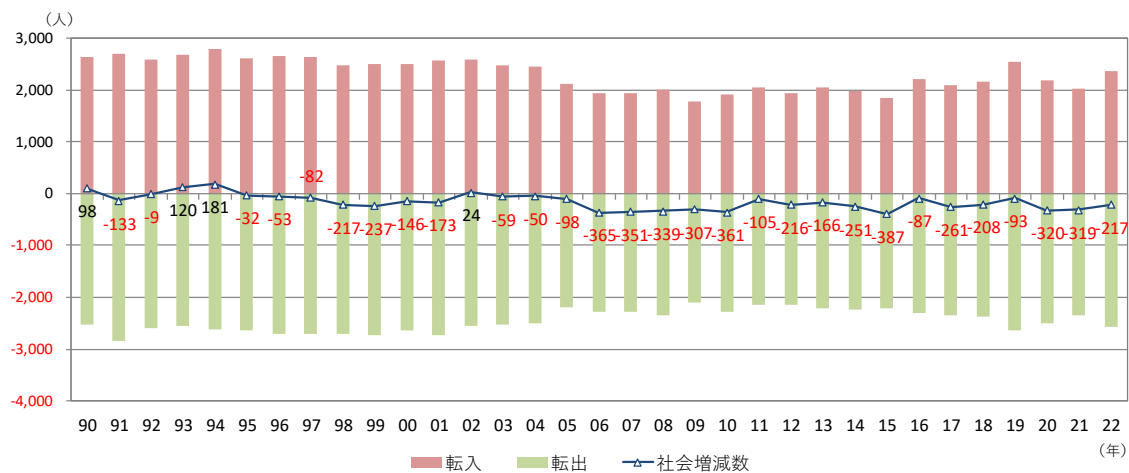
	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
出生数	639	663	673	642	609	633	535	566	557	521	450	434	378
死亡数	952	988	942	1,033	984	1,025	1,012	1,045	1,057	1,015	996	1,063	1,052
自然増減数	-313	-325	-269	-391	-375	-392	-477	-479	-500	-494	-546	-629	-674

資料：岐阜県「人口動態統計調査」

図 自然増減の推移

2) 社会増減数

本市の社会増減数は、1990年(H2)、1993年(H5)、1994年(H6)、2002年(H14)を除き、転入数が転出数を下回る「社会減」の状況が続いている。



	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年
転入数	2,623	2,701	2,580	2,666	2,794	2,600	2,654	2,628	2,480	2,496	2,488	2,550	2,582	2,469	2,446	2,103	1,923	1,925	2,002	1,787
転出数	2,525	2,834	2,589	2,546	2,613	2,632	2,707	2,710	2,697	2,733	2,634	2,723	2,558	2,528	2,496	2,201	2,288	2,276	2,341	2,094
社会増減数	98	-133	-9	120	181	-32	-53	-82	-217	-237	-146	-173	24	-59	-50	-98	-365	-351	-339	-307

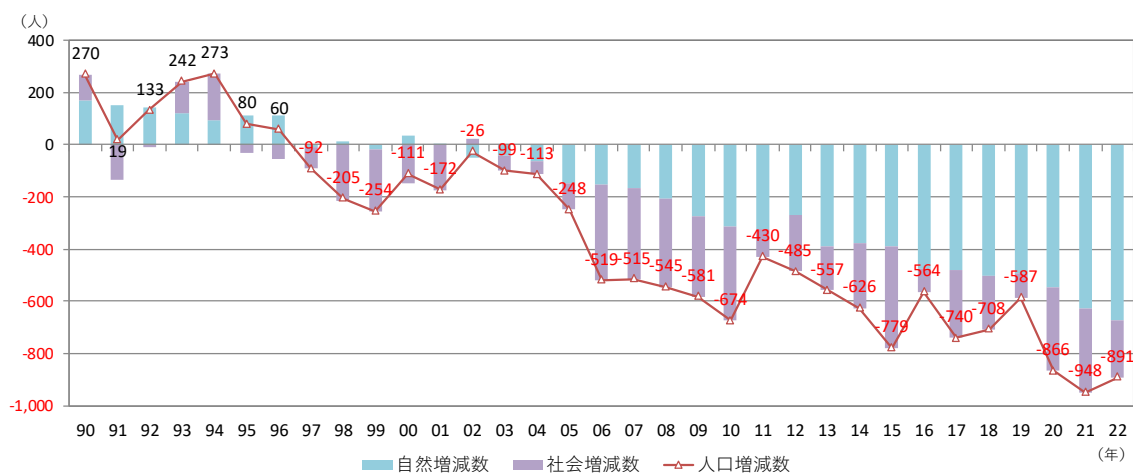
	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
転入数	1,917	2,047	1,922	2,037	1,978	1,834	2,212	2,081	2,163	2,543	2,181	2,027	2,360
転出数	2,278	2,152	2,138	2,203	2,229	2,221	2,299	2,342	2,371	2,636	2,501	2,346	2,577
社会増減数	-361	-105	-216	-166	-251	-387	-87	-261	-208	-93	-320	-319	-217

資料：岐阜県「人口動態統計調査」

図 社会増減の推移

3) 人口増減の推移

人口増減数をみると、1996年（H8）までは「自然増」により、人口は増加ないし横ばいで推移していたが、1997年（H9）以降は、1998年（H10）と2000年（H12）から2002年（H14）を除き、「自然増減」と「社会増減」の双方が「人口減」となる状況にあり、2006年（H18）以降は430～950人程度の減少が続いている。



	90年	91年	92年	93年	94年	95年	96年	97年	98年	99年	00年	01年	02年	03年	04年	05年	06年	07年	08年	09年
自然増減数	172	152	142	122	92	112	113	-10	12	-17	35	1	-50	-40	-63	-150	-154	-164	-206	-274
社会増減数	98	-133	-9	120	181	-32	-53	-82	-217	-237	-146	-173	24	-59	-50	-98	-365	-351	-339	-307
人口増減数	270	19	133	242	273	80	60	-92	-205	-254	-111	-172	-26	-99	-113	-248	-519	-515	-545	-581

	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年
自然増減数	-313	-325	-269	-391	-375	-392	-477	-479	-500	-494	-546	-629	-674
社会増減数	-361	-105	-216	-166	-251	-387	-87	-261	-208	-93	-320	-319	-217
人口増減数	-674	-430	-485	-557	-626	-779	-564	-740	-708	-587	-866	-948	-891

資料：岐阜県「人口動態統計調査」

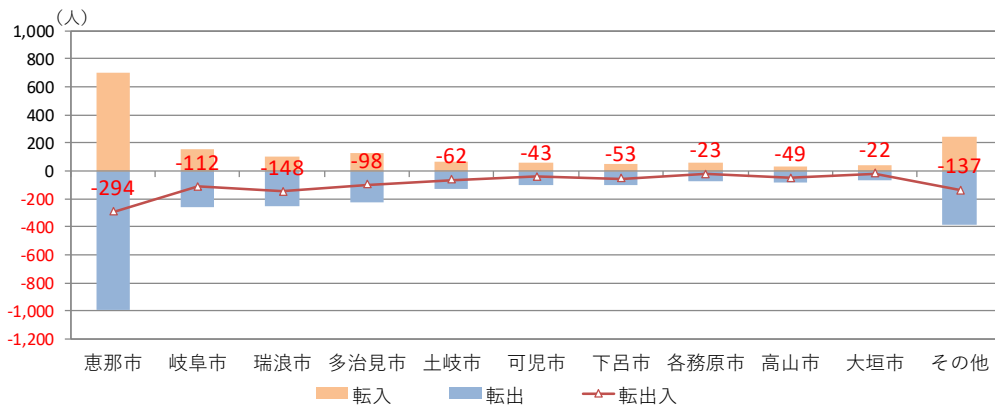
図 人口増減の推移

(6) 人口移動の状況(近隣他市、県外への移動、2010年・2015年・2020年の比較)

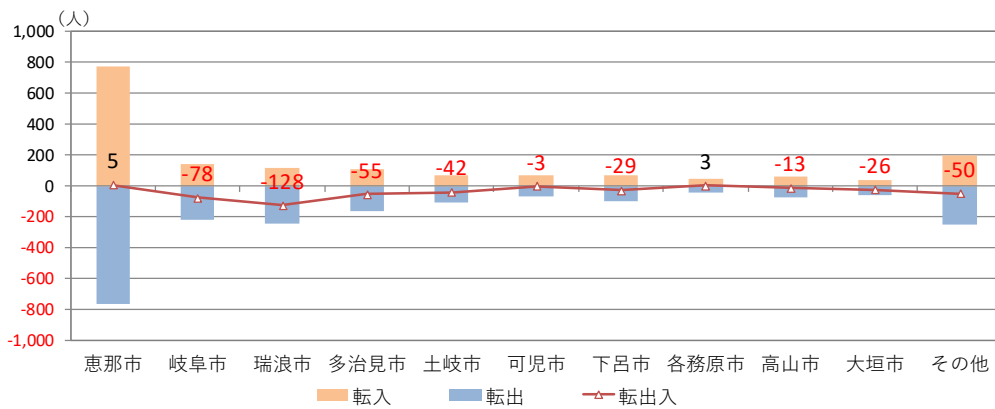
本市における人口移動について県内市町村別にみると、転入数、転出数ともに岐阜市の他、恵那市、瑞浪市など近隣からの移動が多くなっている。2020年(R2)の転出入でみると、高山市以外は転出超過となっている。

同様に、県外都道府県別にみると、転入数、転出数ともに愛知県が最も多く、次いで、長野県、東京都の順になっている。転出入でみると、愛知県が622人の転出超過、長野県が37人の転入超過となっている。

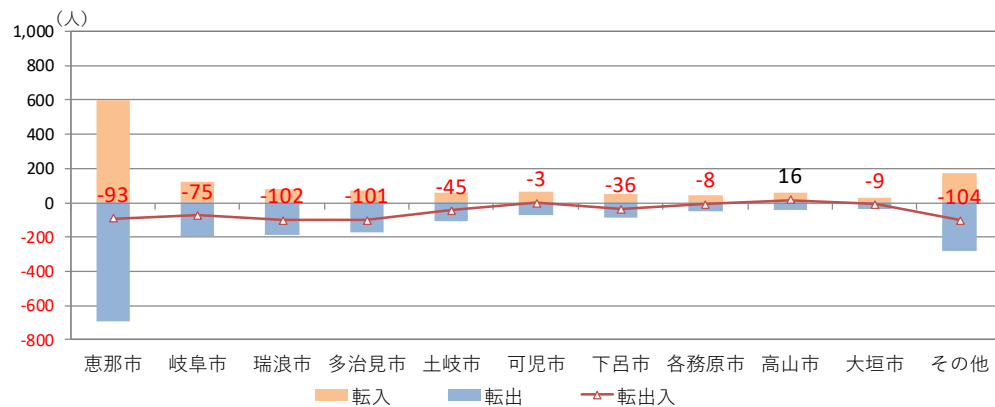
[2010年]



[2015年]



[2020年]



資料：国勢調査（各年）

図 中津川市と県内市町村との人口移動状況

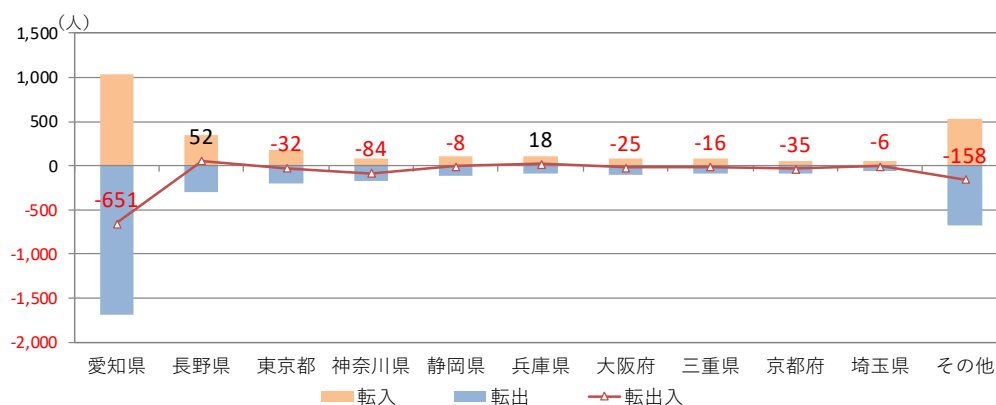
表 中津川市と県内市町村との人口移動状況の推移 (2010～2020年)

(人)

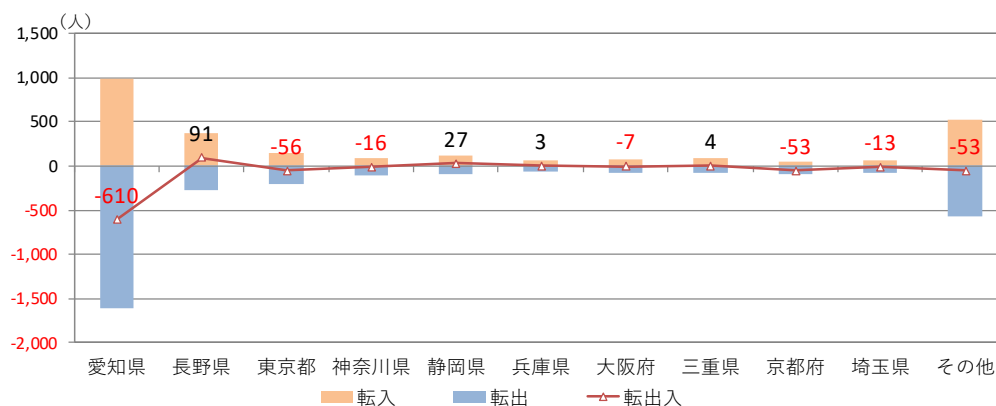
		恵那市	岐阜市	瑞浪市	多治見市	土岐市	可児市	下呂市	各務原市	高山市	大垣市	その他
2010年	転入数	702	152	104	128	70	55	49	55	33	41	245
	転出数	-996	-264	-252	-226	-132	-98	-102	-78	-82	-63	-382
	転出入数	-294	-112	-148	-98	-62	-43	-53	-23	-49	-22	-137
2015年	転入数	772	139	120	111	66	68	68	47	62	36	199
	転出数	-767	-217	-248	-166	-108	-71	-97	-44	-75	-62	-249
	転出入数	5	-78	-128	-55	-42	-3	-29	3	-13	-26	-50
2020年	転入数	596	123	83	74	60	66	53	42	58	27	177
	転出数	-689	-198	-185	-175	-105	-69	-89	-50	-42	-36	-281
	転出入数	-93	-75	-102	-101	-45	-3	-36	-8	16	-9	-104

資料：国勢調査（各年）

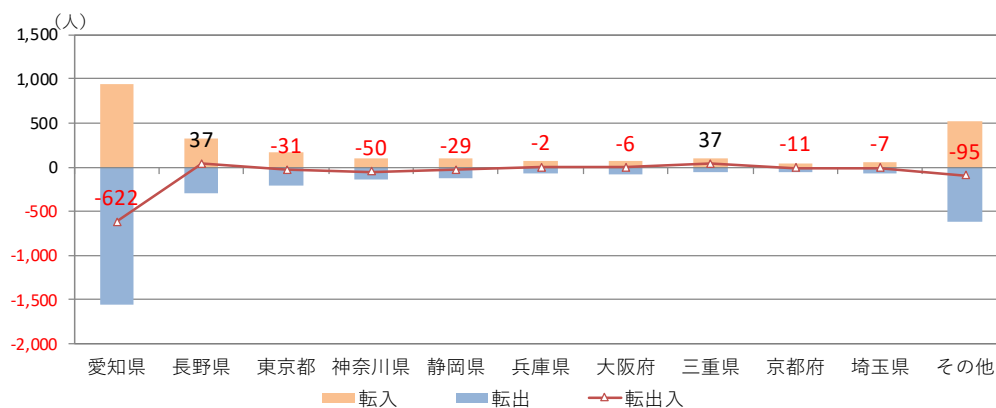
[2010年]



[2015年]



[2020年]



資料：国勢調査（各年）

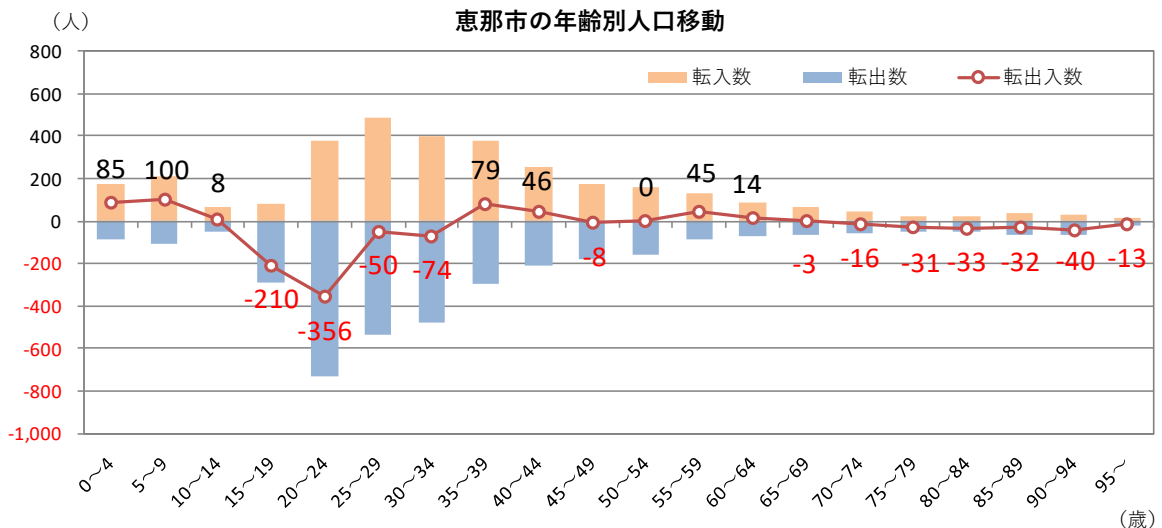
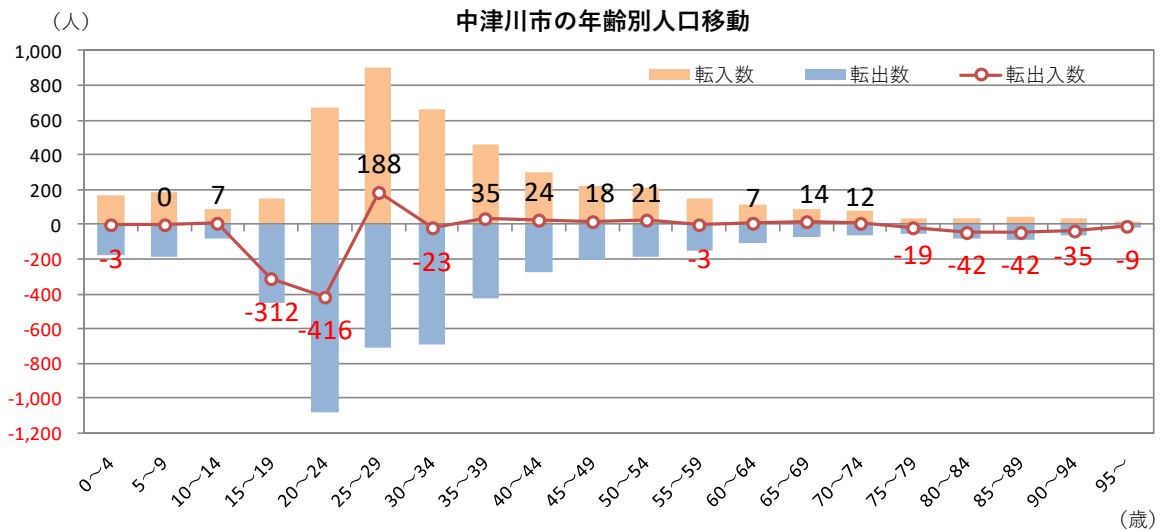
図 中津川市と県外都道府県との人口移動状況

表 中津川市と県外都道府県との人口移動状況の推移（2010～2020年）

		愛知県	長野県	東京都	神奈川県	静岡県	兵庫県	大阪府	三重県	京都府	埼玉県	その他
2010年	転入数	1,039	347	174	82	112	113	80	76	49	58	526
	転出数	-1,690	-295	-206	-166	-120	-95	-105	-92	-84	-64	-684
	転出入数	-651	52	-32	-84	-8	18	-25	-16	-35	-6	-158
2015年	転入数	991	364	150	88	115	66	76	87	40	61	523
	転出数	-1,601	-273	-206	-104	-88	-63	-83	-83	-93	-74	-576
	転出入数	-610	91	-56	-16	27	3	-7	4	-53	-13	-53
2020年	転入数	934	326	173	92	100	66	77	99	41	60	523
	転出数	-1,556	-289	-204	-142	-129	-68	-83	-62	-52	-67	-618
	転出入数	-622	37	-31	-50	-29	-2	-6	37	-11	-7	-95

資料：国勢調査（各年）

本市とその近隣の恵那市、瑞浪市、土岐市、多治見市の転出入の状況を見ると、2020年（R2）の国勢調査では、瑞浪市を除いて、いずれの市も転出超過となっている。転入・転出の出入りが多いのが20代、30代であり、就学、就業の機会に転出入しているものと思われる。



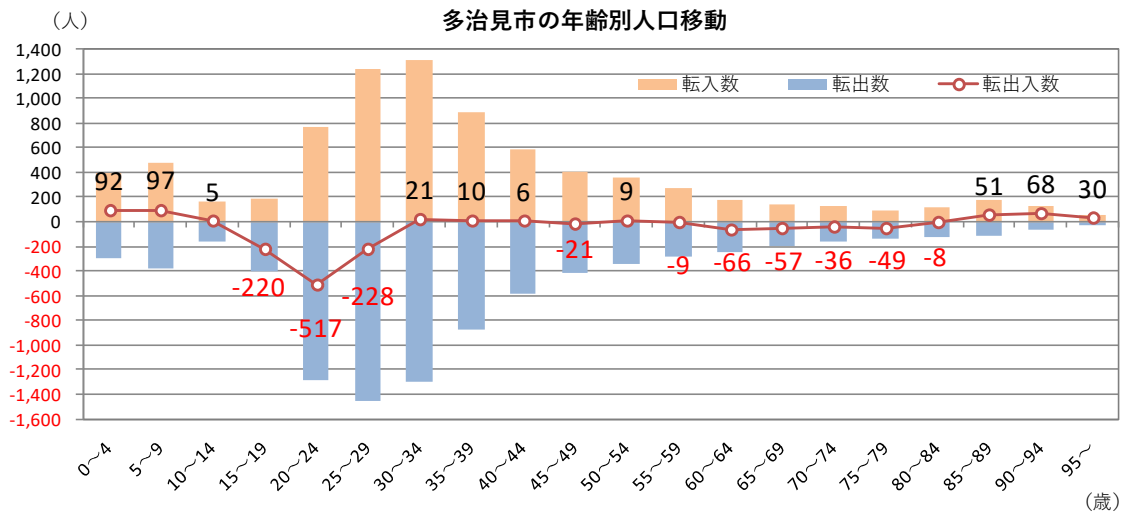
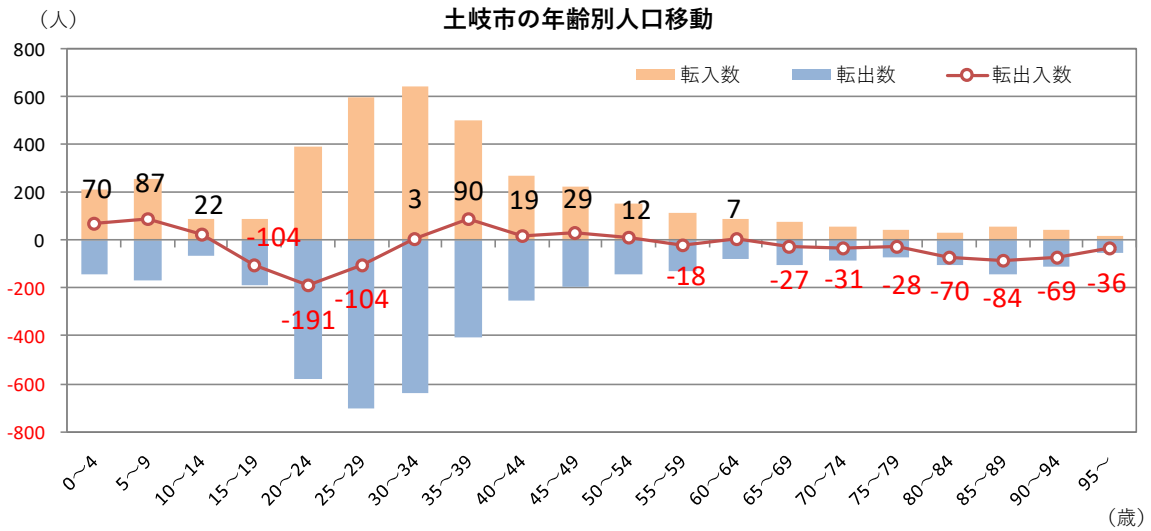
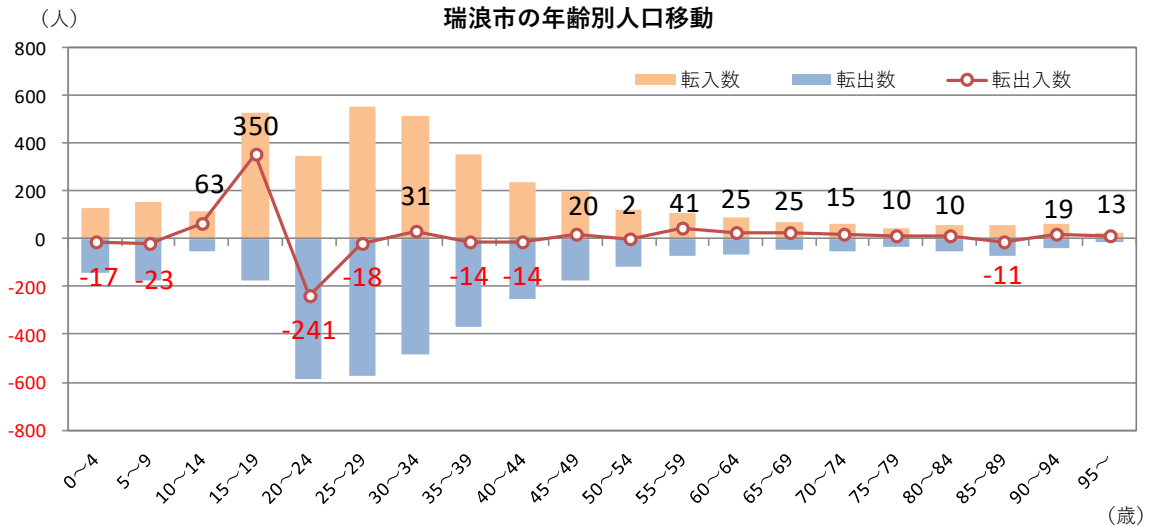


表 中津川市と近隣市の転出入の状況

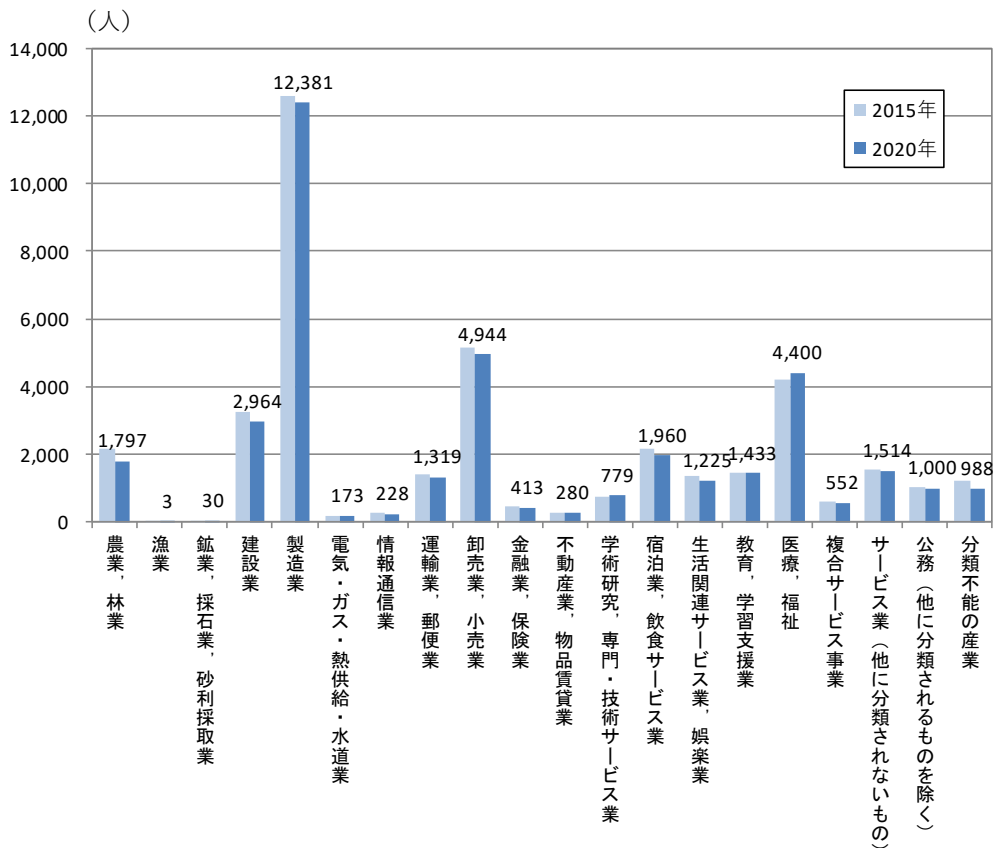
	総数	0~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~	
中津川市	転入数	4,615	171	187	87	145	669	899	665	459	303	224	209	150	117	89	76	38	35	46	30	14
	転出数	-5,192	-174	-187	-80	-457	-1,085	-711	-688	-424	-279	-206	-188	-153	-110	-75	-64	-57	-77	-88	-65	-23
	転出入数	-577	-3	0	7	-312	-416	188	-23	35	24	18	21	-3	7	14	12	-19	-42	-42	-35	-9
恵那市	転入数	3,199	175	209	62	77	377	489	402	375	253	176	159	133	89	65	42	22	20	35	27	12
	転出数	-3,688	-90	-109	-54	-287	-733	-539	-476	-296	-207	-184	-159	-88	-75	-68	-58	-53	-53	-67	-67	-25
	転出入数	-489	85	100	8	-210	-356	-50	-74	79	46	-8	0	45	14	-3	-16	-31	-33	-32	-40	-13
瑞浪市	転入数	3,838	128	151	114	527	345	554	517	354	238	198	121	111	92	71	65	44	60	60	61	27
	転出数	-3,552	-145	-174	-51	-177	-586	-572	-486	-368	-252	-178	-119	-70	-67	-46	-50	-34	-50	-71	-42	-14
	転出入数	286	-17	-23	63	350	-241	-18	31	-14	-14	20	2	41	25	25	15	10	10	-11	19	13
土岐市	転入数	3,936	211	258	86	87	390	597	642	498	271	221	153	113	86	75	57	42	33	56	44	16
	転出数	-4,359	-141	-171	-64	-191	-581	-701	-639	-408	-252	-192	-141	-131	-79	-102	-88	-70	-103	-140	-113	-52
	転出入数	-423	70	87	22	-104	-191	-104	3	90	19	29	12	-18	7	-27	-31	-28	-70	-84	-69	-36
多治見市	転入数	8,050	387	473	168	183	767	1,232	1,314	884	588	399	356	278	181	144	129	85	121	170	132	59
	転出数	-8,872	-295	-376	-163	-403	-1,284	-1,460	-1,293	-874	-582	-420	-347	-287	-247	-201	-165	-134	-129	-119	-64	-29
	転出入数	-822	92	97	5	-220	-517	-228	21	10	6	-21	9	-9	-66	-57	-36	-49	-8	51	68	30

資料：国勢調査（令和2年）

(7) 就業人口

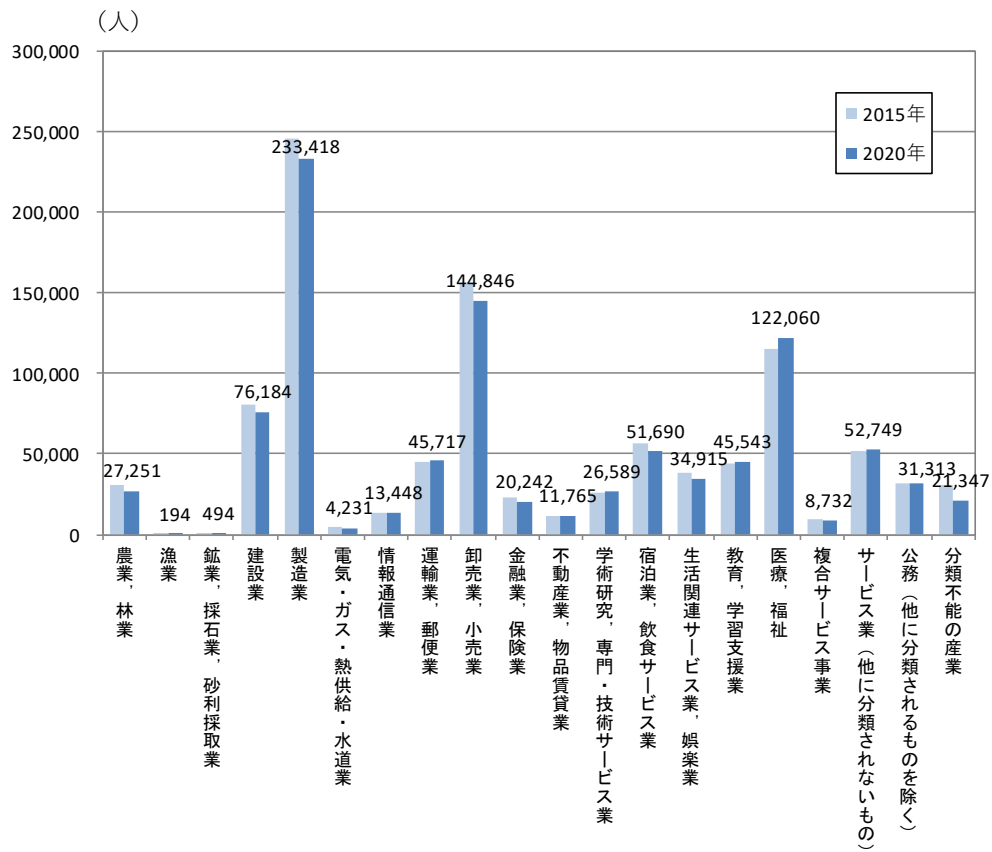
2020年（R2）における本市の産業別就業者数は、「製造業」が最も多く、次いで、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の順となっている。2015年（H27）と比較すると、「医療、福祉」が若干増加し、「建設業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」などで若干減少している。

岐阜県の2020年（R2）と2015年（H27）を比較すると、「製造業」「卸売業、小売業」「建設業」、「宿泊業、飲食サービス業」において大きな減少がみられるが、本市では県ほど大きな変化はない。



資料：国勢調査（2015、2020）

図 本市の産業別就業者数



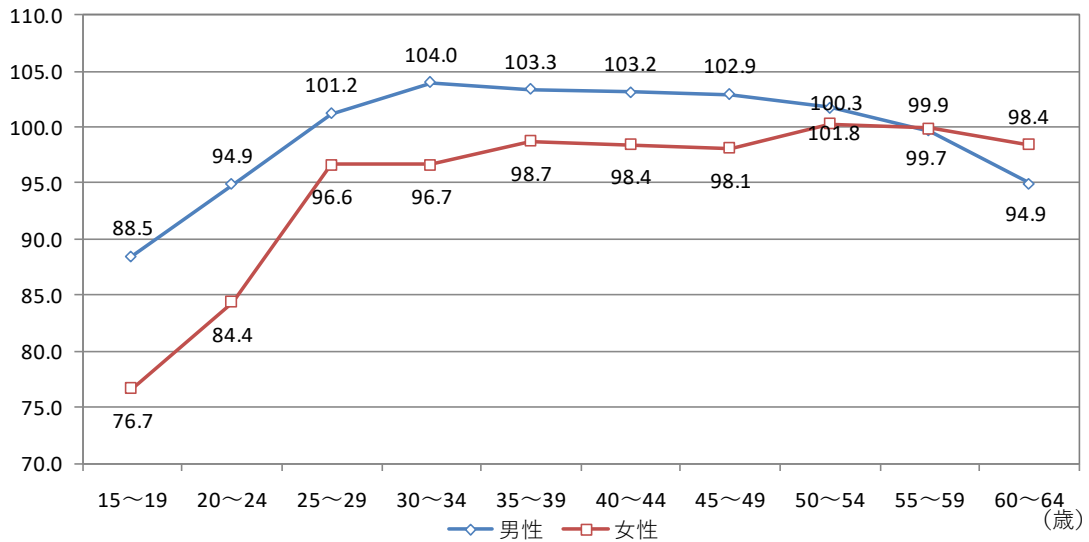
資料：国勢調査（2015、2020）

図 岐阜県の産業別就業者数

(8) 昼夜間人口

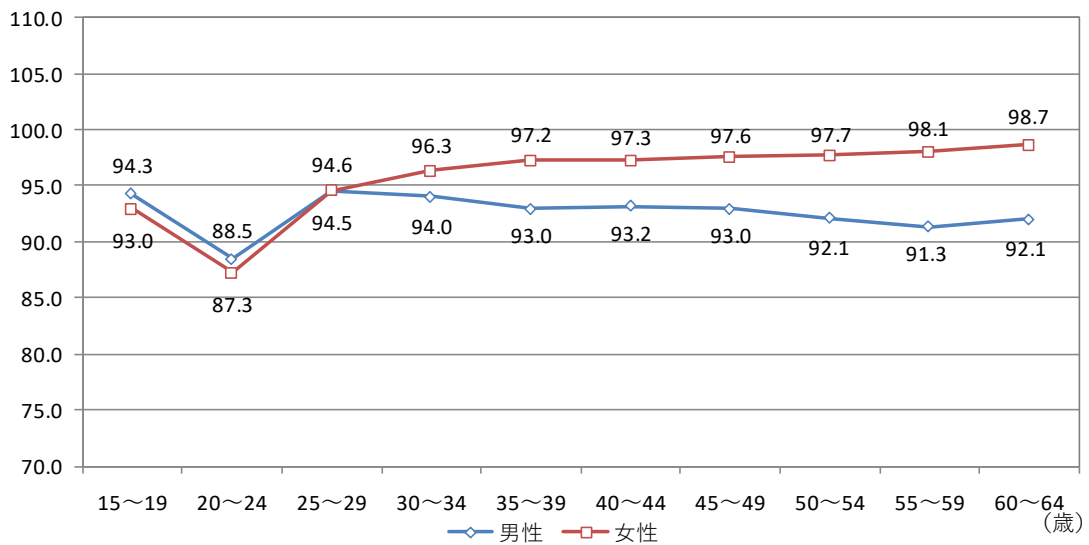
2020年（R2）における本市の年代別昼夜間人口比をみると、男性では25歳～54歳までは就業をする場を市内とする市民が多く、市外からの就業の場にもなっている。女性では35歳以上では昼夜間人口比が100前後と就業の出入りは拮抗している。

県内の状況を見ると、男女ともに20歳～24歳では県外に通勤・通学しているため、他の年代よりも低くなっている。また30歳以降では男性より女性の方が県内で就業する割合が多くなっている。



資料：国勢調査（2020）

図 本市の年代別昼夜間人口比



資料：国勢調査（2020）

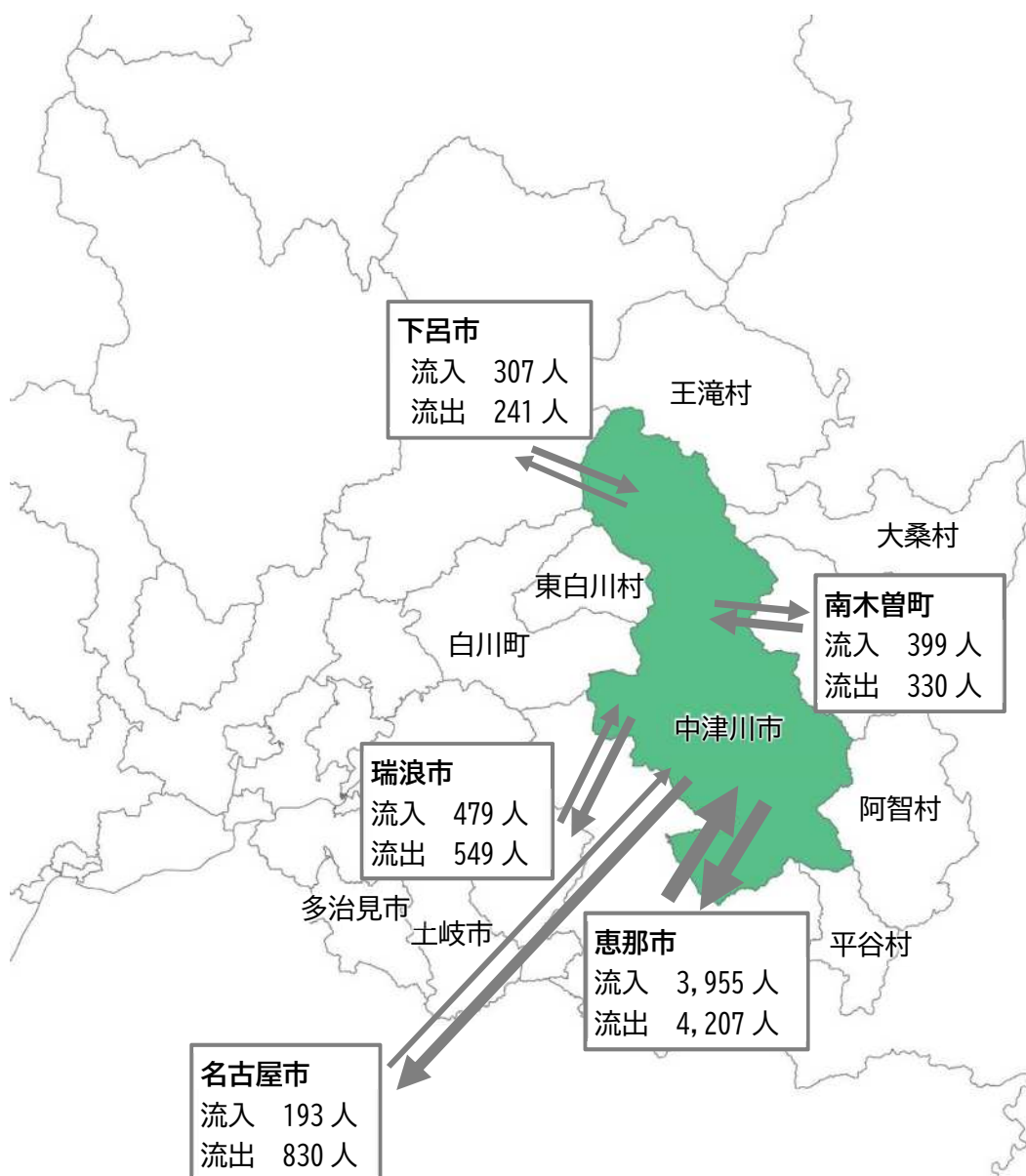
図 岐阜県の年代別昼夜間人口比

(9) 通勤・通学の状況

市内で従業・通学する 45,879 人のうち、市外から通勤・通学するのは 6,815 人である。そのうち恵那市から 3,955 人、瑞浪市から 479 人、長野県南木曾町から 399 人が通勤・通学している。

市内に常住する就業者・通学者 46,972 人のうち、市外へ通勤・通学するのは 8,070 人で、そのうち恵那市へ 4,207 人、愛知県名古屋市へ 830 人、瑞浪市へ 549 人が通勤・通学している。

市内への流入元、市外への流出先は、隣接する恵那市が全体の半数以上を占めている。主な流入先が近隣市町村となっている一方で、流出先は名古屋市が第2位となっている。



資料：令和2年国勢調査

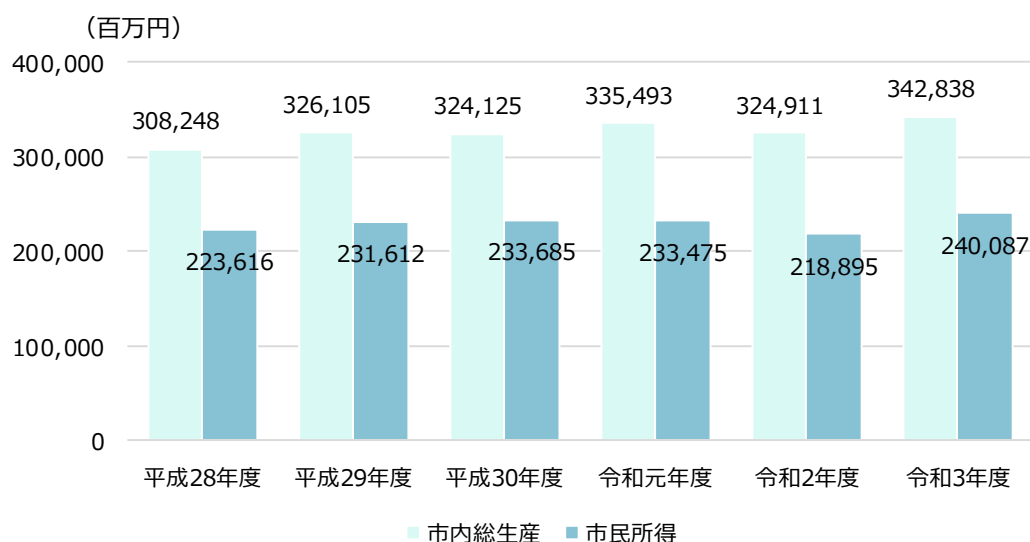
図 通勤・通学状況

1-3 経済・産業

(1) 総生産と所得

「令和3年度市町村民経済計算」によると、中津川市の市内総生産額は2021（令和3）年度が3,428億円で、前年度増加率は5.5%となっている。

市民所得は2021（令和3）年度が240億円で、前年度増加率は9.7%である。



資料：令和3年度 市町村民経済計算

図 市内総生産と市民所得の推移

市内総生産 = 国のGDP（国内総生産）に当たるもの。市内の生産活動により生み出された付加価値の総額

市民所得 = 雇用者報酬の他、財産所得や企業所得など居住者（家計・企業など）が得た所得の合計

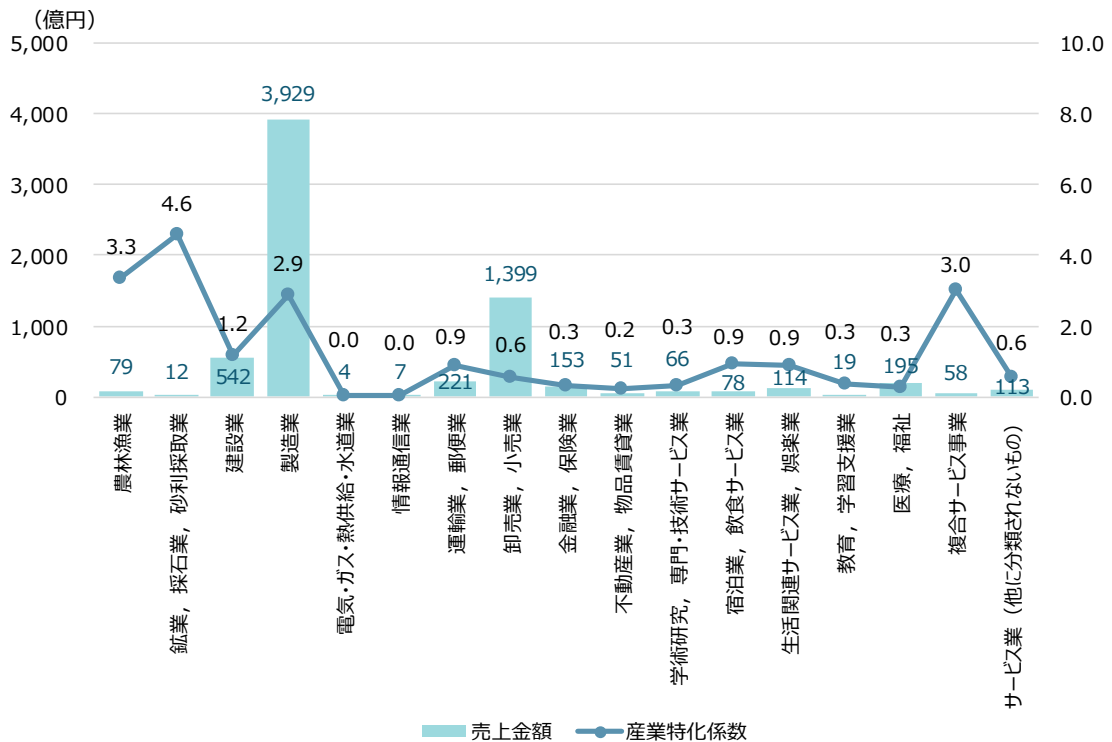
(2) 産業の動向

1) 産業全体

①売上高でみる産業

市内事業所の売上金額は、約 7,041 億円で、産業分類別にみると「製造業」が約 3,929 億円 (55.8%) で最も高く、次いで「卸売業、小売業」が約 1,399 億円 (19.9%) となっており、2 つの産業で市内全体の売上金額の7割以上を占めている。

売上金額の産業特化係数は、全国平均と比較して「鉱業、採石業、砂利採取業」、「農林漁業」などの係数が高い。



※「金融業、保険業」、「学術研究、専門・技術サービス業」の売上金額は秘匿のため表示していない

※産業特化係数=中津川市の産業別売上金額の構成比/全国の産業別売上金額の構成比

資料：令和3年経済センサス-活動調査

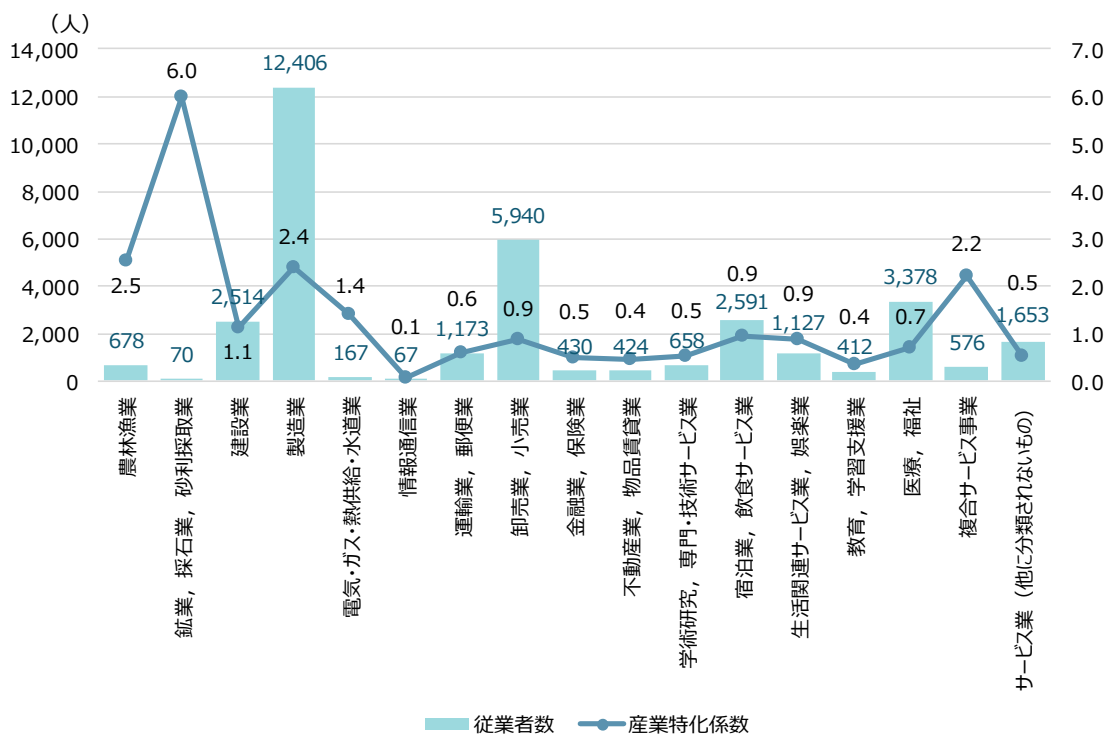
図 産業別売上金額と産業特化係数

②雇う力でみる産業

市内産業における従業者数は、34,264人である。

産業分類別にみると「製造業」が12,406人（36.2%）で最も高く、次いで「卸売業、小売業」が5,940人（17.3%）、「医療、福祉」が3,378人（9.9%）、「宿泊業、飲食サービス業」が2,591人（7.6%）などとなっている。

従業者数の産業特化係数は、全国平均と比較して「鉱業、採石業、砂利採取業」、「農林漁業」、「製造業」、「複合サービス事業」などの係数が高くなっている。



※産業特化係数 = 中津川市の産業別従業者数の構成比 / 全国の産業別従業者数の構成比

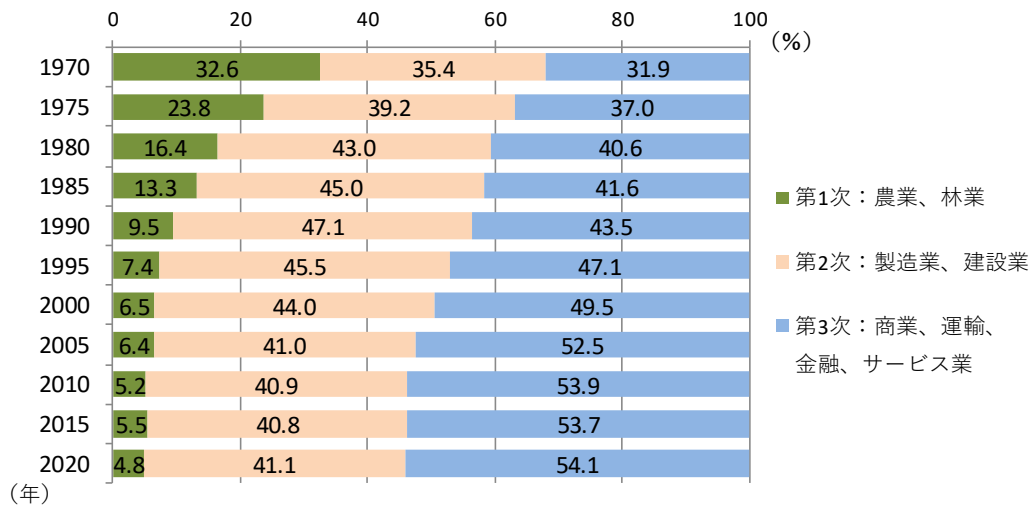
資料：令和3年経済センサス-活動調査

図 産業別従業者数と産業特化係数

③産業別構成比の推移

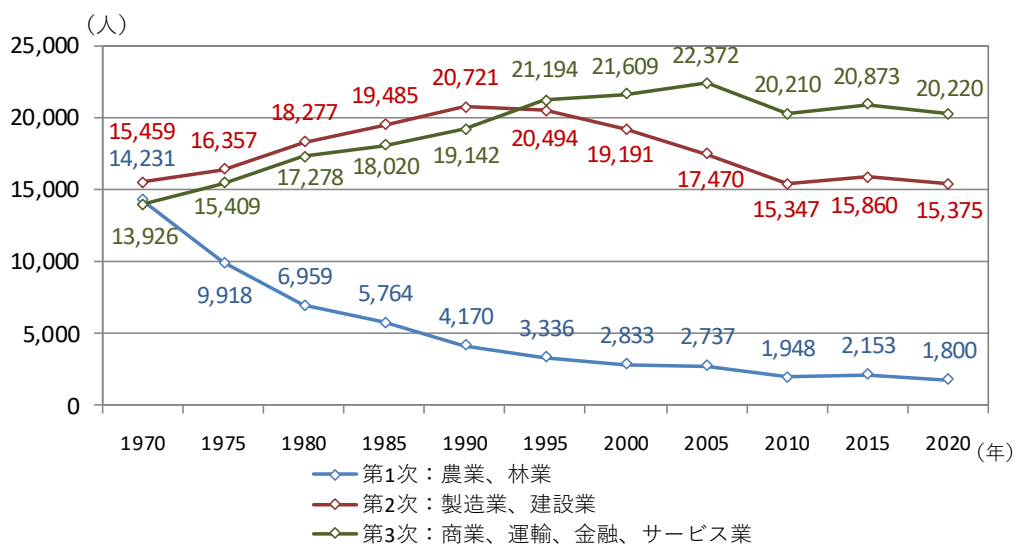
「令和2年国勢調査」によると本市の就業人口は38,383人で、構成比は第1次産業4.8%（1,800人）、第2次産業41.1%（15,375人）、第3次産業54.1%（20,220人）となっている。

本市の産業構造（就業者数の産業別割合）の推移をみると、第1次産業の割合は大きく減少しており、2020（R2）年では約5%となっている。第2次産業の割合は40%程度で横ばいとなっており、1995年（H7）以降は第3次産業を下回ったが、本市の重要な基幹産業である。一方、第3次産業の割合は2005（H17）年以降50%を越えている。



資料：国勢調査

図 産業（大分類）別構成比の推移

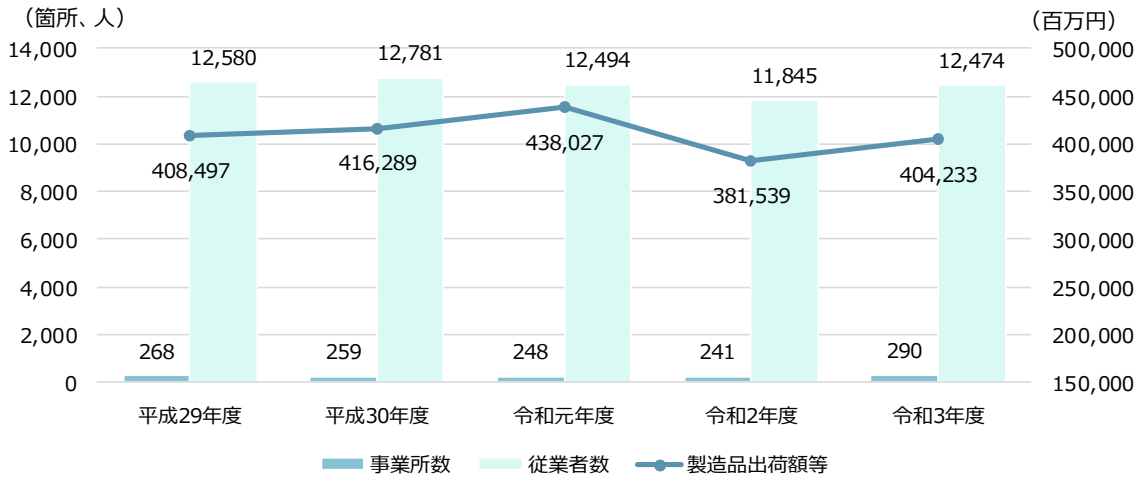


資料：国勢調査

図 産業別就業者数の推移

2) 工業

「令和3年経済構造実態調査」によると本市の事業所数は290箇所、従業者数は12,474人、製造品出荷額等は404億円で、前年度増加率は5.9%である。

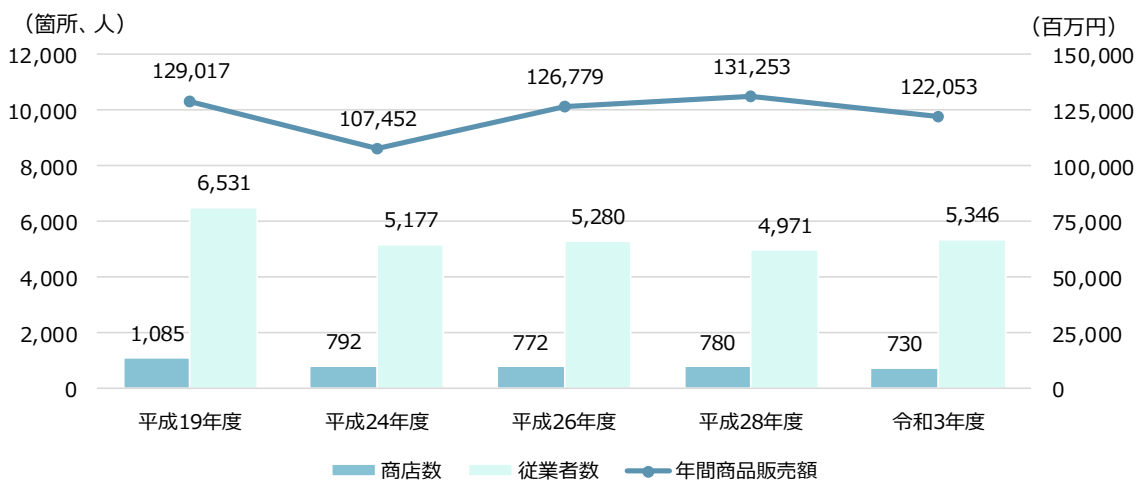


資料：工業統計調査 (H29-R1)、経済センサス-活動調査 (R2)、経済構造実態調査 (R3)

図 工業の製造品出荷額等の推移

3) 商業

「令和3年経済センサス活動調査」によると本市の商店数は730箇所、従業者数は5,346人、年間商品販売額等は122億円で、前年度増加率は-7.0%である。



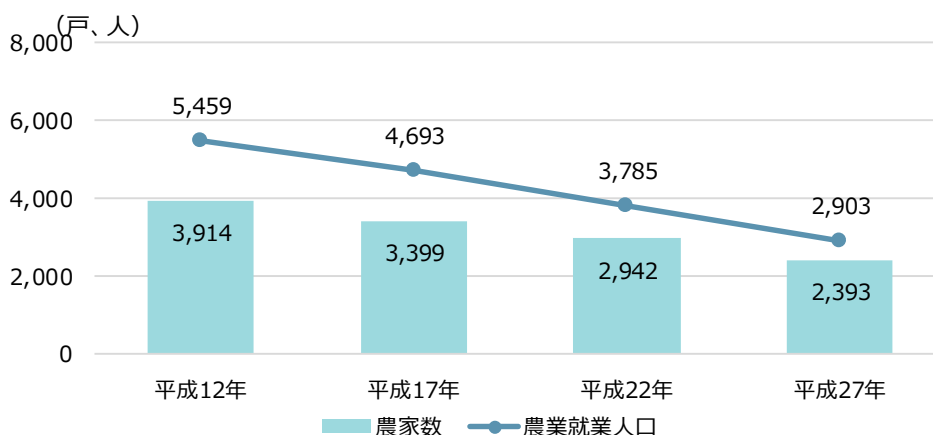
資料：商業統計調査 (H19、26)、経済センサス-活動調査 (H24、28、R3)

図 商業の年間商品販売額等の推移

4) 農業

①農家数と農業就業人口、農業産出額の推移

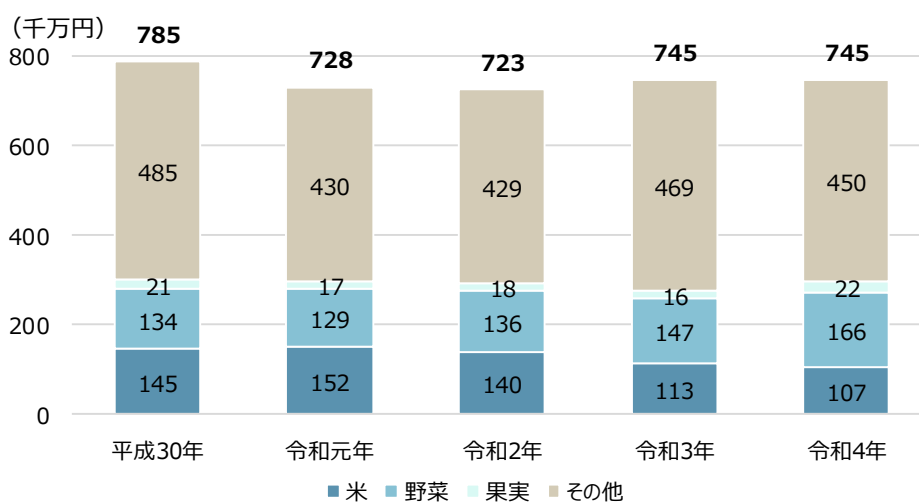
「平成 27 年農林業センサス」によると、本市の農家数は 2,393 戸、農業就業人口は 2,903 人となっている。平成 12 年以降、農家数、農業就業人口いずれも減少傾向が続き、平成 12 年と比較して、農家数は 3 分の 2 以下、農業就業人口は半数近くに減少した。



資料：農林業センサス

図 農家数と農業就業人口の推移（販売農家）

本市の 2022（令和 4）年の農業産出額は 74.5 億円で、2020（令和 2）年を境に下落傾向から上昇傾向にある。農産物別にみると、その他（主は畜産）が半数以上を占めている。

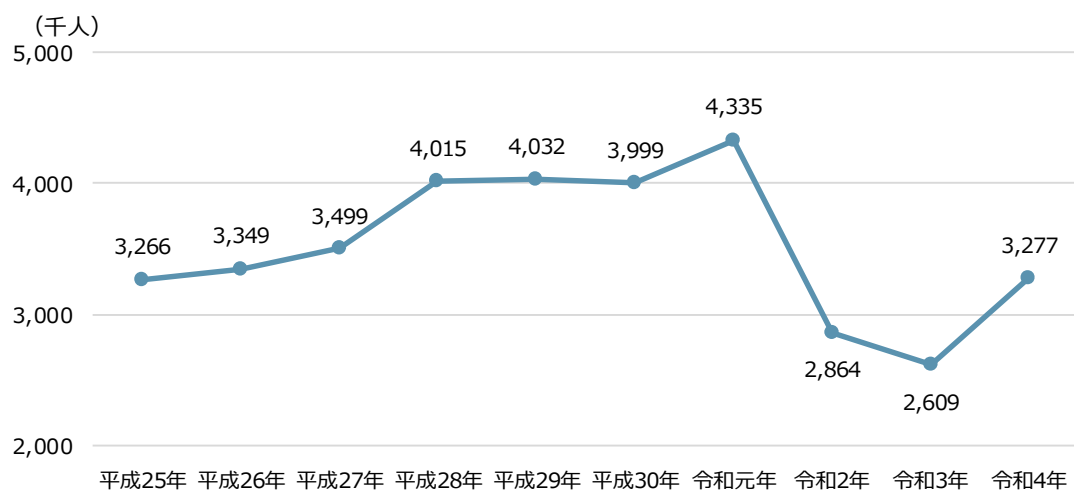


資料：市町村別農業産出額（推計）

図 農業産出額の推移

5) 観光

本市の2022（令和4）年の観光入込客数は327万人である。2019（令和元）年には430万人程度に増加したが、新型コロナ等の影響で減少に転じており、回復傾向がみられる。



資料：岐阜県観光入込客統計

図 観光入込客数の推移

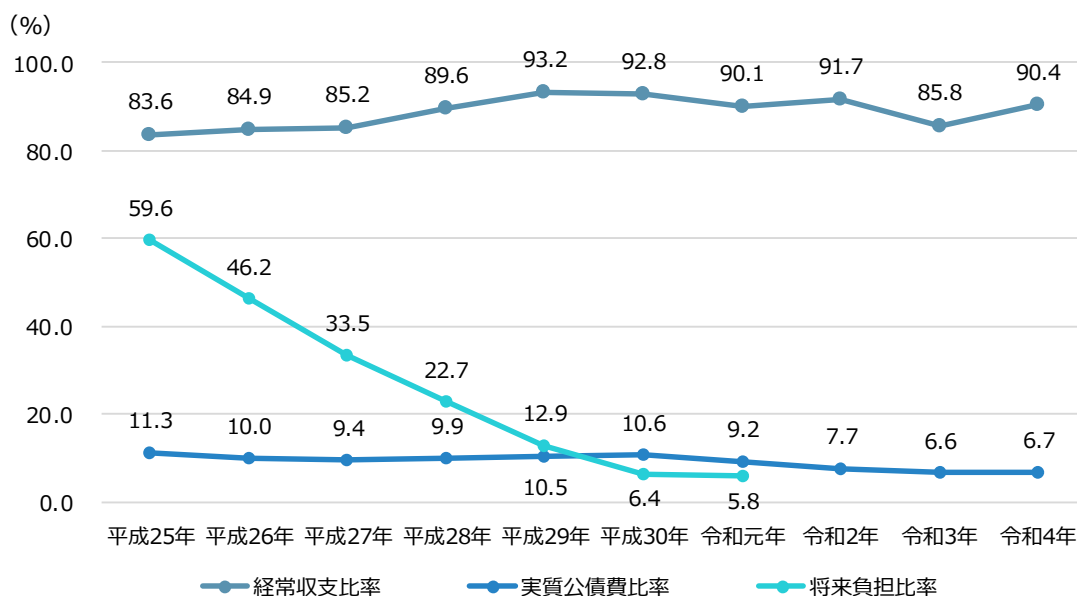
1-4 財政状況

経常収支比率とは、一般財源に人件費等の経常支出が占める割合で、財政運営の硬直度をみる指標である。一般には75～80%を超えると危険状態と言われている。

本市の経常収支比率は、令和4年度で90.4%と高くなっている。2016（平成28）年度までは80%台だったが、その後上昇して2021（令和3）年度に低下したものの、90%を超える状態が続いている。

実質公債費比率とは、地方債で借りたお金の一般財源に占める割合を示す指標で、一般には10%を超えないのが望ましいとされる。

本市の実質公債費比率は、令和4年度で6.7%となっており、2019（令和元）年度から10%以下の低下傾向が続いている。



※令和2年以降の将来負担比率は、将来負担額よりも充当可能財源が上回る「不表示（実質的なマイナス）」の状態となっている。

資料：地方公共団体の主要指標一覧

図 経常収支比率・実質公債費比率の推移

過去5年間の推移では、本市の財政規模は、近年500億円前後となっている。

歳入は、令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症対策関連経費などの増加のため国庫支出金の割合が高い傾向にありましたが、近年としてはおおむね横ばいで推移している。

歳出は、社会保障経費の増加により、扶助費が増加傾向となっている。また、令和5（2023）年度は普通建設事業費が約104億円となり、高い水準となっている。

歳入決算額の推移



(百万円)

	令和元（2019）年度	令和2（2020）年度	令和3（2021）年度	令和4（2022）年度	令和5（2023）年度
国庫支出金	4,345	13,992	8,288	7,120	7,467
地方譲与税・交付金等	13,736	14,070	15,377	15,039	15,118
県支出金	2,564	2,533	2,511	2,855	2,646
地方債	4,754	3,470	3,436	3,570	4,070
地方税	11,280	10,973	10,734	11,095	11,246
使用料及び手数料等	984	817	805	784	768
その他	6,653	7,015	9,471	8,817	10,007
計	44,315	52,869	50,622	49,280	51,322

歳入決算額の推移



(百万円)

	令和元 (2019) 年度	令和2 (2020) 年度	令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度
人件費	6,047	7,584	7,408	7,352	7,069
扶助費	5,812	5,818	7,260	6,461	6,569
公債費	3,665	3,758	3,826	3,902	3,962
物件費	5,816	4,947	5,279	5,559	5,585
維持補修費	579	564	585	542	591
補助費等	3,062	13,471	4,990	5,643	4,820
その他	6,607	4,847	6,291	5,135	5,635
普通建設事業費	7,865	6,400	7,883	7,772	10,453
その他	125,767	293.63	627.727	711.043	560.015
計	39,577	47,682	44,149	43,079	45,244

第2節 類似都市、県内主要都市との比較・分析

2-1 類似都市の分析

本市の都市構造を分析するにあたり、人口、第二次産業比率（第二次産業従業者の割合）、昼夜間人口比率が類似した傾向を有する、栃木県真岡市、群馬県館林市、愛知県蒲郡市、愛知県犬山市、兵庫県たつの市の5市と本市の各分野における指標を比較した。比較した指標は以下の6項目である。

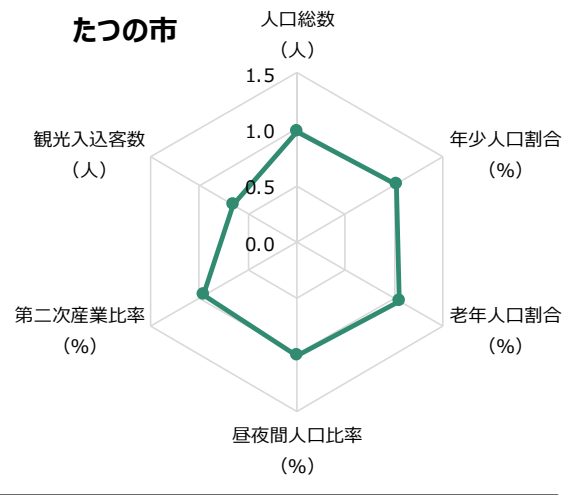
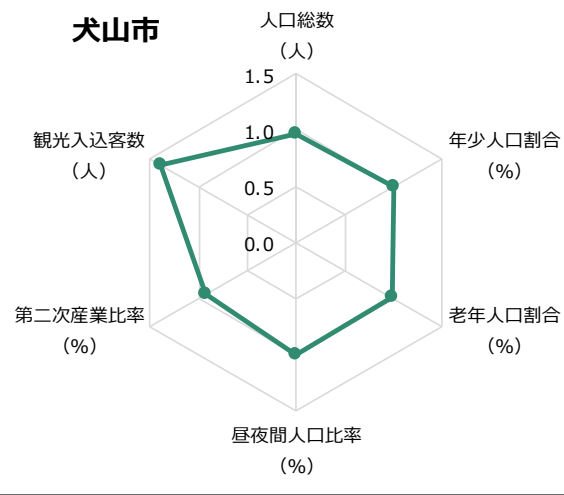
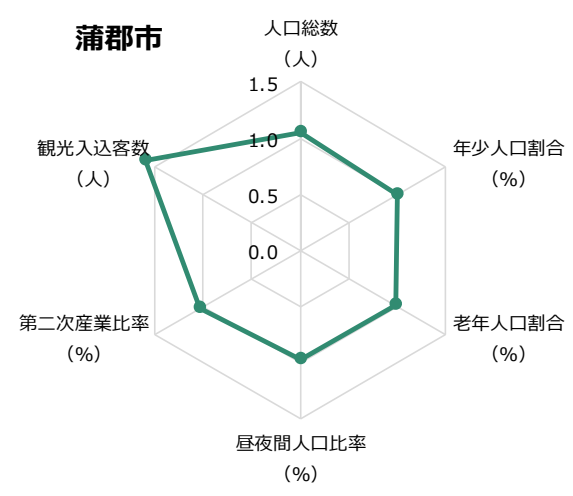
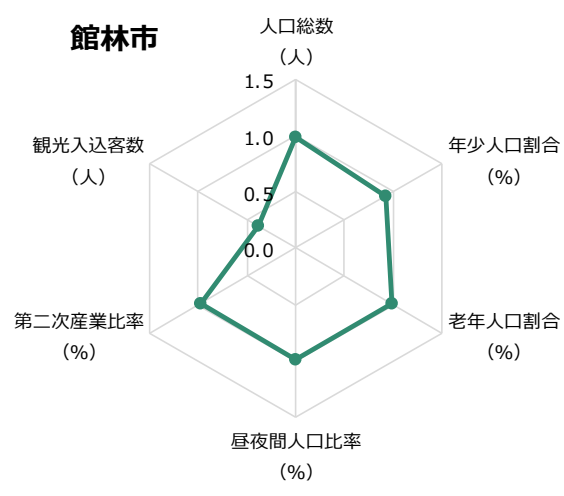
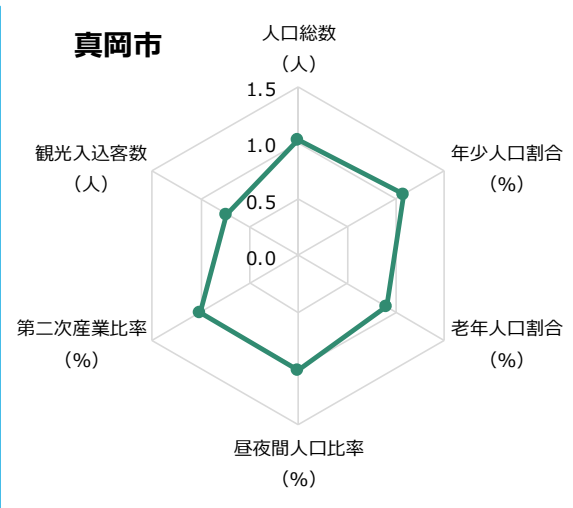
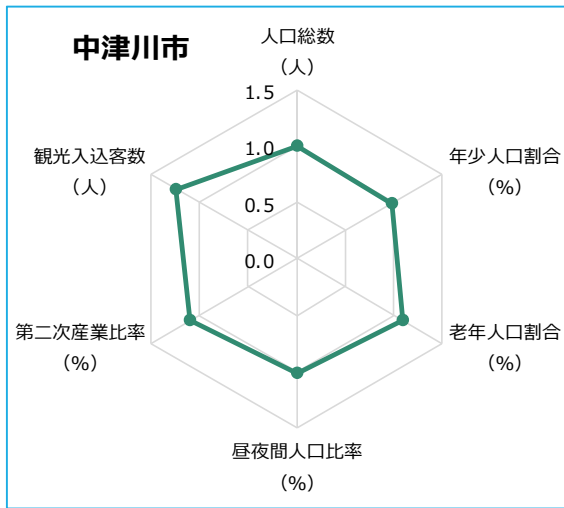
- 人口総数（人）
- 年少人口割合（％）
- 老年人口割合（％）
- 昼夜間人口比率（％）
- 第二次産業比率（％）
- 観光入込客数（人）

本市の各指標の値のうち、年少人口割合及び老年人口割合を除く指標で平均値より上回っており、周辺市より少子高齢化が進行している状況である。次頁にレーダーチャートを示す。

表 中津川市と類似5市の値と平均値

	中津川市	真岡市	館林市	蒲郡市	犬山市	たつの市	平均値
人口総数（人）	76,570	78,190	75,309	79,538	73,090	74,316	76,169
年少人口割合（％）	12.0	13.2	11.4	12.2	12.2	12.4	12.2
老年人口割合（％）	32.9	27.4	29.6	29.7	29.6	31.7	30.2
昼夜間人口比率（％）	98.6	98.1	96.1	93.5	96.1	97.4	96.6
第二次産業比率（％）	40.1	36.8	35.5	37.9	33.8	34.9	36.5
観光入込客数（人）	3,276,601	1,952,912	1,032,500	4,212,604	3,665,972	1,733,000	2,645,598

資料：国勢調査（令和2年）、観光入込客数は各県・市データ



【レーダーチャートについて】

- ・対象市町村の平均値を求め、平均値に対する各市町村のポイント（比率）を表示している。
- ・外側に行く程ポイントが高く、相対的に良い評価であることを示す。
- ・老年人口割合については、値が低い程良い評価であり、平均値に対する各都市のポイント（比率）を逆数として表示している。

図 中津川市と類似の5市のレーダーチャート

2-2 県内主要都市、周辺都市の分析

本市が属する東濃圏域の多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市の4市と、県内主要都市である岐阜市、大垣市、各務原市、可児市、関市、高山市の6市についても同様に比較を行った。

東濃圏域では、本市の各指標の値のすべての値が平均を上回っている。一方、県内主要都市で比較すると、第二次産業比率を除くすべての指標で平均を下回っている。次頁にレーダーチャートを示す。

表 中津川市と東濃圏域4市の値と平均値

	中津川市	多治見市	土岐市	瑞浪市	恵那市	平均値
人口総数(人)	73,668	103,489	53,051	35,983	45,484	62,335
年少人口割合(%)	11.1	10.8	11.2	10.8	10.7	10.9
老年人口割合(%)	33.5	32.5	32.5	32.0	36.5	33.4
昼夜間人口比率(%)	98.6	90.7	96.1	94.3	98.3	95.6
第二次産業比率(%)	43.7	23.5	38.9	31.2	37.4	35.0
観光入込客数(人)	3,276,601	596,239	6,541,771	1,120,898	3,081,201	2,923,342

資料：国勢調査（令和2年）、観光入込客数は各県・市データ

表 中津川市と県内主要6市の値と平均値

	中津川市	岐阜市	大垣市	各務原市	可児市	関市	高山市	平均値
人口総数(人)	73,668	396,130	155,752	142,403	98,594	82,822	81,047	147,202
年少人口割合(%)	11.1	11.0	12.3	12.3	12.3	11.5	11.9	11.8
老年人口割合(%)	33.5	28.3	28.0	28.7	28.6	31.9	34.2	30.5
昼夜間人口比率(%)	98.6	102.2	103.5	94.5	96.3	102.3	101.1	99.8
第二次産業比率(%)	43.7	14.6	30.4	37.2	36.1	46.5	23.3	33.1
観光入込客数(人)	3,276,601	5,144,799	699,282	5,246,242	3,490,206	2,476,395	4,753,514	3,583,863

資料：国勢調査（令和2年）、観光入込客数は各県・市データ

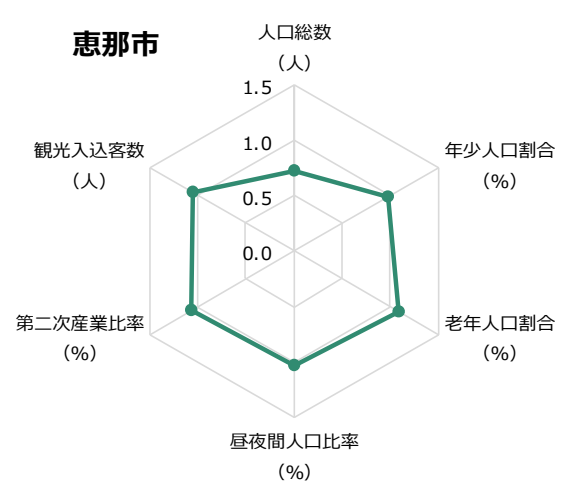
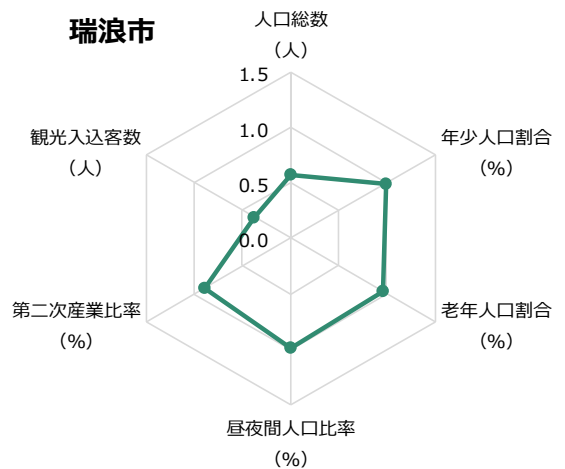
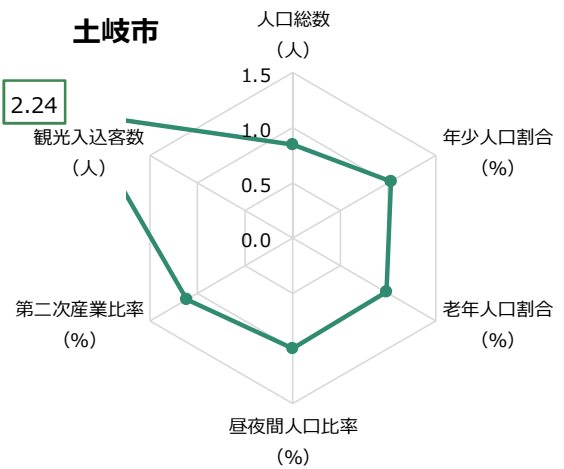
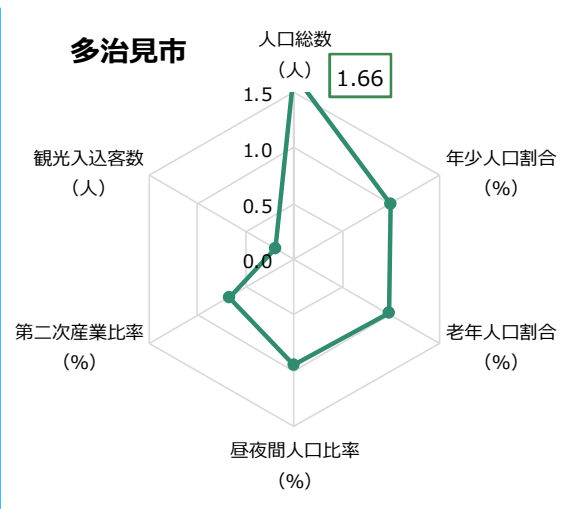
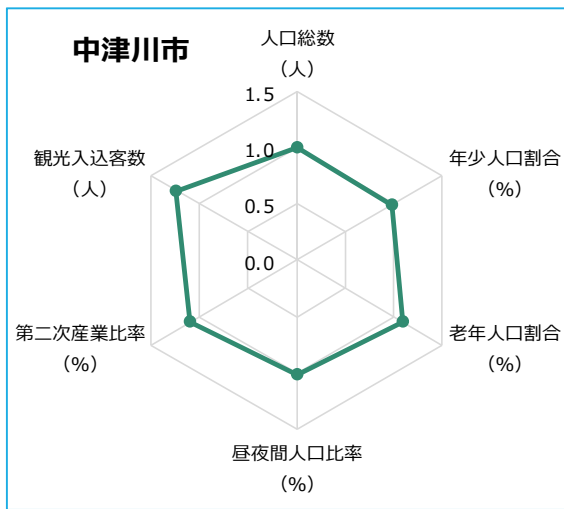


図 中津川市と東濃圏域4市のレーダーチャート

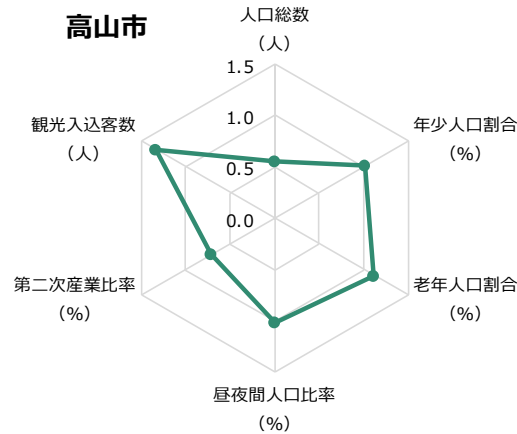
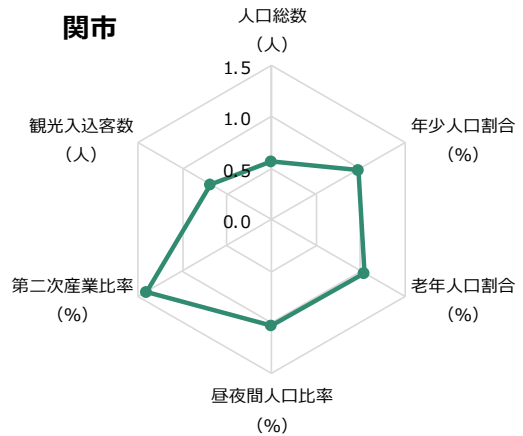
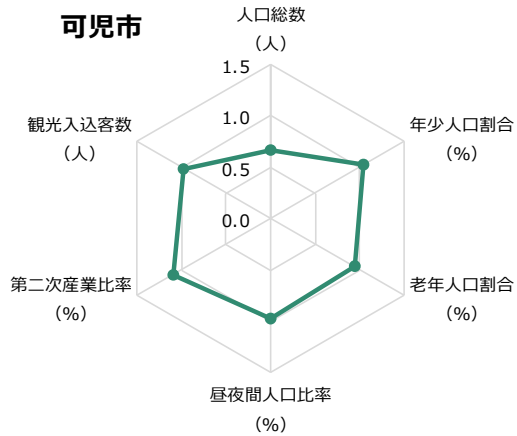
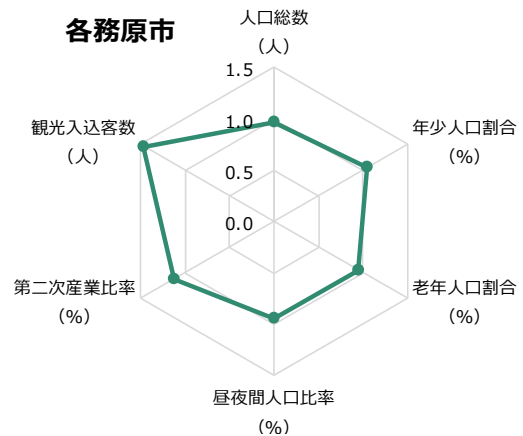
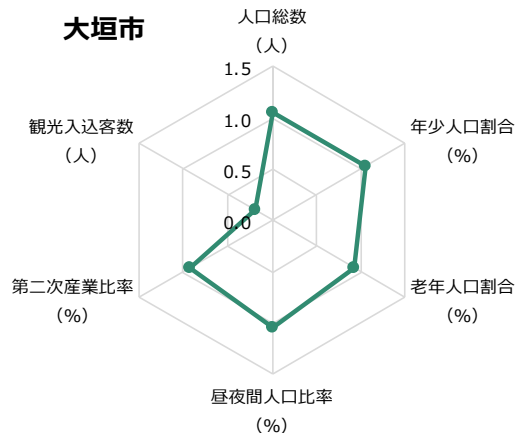
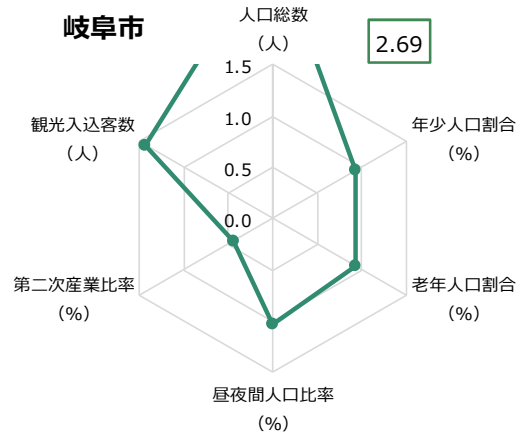
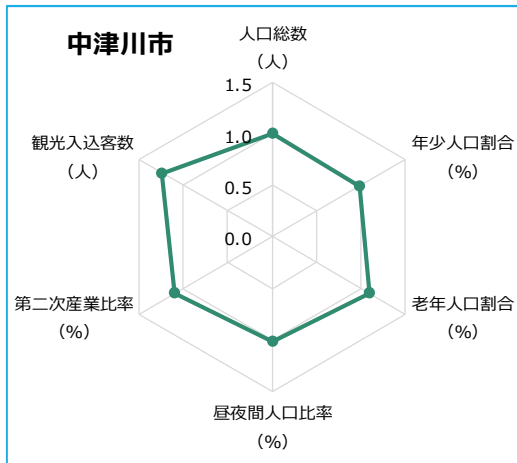


図 中津川市と県内主要6市のレーダーチャート

第3節 中津川市における人口の将来展望

3-1 将来人口推計の分析

内閣府が提示する推計方法やワークシートに基づき、コーホート要因法で3つのパターンの人口推計を行った。

コーホート要因法は、男女・年齢別のある年の人口を基準として、出生・死亡・移動に関する将来の仮定値をあてはめて将来人口を推計する方法である。

表 出生と移動の設定

推計パターン	出生	移動
社人研 2020 パターン (2020 年国勢調査ベース 社人研推計)	現状維持	移動率が今後一定程度縮小
社人研 2015 パターン (2015 年国勢調査ベース 社人研推計)	現状維持	移動率が今後一定程度縮小
独自推計パターン	県と同じ合計特殊出生率の設定※	転出 2%減、転入 2%増、2040 年以降は転入・転出は均衡

※ 岐阜県人口ビジョンと同じ合計特殊出生率の設定：

岐阜県が 2023 年 3 月に策定した「岐阜県人口ビジョン」に記載されている【推計 2】の設定と同じ出生率、移動率を用いて推計したものである。なお、【推計 2】の設定内容は「社会増減を 2040 年までに均衡させ、合計特殊出生率を 2030 年に 1.8（第 3 次岐阜県少子化対策基本計画における目標値）へ、2040 年に 2.07（社人研の算出する 2013 年の人口置換水準）へ上昇させた場合としている。

■社人研 2020 パターン（2020 年国勢調査ベース 社人研推計）

- ・主に 2015 年（H27）から 2020 年（R2）の人口の動向を勘案し将来の人口を推計している。
- ・移動率は、今後、全域的に縮小すると仮定している。

（出生に関する仮定）

- ・原則として、2020 年（R2）の全国の子ども女性比（20～44 歳女性人口に対する 0～4 歳人口の比。以下同じ）として各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が 2025 年以降 2050 年まで一定として市町村ごとに仮定している。

	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年	2050 年
合計特殊出生率	1.38674	1.42549	1.46367	1.46871	1.47127	1.47870
子ども女性比	0.26844	0.27534	0.28120	0.28024	0.28202	0.27811

（死亡・移動に関する仮定）

- ・将来人口推計を行うために必要な死亡・移動に関する仮定は、社人研によって、2025 年から 2050 年まで 5 歳年齢階級別に生残率及び純移動率という形で設定されている。

■社人研 2015 パターン（2015 年国勢調査ベース 社人研推計）

- ・社人研 2020 パターンから 5 年前の 2015 年国勢調査ベースの社人研推計である。
- ・主に 2010 年（H22）から 2015 年（H27）の人口の動向を勘案し将来の人口を推計している。
- ・移動率は、今後、全域的に縮小すると仮定している。

（出生に関する仮定）

- ・原則として、2015 年（H27）の全国の子ども女性比として各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が 2020 年以降 2045 年まで一定として市町村ごとに仮定している。

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年	2045 年
合計特殊出生率	1.72178	1.70418	1.71089	1.71841	1.72298	1.72578
子ども女性比	0.23161	0.23105	0.23863	0.24383	0.24428	0.24222

（死亡・移動に関する仮定）

- ・将来人口推計を行うために必要な死亡・移動に関する仮定は、社人研によって、2020 年から 2045 年まで 5 歳年齢階級別に生残率及び純移動率という形で設定されている。

■独自推計（県と同じ出生率の設定、転入増加、転出抑制）

- ・社人研 2020 パターンをベースに、出生率は岐阜県人口ビジョンの設定と同様とし、移動に関しては中津川市独自の仮定としている。

（出生に関する仮定）

- ・社人研 2020 パターンをベースに、合計特殊出生率が 2030 年に 1.80、2040 年に人口置換水準（2.07）まで上昇すると仮定している。2045 年以降は、2040 年の値である 2.07 がそのまま継続すると仮定している。（合計特殊出生率の値において、2020 年が実測値、2025 年は 2020 年と 2030 年の値の平均値、同様にして 2035 年は 2030 年と 2040 年の値の平均値としている。）

	2020 年	2025 年	2030 年	2035 年	2040 年
合計特殊出生率	1.42	1.61	1.80	1.94	2.07

（死亡・移動に関する仮定）

- ・中津川市総合計画（平成 27 年度～令和 8 年度）では、計画人口の設定にあたり、転入人口を 2%程度増やし、転出人口を 2%程度抑制することとしている。この考え方に則り、総合計画における取り組みにより、2035 年までは、転出 2%減、転入 2%増※すると仮定している。
 - ・リニア中央新幹線開業以降、転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合を想定し、2040 年以降の移動（純移動率）がゼロ（均衡）で推移すると仮定している。
- ※2035 年までの転出 2%減、転入 2%増の算出については、社人研が設定している純移動率によって算出する転出者数が 2%減少、転入者数が 2%増加するとして算出している。

(1) 社人研と市独自の複数パターンによる人口推計

3つの推計パターンによる将来推計人口の結果は下記の通りである。

①社人研 2020 パターン (2020 年国勢調査ベース 社人研推計)

社人研 2020 パターンの 2050 年時点の将来推計人口は 55,136 人となり、2020 年 (R5) 国勢調査結果の 76,570 人の 72.0%になる見通しである。

つまり、本市においては、現状の低い合計特殊出生率のままでは人口減少が益々進んでいくことが確実であり、人口減少に歯止めをかけるための積極的な行政による施策の展開が重要となることがわかる。

②社人研 2015 パターン (2015 年国勢調査ベース 社人研推計)

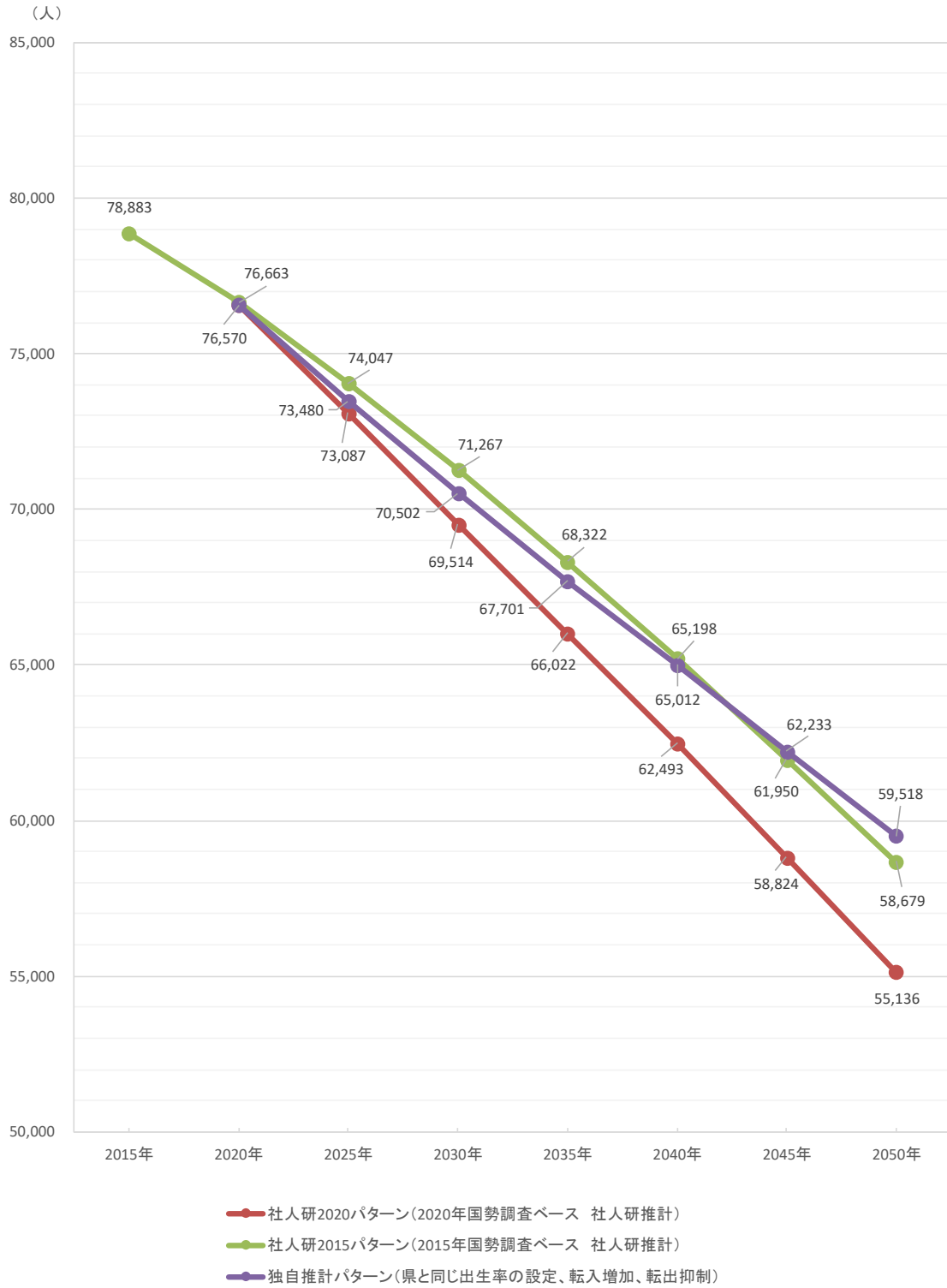
社人研 2015 パターンの 2050 年時点の将来推計人口は 58,679 人となり、2020 年 (R5) 国勢調査結果の 76,570 人の 76.7%になる見通しである。

社人研 2020 パターンよりもややゆるやかな人口減少となっているが、これは社人研 2020 パターンよりも高い合計特殊出生率で推計が行われているためである。2015 年の実測値で本市の合計特殊出生率は 1.74 と現在より高い値であったことから、当時の社人研は、当時と同水準の合計特殊出生率を仮定して将来人口推計を行っていたと考えられる。

③独自推計パターン (県と同じ出生率の設定、転入増加、転出抑制)

独自推計パターンでは、出生率の上昇は岐阜県人口ビジョンと同じだが、人口移動に関しては、総合計画における取り組みにより、2035 年までは転出 2%減、転入 2%増すること、リニア中央新幹線の開業を踏まえ、2040 年以降は社会増減が均衡することとした。その結果、2050 年には 59,518 人と社人研 2020 パターン、社人研 2015 パターンに比べ人口減少の度合いが緩和される見通しになる。

中津川市将来人口推計



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研2020パターン(2020年国勢調査ベース 社人研推計)	-	76,570	73,087	69,514	66,022	62,493	58,824	55,136
社人研2015パターン(2015年国勢調査ベース 社人研推計)	78,883	76,663	74,047	71,267	68,322	65,198	61,950	58,679
独自推計パターン(県と同じ出生率の設定、転入増加、転出抑制)	-	76,570	73,480	70,502	67,701	65,012	62,233	59,518

(2) 人口の将来展望

現在の人口構成や社会状況を鑑みると、現在の人口規模を維持することは極めて難しいと考えられるが、長期的な人口の展望の点から、将来に渡って本市が持続可能となるかは、現在の取り組みにかかっていることが分かる。

人口減少を抑制するための子育て支援策や、出生率を上昇させるための施策と、市内への定住・移住を推進する施策などが必要となる。岐阜県の将来展望と当市の状況を鑑み、「合計特殊出生率の上昇」と「人口流出抑制と転入促進」の視点から目指すべき展望を次のとおりに示す。

①合計特殊出生率の上昇

岐阜県の将来展望に準拠します。未婚化・晩婚化を抑制して、結婚から妊娠・出産、子育てに対して切れ目のない支援を総合的に行うほか、地域全体での子育て支援に取り組むことで、2030年に1.8、2040年に2.07を達成し、それ以降は2.07の維持を図る。

②将来の交流人口増加を活かした雇用の場の確保等による若年層の人口流出抑制と転入促進

主力産業である製造業の活性化、リニア中央新幹線開業に伴う大都市・海外とのアクセス向上を見通した新たな分野の産業の誘致・既存産業の活性化を図り、多様な産業による雇用の場を確保し、若年層の人口流出率を低減させ、転出数を2%抑制する。

同時に、就学で転出した層をターゲットに就職時のリターン施策を図り、転入数を増やすとともに、子育てしやすい生活環境、自慢できる都市環境を整備して、転入数を2%増加させる。また、こうした取り組みにより、リニア中央新幹線開業後の2040年以降は転出数と転入数を同数とし、移動の均衡を図る。

以上の2つの条件を達成する独自推計パターンに基づき、社人研2020パターンと比較して分析を行う。

(3) 市独自推計による市 13 地区の人口推計

独自推計パターンにおいて、市内各地区の年齢別人口を反映させ、地区別の将来人口推計※を行った。なお、各種設定については、合計特殊出生率および純移動率は中津川市全体と同様に設定した。

地区別の 2020 年 (R2) から 2050 年 (R32) の人口増減率をみると、全地区で人口減少となっているが、若年層世代の割合が高い坂本地区と中津地区は 20.0%以下と低くなっている。逆に若年層世代の割合が低い加子母地区、神坂地区、阿木地区は 35.0%以上と高くなっている。

なお、参考として、社人研 2020 パターンでの推計値における人口増減率も示したが、傾向は同様であった。

※ 各地区の将来総人口推計にあたって

2020 年 (R2) の国勢調査の地区別の年齢別人口から推計しており、年齢不詳の人数も考慮するために補正した。また、中津川市全体の総人口に整合させるため、市全体に占める各地区の人口比率を用いて補正した。

表 地区別の人口増減率 (2020 年～2050 年) : 独自推計パターン

地区	中津	苗木	坂本	落合	阿木	神坂	坂下
2020年	27,037	6,401	13,076	3,667	2,083	1,222	4,305
2050年	22,336	5,000	11,223	2,837	1,317	769	2,933
人口増減率 (2020-2050年)	-17.4%	-21.9%	-14.2%	-22.6%	-36.8%	-37.1%	-31.9%

地区	川上	加子母	付知	福岡	蛭川	山口	合計
2020年	719	2,498	5,332	6,197	3,078	955	76,570
2050年	500	1,542	3,635	4,560	2,200	665	59,518
人口増減率 (2020-2050年)	-30.5%	-38.3%	-31.8%	-26.4%	-28.5%	-30.4%	-22.3%

【参考】表 地区別の人口増減率 (2020 年～2050 年) : 社人研 2020 パターン

地区	中津	苗木	坂本	落合	阿木	神坂	坂下
2020年	27,037	6,401	13,076	3,667	2,083	1,222	4,305
2050年	20,675	4,622	10,366	2,609	1,229	721	2,732
人口増減率 (2020-2050年)	-23.5%	-27.8%	-20.7%	-28.9%	-41.0%	-41.0%	-36.5%

地区	川上	加子母	付知	福岡	蛭川	山口	合計
2020年	719	2,498	5,332	6,197	3,078	955	76,570
2050年	469	1,443	3,397	4,218	2,042	614	55,136
人口増減率 (2020-2050年)	-34.7%	-42.2%	-36.3%	-31.9%	-33.7%	-35.7%	-28.0%

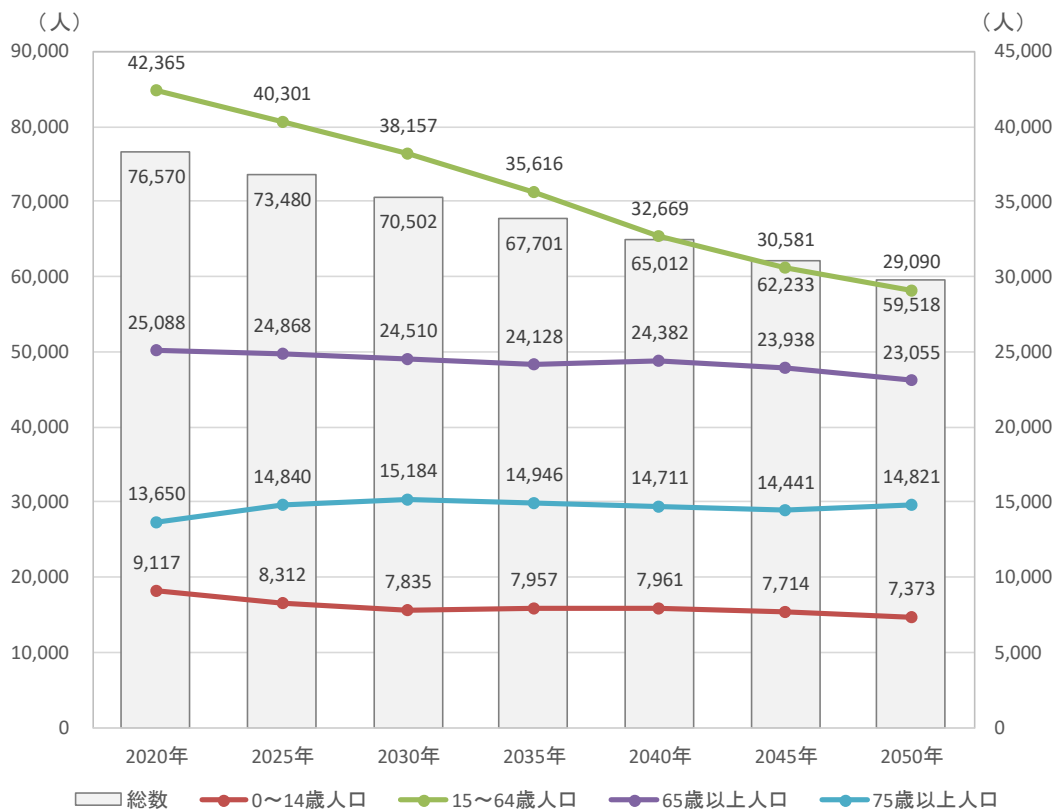
(4) 年齢3区分別人口の将来推計

独自推計パターンの結果をみると、0～14歳の人口は、現状の9,117人から2050年時点では7,373人まで減少する。

15～64歳の人口は現状の42,365人から2050年時点では29,090人まで急激に減少する。

65歳以上の人口は現状の25,088人から2050年で23,055人までわずかな減少のまま推移する。

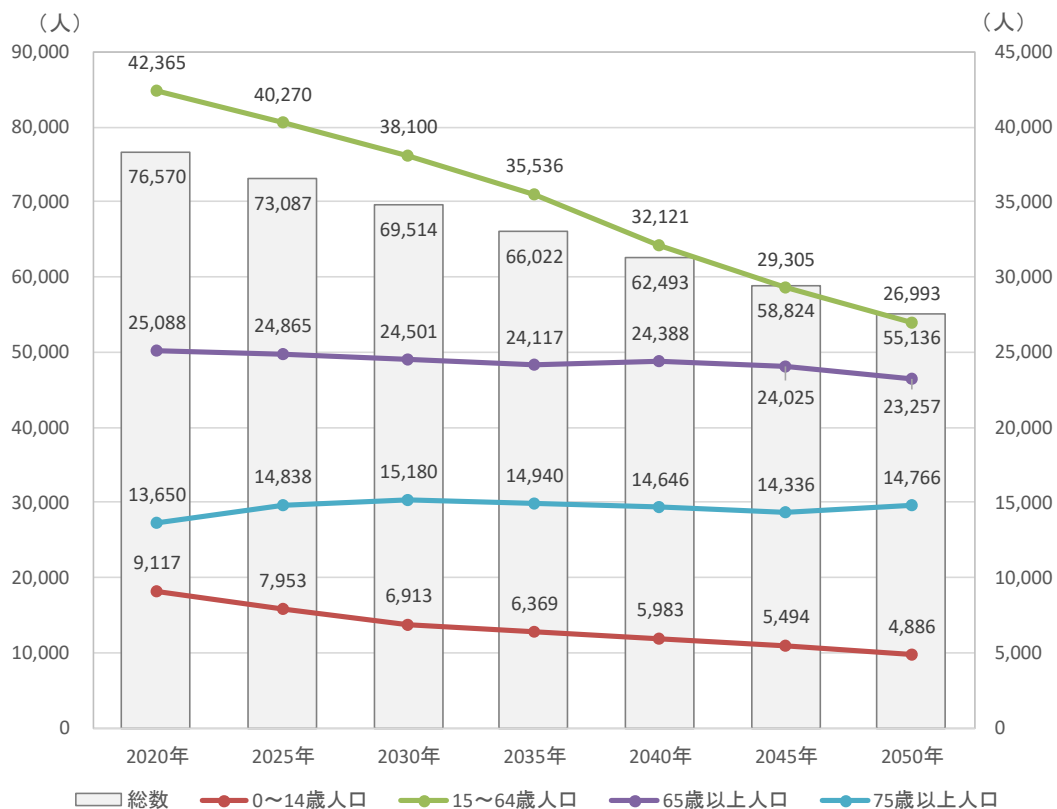
〔年齢3区分別の将来推計人口：独自推計パターン〕



		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
独自推計 パターン	総人口(人)	76,570	73,480	70,502	67,701	65,012	62,233	59,518
	0～14歳人口比率	11.9%	11.3%	11.1%	11.8%	12.2%	12.4%	12.4%
	15～64歳人口比率	55.3%	54.8%	54.1%	52.6%	50.3%	49.1%	48.9%
	65歳以上人口比率	32.8%	33.8%	34.8%	35.6%	37.5%	38.5%	38.7%
	75歳以上人口比率	17.8%	20.2%	21.5%	22.1%	22.6%	23.2%	24.9%

参考として、社人研 2020 パターンの結果を見ると、独自推計パターンと比べて 0～14 歳が大きく減少していくことが分かる。

【年齢 3 区分別の将来推計人口：社人研 2020 パターン】



		2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
社人研2020 パターン	総人口(人)	76,570	73,087	69,514	66,022	62,493	58,824	55,136
	0～14歳人口比率	11.9%	10.9%	9.9%	9.6%	9.6%	9.3%	8.9%
	15～64歳人口比率	55.3%	55.1%	54.8%	53.8%	51.4%	49.8%	49.0%
	65歳以上人口比率	32.8%	34.0%	35.2%	36.5%	39.0%	40.8%	42.2%
	75歳以上人口比率	17.8%	20.3%	21.8%	22.6%	23.4%	24.4%	26.8%

第5章 市民意向調査

市民意向調査の結果

1-1 市民意識調査（アンケート調査）：一般

(1) 実施概要

調査目的	中津川市総合計画を策定するための基礎資料として、中津川市の現状や課題、まちの姿など、市民を対象とした意向調査を行うことを目的とする
調査対象者	①郵送調査：住民基本台帳から18歳以上の市民1500人を無作為抽出 ②web調査：広報（市広報、市公式HPなど）による募集（総合事務所などでの掲示）
調査期間	①郵送調査：9月16日～10月2日 ②web調査：9月27日～10月28日
調査方法	①郵送調査：郵送配布・回収（回答はwebを併用） ②web調査：webアンケート形式
有効回答数（回収率）	①郵送調査：550票（回収率36.6%） ②web調査：710票

(2) 設問構成

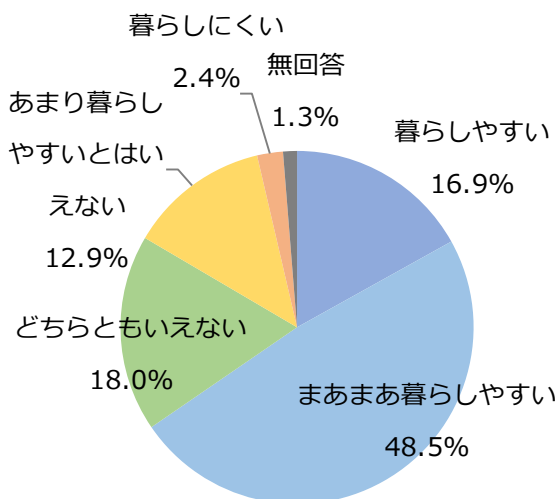
1. 現状の暮らしについて	
問1	暮らしやすさ
問2	誇りや愛着
問3	施策の満足度、今後の重要度
2. 今後の居留意向について	
問4	今後の居留意向
問5	住み続けたい理由
問6	移りたい理由
3. これからのまちづくりについて	
問7	市の強み（誇れるもの、他の市町村に負けていないと思うもの）
問8	市の将来イメージ
問9	優先して取り組むべき課題
問10	リニアを活用したまちづくりで重要なこと
4. 中津川市のまちづくりについて（自由意見）	
問11	住んでいてよかったと思うこと/思ったこと
問12	まちの発展や市民の暮らしを豊かにするための意見や提案、夢
5. あなた（ご回答いただいている方）について	
問13	性別
問14	年齢
問15	住んでいる地区
問16	家族構成
問17	職業
問18	通勤・通学先
問19	居住経験

(3) 各問の集計、分析

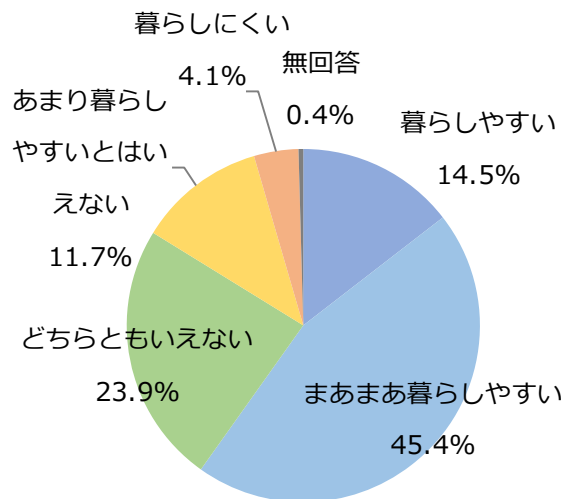
問1. あなたにとって、中津川市は暮らしやすいまちですか？

①全体

【市民 1,500人】

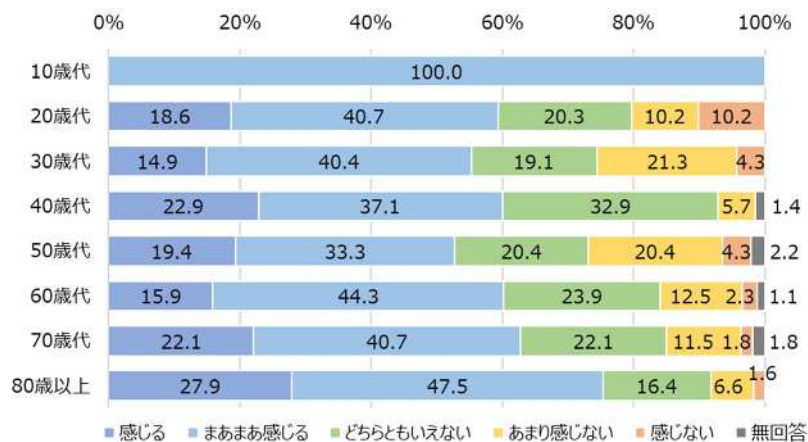


【web アンケート】

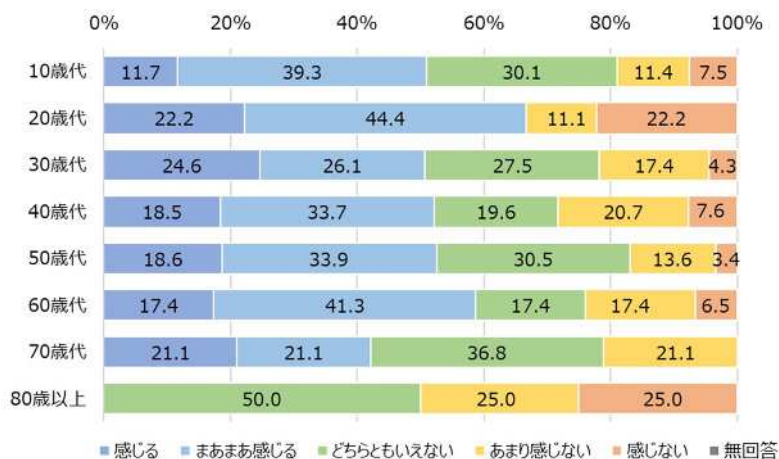


②年代別

【市民 1,500人】

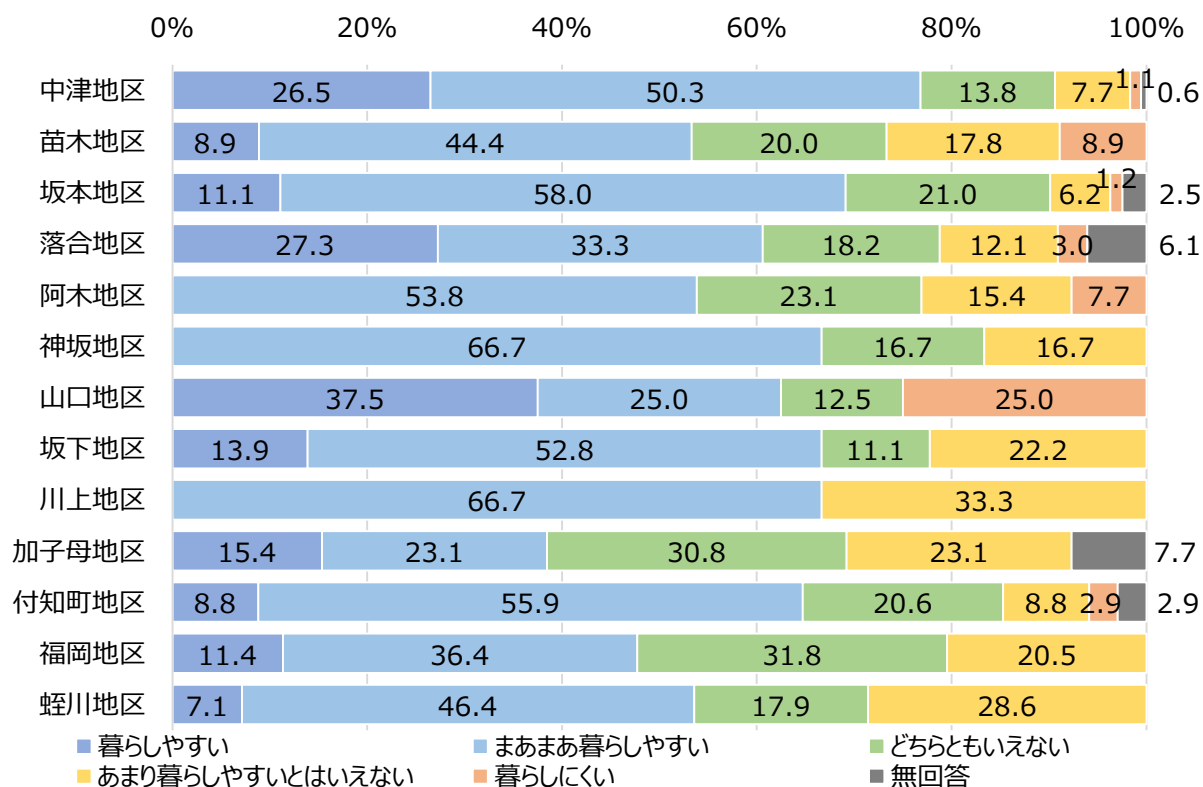


【web アンケート】

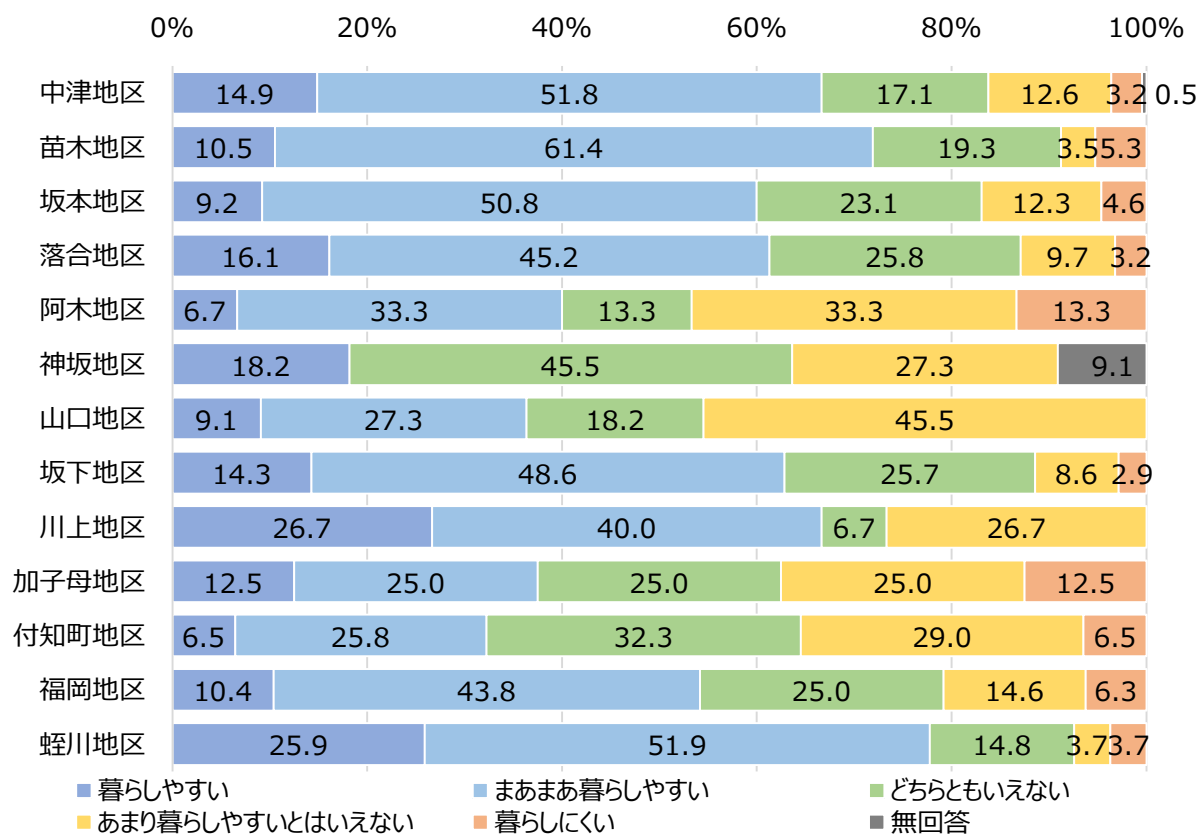


③地区別

【市民 1,500人】



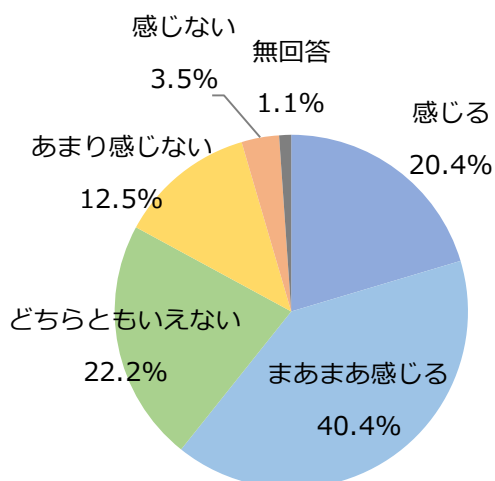
【web アンケート】



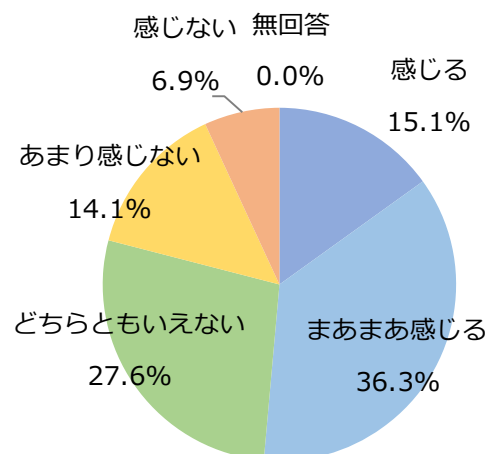
問2. あなたは中津川市に誇りや愛着を感じますか？

①全体

【市民 1,500人】

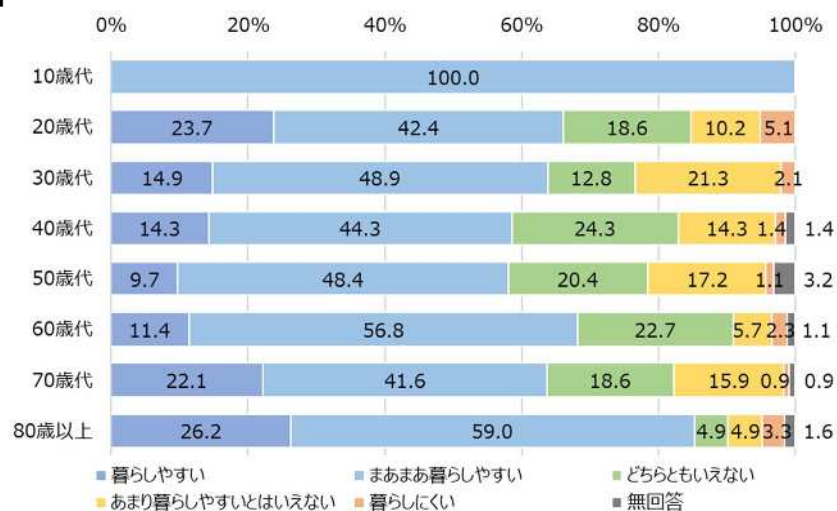


【web アンケート】

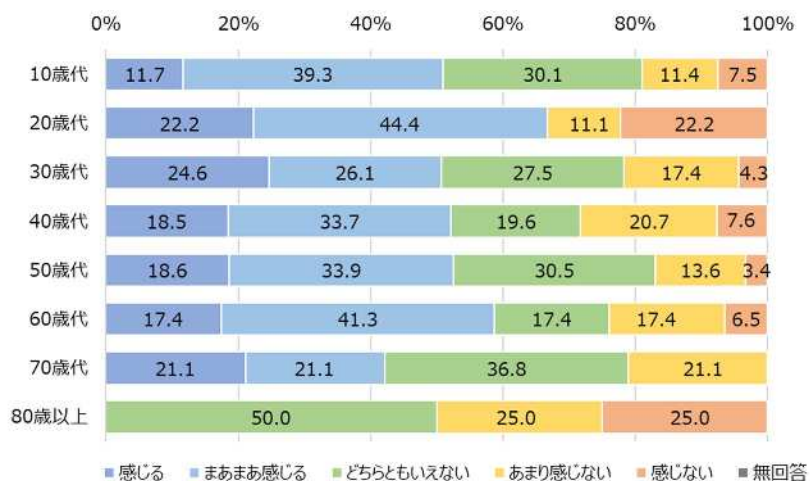


②年代別

【市民 1,500人】

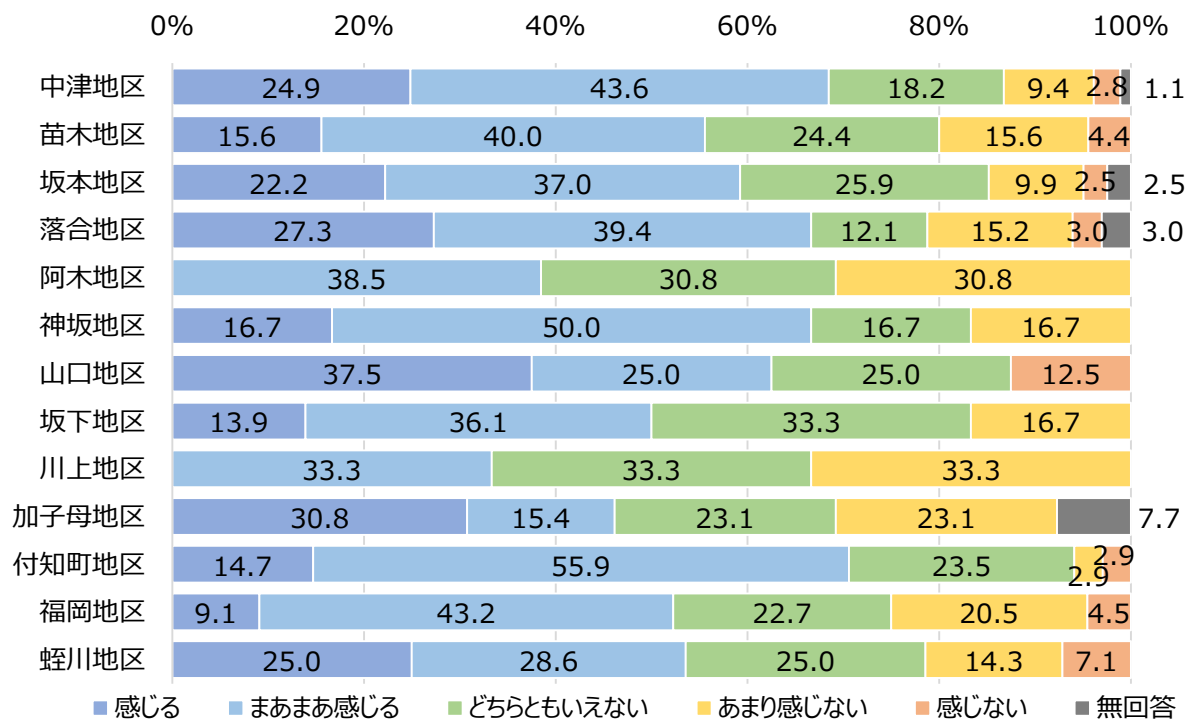


【web アンケート】

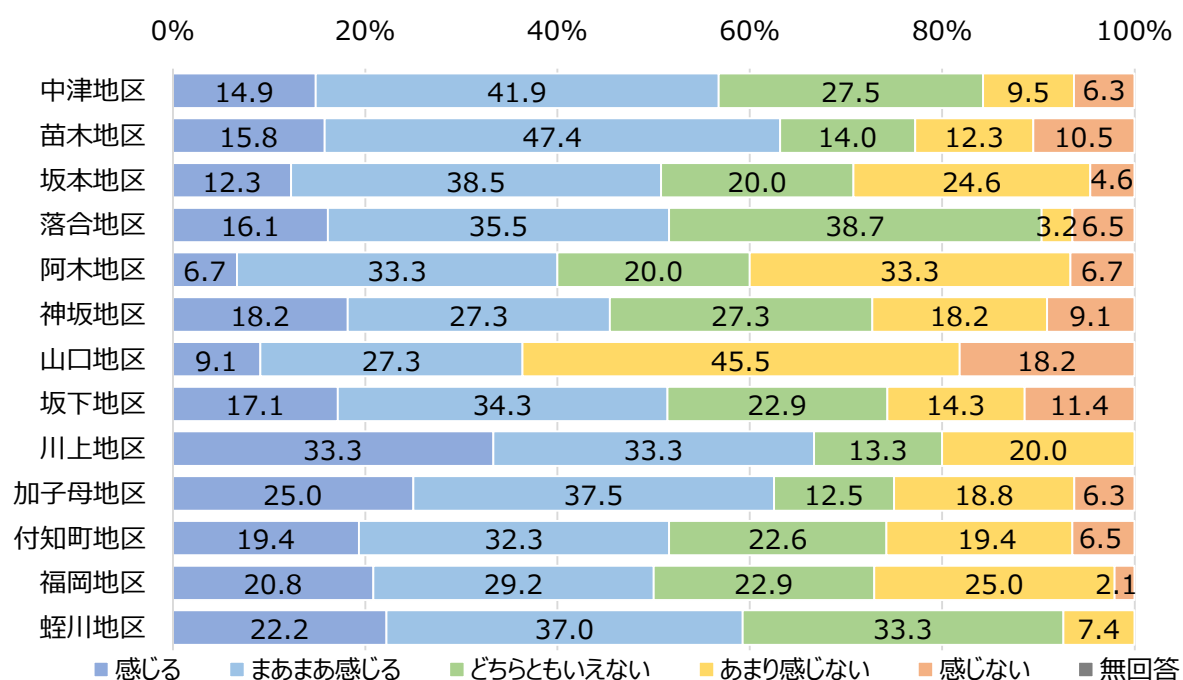


③地区別

【市民 1,500人】



【web アンケート】



問3. 中津川市のまちづくりにおける「これまでの施策の満足度」と「今後の重要度」について、あなたの印象を教えてください。

■満足度と必要性を以下のように点数化し、スコアを算出する

算出式：スコア＝合計点数／無回答を除く回答数

<満足度>

選択肢	点数
満足	10
ある程度満足	5
どちらでもない	0
あまり満足でない	-5
満足でない	-10

<重要度>

選択肢	点数
満足	10
ある程度満足	5
どちらでもない	0
あまり満足でない	-5
満足でない	-10

■散布図について

- ・ 散布図は、横軸を重要度、縦軸を満足度とし、右に行くほど重要度が高く、上に行くほど満足度が高くなっている。散布図において次の4分野に分類できる。

【重点維持分野】満足度、重要度ともに平均値より高い項目

- ・ 市民が必要と感じていて、かつ、満足傾向にある施策
- ・ 取組に対する成果が表れており、今後も重点的に維持していく必要がある

【重点改善分野】満足度が平均値より低く、重要度が平均値より高い項目

- ・ 市民が必要と感じていて、かつ、不満傾向にある施策
- ・ 取り組みに対する市民ニーズが特に高く、優先的に改善していく必要がある

【維持分野】満足度が平均値より高く、重要度が平均値より低い項目

- ・ 満足傾向にあるが、市民が必要と感じていない施策
- ・ 取組に対する成果が表れており、取組への理解を得ながら維持していく必要がある

【改善分野】満足度、重要度ともに平均値より低い項目

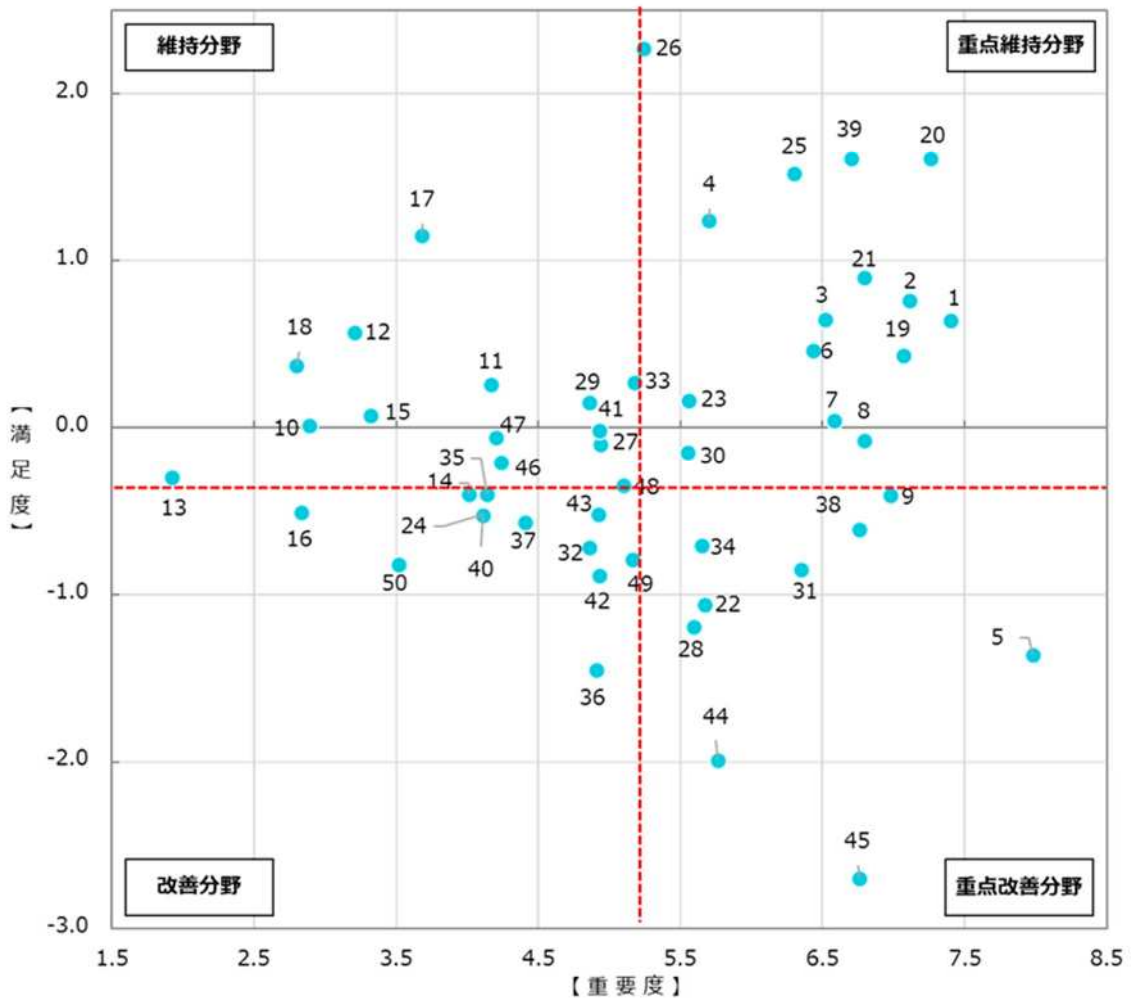
- ・ 不満傾向にあるが、市民が必要と感じていない施策
- ・ 改善ニーズはあるものの、重要度の認識が低く、取組への理解を得ながら改善していく必要がある

■施策一覧

分野	選択項目
子育て・教育	1. 子育て支援の推進
	2. 学校教育の推進
	3. 幼児教育の推進
健康・福祉	4. 健康づくりの推進
	5. 地域医療の充実
	6. 児童福祉の充実
	7. 障がい者福祉の充実
	8. 高齢者福祉の充実
	9. 社会保障の充実
人権・共生社会	10. 多様性の尊重・多文化共生の推進
	11. 人権教育の推進
協働・コミュニティ	12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実
移住・定住	13. 国際交流の充実
	14. 移住・定住の促進
生涯学習・社会人教育	15. 生涯学習の充実
	16. 社会人の学び直しの充実
文化・スポーツ	17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用
	18. スポーツの振興
防災・防犯	19. 防災・減災対策の充実
	20. 消防・救急体制の充実
	21. 防犯・交通安全対策の充実
	22. 消費生活対策の充実
自然環境	23. 自然環境の保全
	24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進
生活環境	25. ごみ対策の充実
	26. し尿収集・処理の充実
	27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）
商工業	28. 商業の振興
	29. 工業の振興
	30. 地場産業の振興
	31. 雇用対策の充実
	32. 企業誘致の推進
観光	33. 観光の振興
農林業	34. 農業の振興
	35. 畜産の振興
	36. 鳥獣害対策の充実
	37. 林業の振興
基盤整備	38. 道路、橋梁の整備・維持管理
	39. 上下水道の整備・維持管理
	40. リニアを活かす基盤整備
都市計画・整備	41. 良好な街並み・景観の整備
	42. 計画的な都市整備の推進
	43. 公園・緑地の整備・維持管理
	44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）
公共交通	45. 公共交通機関の整備・充実
広報・広聴	46. 情報発信の強化
行政運営	47. 公共施設の適正化の推進
	48. 行政サービスの向上・適正化
	49. 効率的な財政運営の推進
	50. デジタル化の推進

①満足度スコア×重要度スコア（散布図）

【市民 1,500人】

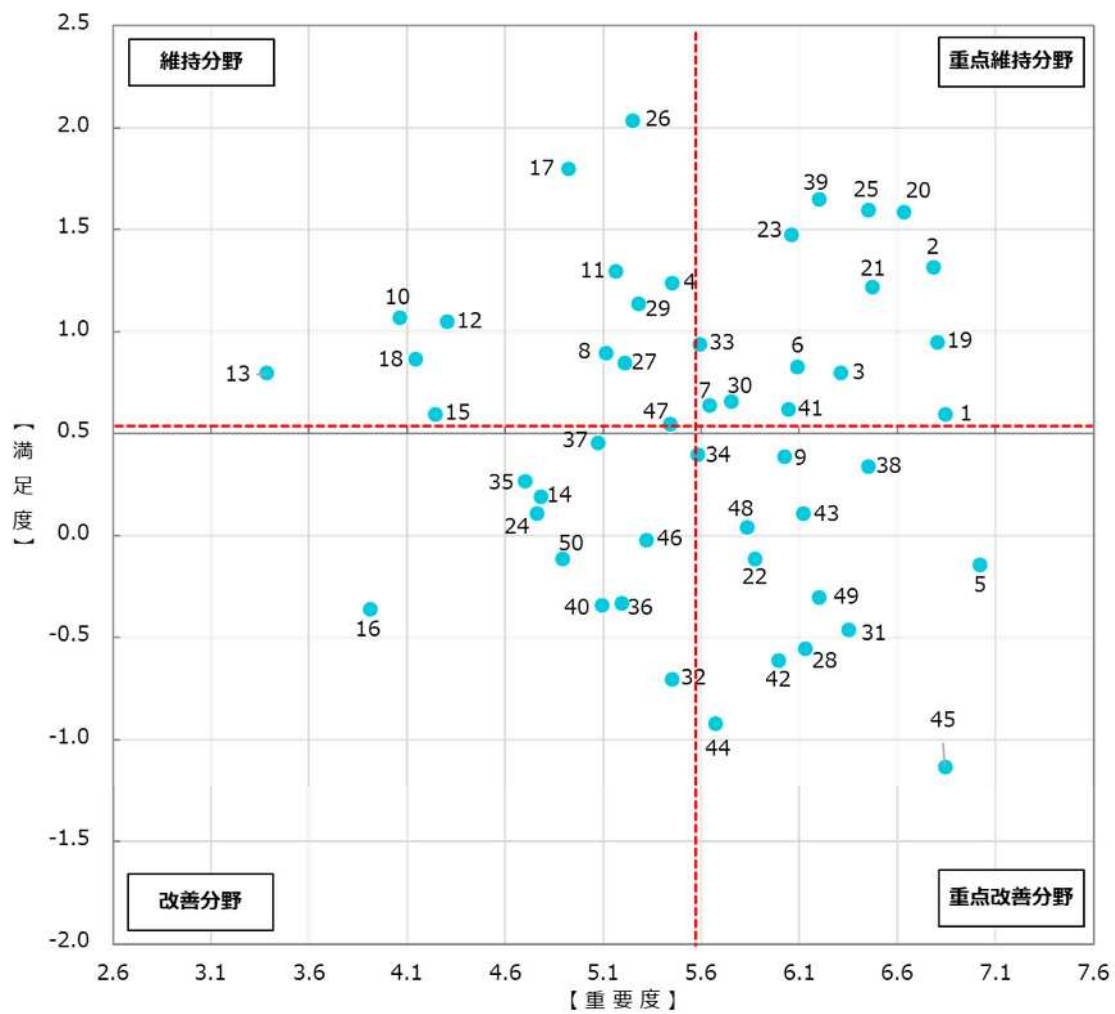


平均	満足度	-0.1
	重要度	5.25

項目	満足度					加重 平均
	10	5	0	-5	-10	
1.子育て支援の推進	20	149	256	76	23	0.64
2.学校教育の推進	21	149	258	76	18	0.76
3.幼児教育の推進	18	138	278	63	22	0.65
4.健康づくりの推進	25	168	263	61	13	1.24
5.地域医療の充実	20	122	161	151	78	-1.36
6.児童福祉の充実	18	115	302	67	18	0.46
7.障がい者福祉の充実	18	90	323	72	25	0.04
8.高齢者福祉の充実	25	124	249	109	37	-0.08
9.社会保障の充実	16	103	274	111	34	-0.41
10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	15	62	381	59	16	0.01
11. 人権教育の推進	15	82	364	56	14	0.26
12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	17	119	321	70	11	0.57
13. 国際交流の充実	12	52	379	80	14	-0.30
14. 移住・定住の促進	11	84	319	95	27	-0.40
15. 生涯学習の充実	9	89	355	71	14	0.07
16. 社会人の学び直しの充実	9	61	349	97	18	-0.51
17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	30	148	279	67	9	1.15
18. スポーツの振興	12	115	326	67	16	0.37
19. 防災・減災対策の充実	24	145	249	93	27	0.43
20. 消防・救急体制の充実	36	201	222	63	18	1.61
21. 防犯・交通安全対策の充実	25	156	267	69	20	0.90
22. 消費生活対策の充実	14	72	277	132	41	-1.06
23. 自然環境の保全	24	112	290	79	32	0.16
24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	12	60	345	89	25	-0.52
25. ごみ対策の充実	41	207	194	71	27	1.52
26. し尿収集・処理の充実	62	169	258	34	9	2.27
27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	29	104	271	85	44	-0.10
28. 商業の振興	14	76	261	133	49	-1.19
29. 工業の振興	20	97	316	81	20	0.15
30. 地場産業の振興	17	90	315	86	27	-0.15
31. 雇用対策の充実	16	83	275	112	47	-0.85
32. 企業誘致の推進	11	82	299	99	41	-0.72
33. 観光の振興	27	137	243	94	34	0.27
34. 農業の振興	18	81	296	89	52	-0.71
35. 畜産の振興	12	50	376	68	24	-0.40
36. 鳥獣害対策の充実	12	59	282	122	58	-1.45
37. 林業の振興	14	61	350	72	39	-0.57
38. 道路、橋梁の整備・維持管理	17	139	194	134	52	-0.61
39. 上下水道の整備・維持管理	44	193	215	57	26	1.61
40. リニアを活かす基盤整備	20	79	311	78	49	-0.53
41. 良好な街並み・景観の整備	25	116	260	98	35	-0.02
42. 計画的な都市整備の推進	13	74	296	112	42	-0.89
43. 公園・緑地の整備・維持管理	17	118	246	100	54	-0.52
44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	15	40	257	161	61	-1.99
45. 公共交通機関の整備・充実	16	66	176	169	109	-2.70
46. 情報発信の強化	13	83	338	74	29	-0.21
47. 公共施設の適正化の推進	16	83	343	67	27	-0.06
48. 行政サービスの向上・適正化	14	87	316	87	33	-0.35
49. 効率的な財政運営の推進	14	51	344	88	38	-0.79
50. デジタル化の推進	11	58	335	94	37	-0.82

項目	重要度					加重 平均
	10	5	0	-5	-10	
1.子育て支援の推進	338	104	68	6	3	7.40
2.学校教育の推進	309	130	71	5	3	7.30
3.幼児教育の推進	276	145	79	11	6	6.88
4.健康づくりの推進	215	192	102	15	3	6.25
5.地域医療の充実	373	101	46	4	2	8.18
6.児童福祉の充実	252	170	87	4	3	6.57
7.障がい者福祉の充実	265	165	88	3	2	6.68
8.高齢者福祉の充実	285	170	57	12	5	7.08
9.社会保障の充実	284	167	68	3	1	7.11
10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	93	168	218	26	14	3.59
11. 人権教育の推進	143	175	182	16	5	5.36
12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	85	209	194	32	5	4.63
13. 国際交流の充実	58	159	249	42	16	5.34
14. 移住・定住の促進	126	205	168	16	10	5.94
15. 生涯学習の充実	92	198	205	24	5	4.47
16. 社会人の学び直しの充実	82	179	221	30	9	4.76
17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	110	201	184	20	8	5.31
18. スポーツの振興	67	199	222	30	5	4.41
19. 防災・減災対策の充実	296	164	57	6	3	7.56
20. 消防・救急体制の充実	312	151	66	3	0	7.32
21. 防犯・交通安全対策の充実	267	185	72	3	0	6.84
22. 消費生活対策の充実	208	180	130	4	0	5.73
23. 自然環境の保全	192	213	114	8	1	5.71
24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	143	193	156	16	16	4.85
25. ごみ対策の充実	233	211	78	4	3	6.61
26. し尿収集・処理の充実	186	185	148	5	1	5.35
27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	170	196	146	9	4	5.20
28. 商業の振興	204	184	130	3	2	5.73
29. 工業の振興	168	184	163	7	2	5.01
30. 地場産業の振興	205	179	132	6	1	5.72
31. 雇用対策の充実	247	177	97	4	0	6.44
32. 企業誘致の推進	165	194	149	11	3	5.10
33. 観光の振興	167	225	123	8	3	5.50
34. 農業の振興	205	194	120	4	3	5.82
35. 畜産の振興	136	175	193	10	4	4.42
36. 鳥獣害対策の充実	174	182	154	10	3	5.28
37. 林業の振興	148	178	187	7	3	4.68
38. 道路、橋梁の整備・維持管理	260	198	65	3	1	6.86
39. 上下水道の整備・維持管理	266	174	84	0	1	6.73
40. リニアを活かす基盤整備	177	148	157	24	22	4.80
41. 良好な街並み・景観の整備	169	206	131	12	7	6.02
42. 計画的な都市整備の推進	172	192	142	14	3	5.49
43. 公園・緑地の整備・維持管理	149	237	128	7	5	5.30
44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	191	227	100	4	1	5.89
45. 公共交通機関の整備・充実	266	180	73	3	1	6.83
46. 情報発信の強化	133	196	182	11	3	4.47
47. 公共施設の適正化の推進	130	197	183	14	1	4.65
48. 行政サービスの向上・適正化	172	203	145	5	2	5.33
49. 効率的な財政運営の推進	185	180	152	5	2	5.30
50. デジタル化の推進	105	200	194	14	13	4.08

【web アンケート】



平均	満足度	0.51
	重要度	5.58

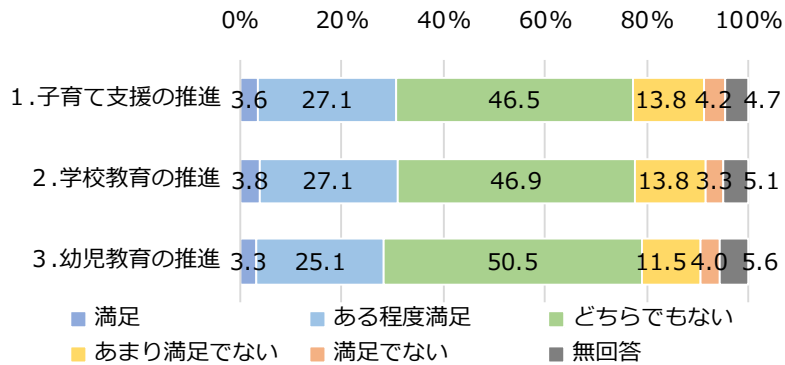
項目	満足度					加重 平均
	10	5	0	-5	-10	
1.子育て支援の推進	39	193	324	103	42	0.60
2.学校教育の推進	57	262	232	107	42	1.32
3.幼児教育の推進	43	179	363	77	38	0.80
4.健康づくりの推進	48	201	348	69	28	1.24
5.地域医療の充実	51	204	212	132	97	-0.14
6.児童福祉の充実	50	178	343	90	36	0.83
7.障がい者福祉の充実	44	137	414	66	35	0.64
8.高齢者福祉の充実	59	157	369	81	34	0.90
9.社会保障の充実	33	173	353	94	45	0.39
10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	56	175	360	72	33	1.07
11. 人権教育の推進	61	185	366	51	37	1.30
12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	50	194	341	78	35	1.05
13. 国際交流の充実	55	155	374	73	40	0.80
14. 移住・定住の促進	37	157	356	100	52	0.19
15. 生涯学習の充実	38	165	384	73	42	0.60
16. 社会人の学び直しの充実	27	106	410	105	53	-0.36
17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	69	239	297	51	38	1.80
18. スポーツの振興	49	183	355	75	42	0.87
19. 防災・減災対策の充実	43	226	301	81	49	0.95
20. 消防・救急体制の充実	65	234	298	67	37	1.59
21. 防犯・交通安全対策の充実	45	244	294	75	44	1.22
22. 消費生活対策の充実	30	159	335	115	60	-0.11
23. 自然環境の保全	62	244	281	65	48	1.48
24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	33	138	399	85	52	0.11
25. ごみ対策の充実	60	253	265	91	29	1.60
26. し尿収集・処理の充実	69	212	365	24	22	2.04
27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	49	184	348	71	46	0.85
28. 商業の振興	46	166	252	126	104	-0.55
29. 工業の振興	51	192	355	67	34	1.14
30. 地場産業の振興	44	188	329	86	49	0.66
31. 雇用対策の充実	28	116	380	95	70	-0.46
32. 企業誘致の推進	32	104	378	102	82	-0.70
33. 観光の振興	64	226	245	97	63	0.94
34. 農業の振興	52	155	347	85	59	0.40
35. 畜産の振興	33	127	429	71	42	0.27
36. 鳥獣害対策の充実	41	107	380	103	66	-0.33
37. 林業の振興	48	135	406	64	51	0.46
38. 道路、橋梁の整備・維持管理	52	218	224	140	67	0.34
39. 上下水道の整備・維持管理	66	238	301	47	46	1.65
40. リニアを活かす基盤整備	50	137	311	123	81	-0.34
41. 良好な街並み・景観の整備	70	216	234	102	83	0.62
42. 計画的な都市整備の推進	40	149	287	135	90	-0.61
43. 公園・緑地の整備・維持管理	58	195	229	132	82	0.11
44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策等）	36	118	322	127	96	-0.92
45. 公共交通機関の整備・充実	46	155	227	140	133	-1.13
46. 情報発信の強化	41	154	329	115	62	-0.02
47. 公共施設の適正化の推進	49	178	327	91	54	0.55
48. 行政サービスの向上・適正化	39	144	358	97	60	0.04
49. 効率的な財政運営の推進	33	111	405	89	65	-0.30
50. デジタル化の推進	33	172	317	109	72	-0.11

項目	重要度					加重 平均
	10	5	0	-5	-10	
1.子育て支援の推進	420	138	125	10	6	6.84
2.学校教育の推進	394	174	113	9	5	6.78
3.幼児教育の推進	369	175	139	11	8	6.31
4.健康づくりの推進	278	235	167	15	6	5.45
5.地域医療の充実	411	172	110	3	4	7.02
6.児童福祉の充実	328	209	147	4	7	6.09
7.障がい者福祉の充実	309	206	164	7	14	5.64
8.高齢者福祉の充実	292	190	165	29	18	5.11
9.社会保障の充実	333	198	155	7	7	6.02
10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	231	195	209	36	27	4.06
11. 人権教育の推進	279	201	195	19	8	5.16
12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	215	224	225	28	11	4.30
13. 国際交流の充実	164	235	220	53	21	3.38
14. 移住・定住の促進	253	229	178	29	16	4.78
15. 生涯学習の充実	198	245	216	32	8	4.24
16. 社会人の学び直しの充実	179	242	223	37	11	3.91
17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	244	240	171	30	8	4.92
18. スポーツの振興	194	250	216	33	11	4.14
19. 防災・減災対策の充実	384	195	115	4	3	6.80
20. 消防・救急体制の充実	369	199	119	7	3	6.63
21. 防犯・交通安全対策の充実	358	206	130	3	5	6.47
22. 消費生活対策の充実	305	229	152	8	5	5.87
23. 自然環境の保全	322	222	146	6	5	6.06
24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	255	220	186	23	19	4.76
25. ごみ対策の充実	359	204	120	9	6	6.45
26. し尿収集・処理の充実	270	219	181	18	6	5.25
27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	261	238	175	19	6	5.21
28. 商業の振興	327	224	131	10	6	6.13
29. 工業の振興	250	277	149	17	9	5.28
30. 地場産業の振興	288	252	142	10	7	5.75
31. 雇用対策の充実	345	212	129	8	4	6.35
32. 企業誘致の推進	287	224	175	8	11	5.45
33. 観光の振興	301	227	149	15	13	5.59
34. 農業の振興	287	233	162	10	8	5.58
35. 畜産の振興	228	238	208	13	12	4.70
36. 鳥獣害対策の充実	264	220	194	8	9	5.19
37. 林業の振興	254	230	194	13	8	5.07
38. 道路、橋梁の整備・維持管理	358	204	116	10	7	6.45
39. 上下水道の整備・維持管理	336	209	138	8	5	6.20
40. リニアを活かす基盤整備	313	168	163	28	27	5.09
41. 良好な街並み・景観の整備	334	209	127	13	12	6.04
42. 計画的な都市整備の推進	341	193	139	15	11	5.99
43. 公園・緑地の整備・維持管理	326	225	135	11	4	6.12
44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	298	233	140	17	10	5.67
45. 公共交通機関の整備・充実	393	186	106	6	6	6.84
46. 情報発信の強化	284	210	173	23	7	5.32
47. 公共施設の適正化の推進	282	227	164	12	11	5.44
48. 行政サービスの向上・適正化	317	205	164	9	6	5.83
49. 効率的な財政運営の推進	340	203	144	5	6	6.20
50. デジタル化の推進	262	207	193	24	12	4.89

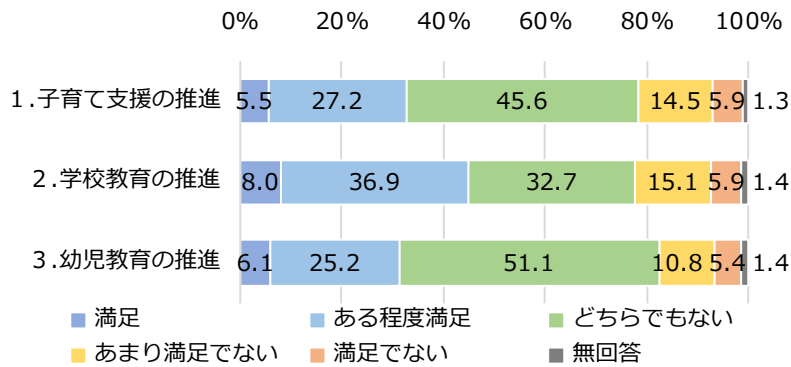
②個別回答の比率

問3. 施策の満足度【子育て・教育】

【市民 1,500人】

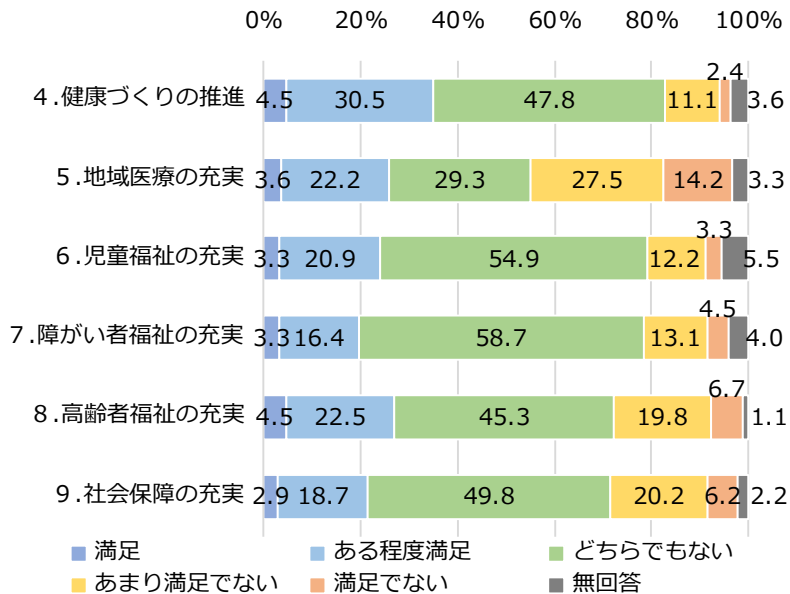


【web アンケート】

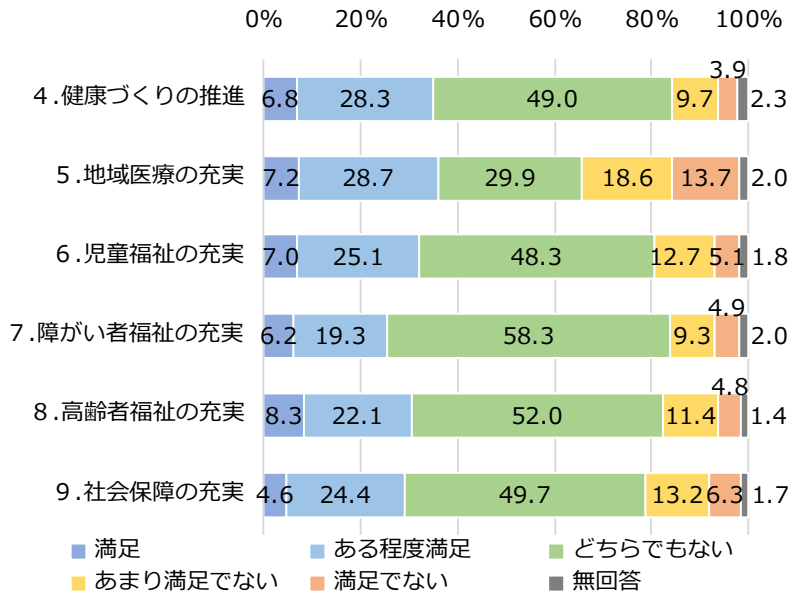


問3. 施策の満足度【健康・福祉】

【市民 1,500人】

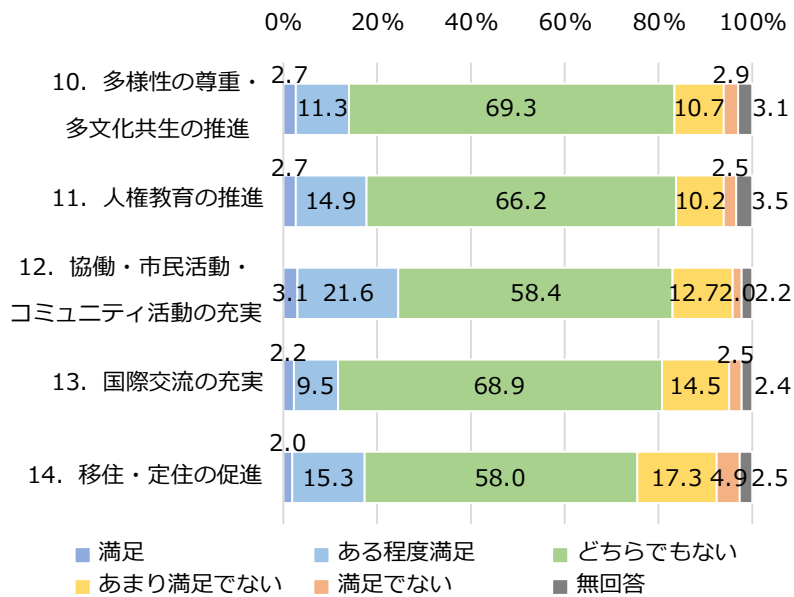


【web アンケート】

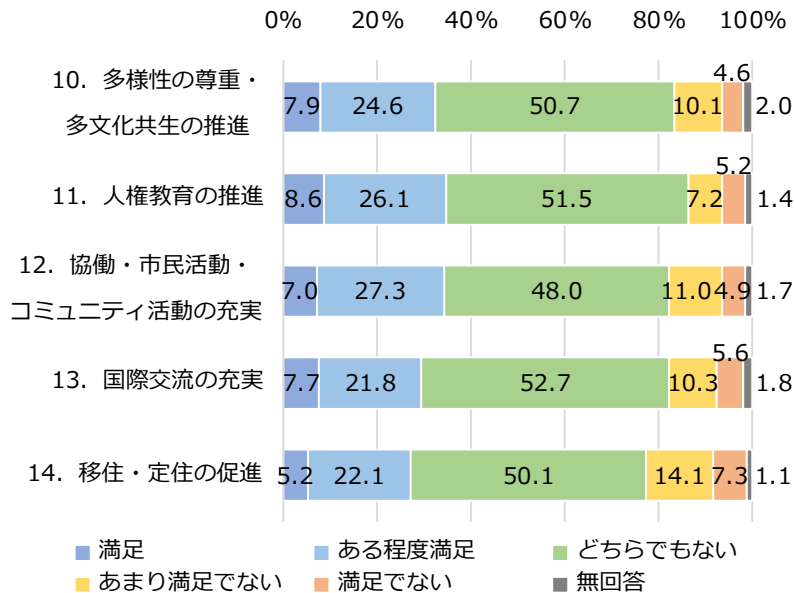


問3. 施策の満足度【共生・協働・定住】

【市民 1,500人】

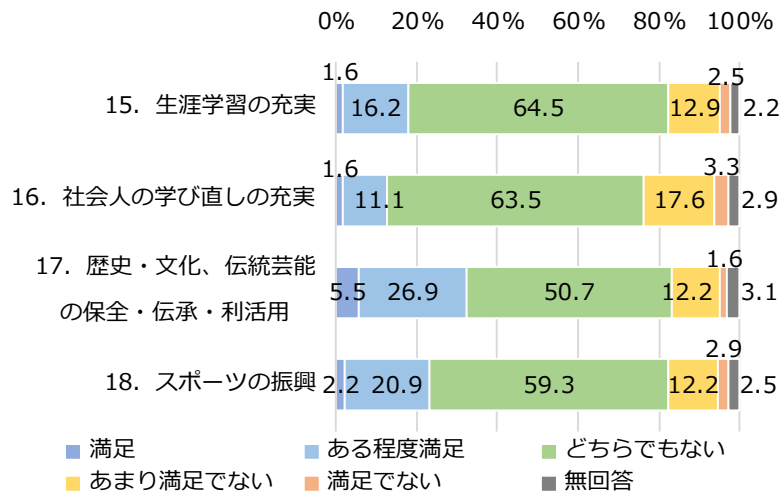


【web アンケート】

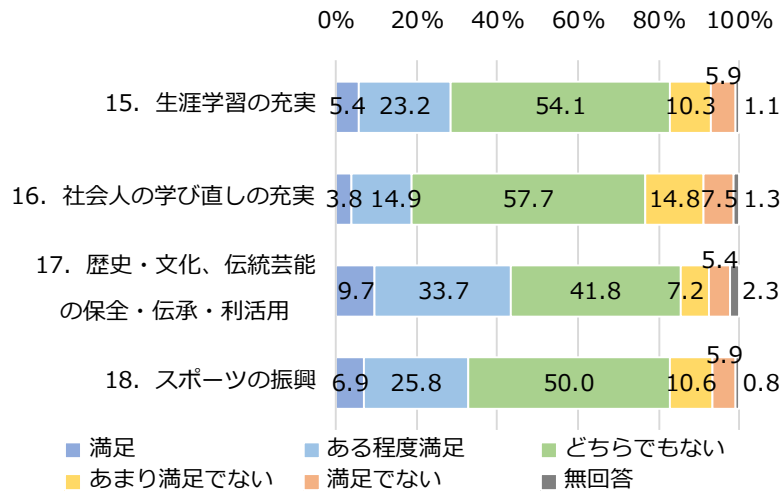


問3. 施策の満足度【生涯学習・文化・スポーツ】

【市民 1,500人】

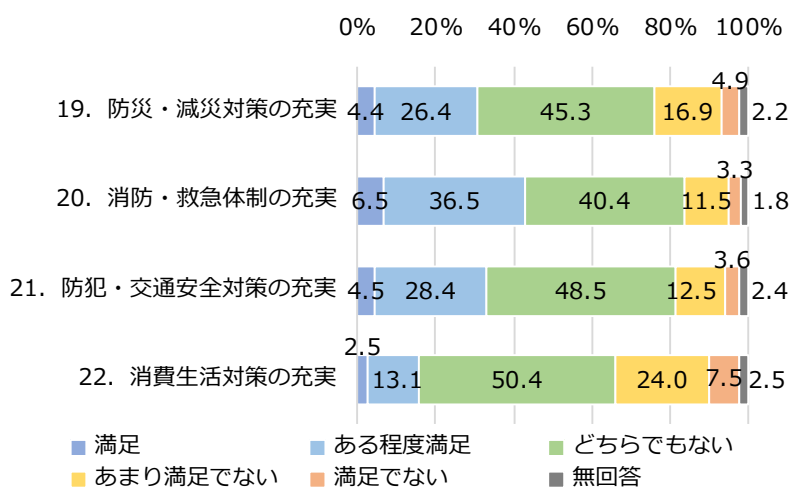


【web アンケート】

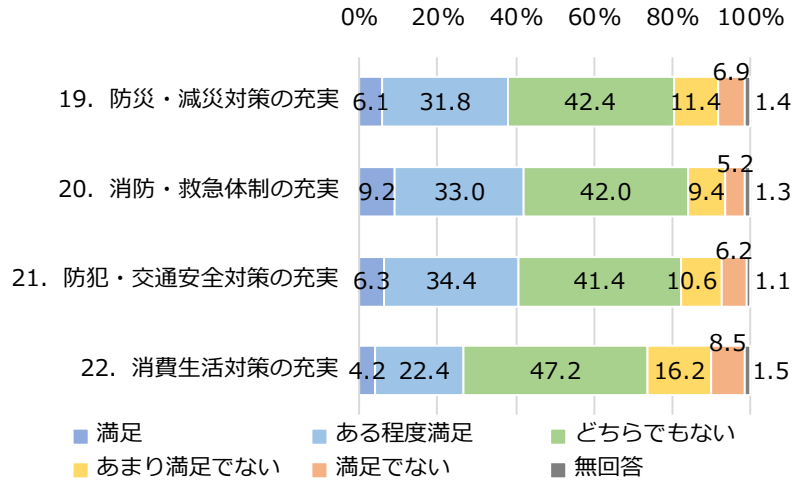


問3. 施策の満足度【防災・防犯】

【市民 1,500人】

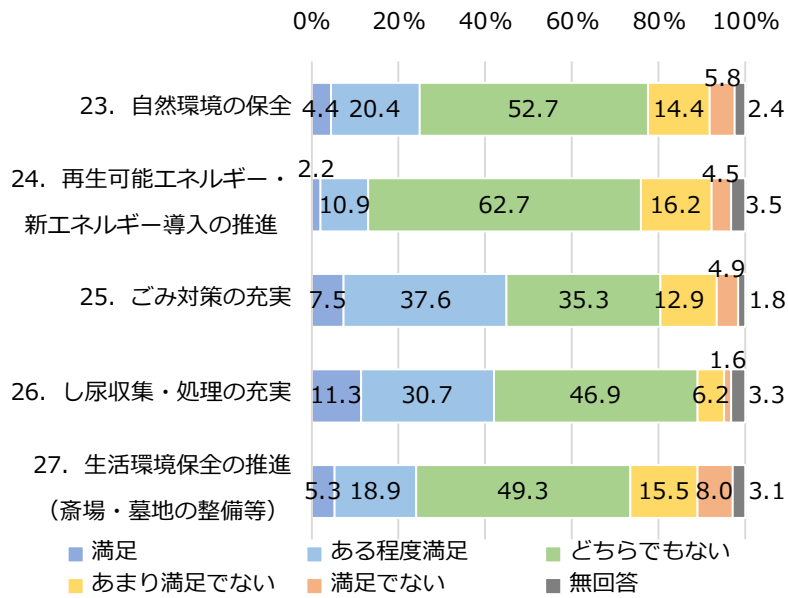


【web アンケート】

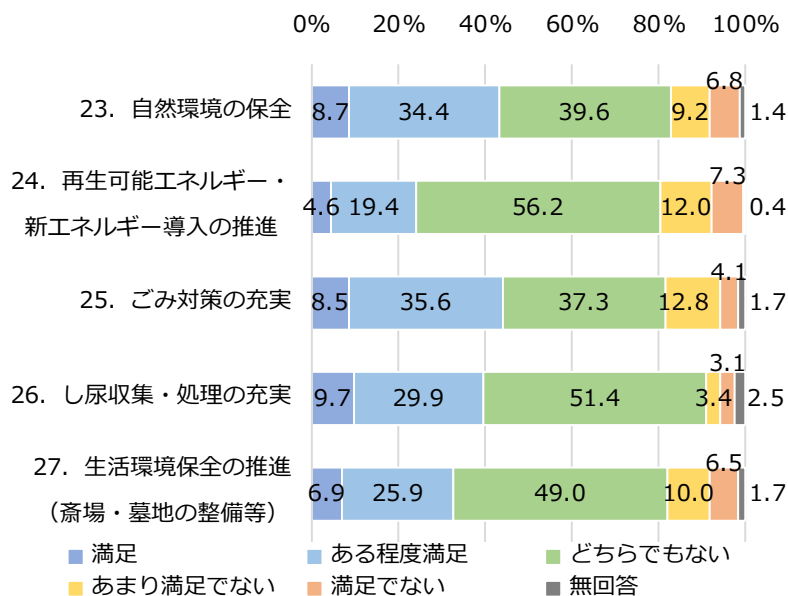


問3. 施策の満足度【環境】

【市民 1,500人】

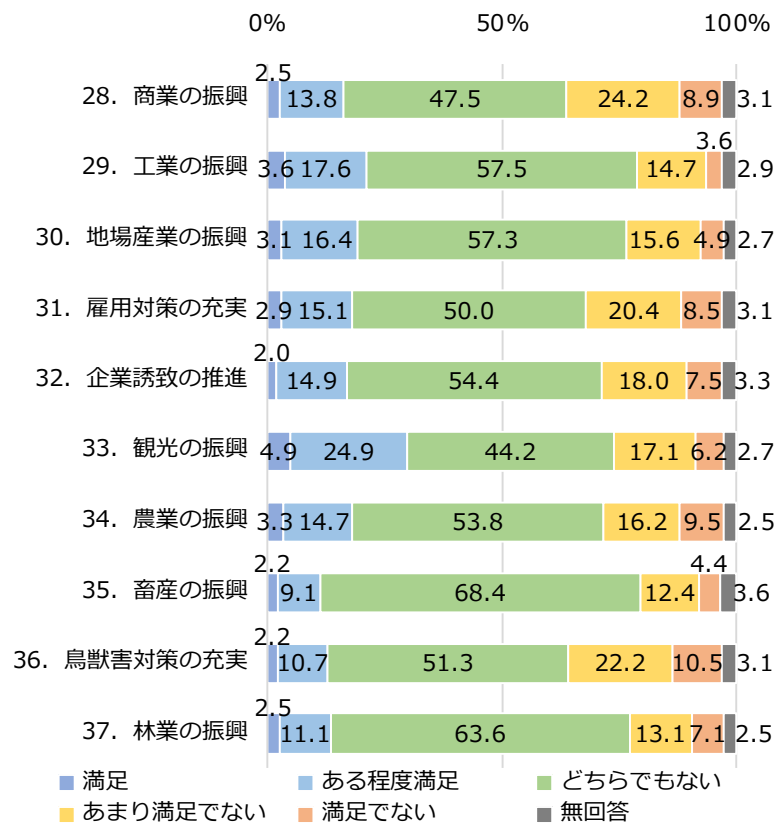


【web アンケート】

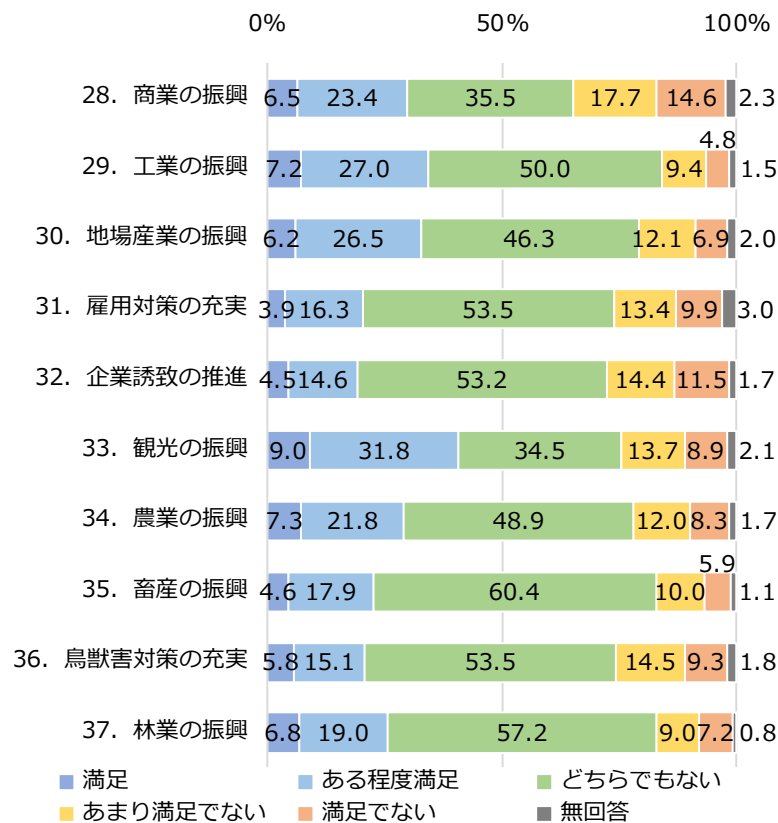


問3. 施策の満足度【産業】

【市民 1,500人】

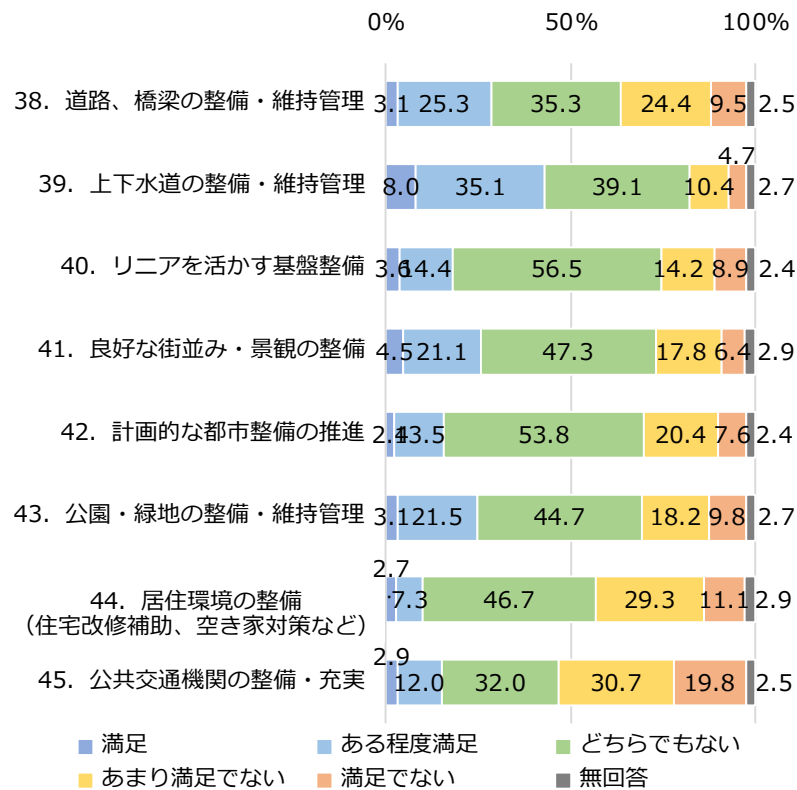


【web アンケート】

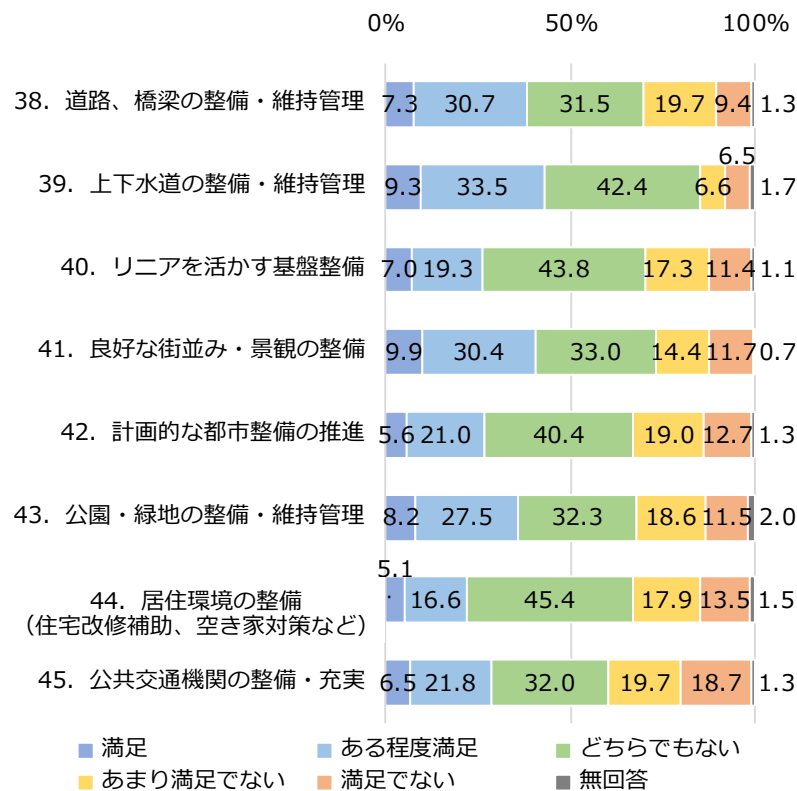


問3. 施策の満足度【基盤整備】

【市民 1,500人】

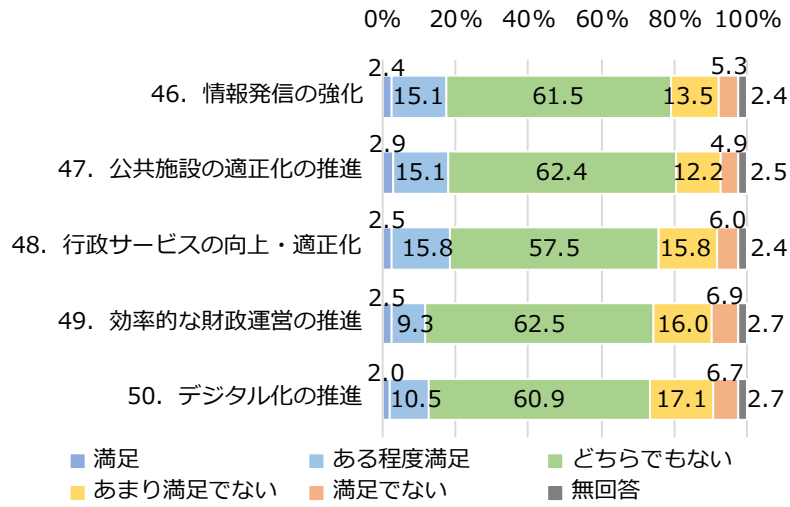


【web アンケート】

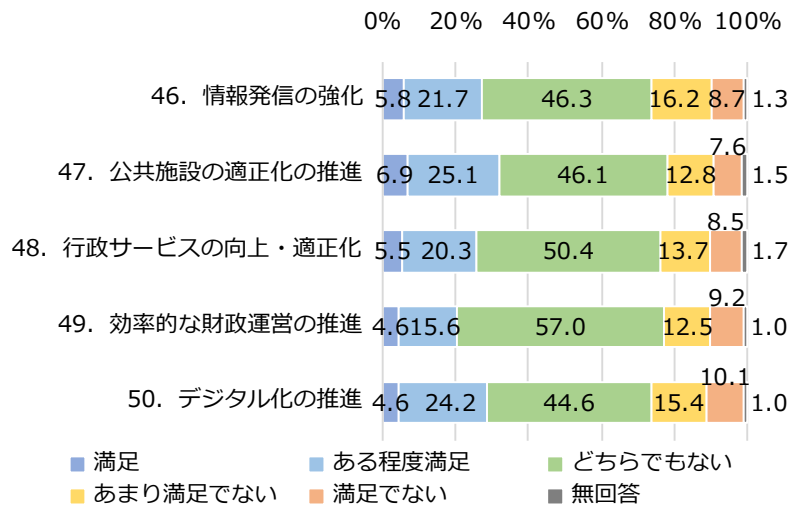


問3. 施策の満足度【行政運営】

【市民 1,500人】

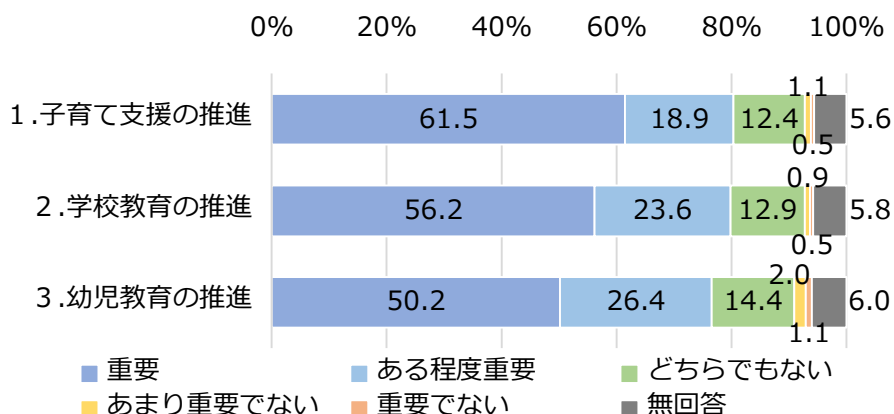


【web アンケート】

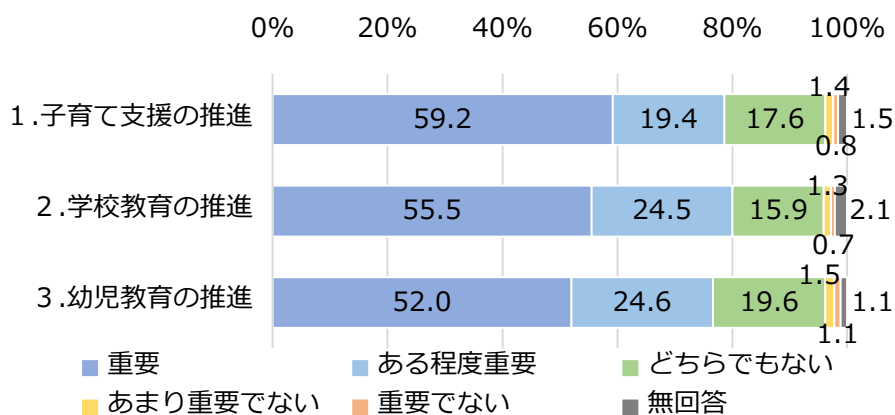


問3. 今後の重要度【子育て・教育】

【市民 1,500人】

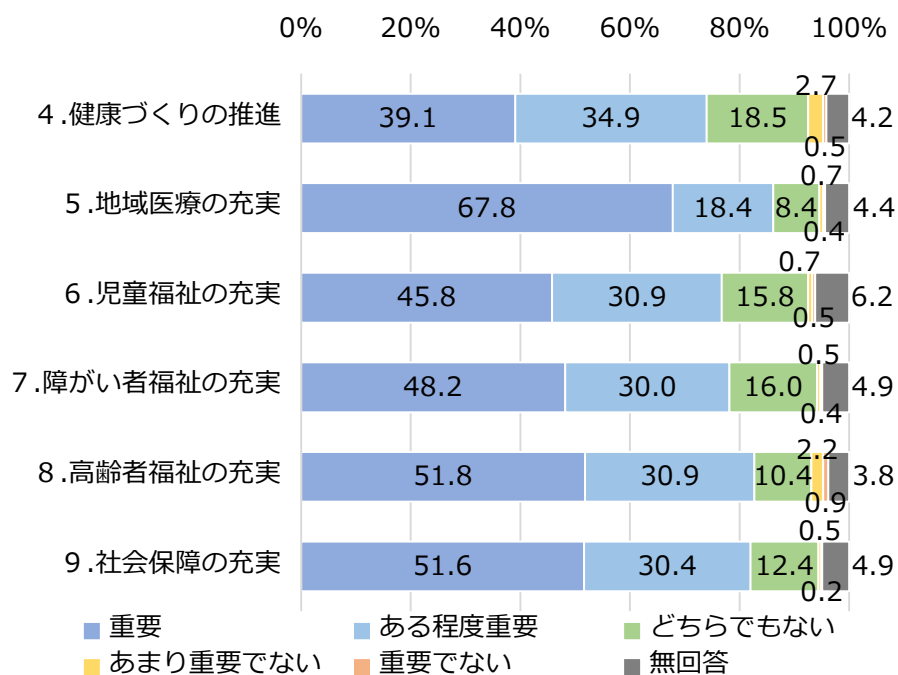


【web アンケート】

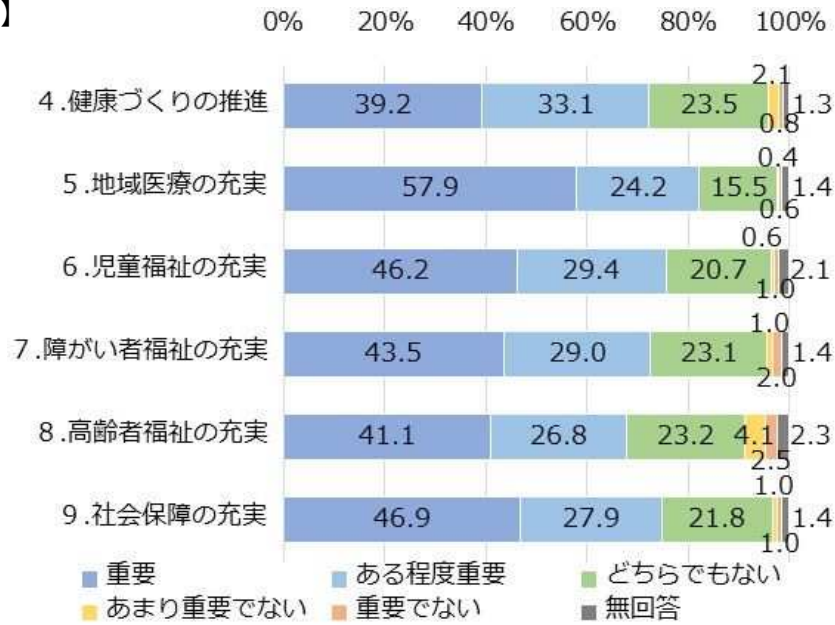


問3. 今後の重要度【健康・福祉】

【市民 1,500人】

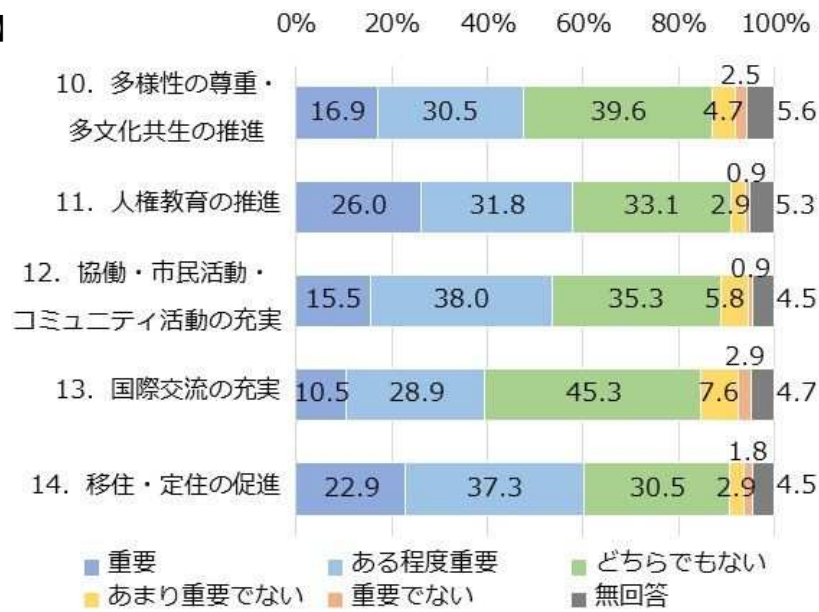


【web アンケート】

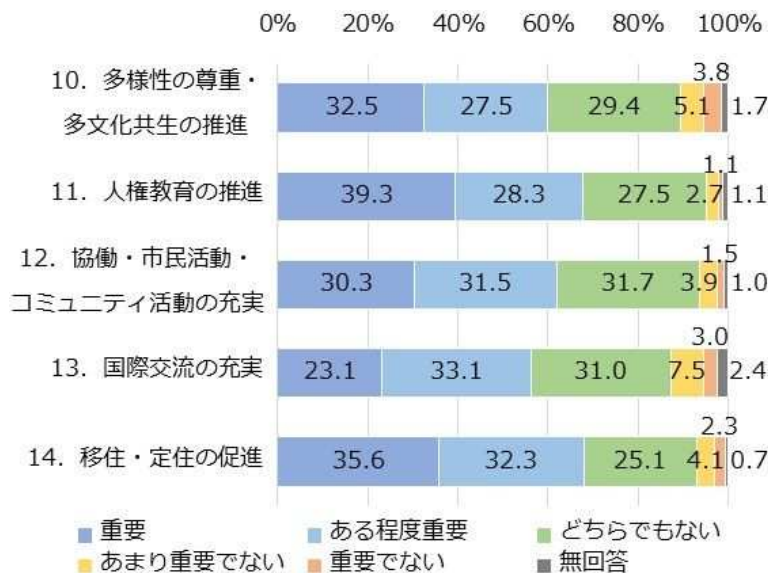


問3. 今後の重要度【共生・協働・定住】

【市民 1,500人】

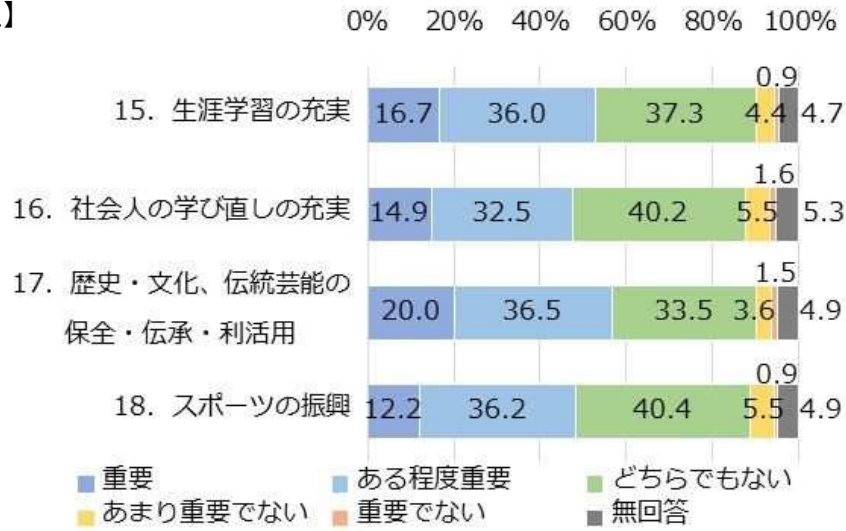


【web アンケート】

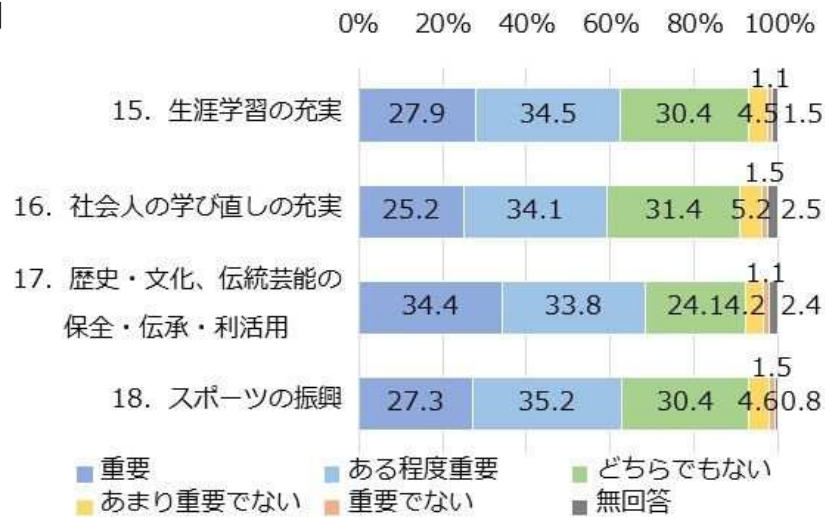


問3. 今後の重要度【生涯学習・文化・スポーツ】

【市民 1,500人】

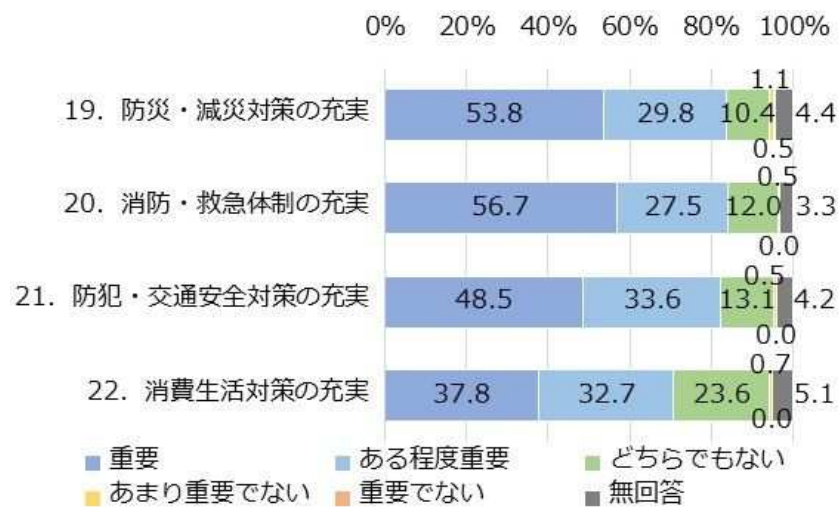


【web アンケート】

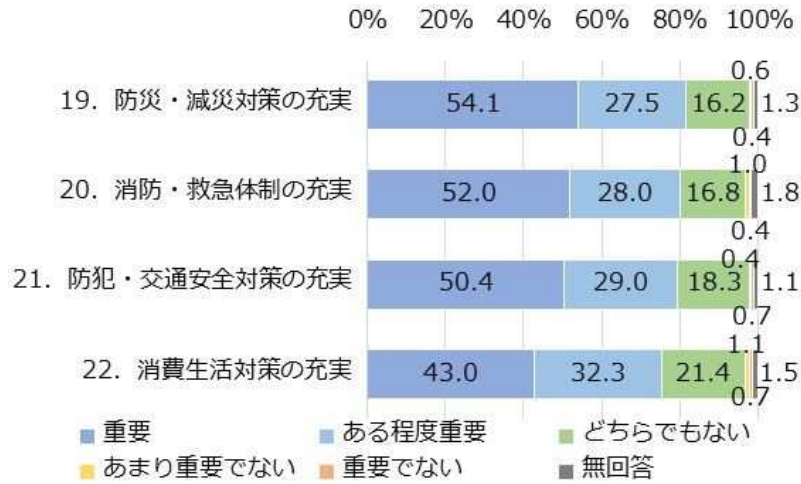


問3. 今後の重要度【防災・防犯】

【市民 1,500人】

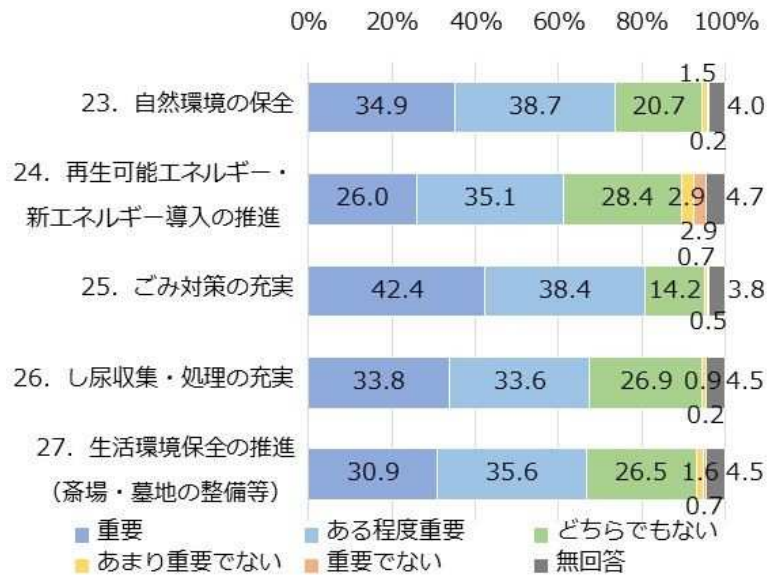


【web アンケート】

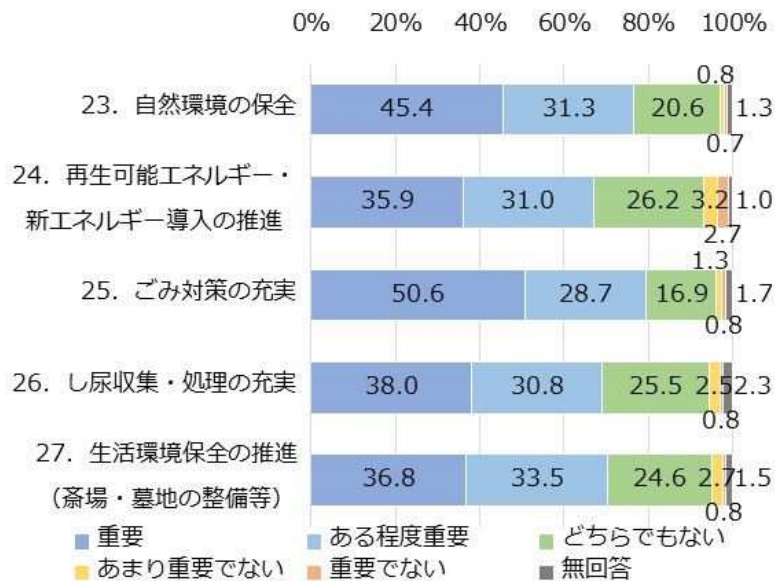


問3. 今後の重要度【環境】

【市民 1,500人】



【web アンケート】



問3. 今後の重要度【産業】

【市民 1,500人】



【web アンケート】

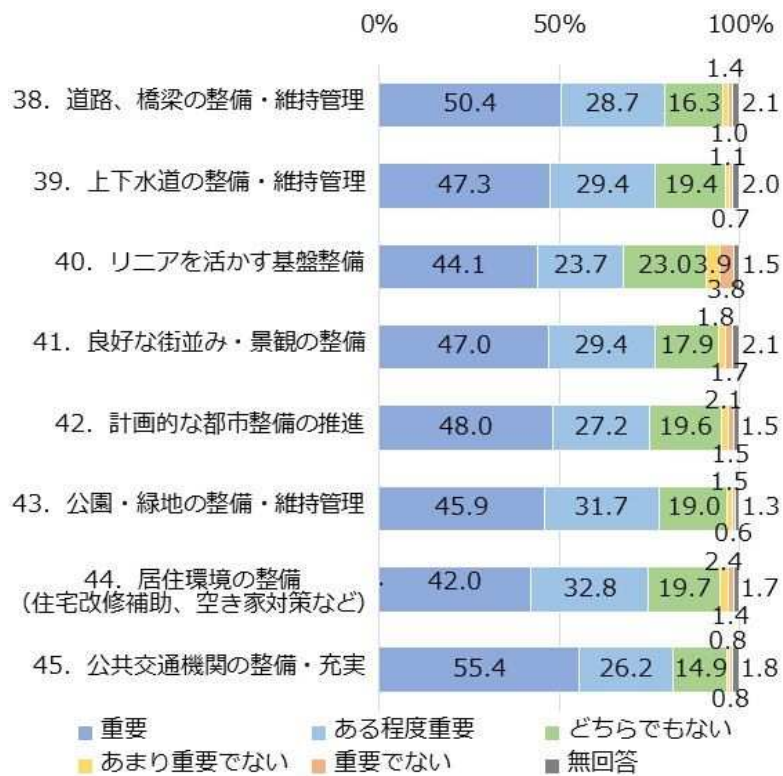


問3. 今後の重要度【基盤整備】

【市民 1,500人】

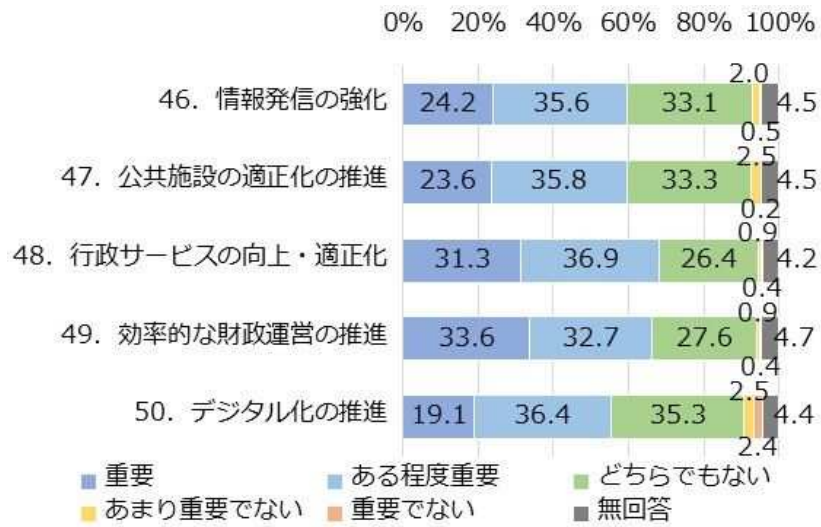


【web アンケート】

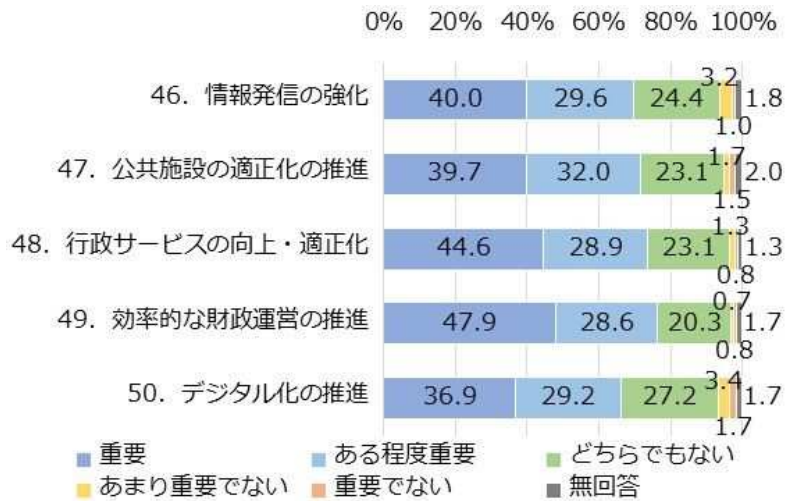


問3. 今後の重要度【行政運営】

【市民 1,500人】



【web アンケート】



③年代別

【市民 1,500人】＜満足度＞

(スコア)

分野	項目	10~20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体平均		0.99	0.19	-0.53	-0.66	-0.94	0.04	0.72
子育て・教育	1.子育て支援の推進	0.57	0.11	0.64	0.38	0.41	1.12	1.22
	2.学校教育の推進	1.92	0.32	0.29	1.41	-0.12	0.53	1.17
	3.幼児教育の推進	0.58	0.21	0.93	0.88	-0.17	0.74	1.49
健康・福祉	4.健康づくりの推進	2.30	1.49	0.94	0.65	0.51	1.27	1.92
	5.地域医療の充実	0.41	-1.17	-1.96	-2.03	-2.93	-1.12	-0.09
	6.児童福祉の充実	0.74	1.49	-0.22	0.43	-0.58	0.58	1.41
	7.障がい者福祉の充実	0.74	0.85	-0.14	-0.49	-1.34	0.38	0.78
	8.高齢者福祉の充実	0.57	0.32	-0.93	-0.75	-0.81	0.09	1.61
人権・共生社会	9.社会保障の充実	0.90	-0.11	-1.07	-1.54	-1.12	-0.05	0.52
	10.多様性の尊重・多文化共生の推進	1.39	-0.53	0.50	-0.33	-0.75	-0.05	-0.09
協働・コミュニティ	11.人権教育の推進	1.83	0.53	0.29	-0.27	-0.46	0.05	0.38
	12.協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	2.21	1.38	0.64	-0.33	-0.46	0.68	0.61
移住・定住	13.国際交流の充実	0.68	0.76	-0.57	-0.49	-0.98	-0.37	-0.43
	14.移住・定住の促進	0.08	0.22	-0.36	-0.49	-1.78	-0.32	0.60
生涯学習・社会人教育	15.生涯学習の充実	0.74	0.00	-0.21	-0.16	-0.92	0.41	0.63
	16.社会人の学び直しの充実	0.16	-0.64	-0.86	-0.87	-1.10	-0.19	-0.09
文化・スポーツ	17.歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	3.11	1.63	0.86	0.60	0.29	0.93	1.55
	18.スポーツの振興	0.17	0.11	0.21	0.22	-0.40	0.79	1.58
防災・防犯	19.防災・減災対策の充実	0.41	0.96	0.22	0.22	-1.03	0.69	1.75
	20.消防・救急体制の充実	1.80	0.87	0.86	1.68	0.35	2.16	2.84
	21.防犯・交通安全対策の充実	1.50	1.38	-0.50	1.03	0.00	0.55	2.59
	22.消費生活対策の充実	-0.16	-0.74	-1.79	-1.79	-1.94	-0.73	0.00
自然環境	23.自然環境の保全	1.89	0.64	-0.14	-0.33	-0.71	-0.41	1.32
	24.再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	0.82	-0.21	-0.86	-0.99	-1.47	-0.37	0.09
生活環境	25.ごみ対策の充実	1.48	0.32	0.50	1.21	0.99	2.32	3.19
	26.し尿収集・処理の充実	1.92	1.67	1.50	1.94	1.41	2.61	4.56
	27.生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	1.33	1.06	-0.22	-0.33	-1.15	-0.93	0.73
商工業	28.商業の振興	0.00	-1.60	-2.07	-2.20	-1.86	-0.88	0.73
	29.工業の振興	1.39	0.53	-0.51	-0.27	-0.63	-0.19	1.82
	30.地場産業の振興	1.15	0.21	-0.80	-0.93	-0.80	-0.23	1.25
	31.雇用対策の充実	0.00	-0.32	-1.45	-2.25	-1.72	-0.23	0.64
	32.企業誘致の推進	0.17	-0.96	-1.00	-1.48	-1.41	-0.37	0.61
観光	33.観光の振興	3.28	0.43	-0.29	-0.60	-0.47	0.27	0.00
農林業	34.農業の振興	1.48	0.43	-1.07	-1.81	-1.67	-0.88	0.09
	35.畜産の振興	1.08	0.43	-0.86	-0.66	-1.32	-0.19	-0.53
	36.鳥獣害対策の充実	0.33	-0.11	-0.43	-1.98	-2.41	-2.11	-1.94
	37.林業の振興	1.48	0.53	-0.36	-1.04	-1.26	-1.34	-0.52
基盤整備	38.道路、橋梁の整備・維持管理	0.41	-0.11	-1.23	-1.30	-1.61	-0.41	0.63
	39.上下水道の整備・維持管理	2.70	2.13	0.58	0.82	0.64	1.79	3.13
	40.リニアを活かす基盤整備	0.08	-0.74	-1.57	-0.82	-1.51	0.28	0.44
都市計画・整備	41.良好な街並み・景観の整備	2.58	0.87	-0.93	-1.36	-0.29	0.23	-0.34
	42.計画的な都市整備の推進	0.49	-0.96	-1.50	-1.85	-1.38	-0.46	-0.17
	43.公園・緑地の整備・維持管理	1.08	-0.74	-0.79	-1.48	-1.57	-0.09	0.17
	44.居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	-0.42	-0.53	-2.64	-2.83	-3.02	-1.76	-2.05
公共交通	45.公共交通機関の整備・充実	-0.58	-2.02	-3.29	-4.18	-3.56	-2.29	-1.52
広報・広聴	46.情報発信の強化	0.75	0.11	-0.64	-1.14	-0.81	0.18	0.26
行政運営	47.公共施設の適正化の推進	1.42	0.85	-0.57	-1.09	-0.64	0.32	0.18
	48.行政サービスの向上・適正化	0.25	-0.21	-0.51	-1.30	-0.86	0.09	0.53
	49.効率的な財政運営の推進	0.16	-0.96	-1.67	-1.63	-1.09	-0.41	0.27
	50.デジタル化の推進	-0.08	-0.74	-1.50	-1.03	-1.61	-0.69	0.44

【web アンケート】 <満足度>

(スコア)

分野	項目	10~20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体平均		1.72	0.13	-1.49	-1.67	-2.18	-1.64	0.48
子育て・教育	1. 子育て支援の推進	1.05	0.44	-0.87	0.09	0.11	0.83	2.50
	2. 学校教育の推進	2.59	-0.07	-0.54	-0.69	-1.22	-0.26	2.50
	3. 幼児教育の推進	1.24	0.80	0.05	0.17	-0.87	0.53	2.50
健康・福祉	4. 健康づくりの推進	2.11	1.32	-0.44	-0.17	-0.87	-0.26	1.25
	5. 地域医療の充実	2.16	-2.28	-3.97	-4.07	-3.59	-2.63	-3.33
	6. 児童福祉の充実	1.76	0.43	-1.28	-0.43	-0.89	0.00	1.67
	7. 障がい者福祉の充実	1.50	0.94	-0.71	-1.72	-1.30	-0.53	0.00
	8. 高齢者福祉の充実	1.89	1.82	-0.61	-1.72	-2.28	-1.05	0.00
	9. 社会保障の充実	1.63	0.51	-1.70	-1.90	-3.00	-1.84	0.00
人権・共生社会	10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	2.13	0.96	-0.60	-1.10	-1.22	-1.32	1.25
	11. 人権教育の推進	2.52	1.01	-0.54	-0.69	-2.07	-0.79	0.00
協働・コミュニティ	12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	2.29	0.46	-0.76	-0.85	-1.74	-2.37	0.00
	13. 国際交流の充実	1.81	1.12	-1.17	-0.86	-1.63	-1.67	-1.25
移住・定住	14. 移住・定住の促進	1.19	-0.59	-1.37	-1.61	-1.85	-1.05	1.25
生涯学習・社会人教育	15. 生涯学習の充実	1.67	0.07	-1.30	-1.10	-1.74	-0.79	0.00
	16. 社会人の学び直しの充実	0.94	-0.87	-2.39	-2.97	-3.15	-2.63	0.00
文化・スポーツ	17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	3.01	1.59	-0.60	0.42	-0.78	-1.05	0.00
	18. スポーツの振興	1.72	0.58	-0.98	-0.51	0.00	-0.79	-2.50
防災・防犯	19. 防災・減災対策の充実	2.23	0.58	-1.03	-1.19	-2.00	-2.11	0.00
	20. 消防・救急体制の充実	2.46	0.87	0.33	-0.59	0.87	-0.28	2.50
	21. 防犯・交通安全対策の充実	2.36	0.66	-1.14	-0.42	-0.87	-0.53	3.75
	22. 消費生活対策の充実	1.34	-0.15	-2.83	-2.88	-3.00	-3.16	0.00
自然環境	23. 自然環境の保全	2.55	1.99	-0.11	-0.59	-1.74	-1.84	1.67
	24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	1.26	0.29	-1.74	-2.63	-2.83	-1.32	-1.25
生活環境	25. ごみ対策の充実	1.66	2.21	1.04	1.38	1.30	2.37	1.67
	26. し尿収集・処理の充実	1.98	2.39	1.61	2.29	2.07	3.42	1.25
	27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	1.90	1.25	-0.99	-0.34	-2.61	-2.11	0.00
商工業	28. 商業の振興	1.54	-1.76	-4.62	-3.98	-3.59	-3.16	-1.25
	29. 工業の振興	2.14	0.75	-0.60	-0.76	-1.09	0.79	0.00
	30. 地場産業の振興	2.04	-0.07	-1.32	-2.29	-2.22	-1.05	0.00
	31. 雇用対策の充実	0.95	-1.52	-2.55	-3.05	-2.72	-2.37	-1.25
	32. 企業誘致の推進	0.92	-1.87	-3.35	-4.41	-2.67	-2.63	-2.50
観光	33. 観光の振興	2.45	-0.44	-1.18	-1.69	-1.96	-1.58	1.25
農林業	34. 農業の振興	1.92	-0.22	-1.96	-1.69	-3.48	-2.89	1.25
	35. 畜産の振興	1.07	0.72	-0.98	-1.19	-2.50	-1.58	1.25
	36. 鳥獣害対策の充実	0.99	-0.30	-2.39	-2.46	-3.70	-4.21	0.00
	37. 林業の振興	1.54	0.87	-0.98	-2.54	-1.89	-2.37	-1.25
基盤整備	38. 道路、橋梁の整備・維持管理	1.97	-0.36	-1.48	-2.46	-4.67	-3.42	2.50
	39. 上下水道の整備・維持管理	2.54	1.38	0.60	0.08	-0.78	-1.32	3.75
	40. リニアを活かす基盤整備	1.06	-0.72	-2.53	-3.28	-3.22	-3.16	-1.25
都市計画・整備	41. 良好な街並み・景観の整備	2.49	-0.29	-2.39	-2.71	-2.93	-3.42	1.25
	42. 計画的な都市整備の推進	1.06	-0.88	-3.50	-3.88	-4.44	-3.42	-1.25
	43. 公園・緑地の整備・維持管理	1.91	-1.10	-2.69	-2.63	-4.24	-2.11	1.25
	44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	0.75	-1.62	-3.59	-3.97	-3.91	-5.53	0.00
公共交通	45. 公共交通機関の整備・充実	0.88	-1.67	-4.67	-4.48	-6.09	-3.68	-1.67
広報・広聴	46. 情報発信の強化	1.10	-0.66	-1.41	-1.95	-2.83	-2.63	0.00
行政運営	47. 公共施設の適正化の推進	1.94	-0.22	-1.76	-1.19	-3.04	-1.84	1.25
	48. 行政サービスの向上・適正化	1.25	-0.22	-1.98	-2.37	-2.72	-2.11	2.50
	49. 効率的な財政運営の推進	1.01	-0.51	-2.36	-2.63	-4.13	-2.37	2.50
	50. デジタル化の推進	1.37	-0.94	-2.03	-3.31	-3.22	-2.89	0.00

【市民 1,500人】＜重要度＞

(スコア)

分野	項目	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体平均		5.26	5.13	5.30	5.15	5.20	4.96	5.81
子育て・教育	1.子育て支援の推進	7.79	8.94	8.07	6.48	7.27	6.62	7.72
	2.学校教育の推進	7.05	8.70	7.86	6.21	7.09	6.37	7.17
	3.幼児教育の推進	6.75	7.77	6.57	5.44	6.69	6.13	6.52
健康・福祉	4.健康づくりの推進	4.84	5.64	5.86	4.78	6.49	5.58	6.67
	5.地域医療の充実	7.70	8.51	7.93	7.89	8.62	7.55	7.25
	6.児童福祉の充実	6.33	7.28	7.07	5.66	6.90	5.59	6.70
	7.障がい者福祉の充実	5.41	6.06	7.10	5.88	7.59	6.20	7.29
	8.高齢者福祉の充実	5.33	5.11	6.79	7.44	7.53	6.48	7.68
人権・共生社会	9.社会保障の充実	6.89	7.77	7.14	7.22	6.96	6.50	6.70
	10.多様性の尊重・多文化共生の推進	3.19	2.39	3.21	2.19	2.65	2.52	3.58
協働・コミュニティ	11.人権教育の推進	3.92	4.26	5.07	3.61	4.12	3.92	4.72
	12.協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	3.52	2.34	2.97	2.58	3.18	3.51	4.44
移住・定住	13.国際交流の充実	1.75	1.17	2.46	1.43	1.24	2.43	2.68
	14.移住・定住の促進	4.00	3.83	4.00	3.79	3.94	4.02	4.46
生涯学習・社会人教育	15.生涯学習の充実	3.00	2.87	3.29	3.24	3.00	3.33	4.72
	16.社会人の学び直しの充実	3.03	2.23	3.36	2.98	2.24	2.62	3.89
文化・スポーツ	17.歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	3.93	2.34	3.43	3.57	3.82	3.43	4.91
	18.スポーツの振興	3.92	2.13	3.29	2.50	1.71	2.79	3.98
防災・防犯	19.防災・減災対策の充実	6.78	6.81	7.57	7.20	7.50	6.65	6.91
	20.消防・救急体制の充実	6.97	7.34	7.43	7.31	7.73	6.76	7.50
	21.防犯・交通安全対策の充実	6.44	7.23	7.43	6.81	6.69	6.14	7.55
	22.消費生活対策の充実	5.83	6.41	5.86	5.33	5.73	5.05	6.36
自然環境	23.自然環境の保全	5.17	5.53	5.86	5.71	5.41	5.29	6.27
	24.再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	4.67	3.62	3.71	3.46	4.13	4.85	4.54
生活環境	25.ごみ対策の充実	5.90	5.21	5.94	6.43	6.74	6.54	6.96
	26.し尿収集・処理の充実	4.42	4.57	4.34	5.39	5.29	5.43	6.79
	27.生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	4.17	3.30	4.06	5.49	5.59	4.95	6.30
商工業	28.商業の振興	6.02	6.38	5.36	6.26	5.06	5.19	5.09
	29.工業の振興	4.26	4.68	4.78	5.00	4.53	5.29	5.19
	30.地場産業の振興	5.00	5.43	5.29	5.71	5.41	5.78	5.93
	31.雇用対策の充実	6.07	6.17	5.87	7.03	6.53	6.26	5.93
	32.企業誘致の推進	4.67	3.51	4.42	4.89	5.06	5.29	5.46
観光	33.観光の振興	5.41	4.57	5.22	5.66	4.77	4.95	5.96
農林業	34.農業の振興	5.00	4.79	5.58	5.88	6.00	5.67	6.39
	35.畜産の振興	3.93	4.02	4.56	3.74	4.35	3.87	5.09
	36.鳥獣害対策の充実	4.34	4.68	3.84	4.89	5.00	5.67	5.59
	37.林業の振興	4.02	3.59	3.77	4.95	4.29	4.61	5.28
基盤整備	38.道路、橋梁の整備・維持管理	7.08	5.96	6.74	6.48	7.33	6.52	7.17
	39.上下水道の整備・維持管理	7.00	6.60	6.09	6.32	7.53	6.39	7.22
	40.リニアを活かす基盤整備	5.74	4.89	4.42	3.96	3.37	3.22	4.17
都市計画・整備	41.良好な街並み・景観の整備	5.90	5.32	5.22	5.22	4.06	4.22	5.65
	42.計画的な都市整備の推進	5.50	5.00	5.29	4.94	4.42	4.32	5.74
	43.公園・緑地の整備・維持管理	5.82	6.70	5.58	4.72	4.07	3.59	5.55
	44.居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	5.82	5.98	5.37	5.93	6.00	5.34	6.04
公共交通	45.公共交通機関の整備・充実	6.78	6.17	6.47	7.22	6.63	6.59	7.31
広報・広聴	46.情報発信の強化	4.75	4.04	4.41	4.12	3.51	3.80	5.55
行政運営	47.公共施設の適正化の推進	5.50	4.04	4.28	3.67	3.55	3.64	5.45
	48.行政サービスの向上・適正化	5.74	5.21	5.00	5.16	4.88	4.52	5.65
	49.効率的な財政運営の推進	5.34	5.21	5.65	5.93	5.00	3.89	5.46
	50.デジタル化の推進	4.84	4.15	4.13	3.57	3.02	2.26	3.52

【web アンケート】 <重要度>

(スコア)

分野	項目	10~20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
全体平均		5.58	4.68	5.69	6.03	5.55	7.45	2.54
子育て・教育	1. 子育て支援の推進	6.33	8.82	8.30	6.44	5.89	7.37	6.67
	2. 学校教育の推進	6.28	8.13	8.30	7.12	5.65	8.16	2.50
	3. 幼児教育の推進	5.95	7.54	7.83	5.93	5.11	7.65	0.00
健康・福祉	4. 健康づくりの推進	5.62	4.35	5.27	5.51	5.65	6.58	2.50
	5. 地域医療の充実	6.32	6.96	7.99	8.98	8.59	8.33	5.00
	6. 児童福祉の充実	5.78	6.59	7.22	5.93	5.98	7.11	2.50
	7. 障がい者福祉の充実	5.39	5.37	6.30	6.61	5.56	7.63	-2.50
	8. 高齢者福祉の充実	4.95	3.53	5.16	6.78	6.20	7.11	0.00
人権・共生社会	9. 社会保障の充実	5.69	5.00	7.06	7.29	6.52	7.37	3.75
	10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	4.98	1.52	2.72	3.39	3.33	5.53	-3.75
協働・コミュニティ	11. 人権教育の推進	5.61	3.55	4.40	4.83	5.00	7.11	1.25
	12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	4.76	2.75	3.32	4.07	3.91	6.84	1.25
移住・定住	13. 国際交流の充実	4.20	1.23	2.42	2.19	2.11	5.79	-2.50
生涯学習・社会人教育	14. 移住・定住の促進	4.86	3.77	4.73	5.42	3.80	7.63	3.75
	15. 生涯学習の充実	4.70	2.21	4.18	3.98	2.93	6.32	2.50
文化・スポーツ	16. 社会人の学び直しの充実	4.21	2.39	3.37	4.32	3.26	6.58	0.00
	17. 歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	5.41	3.91	3.13	5.34	4.67	6.58	2.50
防災・防犯	18. スポーツの振興	4.87	2.90	2.75	3.31	2.72	5.53	3.75
	19. 防災・減災対策の充実	6.40	6.25	7.34	7.97	7.93	9.21	2.50
	20. 消防・救急体制の充実	6.14	6.18	7.55	7.80	7.89	8.42	1.67
	21. 防犯・交通安全対策の充実	6.12	6.16	6.76	7.12	8.04	8.68	3.75
自然環境	22. 消費生活対策の充実	5.81	5.43	5.87	6.38	6.44	6.84	1.25
	23. 自然環境の保全	6.14	4.71	6.21	6.69	6.20	7.11	2.50
生活環境	24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	5.43	2.50	3.04	4.49	5.11	6.84	2.50
	25. ごみ対策の充実	6.09	4.86	7.22	7.71	7.93	9.47	3.33
	26. し尿収集・処理の充実	5.28	2.50	5.82	5.85	5.98	8.42	3.33
商工業	27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	5.28	3.21	4.12	6.36	6.85	8.95	3.75
	28. 商業の振興	5.86	5.94	6.76	7.50	5.44	7.37	5.00
	29. 工業の振興	5.19	4.13	4.95	6.53	5.98	7.63	5.00
	30. 地場産業の振興	5.63	5.22	5.27	6.64	6.30	8.68	5.00
	31. 雇用対策の充実	5.84	5.80	7.42	7.63	6.85	9.21	5.00
観光	32. 企業誘致の推進	5.07	5.14	5.71	6.61	6.30	7.89	5.00
農林業	33. 観光の振興	5.91	4.19	5.49	5.68	4.46	6.58	5.00
	34. 農業の振興	5.57	4.20	6.04	6.53	5.44	6.58	2.50
	35. 畜産の振興	5.00	3.04	4.56	5.34	3.89	5.26	2.50
	36. 鳥獣害対策の充実	5.10	3.26	5.55	6.03	6.22	7.89	3.33
基盤整備	37. 林業の振興	5.10	3.82	5.27	5.69	4.78	7.37	2.50
	38. 道路、橋梁の整備・維持管理	6.03	5.74	7.31	7.20	7.83	9.17	2.50
	39. 上下水道の整備・維持管理	5.90	5.07	6.87	7.12	7.17	9.17	2.50
都市計画・整備	40. リニアを活かす基盤整備	5.82	3.97	3.91	4.58	3.11	6.11	0.00
	41. 良好な街並み・景観の整備	6.63	5.37	4.89	5.93	4.46	6.11	3.75
	42. 計画的な都市整備の推進	6.03	5.00	5.76	6.72	5.98	8.33	3.75
	43. 公園・緑地の整備・維持管理	6.16	6.62	6.32	6.19	4.67	6.39	3.75
公共交通	44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	5.71	4.48	5.82	6.38	5.43	7.22	3.75
広報・広聴	45. 公共交通機関の整備・充実	6.68	5.85	7.28	7.63	7.72	7.78	3.75
行政運営	46. 情報発信の強化	5.30	4.38	5.98	5.17	4.78	8.06	2.50
	47. 公共施設の適正化の推進	5.54	5.44	5.49	5.34	4.11	7.22	2.50
	48. 行政サービスの向上・適正化	5.56	5.07	6.96	5.93	6.30	8.61	0.00
	49. 効率的な財政運営の推進	5.68	5.82	7.61	7.03	7.00	8.89	1.25
	50. デジタル化の推進	5.13	4.18	5.16	4.05	4.13	5.83	2.50

④地区別

【市民 1,500人】＜満足度＞

(スコア)

分野	項目	中津地区	苗木地区	坂本地区	落合地区	阿木地区	神坂地区	山口地区	坂下地区	川上地区	加子母地区	付知町地区	福岡地区	蛭川地区	その他
全体平均		0.39	-0.99	-0.10	-0.65	-0.05	0.50	0.95	-0.38	1.43	-0.34	-0.62	-0.53	-0.69	-0.33
子育て・教育	1.子育て支援の推進	1.34	-0.13	-0.13	0.48	1.25	2.00	-0.63	0.45	1.67	1.54	-0.15	0.73	0.19	0.00
	2.学校教育の推進	1.31	-0.24	0.46	0.00	-0.42	-2.00	3.75	1.06	-3.33	0.38	0.91	0.24	1.11	0.71
	3.幼児教育の推進	1.24	-0.25	0.33	-0.16	-0.42	-1.00	2.14	0.45	-1.67	0.77	0.30	0.37	1.11	0.71
健康・福祉	4.健康づくりの推進	2.26	0.88	0.96	0.00	-0.83	0.83	-1.25	1.18	3.33	1.54	-0.15	0.71	0.89	0.00
	5.地域医療の充実	-0.51	-1.34	-1.54	-2.58	-1.54	-1.67	-1.88	-4.29	0.00	-1.15	-1.82	-1.71	-1.43	0.00
	6.児童福祉の充実	0.91	0.25	0.33	-0.48	0.00	-1.00	0.00	-0.76	1.67	1.15	-0.76	0.49	1.11	2.14
	7.障がい者福祉の充実	0.65	-0.37	-0.20	-0.48	0.00	-1.00	-1.25	-0.44	0.00	-0.38	-0.91	-0.36	-0.54	2.14
	8.高齢者福祉の充実	0.59	-0.91	-0.13	-0.91	1.15	1.67	0.00	-1.39	5.00	-0.77	0.30	-1.02	-0.54	-1.43
	9.社会保障の充実	0.14	-1.71	-0.58	-1.82	-0.77	1.67	1.25	-1.53	3.33	0.77	-0.47	-0.70	-0.54	0.00
人権・共生社会	10.多様性の尊重・多文化共生の推進	0.31	-0.48	0.06	-1.56	0.77	-2.50	-1.43	-0.29	1.67	0.77	0.15	-0.48	0.71	0.71
	11.人権教育の推進	0.63	-0.85	0.38	-0.94	1.15	0.00	-1.25	-0.57	1.67	0.77	0.00	0.36	0.71	0.71
協働・コミュニティ	12.協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	0.89	-0.36	0.89	-0.91	1.54	1.67	-1.25	0.69	3.33	0.77	0.15	0.24	0.54	0.71
	13.国際交流の充実	-0.14	-1.07	-0.19	-0.91	1.15	0.00	1.25	-0.42	1.67	-0.77	0.00	-1.10	-0.18	0.00
移住・定住	14.移住・定住の促進	0.14	-1.10	0.00	-0.91	-1.92	0.00	-2.50	-0.14	5.00	-1.92	-0.91	-0.48	-1.11	-2.86
生涯学習・社会人教育	15.生涯学習の充実	0.56	-0.63	0.13	-0.45	-0.77	0.00	0.00	0.00	3.33	0.00	-0.61	-0.71	0.36	-2.14
文化・スポーツ	16.社会人の学び直しの充実	-0.20	-1.10	-0.45	-1.09	0.38	-0.83	-0.63	-0.56	1.67	0.77	-1.41	-1.46	0.00	-2.86
	17.歴史・文化・伝統芸能の保全・伝承・利活用	1.50	0.37	0.96	0.00	2.69	3.00	1.25	0.97	3.33	1.54	1.06	0.12	1.96	2.86
防災・防犯	18.スポーツの振興	0.48	-0.37	0.57	0.45	-1.15	1.00	-1.25	0.69	1.67	1.15	0.16	0.24	0.71	0.00
	19.防災・減災対策の充実	0.89	-0.24	-0.19	-0.91	-1.25	2.50	2.50	-0.28	5.00	0.38	0.91	-0.12	0.89	0.00
	20.消防・救急体制の充実	1.93	1.67	1.22	0.30	0.00	3.33	5.00	0.56	3.33	1.54	1.52	1.40	1.43	2.14
	21.防犯・交通安全対策の充実	0.79	0.12	1.08	0.16	0.77	1.67	1.88	0.42	1.67	0.77	1.36	0.70	1.25	1.43
	22.消費生活対策の充実	-0.51	-1.95	-1.14	-1.06	-1.15	0.83	-1.88	-1.25	3.33	-0.38	-1.97	-1.55	-2.59	-2.86
	23.自然環境の保全	0.62	-1.59	0.32	-0.45	0.38	0.83	3.13	-0.56	1.67	0.38	0.00	-0.24	-0.36	1.43
自然環境	24.再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	-0.17	-1.34	-0.26	-0.63	-0.38	-0.83	-0.63	-1.00	1.67	-1.15	-0.63	-1.07	-0.71	0.00
	25.ごみ対策の充実	1.85	1.05	1.08	1.21	2.31	5.83	3.75	1.53	3.33	1.54	1.52	1.51	-0.37	-0.71
生活環境	26.し尿収集・処理の充実	2.49	2.69	1.15	2.12	3.46	3.33	6.43	2.36	3.33	1.15	2.34	2.33	0.74	1.43
	27.生活環境保全の推進(斎場・墓地の整備等)	0.65	-1.88	-0.89	-0.47	0.00	0.00	3.13	1.11	1.67	-0.77	-0.30	-0.93	-1.92	2.14
商工業	28.商業の振興	-0.67	-3.05	-1.33	-1.82	0.00	0.83	3.57	-0.97	1.67	-1.15	-2.03	-1.67	-1.92	-3.57
	29.工業の振興	0.48	-0.75	0.63	-0.30	0.00	1.67	2.50	-0.14	1.67	-0.77	-1.25	0.00	-0.19	0.00
	30.地場産業の振興	0.42	-1.95	0.25	0.00	0.77	0.83	0.00	-0.42	3.33	-0.38	-0.94	-0.73	-1.54	-0.71
	31.雇用対策の充実	-0.34	-1.71	-0.19	-1.56	-1.92	-2.00	-0.63	-1.11	1.67	-1.15	-2.34	-0.98	-2.12	-2.14
	32.企業誘致の推進	-0.33	-1.38	-0.19	-1.36	-1.25	0.83	0.00	-0.83	1.67	-0.77	-1.77	-1.31	-0.77	-2.86
観光	33.観光の振興	0.84	-1.50	0.82	-0.65	1.15	1.67	3.13	0.00	3.33	-1.15	0.45	-1.28	0.00	-1.43
農林業	34.農業の振興	-0.14	-2.25	-0.51	-1.41	0.38	0.83	1.88	-0.57	0.00	0.00	-2.12	-1.51	-1.67	0.71
	35.畜産の振興	0.00	-1.50	-0.19	-1.06	0.00	0.00	1.88	-0.43	0.00	0.77	-1.25	-1.19	-0.56	0.71
	36.鳥獣害対策の充実	-0.63	-2.80	-0.89	-1.52	-3.08	-0.83	0.63	-0.97	0.00	-1.92	-3.03	-2.26	-2.96	-3.33
	37.林業の振興	-0.14	-1.71	0.06	-0.91	-0.77	0.83	0.00	-1.00	0.00	0.00	-1.21	-1.05	-1.85	0.71
基盤整備	38.道路、橋梁の整備・維持管理	0.06	-1.00	-0.44	-0.61	0.00	-0.83	5.00	-1.94	0.00	-2.69	-1.67	-1.79	-1.96	0.00
	39.上下水道の整備・維持管理	2.01	0.61	1.01	0.78	2.92	0.83	6.25	2.36	1.67	-0.77	0.91	1.83	0.18	4.29
	40.リニアを活かす基盤整備	-0.50	-1.13	-0.06	-0.76	-0.38	0.00	1.25	-0.28	1.67	-1.15	-1.36	-0.12	-2.32	0.71
都市計画・整備	41.良好な街並み・景観の整備	0.22	-1.10	0.06	-0.15	0.77	2.50	1.88	-0.43	1.67	-1.54	-0.45	-0.48	0.00	2.14
	42.計画的な都市整備の推進	-0.36	-2.20	-0.70	-1.52	-0.77	-0.83	1.88	-1.57	1.67	-0.77	-1.67	-1.07	-0.89	-2.86
	43.公園・緑地の整備・維持管理	0.39	-2.13	-0.45	-0.31	-1.15	0.00	0.63	-1.14	-1.67	-2.31	-1.21	-1.67	-1.61	0.71
	44.居住環境の整備(住宅改修補助、空き家対策など)	-1.28	-2.50	-2.09	-2.03	-2.69	-0.83	-3.75	-2.57	-1.67	-3.46	-3.03	-2.38	-2.68	-2.14
公共交通	45.公共交通機関の整備・充実	-1.52	-3.54	-2.91	-1.97	-2.31	-1.67	-0.63	-2.50	0.00	-3.85	-4.39	-2.98	-6.43	-5.83
広報・広聴	46.情報発信の強化	-0.08	-1.34	0.32	-0.61	1.15	1.67	0.00	0.00	0.00	0.00	-0.47	-0.48	-1.43	-2.86
行政運営	47.公共施設の適正化の推進	0.73	-1.46	0.06	-0.91	1.15	-0.83	1.25	-0.56	1.67	-1.15	0.00	-0.60	-0.71	-2.50
	48.行政サービスの向上・適正化	0.22	-0.98	-0.57	-0.15	-1.92	0.83	1.25	-0.42	-1.67	-0.77	-0.91	-0.48	-1.61	-0.71
	49.効率的な財政運営の推進	-0.17	-1.63	-0.82	-1.06	-1.25	-0.83	0.63	-1.11	-1.67	-1.15	-0.76	-0.73	-3.04	-2.14
	50.デジタル化の推進	-0.59	-1.50	-1.01	-0.45	0.38	0.83	-0.63	-0.42	-1.67	-1.15	-1.25	-0.83	-1.96	0.00

【web アンケート】 <満足度>

(スコア)

分野	項目	中津地区	苗木地区	坂本地区	落合地区	阿木地区	神坂地区	山口地区	坂下地区	川上地区	加子母地区	付知町地区	福岡地区	蛭川地区	その他
全体平均		0.27	-0.07	-0.17	0.57	0.48	-1.87	-1.47	0.56	1.29	1.19	-1.24	-0.11	2.25	2.01
子育て・教育	1.子育て支援の推進	0.50	0.96	1.23	-0.33	2.00	-2.27	-3.18	0.00	1.54	1.25	-1.13	-0.21	2.96	1.13
	2.学校教育の推進	0.91	0.70	0.63	1.17	0.67	-0.91	-0.91	0.86	0.00	0.63	-0.16	0.64	4.07	3.62
	3.幼児教育の推進	0.81	-0.09	1.33	1.33	1.00	-3.64	0.91	1.00	1.43	2.19	-1.45	0.63	3.15	0.96
健康・福祉	4.健康づくりの推進	0.99	1.34	0.63	1.45	-0.36	-1.36	-0.91	1.86	1.33	2.33	1.45	0.64	2.92	2.05
	5.地域医療の充実	-0.34	-0.88	-0.46	-0.32	0.00	-5.00	-8.18	-2.14	0.67	0.94	-1.67	0.22	2.78	1.88
	6.児童福祉の充実	0.77	0.35	1.17	0.17	1.92	-3.64	-3.18	0.43	2.50	2.19	-0.32	0.31	3.08	1.56
	7.障がい者福祉の充実	0.62	1.27	0.00	0.83	0.67	-3.00	-0.45	1.00	2.14	-0.31	-0.97	-0.63	2.78	1.36
	8.高齢者福祉の充実	0.66	0.89	-0.24	1.45	0.67	-2.27	-0.45	1.14	2.86	1.88	-0.32	0.00	3.85	1.81
	9.社会保障の充実	0.45	-0.71	-1.02	1.61	1.33	-3.18	-1.36	0.86	2.33	0.63	-1.50	-0.42	3.15	1.39
人権・共生社会	10.多様性の尊重・多文化共生の推進	0.52	0.80	0.47	1.55	2.00	-0.91	-1.36	1.47	1.33	1.25	-0.32	0.76	3.33	2.50
	11.人権教育の推進	1.01	0.80	0.55	1.61	1.00	-0.91	0.91	2.86	3.67	1.33	-0.67	0.63	3.08	2.24
協働・コミュニティ	12.協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	0.92	0.71	0.16	1.45	1.00	0.00	-0.45	0.29	2.33	1.56	-1.33	0.21	3.40	2.44
	13.国際交流の充実	0.48	0.73	0.24	0.97	1.00	-2.27	-0.91	0.57	1.67	-0.31	-1.61	0.00	1.85	2.87
移住・定住	14.移住・定住の促進	0.14	-0.45	0.38	0.81	-0.33	-3.18	-2.27	0.57	-2.67	0.31	-1.94	-0.63	2.04	1.60
生涯学習・社会人教育	15.生涯学習の充実	0.07	0.18	0.23	0.83	0.67	-1.82	0.45	1.47	0.67	1.25	-0.97	0.00	2.41	1.98
文化・スポーツ	16.社会人の学び直しの充実	-0.69	-0.96	-1.38	-0.48	0.00	-2.73	-2.00	-0.29	0.00	0.31	-1.61	-0.94	2.12	1.22
	17.歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	1.59	1.43	1.41	1.61	2.50	0.45	-0.91	1.71	3.33	2.19	0.81	1.25	2.71	2.98
防災・防犯	18.スポーツの振興	0.59	0.09	0.77	0.52	-0.36	-0.91	1.36	1.86	0.00	1.56	0.81	0.11	2.04	1.87
	19.防災・減災対策の充実	1.04	0.26	0.08	0.83	0.67	-1.36	0.00	1.86	2.00	2.19	-2.33	-0.11	2.50	2.22
	20.消防・救急体制の充実	1.67	1.14	1.00	0.48	1.67	-0.50	-2.00	1.03	3.67	4.06	0.67	1.25	3.89	2.12
	21.防犯・交通安全対策の充実	1.16	0.35	0.23	0.65	1.67	0.00	-1.36	1.32	3.00	3.13	-0.16	0.73	3.40	2.24
	22.消費生活対策の充実	-0.14	-1.40	-0.54	-0.48	0.33	-4.00	-4.09	0.14	1.00	-0.31	-2.67	-0.64	2.22	1.59
	23.自然環境の保全	1.18	0.96	1.19	0.81	2.86	0.45	1.36	1.97	3.00	2.19	0.32	-0.21	2.12	2.93
自然環境	24.再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	-0.14	0.09	-0.92	-0.65	-0.33	-3.18	0.45	0.00	1.33	1.56	-2.83	0.00	1.35	1.75
	25.ごみ対策の充実	1.64	1.58	1.27	1.38	1.07	2.73	1.36	1.18	3.33	4.38	1.17	1.35	2.59	1.29
	26.し尿収集・処理の充実	2.07	1.36	1.90	1.50	1.00	3.89	1.82	2.29	5.33	3.44	2.90	1.56	3.33	1.52
生活環境	27.生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	0.55	0.00	0.16	1.21	-0.67	-1.36	-0.45	2.00	2.33	1.56	0.48	0.52	1.92	1.95
	28.商業の振興	-1.14	-1.88	-1.19	0.00	-1.33	-2.73	-3.18	-1.47	-0.67	0.31	-3.17	-1.56	1.67	2.65
	29.工業の振興	1.00	0.80	1.02	1.50	1.33	-3.50	-0.91	1.18	2.33	0.31	0.17	0.54	2.59	2.14
	30.地場産業の振興	0.45	-0.18	-0.24	1.00	0.67	-1.36	-1.67	1.18	0.67	0.63	-0.97	0.32	2.04	2.24
	31.雇用対策の充実	-0.58	-0.64	-1.19	-0.69	-1.33	-2.50	-3.18	-1.32	1.33	-0.31	-3.39	-0.73	1.60	1.24
	32.企業誘致の推進	-1.02	-1.32	-1.41	-0.83	-2.00	-1.36	-3.18	-1.14	-1.00	-1.25	-2.58	-0.52	1.00	1.24
観光	33.観光の振興	0.76	-0.61	0.16	1.00	1.43	0.45	-0.45	0.44	0.71	0.31	-0.97	0.21	1.85	3.35
農林業	34.農業の振興	0.46	-0.73	0.23	1.00	0.36	-0.91	-3.64	0.88	0.67	0.00	-2.90	0.00	1.48	1.87
	35.畜産の振興	0.25	-0.61	-0.23	0.17	0.67	-0.91	-2.73	0.15	1.00	2.19	-1.29	-0.10	0.74	1.45
	36.鳥獣害対策の充実	-0.21	-0.70	-1.61	-0.17	-1.00	-4.09	-3.64	-1.29	-0.33	1.56	-3.39	-1.25	1.48	1.71
	37.林業の振興	0.54	-0.36	0.00	0.17	0.67	-3.18	-3.18	0.29	0.67	3.13	-1.29	-0.10	1.30	1.76
基盤整備	38.道路、橋梁の整備・維持管理	-0.11	-0.35	-0.92	0.65	-0.67	-3.00	0.00	-0.71	1.00	3.75	-2.26	0.11	1.85	2.70
	39.上下水道の整備・維持管理	1.34	1.34	1.31	1.61	0.33	0.56	0.91	2.50	3.33	4.06	1.29	1.35	2.50	2.14
	40.リニアを活かす基盤整備	-1.19	-1.09	-0.85	0.16	1.07	-2.27	-0.45	-1.14	0.00	-0.31	-3.23	0.00	3.15	1.74
都市計画・整備	41.良好な街並み・景観の整備	0.23	-0.44	-0.86	0.65	0.67	0.00	-2.27	0.71	1.67	1.56	-1.45	0.00	2.31	3.05
	42.計画的な都市整備の推進	-1.38	-1.84	-1.38	-0.65	0.33	-3.00	-3.18	-0.29	1.07	-0.63	-2.67	-1.56	1.67	2.08
	43.公園・緑地の整備・維持管理	-0.34	-0.79	-0.86	-0.65	-0.36	-0.91	-4.50	0.59	2.33	0.63	-1.61	-1.77	0.96	3.13
	44.居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	-1.44	-1.70	-1.15	-1.94	-1.00	-1.82	-4.00	-0.29	-0.67	-2.81	-4.00	-1.98	2.04	1.64
公共交通	45.公共交通機関の整備・充実	-1.27	-1.49	-3.38	0.00	-2.00	-4.09	-2.27	-2.34	-1.33	-1.25	-5.48	-2.50	0.93	2.18
広報・広聴	46.情報発信の強化	-0.53	-0.26	-1.92	1.83	0.67	-4.00	-2.27	0.43	0.67	1.88	-0.65	-0.85	1.30	1.69
行政運営	47.公共施設の適正化の推進	0.30	-0.27	-1.00	1.13	0.00	-3.50	0.00	0.29	1.00	2.19	-0.65	-0.33	1.67	2.68
	48.行政サービスの向上・適正化	-0.32	-0.26	-0.77	1.17	0.71	-3.64	0.00	0.59	0.00	-0.31	-1.94	-1.04	1.30	1.81
	49.効率的な財政運営の推進	-0.62	-0.96	-1.31	0.32	0.67	-4.55	-1.36	1.00	0.00	-0.63	-2.74	-0.63	0.77	1.44
	50.デジタル化の推進	-0.57	-0.53	-1.59	-0.83	0.67	-2.27	-2.27	0.57	-0.33	1.25	-1.29	-0.21	1.48	1.76

【市民 1,500人】＜重要度＞

(スコア)

分野	項目	中津地区	苗木地区	坂本地区	落合地区	阿木地区	神坂地区	山口地区	坂下地区	川上地区	加子母地区	付知町地区	福岡地区	蛭川地区	その他
全体平均		5.20	5.12	5.20	5.04	5.25	5.78	5.14	5.20	8.07	4.65	5.15	5.62	5.31	5.95
子育て・教育	1.子育て支援の推進	7.21	7.75	7.76	8.00	7.92	7.00	8.57	6.56	10.00	7.31	6.52	7.38	7.41	6.43
	2.学校教育の推進	7.02	7.44	7.40	7.33	6.25	7.00	7.14	6.41	10.00	6.54	7.12	7.38	6.30	5.71
	3.幼児教育の推進	6.39	7.31	6.38	7.17	6.25	6.00	7.14	5.16	8.33	5.38	6.52	6.79	6.74	5.71
健康・福祉	4.健康づくりの推進	5.73	5.00	5.71	6.83	6.67	5.00	5.00	5.61	8.33	3.46	5.30	6.31	5.50	6.43
	5.地域医療の充実	7.49	7.44	8.01	6.83	8.08	7.50	6.43	8.33	10.00	6.92	9.85	9.15	8.39	8.57
	6.児童福祉の充実	6.10	6.50	7.08	6.17	5.00	6.00	7.50	6.45	8.33	4.23	7.58	6.43	6.67	4.29
	7.障がい者福祉の充実	6.14	5.98	6.62	6.83	5.00	8.00	7.86	7.34	10.00	5.38	7.42	7.26	6.79	3.57
	8.高齢者福祉の充実	6.60	6.43	6.47	6.56	5.38	5.83	7.86	6.81	10.00	7.31	7.33	8.02	7.04	4.29
	9.社会保障の充実	6.70	6.03	7.24	7.50	6.54	6.67	7.14	7.22	8.33	5.77	8.62	7.26	6.48	8.57
人権・共生社会	10.多様性の尊重・多文化共生の推進	2.94	1.50	2.60	2.66	2.50	4.17	1.43	2.50	8.33	3.46	2.93	3.10	3.15	5.00
	11.人権教育の推進	3.97	3.75	4.29	5.00	3.46	5.83	4.29	5.28	8.33	2.69	3.33	4.63	4.48	4.29
協働・コミュニティ	12.協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	3.50	2.63	3.12	3.28	3.46	5.83	3.57	2.36	10.00	2.69	2.33	3.17	3.48	3.57
	13.国際交流の充実	2.11	0.50	1.82	1.56	1.92	3.33	1.43	2.08	6.67	1.25	0.83	3.45	2.52	2.14
移住・定住	14.移住・定住の促進	4.07	3.38	2.79	3.44	6.15	4.17	5.71	4.17	10.00	6.54	3.83	4.52	5.33	4.17
生涯学習・社会人教育	15.生涯学習の充実	3.63	3.85	2.66	3.13	3.08	3.33	1.43	2.92	6.67	3.08	2.33	4.17	4.11	3.57
	16.社会人の学び直しの充実	3.15	3.75	2.17	2.03	2.69	4.17	1.43	2.08	5.00	1.15	2.59	4.00	3.48	4.29
文化・スポーツ	17.歴史・文化・伝統芸能の保全・伝承・利活用	4.05	3.50	3.27	2.50	3.46	6.00	2.86	3.89	8.33	3.08	3.00	3.69	4.19	5.00
	18.スポーツの振興	2.94	2.88	2.44	2.97	3.08	4.00	4.29	3.47	6.67	1.54	2.59	2.20	3.44	3.57
防災・防犯	19.防災・減災対策の充実	6.99	6.63	6.79	6.41	6.54	9.17	5.71	7.14	10.00	8.08	7.50	8.10	6.85	8.00
	20.消防・救急体制の充実	7.09	6.59	7.44	7.34	7.31	8.33	7.14	7.92	8.33	6.92	6.50	7.91	7.22	8.57
	21.防犯・交通安全対策の充実	7.01	6.63	7.05	6.61	6.15	6.67	5.00	7.08	8.33	6.92	5.67	6.74	6.85	7.14
	22.消費生活対策の充実	5.48	5.13	6.35	5.94	5.00	5.83	5.83	5.69	6.67	4.62	6.21	5.60	5.58	7.14
自然環境	23.自然環境の保全	5.75	5.63	5.06	5.47	5.38	6.67	5.71	5.28	8.33	5.00	5.50	5.73	6.30	5.00
	24.再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	4.41	4.50	4.23	2.66	3.85	5.00	4.29	3.19	6.67	2.31	2.86	5.49	5.00	5.00
生活環境	25.ごみ対策の充実	6.36	6.13	6.22	5.47	5.77	5.83	4.29	7.08	8.33	3.85	6.50	6.86	7.78	5.71
	26.し尿収集・処理の充実	4.83	4.74	5.06	5.94	4.62	5.83	7.14	5.42	8.33	5.00	5.17	6.19	5.74	4.29
	27.生活環境保全の推進(斎場・墓地の整備等)	4.60	4.88	4.62	5.00	4.62	4.00	4.29	5.28	10.00	5.38	6.17	5.71	5.19	3.57
商工業	28.商業の振興	5.60	5.50	5.77	5.63	4.62	5.83	4.29	5.83	6.67	3.85	6.72	5.48	5.37	5.71
	29.工業の振興	4.69	3.97	4.62	5.00	5.00	3.33	5.00	5.83	8.33	4.23	6.38	5.36	4.26	4.29
	30.地場産業の振興	5.31	5.75	5.64	6.13	6.15	3.33	3.57	5.42	8.33	5.00	6.21	5.73	5.93	4.29
	31.雇用対策の充実	6.19	5.25	6.47	6.56	8.46	7.00	7.14	6.25	8.33	5.77	7.59	6.19	5.56	7.14
	32.企業誘致の推進	4.74	3.63	4.48	5.78	5.38	6.67	7.14	4.31	8.33	3.33	5.86	6.22	3.89	6.43
観光	33.観光の振興	5.54	5.63	4.74	5.00	4.23	5.83	5.00	5.28	6.67	5.00	4.50	5.24	4.81	6.43
農林業	34.農業の振興	5.31	6.38	5.64	5.97	6.54	6.67	7.86	6.00	8.33	5.00	5.00	6.31	5.37	3.57
	35.畜産の振興	4.15	4.38	4.17	3.75	4.23	4.17	7.50	4.43	6.67	3.46	3.04	5.12	4.04	1.43
	36.鳥獣害対策の充実	4.31	5.85	4.49	4.84	7.69	5.83	1.43	5.57	10.00	4.62	4.50	6.10	5.56	6.43
	37.林業の振興	4.09	4.15	4.10	4.84	5.00	5.83	3.57	3.71	8.33	6.36	5.34	5.49	4.07	5.00
基盤整備	38.道路・橋梁の整備・維持管理	6.34	6.34	6.60	6.88	7.31	9.17	7.14	6.81	8.33	8.08	7.17	7.14	7.41	8.57
	39.上下水道の整備・維持管理	6.48	6.88	6.99	6.72	7.08	6.67	6.43	6.43	8.33	6.92	6.67	6.55	7.04	7.86
	40.リニアを活かす基盤整備	4.24	4.15	5.51	2.81	4.23	5.00	4.29	1.86	6.67	3.46	2.50	4.64	4.07	7.14
都市計画・整備	41.良好な街並み・景観の整備	5.54	5.00	4.81	4.53	5.00	6.67	4.29	5.00	6.67	3.08	4.17	4.17	3.81	9.29
	42.計画的な都市整備の推進	5.14	5.37	5.26	4.53	5.00	7.50	4.17	4.14	6.67	2.31	3.83	5.12	4.48	9.29
	43.公園・緑地の整備・維持管理	5.46	5.37	4.49	4.06	3.85	4.17	7.14	5.29	6.67	3.46	3.33	4.76	4.44	7.14
	44.居住環境の整備(住宅改修補助、空き家対策など)	5.65	6.50	5.64	5.00	6.67	5.00	5.71	5.57	6.67	7.31	5.00	6.07	5.37	7.86
公共交通	45.公共交通機関の整備・充実	6.59	6.34	6.99	5.31	6.92	8.33	5.71	6.57	8.33	7.69	7.41	6.55	7.78	9.29
広報・広聴	46.情報発信の強化	4.24	4.63	4.36	2.74	4.23	5.83	2.86	4.43	6.67	3.46	3.93	4.29	4.07	7.86
	47.公共施設の適正化の推進	4.66	4.15	3.91	3.44	3.33	5.83	3.57	4.57	6.67	3.08	3.33	3.57	3.65	8.57
行政運営	48.行政サービスの向上・適正化	5.00	5.24	5.51	5.00	5.38	5.00	4.29	5.14	8.33	4.62	4.67	5.00	4.48	7.86
	49.効率的な財政運営の推進	4.94	5.50	5.51	5.00	6.54	5.00	7.14	5.43	8.33	3.46	5.17	4.64	4.81	5.83
	50.デジタル化の推進	3.56	3.63	3.72	2.03	3.46	3.33	1.43	3.57	6.67	3.08	3.17	3.93	3.15	6.43

【web アンケート】 <重要度>

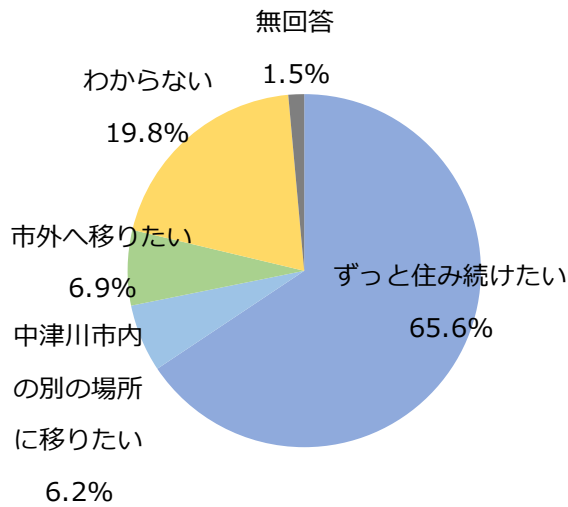
(スコア)

分野	項目	中津地区	苗木地区	坂本地区	落合地区	阿木地区	神坂地区	山口地区	坂下地区	川上地区	加子母地区	付知町地区	福岡地区	姪川地区	その他
全体平均		5.78	5.74	5.72	5.82	4.60	5.93	5.20	4.88	5.90	5.65	5.52	5.33	5.76	5.34
子育て・教育	1. 子育て支援の推進	7.47	6.40	7.42	8.06	6.43	8.64	9.09	7.06	7.33	6.67	6.83	6.67	6.67	5.04
	2. 学校教育の推進	7.04	7.63	6.72	8.23	7.00	8.18	8.64	5.97	5.67	6.25	7.10	6.56	7.31	5.61
	3. 幼児教育の推進	6.77	6.34	6.11	7.10	5.67	7.27	8.64	5.91	5.67	5.94	7.10	6.35	7.04	5.04
健康・福祉	4. 健康づくりの推進	5.74	5.53	5.38	5.65	6.33	5.45	5.00	5.74	5.71	5.94	4.03	4.27	6.85	5.16
	5. 地域医療の充実	7.52	7.28	7.42	7.26	6.33	9.09	8.64	6.76	7.33	6.88	6.29	6.49	7.96	5.73
	6. 児童福祉の充実	6.50	5.88	6.41	6.94	5.67	6.82	7.27	5.91	5.67	6.25	5.97	5.85	7.59	4.88
	7. 障がい者福祉の充実	6.22	4.74	5.23	4.84	6.00	7.27	5.45	5.30	4.67	7.81	6.29	4.89	6.85	5.04
	8. 高齢者福祉の充実	5.82	4.17	4.69	3.87	3.33	6.50	4.09	3.79	5.33	5.63	5.81	4.58	6.11	5.04
	9. 社会保障の充実	6.23	5.88	6.17	6.29	6.79	8.18	5.00	5.76	7.33	6.56	6.29	5.32	6.48	5.33
人権・共生社会	10. 多様性の尊重・多文化共生の推進	4.63	4.20	2.85	3.23	3.00	3.64	2.73	3.79	1.67	3.67	2.74	4.17	4.07	4.84
	11. 人権教育の推進	5.77	4.65	5.32	4.84	4.33	4.55	5.00	4.24	3.67	4.69	3.39	4.79	6.30	5.28
協働・コミュニティ	12. 協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	4.50	4.56	3.69	5.00	3.67	4.09	2.73	3.68	3.67	4.06	4.03	4.27	5.93	4.18
	13. 国際交流の充実	3.29	2.77	2.97	3.21	4.00	2.73	-1.00	1.97	4.00	3.75	3.06	3.51	2.12	4.96
移住・定住	14. 移住・定住の促進	4.75	5.00	5.08	5.50	3.67	5.91	1.36	3.38	7.00	5.00	4.68	4.69	4.44	4.96
生涯学習・社会人教育	15. 生涯学習の充実	4.36	3.75	4.85	4.84	3.33	4.09	3.18	3.28	6.00	3.67	3.55	3.65	4.81	4.40
	16. 社会人の学び直しの充実	3.96	4.21	4.15	4.35	3.67	4.09	1.82	2.97	5.00	3.93	2.90	3.13	4.62	4.16
文化・スポーツ	17. 歴史・文化・伝統芸能の保全・伝承・利活用	4.79	6.09	4.77	5.81	4.33	3.64	1.82	4.55	3.00	4.67	5.00	5.10	6.11	4.96
	18. スポーツの振興	3.95	4.65	3.77	4.68	5.00	3.64	0.91	3.97	5.00	4.00	3.71	2.87	4.81	4.92
防災・防犯	19. 防災・減災対策の充実	7.20	7.02	7.08	7.58	6.00	6.82	7.27	5.45	6.33	8.13	7.42	6.46	6.48	5.98
	20. 消防・救急体制の充実	7.00	7.02	6.80	7.26	6.33	7.73	7.27	5.63	6.33	7.50	6.55	6.35	5.74	5.95
	21. 防犯・交通安全対策の充実	6.80	6.84	6.48	7.74	6.33	6.82	7.27	4.85	6.33	6.88	6.77	6.38	5.74	5.85
	22. 消費生活対策の充実	6.24	5.80	5.23	6.45	3.00	7.00	6.00	4.71	7.00	5.94	7.10	5.96	5.37	5.64
自然環境	23. 自然環境の保全	5.99	6.58	5.70	6.45	5.33	7.27	7.27	5.74	6.33	6.25	7.26	6.28	6.30	5.52
	24. 再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	5.09	4.91	4.54	4.84	4.33	5.91	4.55	3.24	5.33	5.00	4.03	3.62	5.00	5.04
生活環境	25. ごみ対策の充実	6.67	6.93	7.06	6.77	6.07	5.00	6.36	5.74	6.67	5.94	6.77	6.04	6.30	5.98
	26. し尿収集・処理の充実	5.32	5.70	5.48	5.48	4.67	4.09	6.82	5.15	5.00	6.25	4.33	4.69	5.19	5.17
	27. 生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	5.30	6.32	4.76	5.16	4.00	5.50	4.55	4.12	5.67	5.00	4.35	5.42	5.58	5.33
商工業	28. 商業の振興	6.64	5.88	6.35	6.13	4.00	4.55	6.82	5.74	7.00	6.00	6.45	6.09	5.93	5.57
	29. 工業の振興	5.73	4.65	5.24	5.16	4.00	5.45	6.36	4.70	6.33	5.67	5.65	5.52	5.56	4.64
	30. 地場産業の振興	6.00	6.07	5.94	5.65	4.00	4.55	5.00	4.85	6.67	6.25	6.45	6.15	5.20	5.33
	31. 雇用対策の充実	6.38	6.23	6.90	6.13	5.00	8.18	7.27	5.91	7.33	7.19	7.58	6.56	6.15	5.57
	32. 企業誘致の推進	5.65	5.88	5.85	5.65	5.00	6.82	7.73	3.79	6.00	5.94	5.65	4.69	5.38	4.92
観光	33. 観光の振興	5.68	6.32	5.08	5.97	5.33	5.45	4.09	5.15	6.33	5.94	5.32	5.52	5.80	5.48
農林業	34. 農業の振興	5.48	5.53	5.24	4.19	6.33	5.00	7.27	5.00	5.33	5.94	6.94	6.41	5.56	5.61
	35. 畜産の振興	4.68	4.55	4.77	4.19	4.00	4.09	5.00	4.41	5.00	5.00	3.71	5.31	5.19	4.92
	36. 鳥獣害対策の充実	4.75	5.54	5.70	5.16	4.67	5.91	5.91	4.84	6.00	5.31	5.16	5.96	5.74	5.08
	37. 林業の振興	4.84	5.36	4.85	5.17	3.67	5.50	6.82	4.71	5.71	5.63	6.61	5.00	5.37	4.96
基盤整備	38. 道路、橋梁の整備・維持管理	6.58	6.67	7.00	7.10	5.67	6.36	5.45	5.76	6.67	6.25	6.17	6.67	6.48	6.01
	39. 上下水道の整備・維持管理	6.46	6.49	6.38	6.83	5.00	5.45	6.50	5.74	6.00	6.56	5.97	6.17	5.37	5.90
	40. リニアを活かす基盤整備	5.41	5.18	6.25	5.32	4.67	7.00	1.82	4.39	5.00	3.44	2.58	4.26	3.52	5.73
	41. 良好な街並み・景観の整備	6.17	6.58	6.46	7.42	4.33	6.36	4.09	4.09	5.67	5.31	5.97	5.31	5.56	6.45
都市計画・整備	42. 計画的な都市整備の推進	6.16	5.63	7.31	6.77	3.67	7.27	2.73	5.15	6.00	5.63	5.67	5.21	5.00	6.32
	43. 公園・緑地の整備・維持管理	6.16	7.02	6.54	6.33	3.67	5.91	5.00	5.29	5.67	5.31	6.94	5.73	6.30	6.08
	44. 居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	5.58	6.25	5.69	6.67	3.67	4.55	4.09	5.00	7.67	5.94	6.13	5.42	5.77	5.69
公共交通	45. 公共交通機関の整備・充実	6.68	7.54	7.97	6.45	3.67	7.50	5.50	6.62	8.33	7.00	7.58	6.56	6.54	6.61
広報・広聴	46. 情報発信の強化	5.56	5.53	5.47	5.17	2.67	6.36	4.00	5.15	6.00	5.31	5.83	4.48	6.11	5.08
行政運営	47. 公共施設の適正化の推進	5.53	5.73	6.48	5.00	2.00	5.00	3.18	4.71	7.00	4.06	5.48	5.10	5.93	5.56
	48. 行政サービスの向上・適正化	6.26	5.53	6.38	5.83	3.67	5.91	5.91	4.85	7.33	5.94	5.65	5.83	6.11	5.24
	49. 効率的な財政運営の推進	6.54	6.49	6.67	6.67	3.67	7.73	5.45	5.45	8.00	5.33	6.13	6.25	6.30	5.44
	50. デジタル化の推進	5.12	5.36	5.23	4.68	3.00	5.91	6.36	4.26	5.33	5.33	2.90	4.06	5.56	4.92

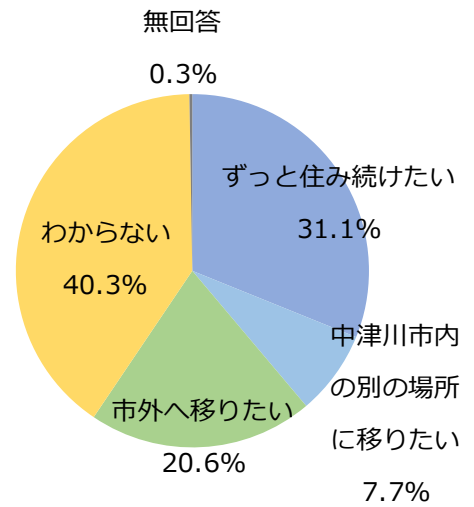
問4. 今後も現在お住まいの場所に住み続けたいですか？

①全体

【市民 1,500人】

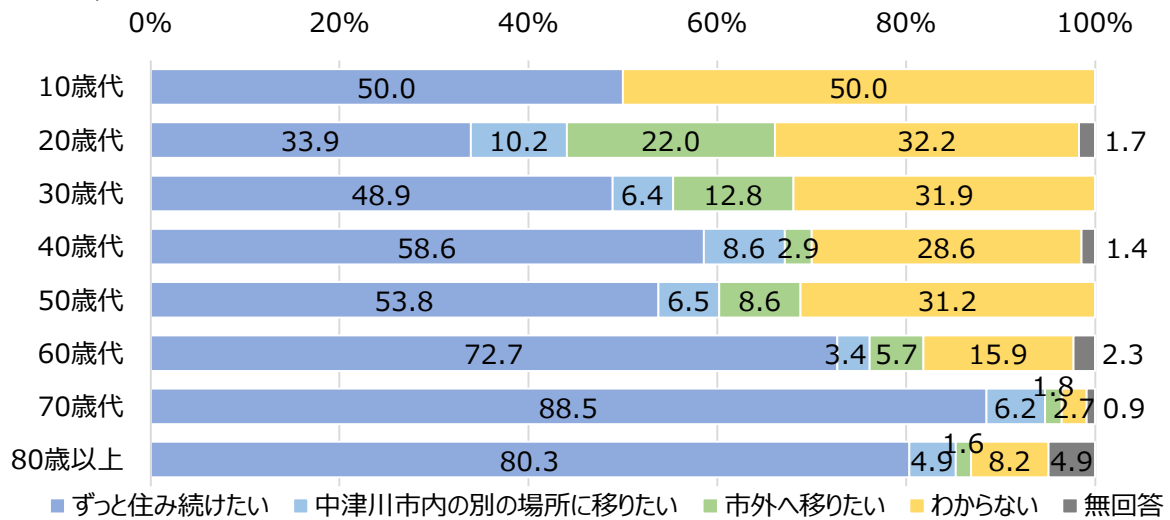


【web アンケート】

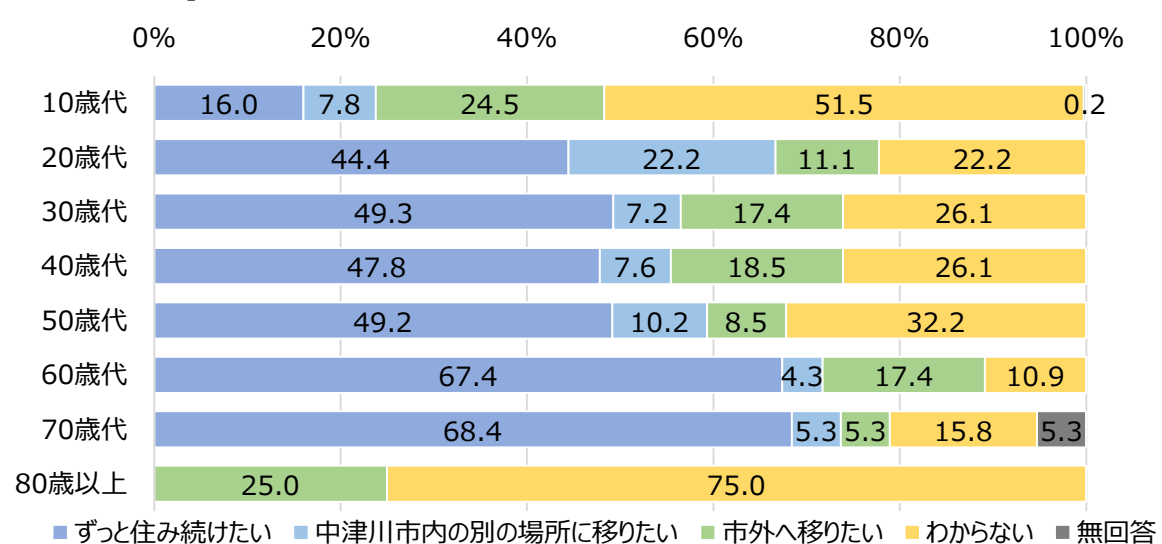


②年代別

【市民 1,500人】

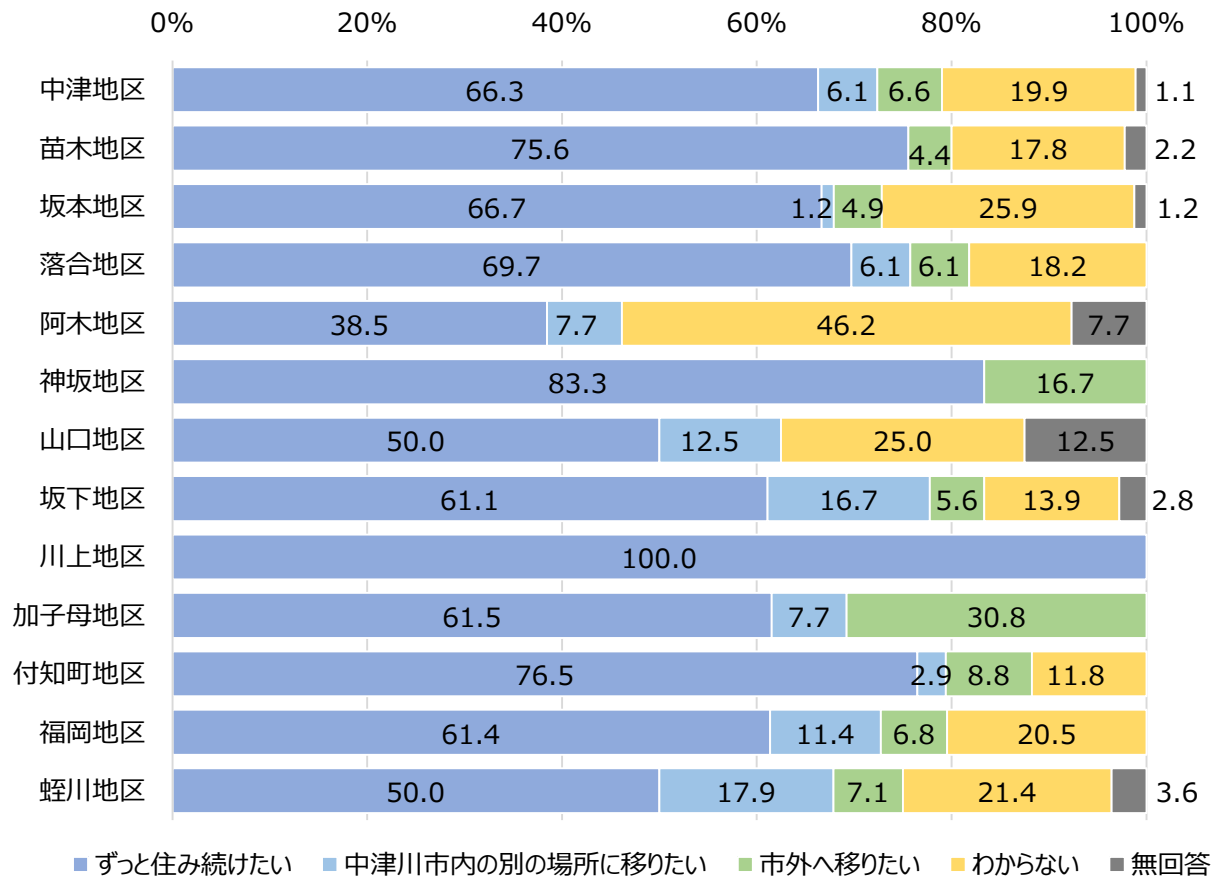


【web アンケート】

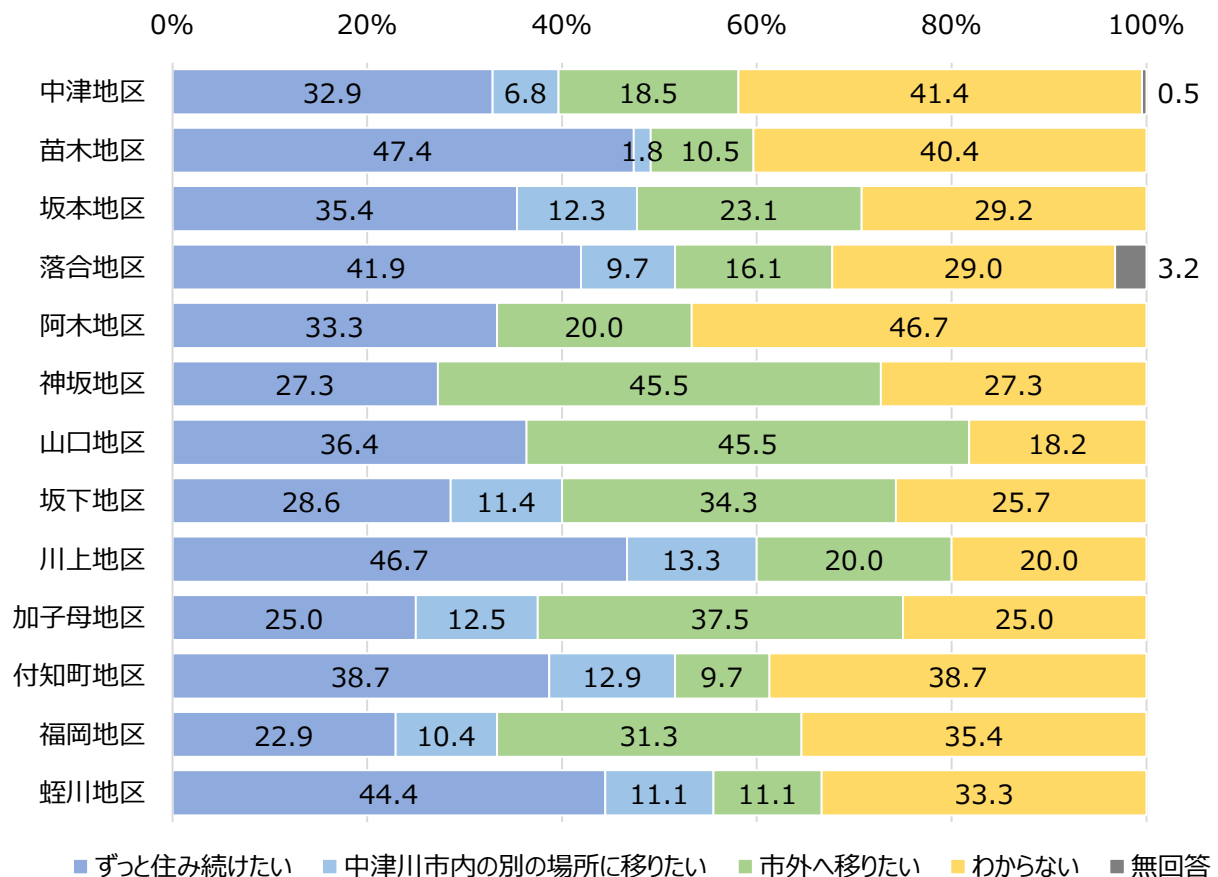


③地区別

【市民 1,500人】



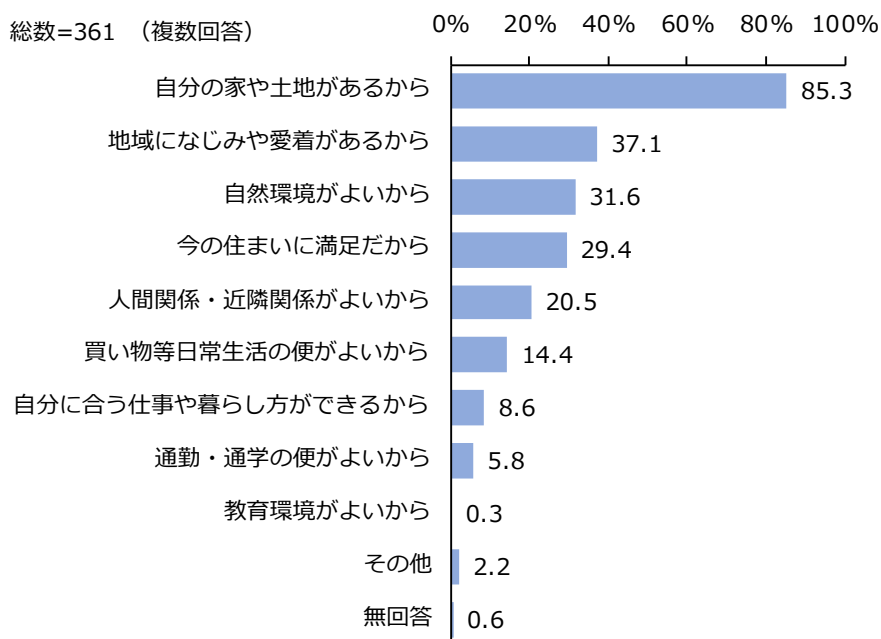
【web アンケート】



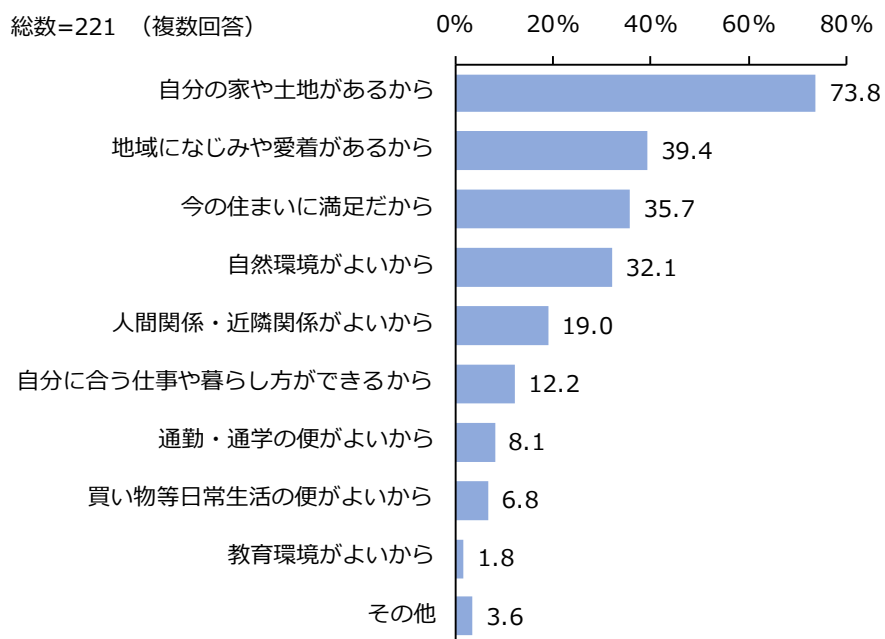
問5. 問4で「1. ずっと住みたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか？理由を次の中から選んでください。

①全体

【市民 1,500人】

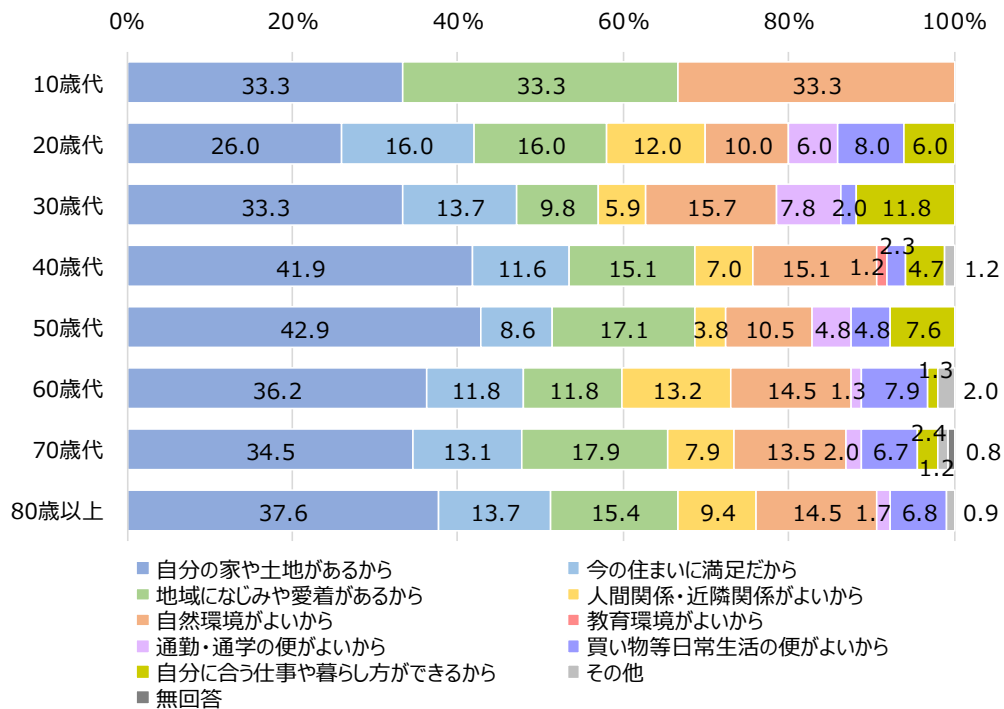


【web アンケート】

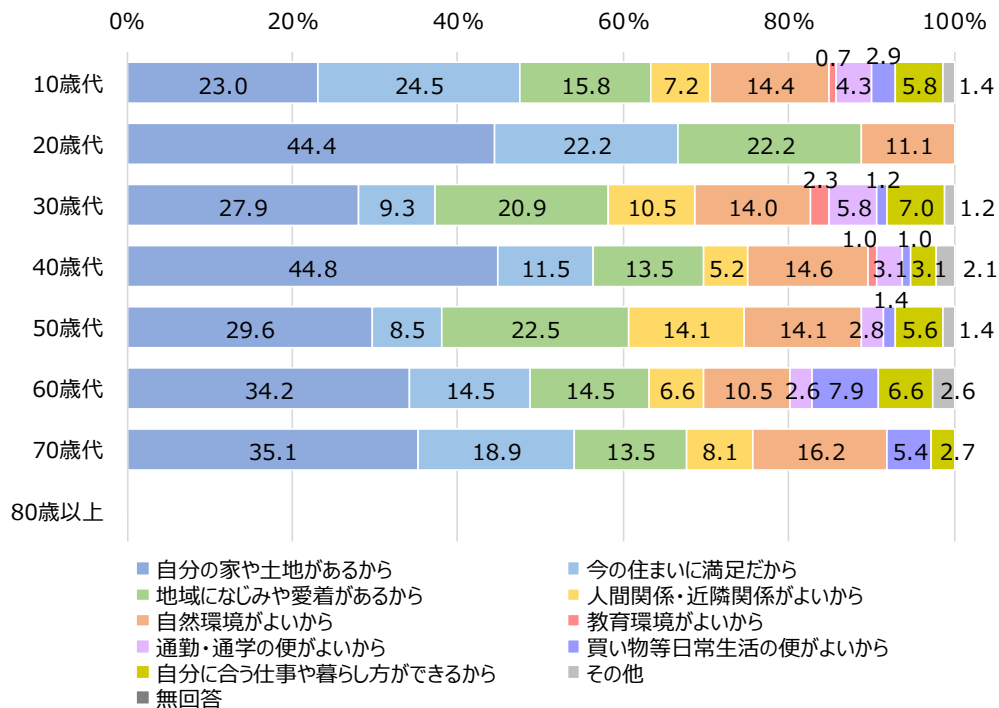


②年代別

【市民 1,500人】

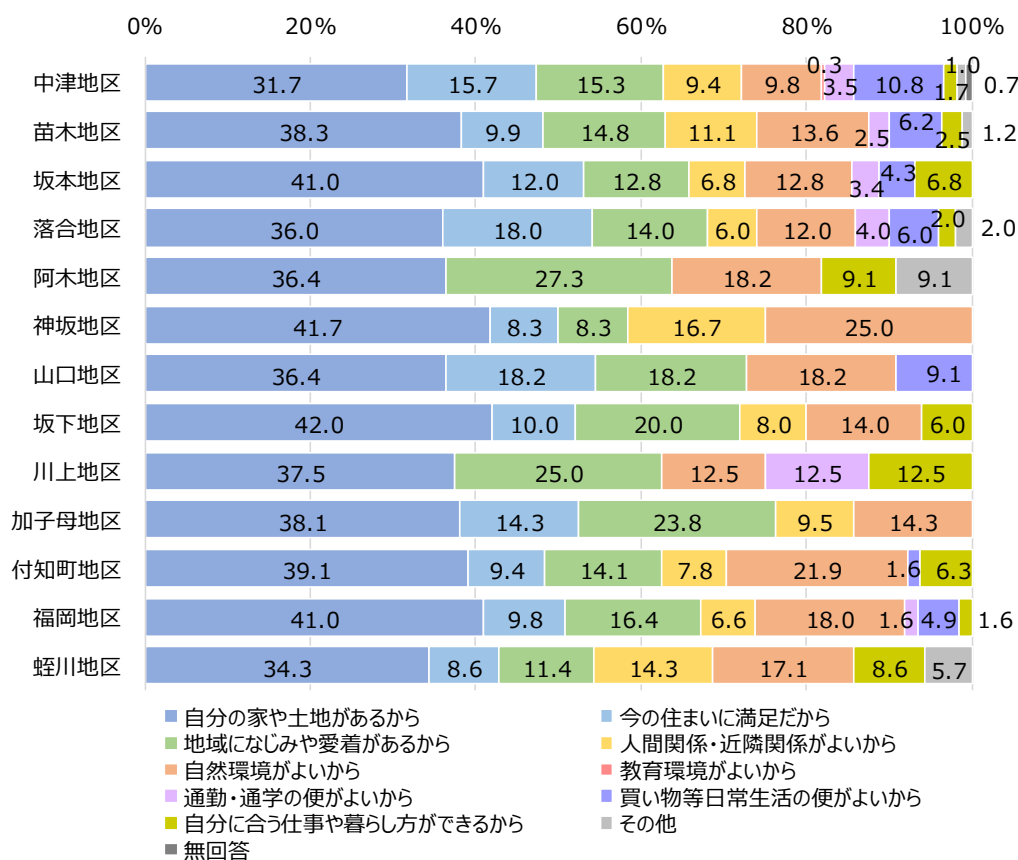


【web アンケート】

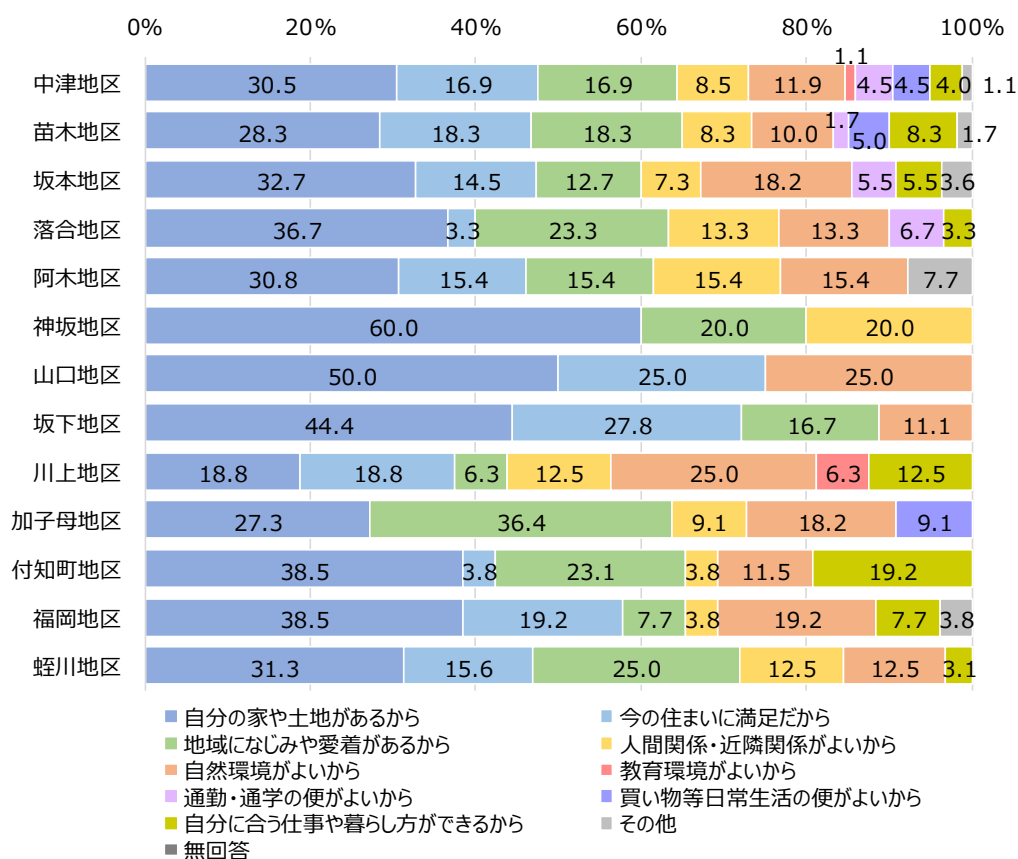


③地区別

【市民 1,500人】



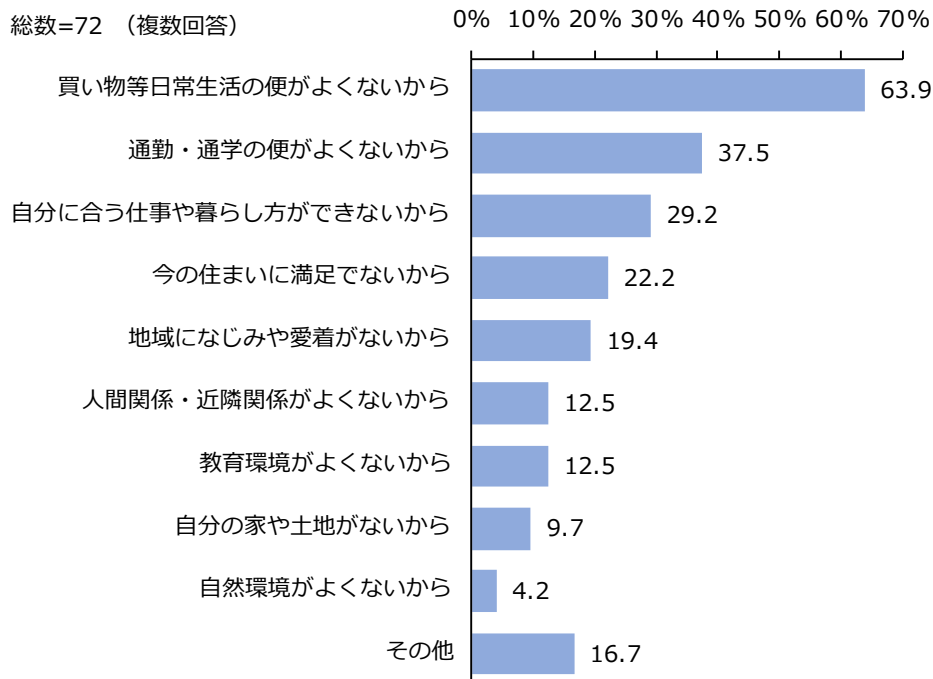
【web アンケート】



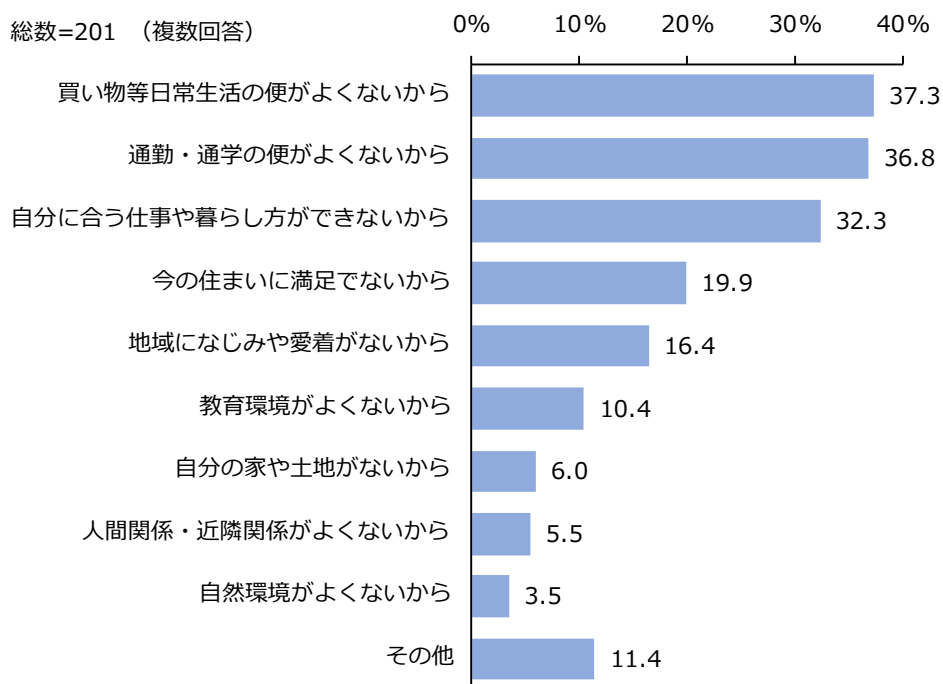
問6. 問4で「2. 中津川市内の別の場所に移りたい」「3. 市外へ移りたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか?理由を次の中から選んでください。

①全体

【市民 1,500人】

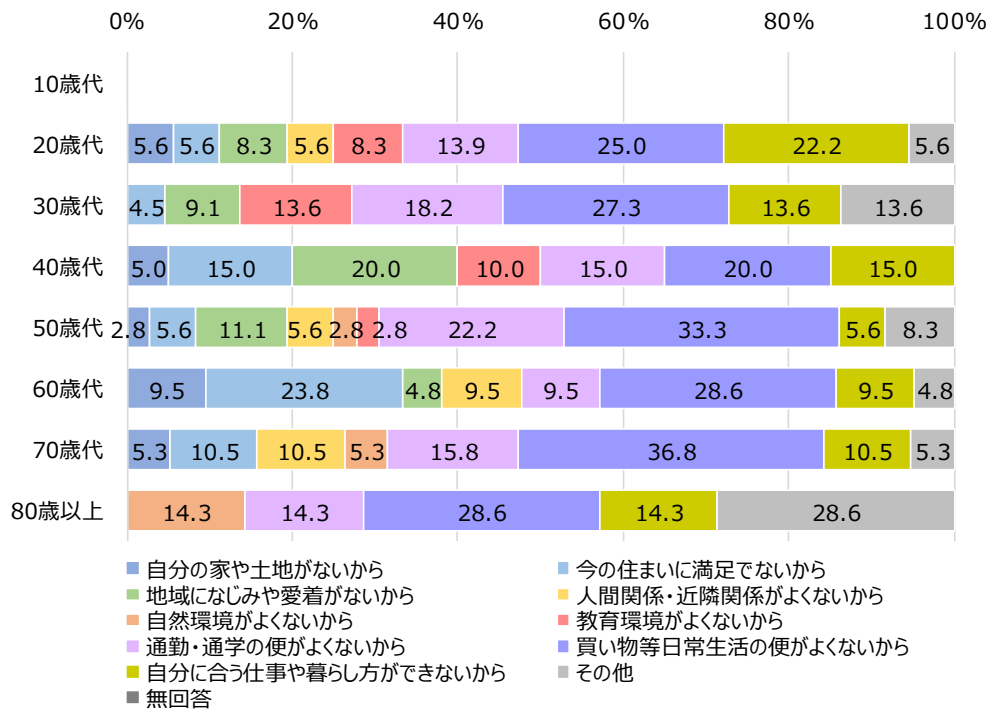


【web アンケート】

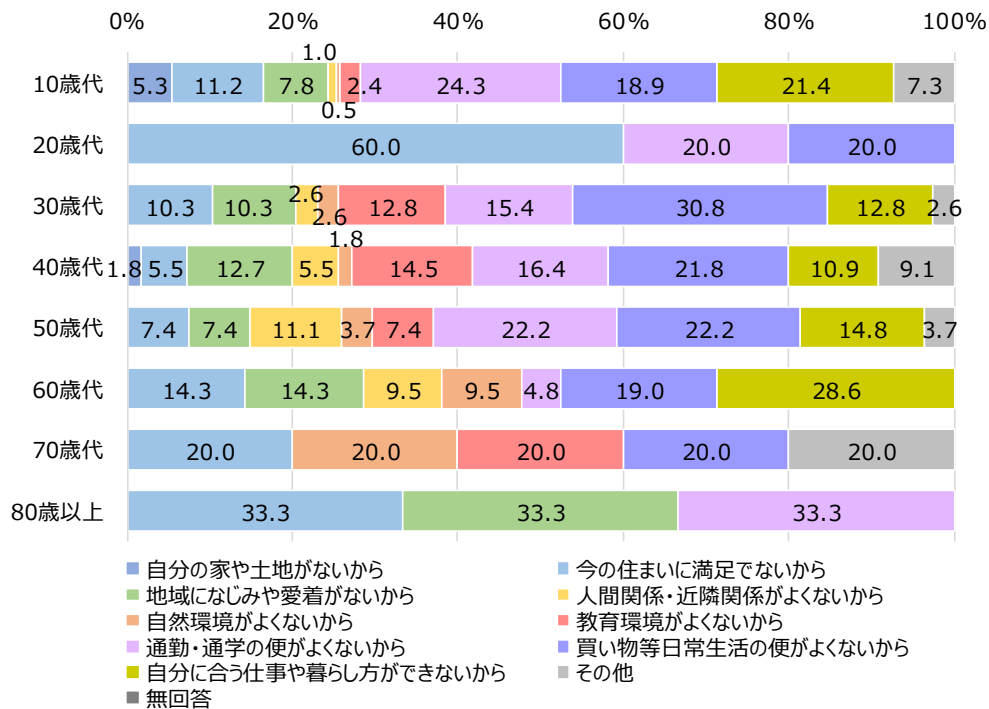


②年代別

【市民 1,500人】

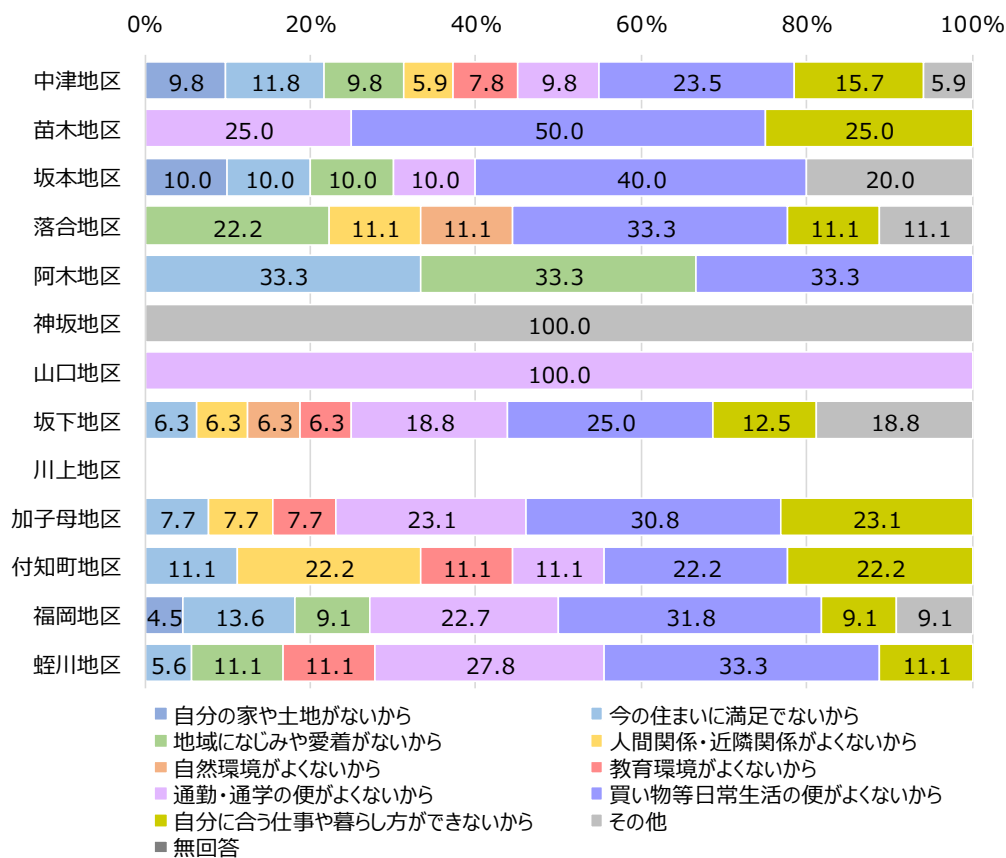


【web アンケート】

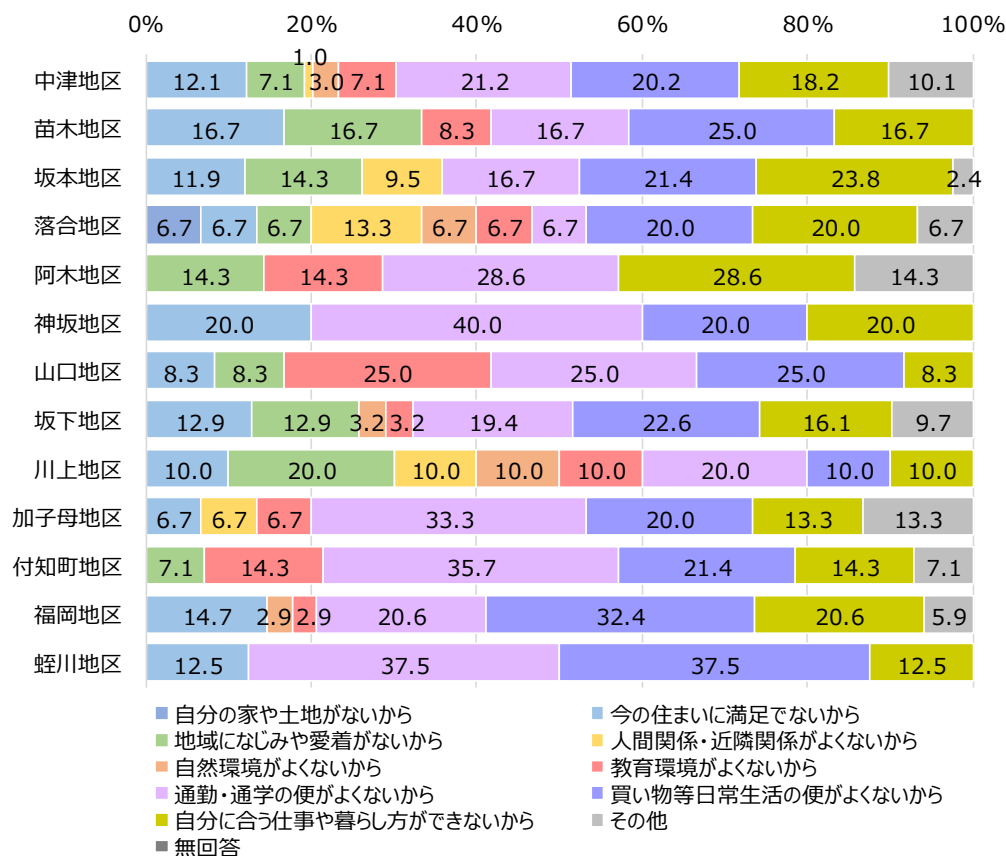


③地区別

【市民 1,500人】



【web アンケート】

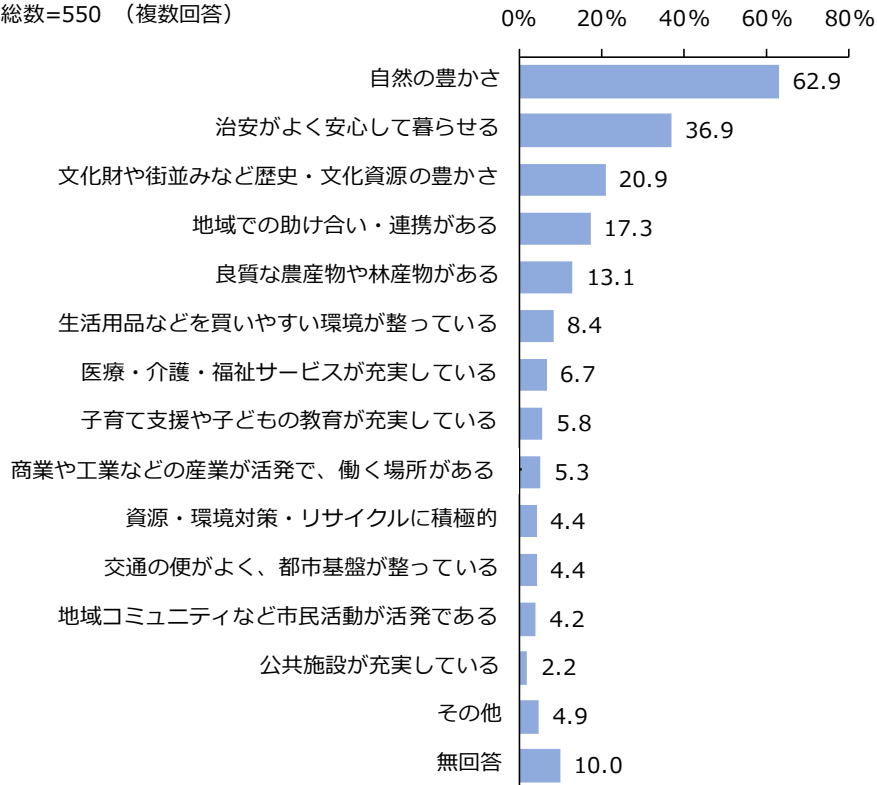


問7. 中津川市の強み（誇れるもの、他の市町村に負けていないと思うもの）は何だと思えますか？

①全体

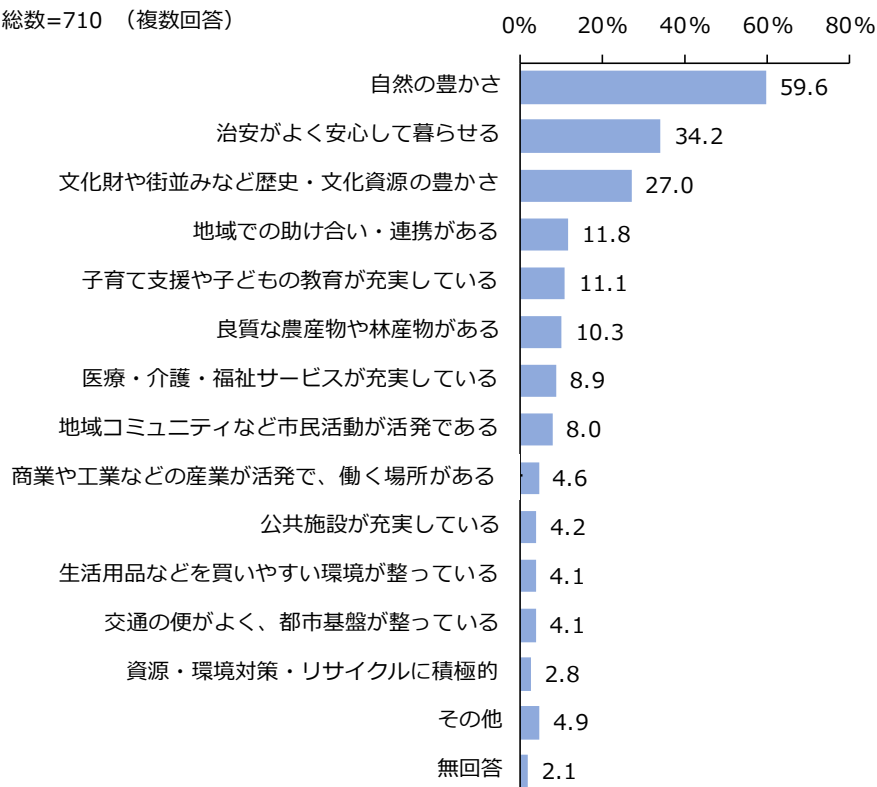
【市民 1,500人】

総数=550（複数回答）



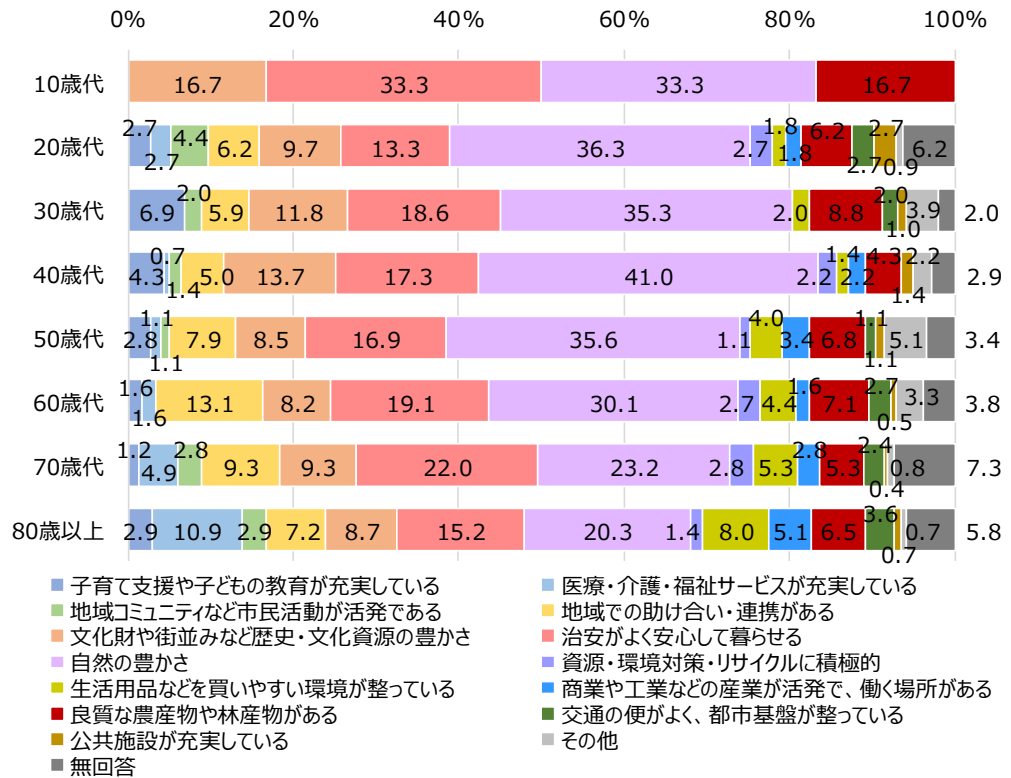
【web アンケート】

総数=710（複数回答）

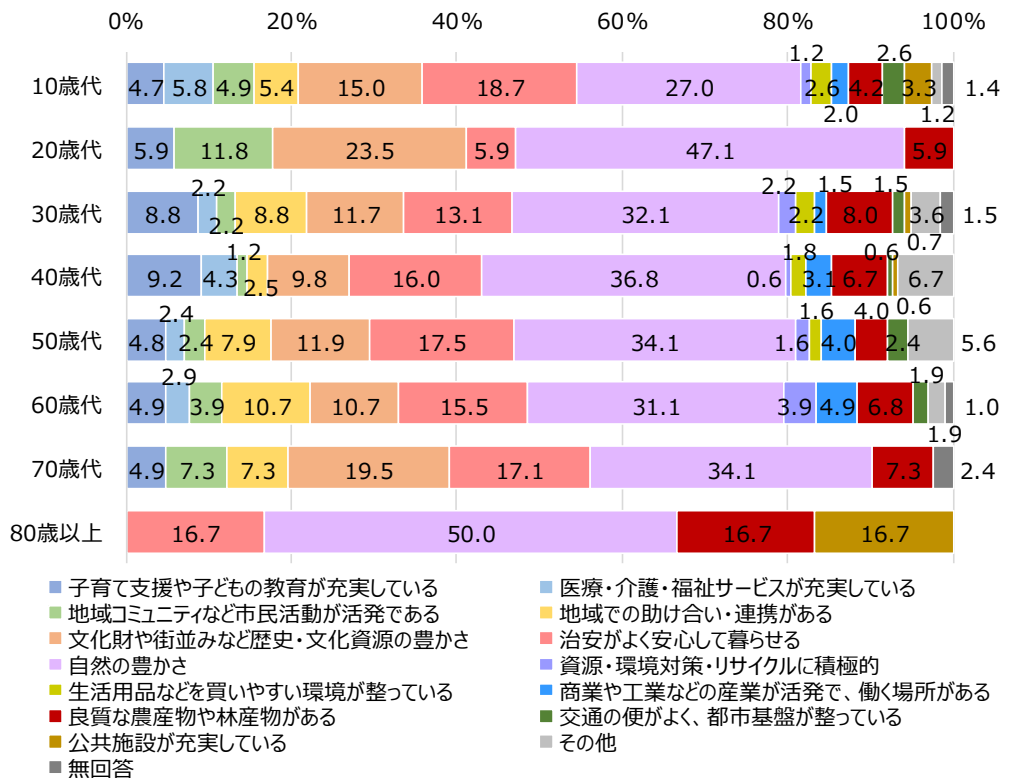


②年代別

【市民 1,500人】

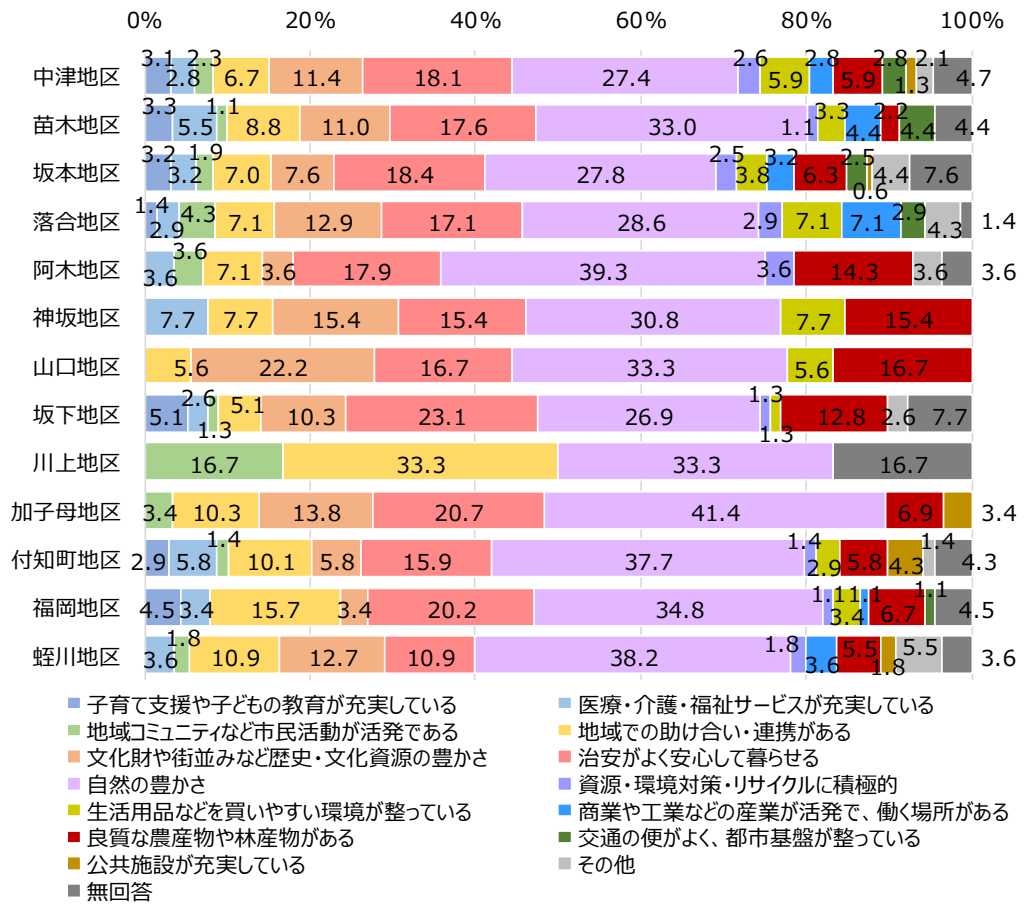


【web アンケート】

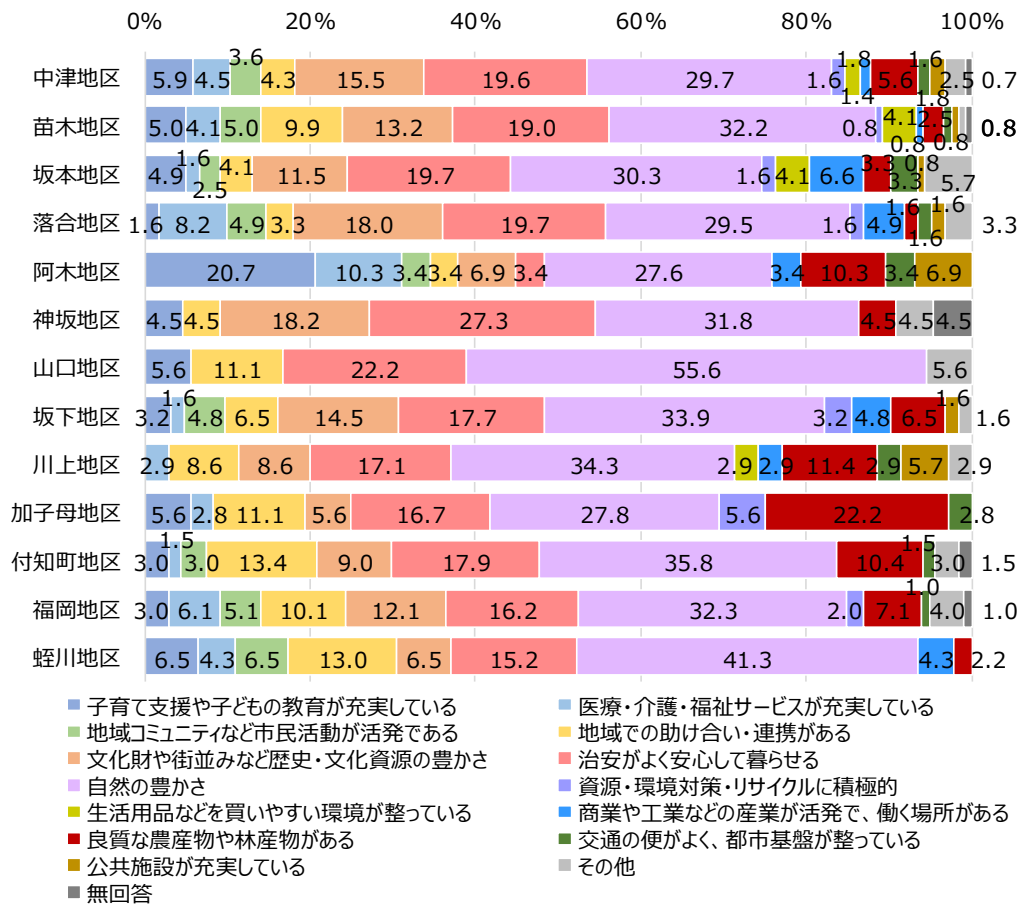


③地区別

【市民 1,500人】



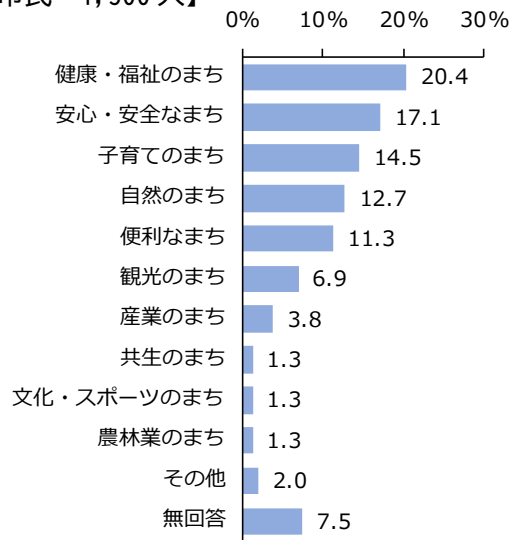
【web アンケート】



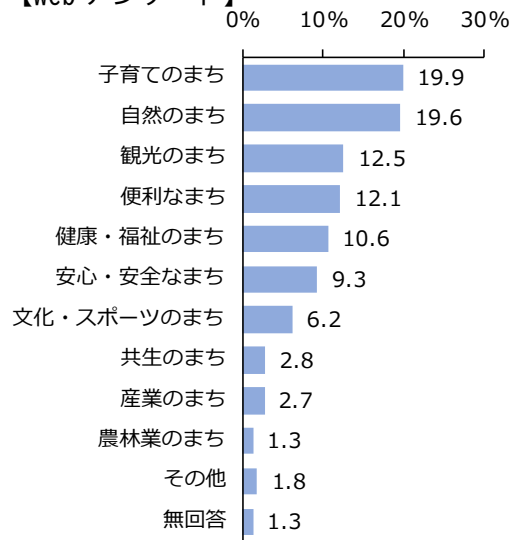
問8. あなたは、中津川市の将来イメージとして次のどれが最も望ましいと思いますか？

①全体

【市民 1,500人】

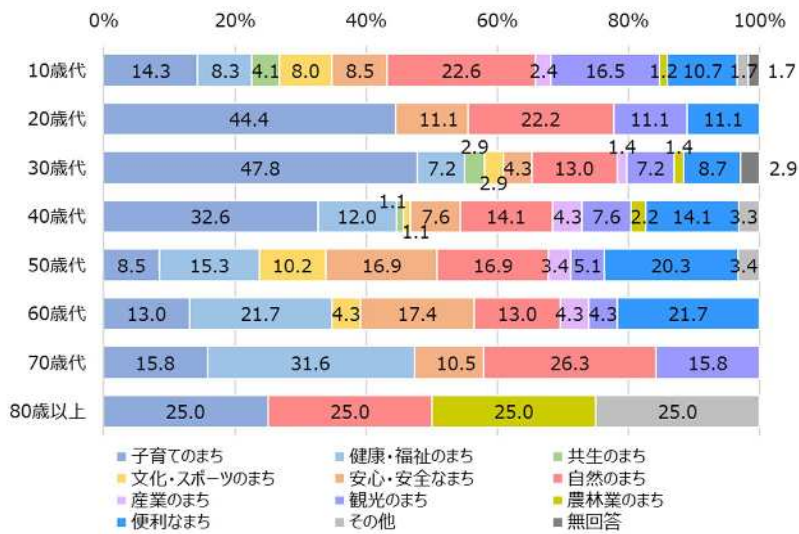


【web アンケート】

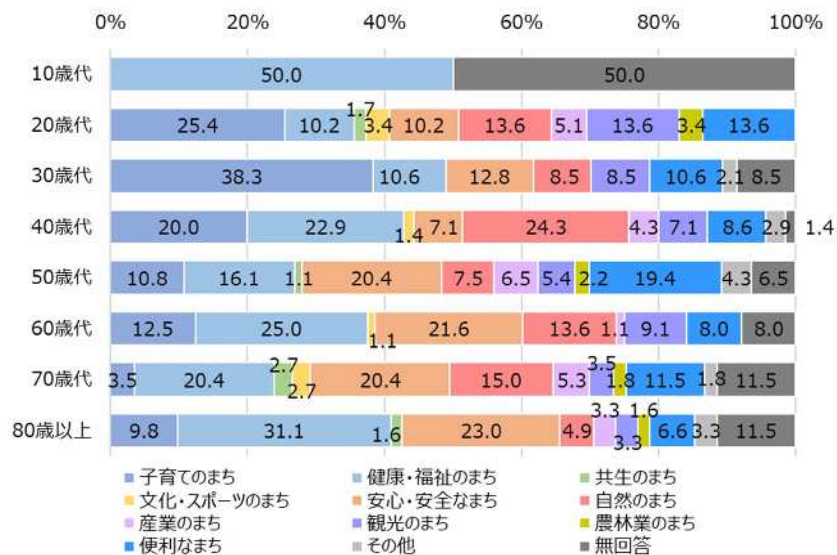


②年代別

【市民 1,500人】

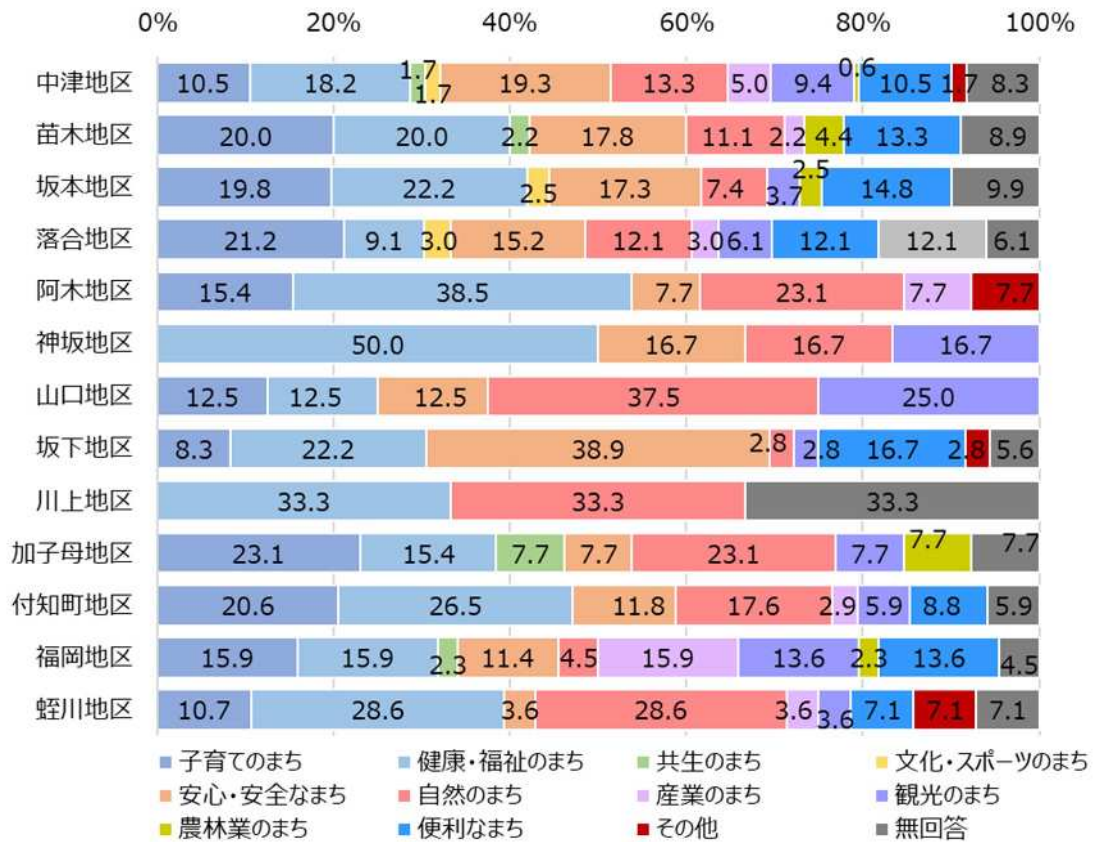


【web アンケート】

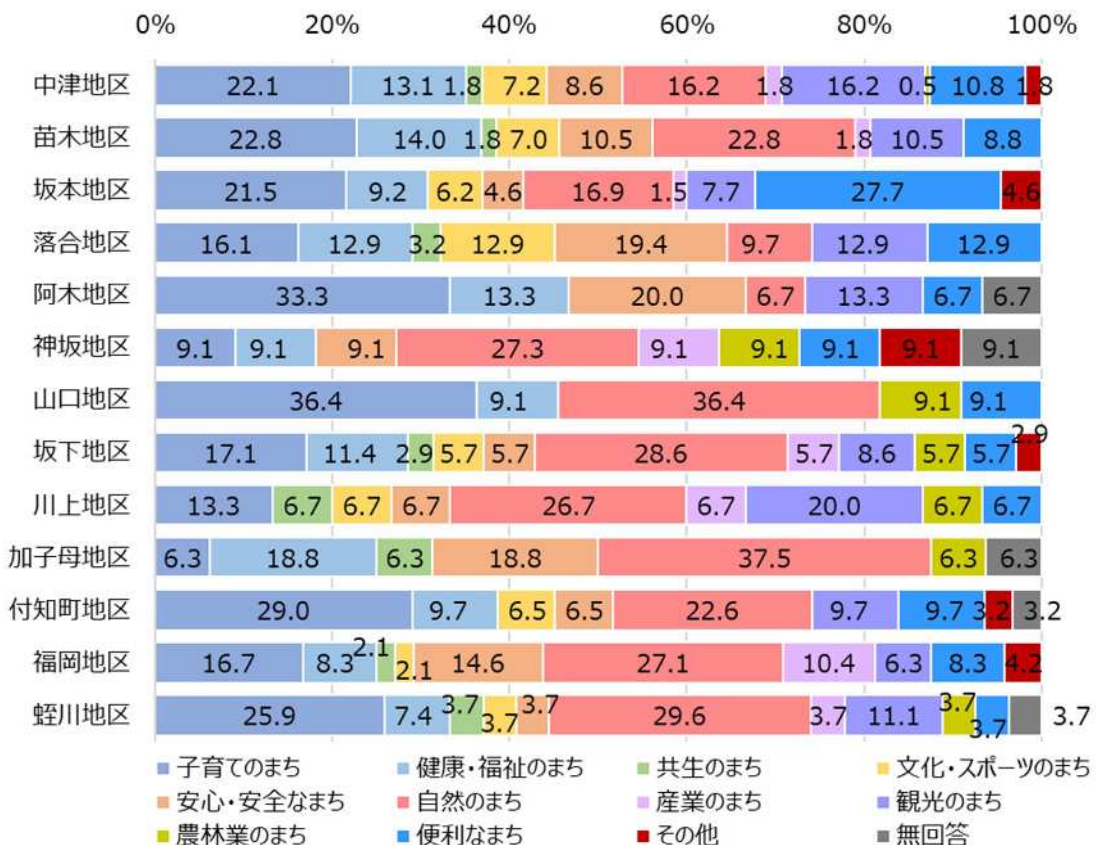


③地区別

【市民 1,500人】



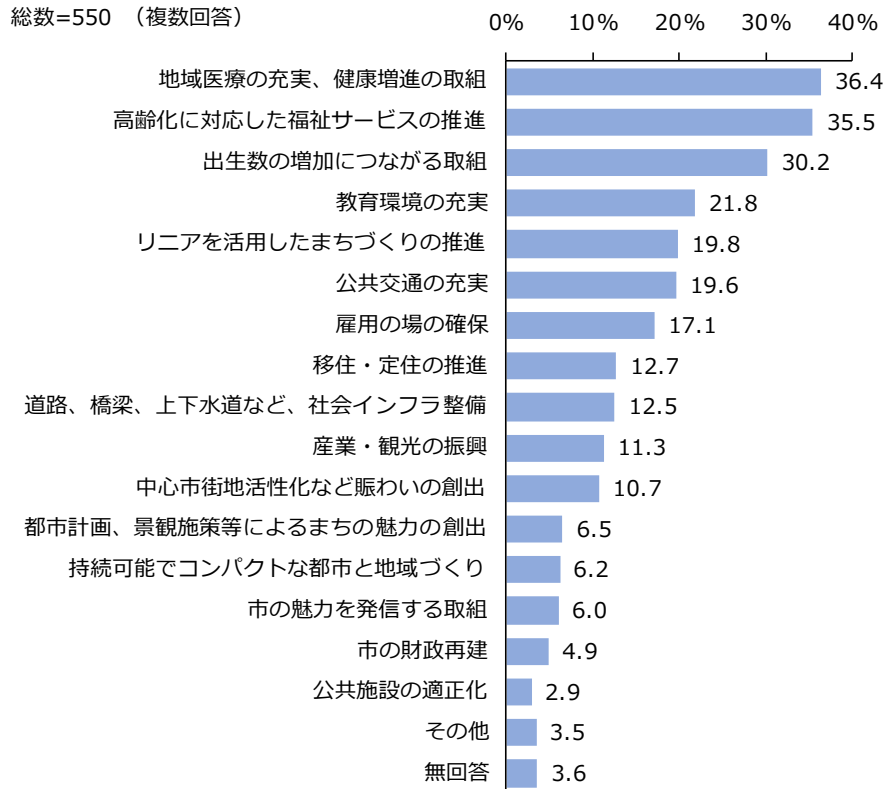
【web アンケート】



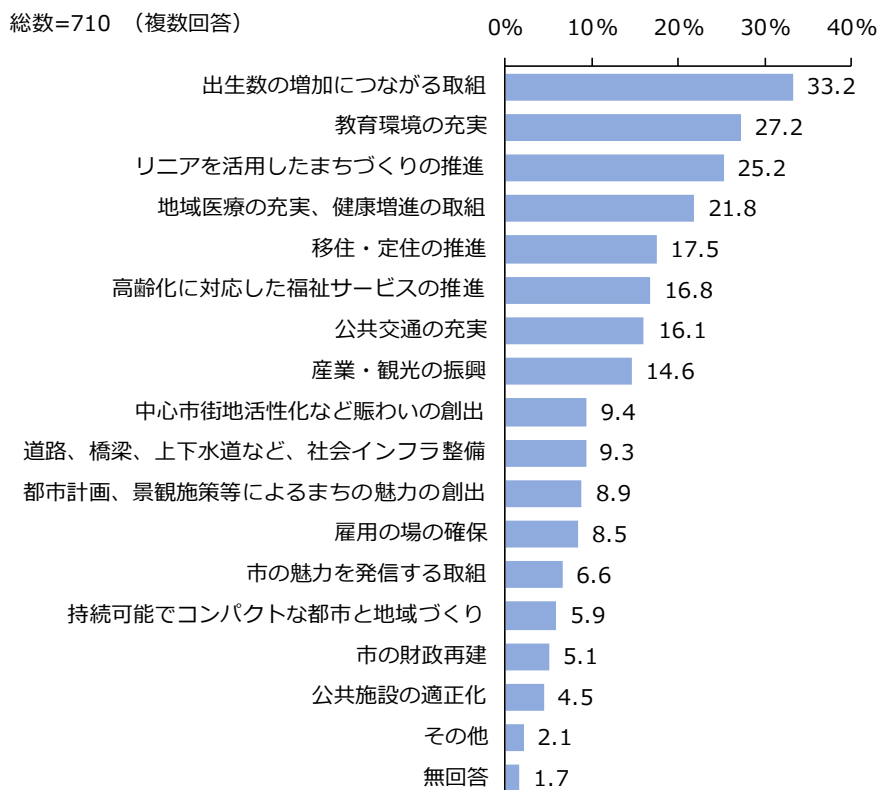
問9. あなたは、今後の中津川市のまちづくりにおいて、どのような課題に優先して取り組むべきとお考えですか？

①全体

【市民 1,500人】

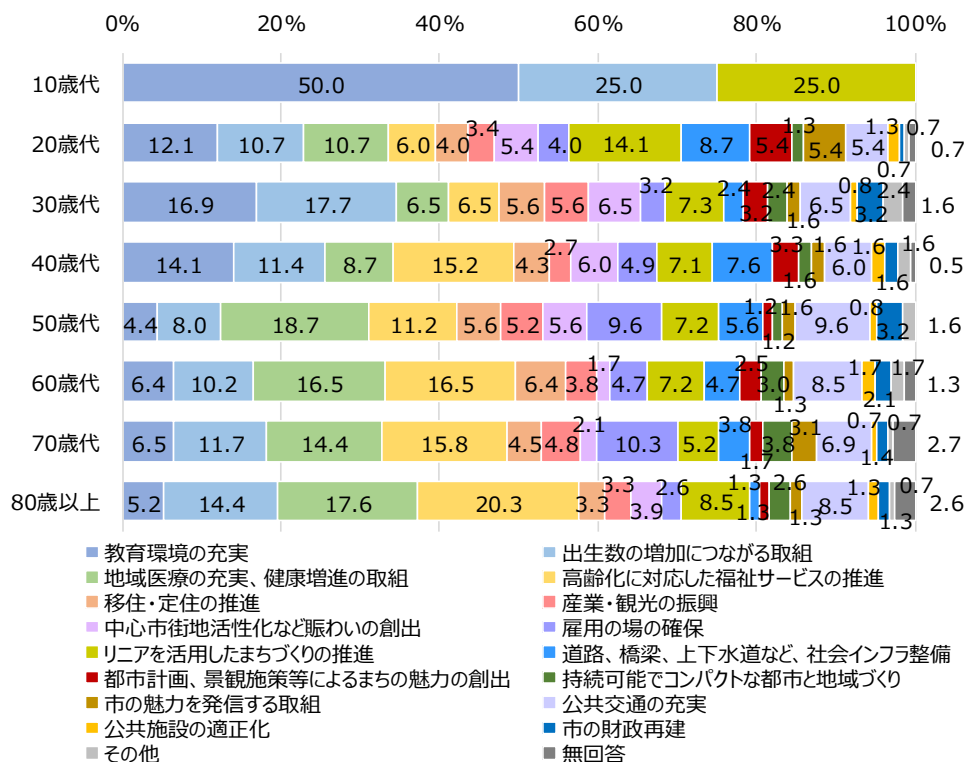


【web アンケート】

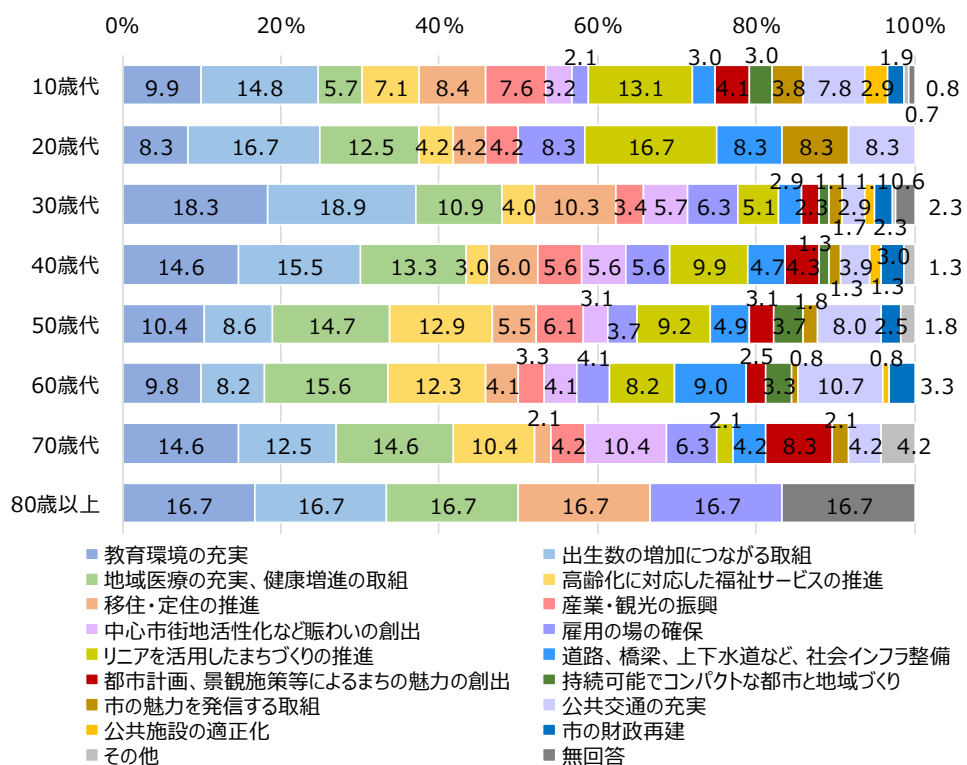


②年代別

【市民 1,500人】

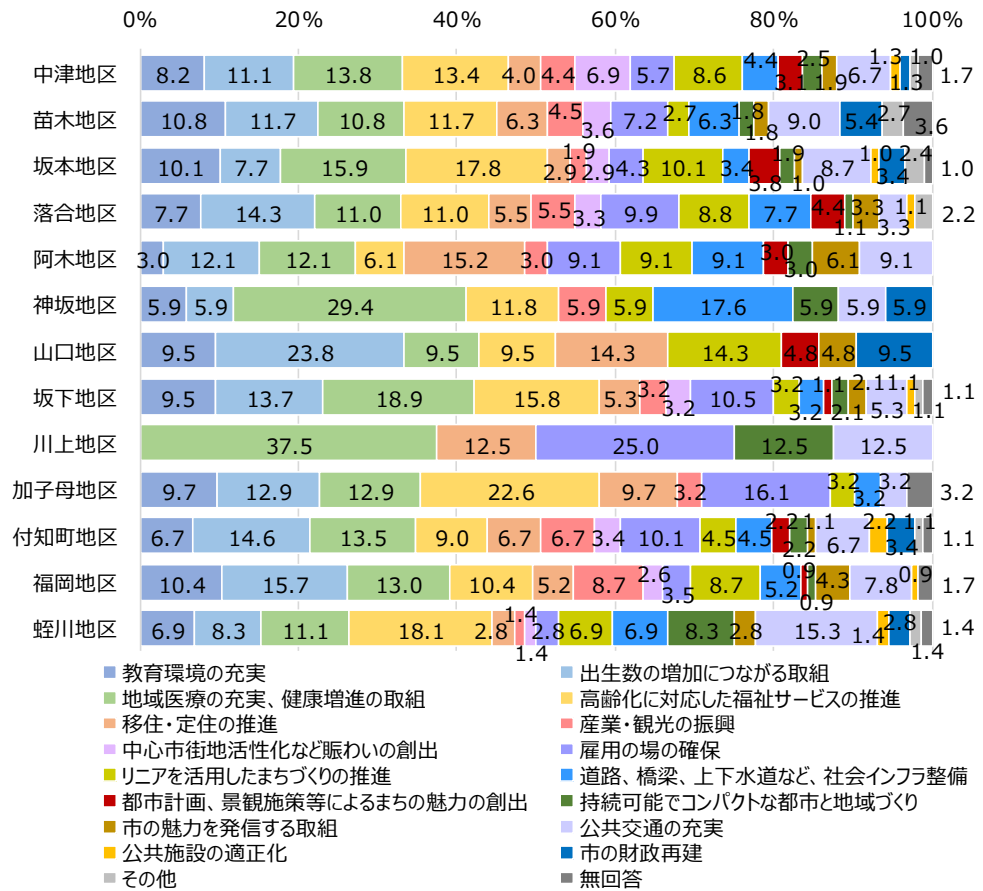


【web アンケート】

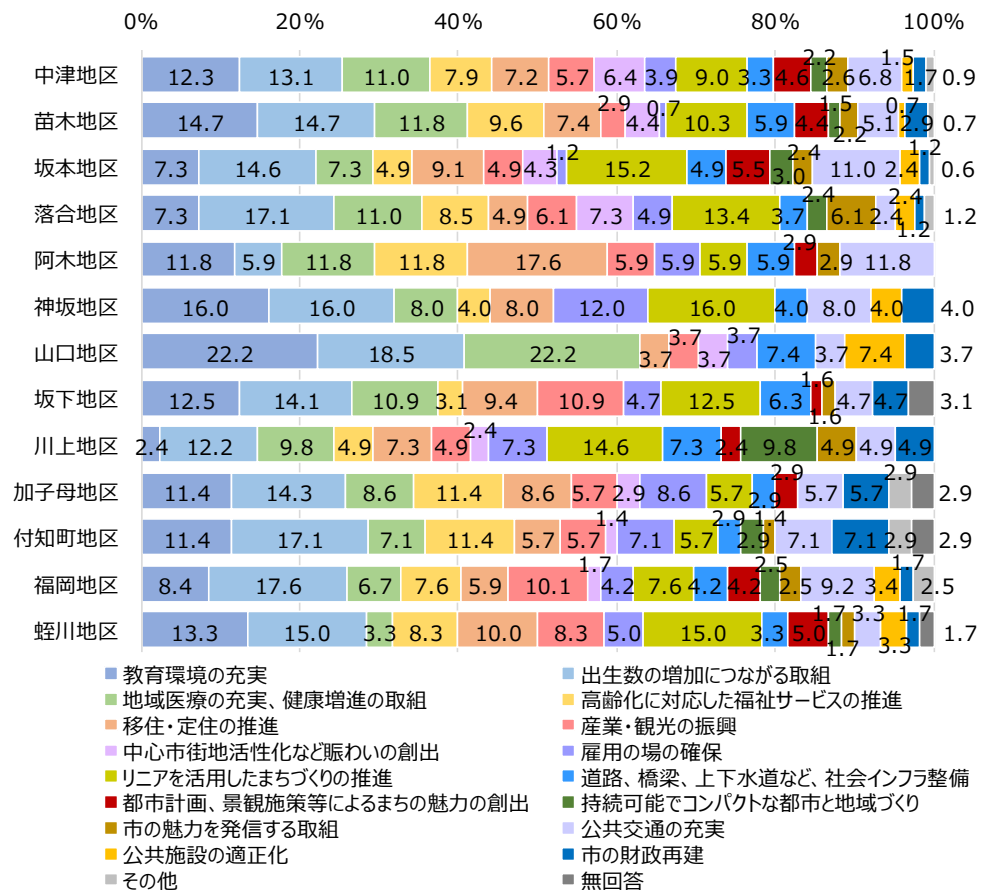


③地区別

【市民 1,500人】



【web アンケート】



④全体・年代別・地区別まとめ

【市民 1,500人】

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
全体	地域医療の充実、健康増進の取組 13.9	高齢化に対応した福祉サービスの推進 13.6	出生数の増加につながる取組 11.6	教育環境の充実 8.4	リニアを活用したまちづくりの推進 7.6	
年齢別	29歳以下	リニアを活用したまちづくりの推進 14.4	教育環境の充実 13.1	出生数の増加につながる取組 11.1	地域医療の充実、健康増進の取組 10.5	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 8.5
	30～39歳	出生数の増加につながる取組 17.7	教育環境の充実 16.9	リニアを活用したまちづくりの推進 7.3	地域医療の充実、健康増進の取組 10.5	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 6.5
	40～49歳	高齢化に対応した福祉サービスの推進 15.2	教育環境の充実 14.1	出生数の増加につながる取組 11.4	地域医療の充実、健康増進の取組 8.7	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 7.6
	50～59歳	地域医療の充実、健康増進の取組 18.7	高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.2	雇用の場の確保 公共交通の充実	出生数の増加につながる取組 9.6	出生数の増加につながる取組 8.0
	60～69歳	地域医療の充実、健康増進の取組 高齢化に対応した福祉サービスの推進 16.5	出生数の増加につながる取組 10.2	公共交通の充実 8.5	リニアを活用したまちづくりの推進 7.2	
	70歳以上	高齢化に対応した福祉サービスの推進 17.3	地域医療の充実、健康増進の取組 15.5	出生数の増加につながる取組 12.6	雇用の場の確保 7.7	公共交通の充実 7.4
	地区別	中津地区	地域医療の充実、健康増進の取組 13.8	高齢化に対応した福祉サービスの推進 13.4	出生数の増加につながる取組 11.1	リニアを活用したまちづくりの推進 8.6
苗木地区		出生数の増加につながる取組 高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.7	教育環境の充実 地域医療の充実、健康増進の取組	公共交通の充実 10.8	公共交通の充実 9.0	
坂本地区		高齢化に対応した福祉サービスの推進 17.8	地域医療の充実、健康増進の取組 15.9	教育環境の充実 リニアを活用したまちづくりの推進 10.1	公共交通の充実 8.7	
落合地区		出生数の増加につながる取組 14.3	地域医療の充実、健康増進の取組 高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.0	雇用の場の確保 9.9	リニアを活用したまちづくりの推進 8.8	
阿木地区		移住・定住の推進 15.2	出生数の増加につながる取組 地域医療の充実、健康増進の取組 12.1	雇用の場の確保 公共交通の充実 リニアを活用したまちづくりの推進 道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 9.1		
神坂地区		地域医療の充実、健康増進の取組 29.4	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 17.6	高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.8	出生数の増加につながる取組 リニアを活用したまちづくりの推進 持続可能でコンパクトな都市と地域づくり 教育環境の充実 産業・観光の振興 公共交通の充実 市の財政再建 5.9	
山口地区		出生数の増加につながる取組 23.8	移住・定住の推進 リニアを活用したまちづくりの推進 14.3	地域医療の充実、健康増進の取組 高齢化に対応した福祉サービスの推進 教育環境の充実 市の財政再建 9.5		
坂下地区		地域医療の充実、健康増進の取組 18.9	高齢化に対応した福祉サービスの推進 15.8	出生数の増加につながる取組 13.7	雇用の場の確保 10.5	教育環境の充実 9.5
川上地区		地域医療の充実、健康増進の取組 37.5	雇用の場の確保 25.0	持続可能でコンパクトな都市と地域づくり 移住・定住の推進 公共交通の充実 12.5		
加子母地区		高齢化に対応した福祉サービスの推進 22.6	雇用の場の確保 16.1	出生数の増加につながる取組 地域医療の充実、健康増進の取組 12.9	教育環境の充実 移住・定住の推進 9.7	
付知町地区		出生数の増加につながる取組 14.6	地域医療の充実、健康増進の取組 13.5	雇用の場の確保 10.1	高齢化に対応した福祉サービスの推進 9.0	教育環境の充実 移住・定住の推進 産業・観光の振興 公共交通の充実 6.7
福岡地区		出生数の増加につながる取組 15.7	地域医療の充実、健康増進の取組 13.0	高齢化に対応した福祉サービスの推進 教育環境の充実 10.4	産業・観光の振興 リニアを活用したまちづくりの推進 8.7	
蛭川地区		高齢化に対応した福祉サービスの推進 18.1	公共交通の充実 15.3	地域医療の充実、健康増進の取組 11.1	出生数の増加につながる取組 持続可能でコンパクトな都市と地域づくり 8.3	

【web アンケート】

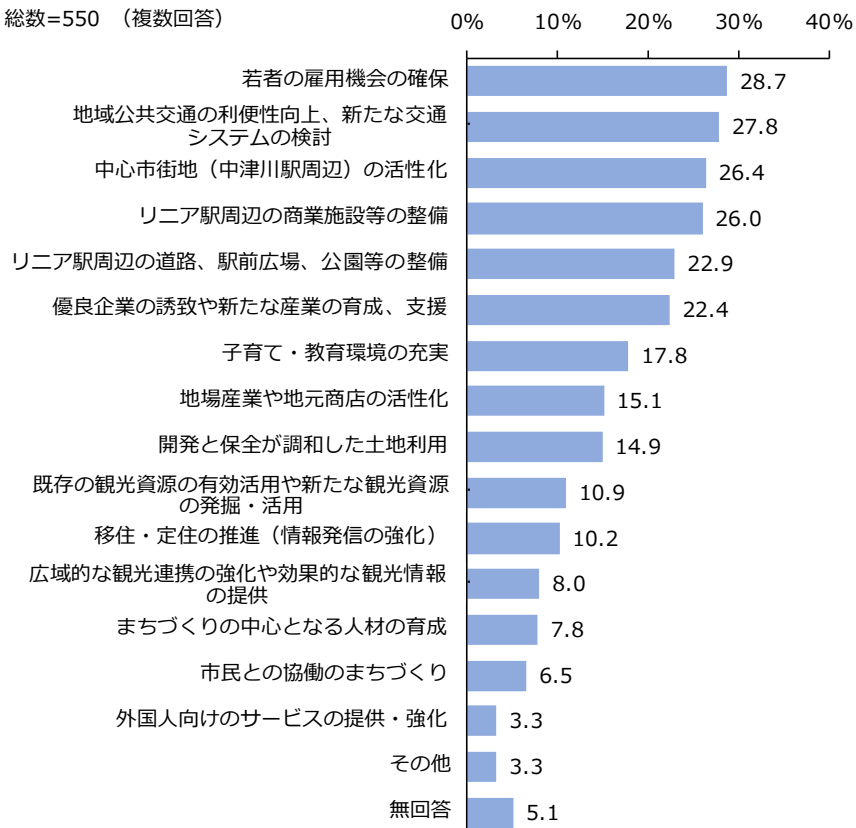
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
全体	出生数の増加につながる取組 14.2	教育環境の充実 11.6	リニアを活用したまちづくりの推進 10.8	地域医療の充実、健康増進の取組 9.3	移住・定住の推進 7.5	
年齢別	29歳以下	出生数の増加につながる取組 14.8	リニアを活用したまちづくりの推進 13.2	教育環境の充実 9.8	移住・定住の推進 8.3	公共交通の充実 7.9
	30～39歳	出生数の増加につながる取組 18.9	教育環境の充実 18.3	地域医療の充実、健康増進の取組 10.9	移住・定住の推進 10.3	雇用の場の確保 6.3
	40～49歳	出生数の増加につながる取組 15.5	教育環境の充実 14.6	地域医療の充実、健康増進の取組 13.3	リニアを活用したまちづくりの推進 9.9	移住・定住の推進 6.0
	50～59歳	地域医療の充実、健康増進の取組 14.7	高齢化に対応した福祉サービスの推進 12.9	教育環境の充実 10.4	リニアを活用したまちづくりの推進 9.2	出生数の増加につながる取組 8.6
	60～69歳	地域医療の充実、健康増進の取組 15.6	高齢化に対応した福祉サービスの推進 12.3	公共交通の充実 10.7	教育環境の充実 9.8	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 9.0
	70歳以上	教育環境の充実 地域医療の充実、健康増進の取組 14.8		出生数の増加につながる取組 13.0	高齢化に対応した福祉サービスの推進 中心市街地活性化など賑わいの創出 9.3	
	地区別	中津地区	出生数の増加につながる取組 13.1	教育環境の充実 12.3	地域医療の充実、健康増進の取組 11.0	リニアを活用したまちづくりの推進 9.0
苗木地区		出生数の増加につながる取組 教育環境の充実 14.7		地域医療の充実、健康増進の取組 11.8	リニアを活用したまちづくりの推進 10.3	高齢化に対応した福祉サービスの推進 9.6
坂本地区		リニアを活用したまちづくりの推進 15.2	出生数の増加につながる取組 14.6	公共交通の充実 11.0	移住・定住の推進 9.1	教育環境の充実 地域医療の充実、健康増進の取組 7.3
落合地区		出生数の増加につながる取組 17.1	リニアを活用したまちづくりの推進 13.4	地域医療の充実、健康増進の取組 11.0	高齢化に対応した福祉サービスの推進 8.5	教育環境の充実 中心市街地活性化など賑わいの創出 7.3
阿木地区		移住・定住の推進 17.6	教育環境の充実 地域医療の充実、健康増進の取組		高齢化に対応した福祉サービスの推進 公共交通の充実	11.8
神坂地区		教育環境の充実 出生数の増加につながる取組 リニアを活用したまちづくりの推進 16.0			雇用の場の確保 12.0	地域医療の充実、健康増進の取組 移住・定住の推進 公共交通の充実 8.0
山口地区		教育環境の充実 地域医療の充実、健康増進の取組 22.2		出生数の増加につながる取組 18.5	道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 公共施設の適正化	7.4
坂下地区		出生数の増加につながる取組 14.1	教育環境の充実 リニアを活用したまちづくりの推進 12.5		地域医療の充実、健康増進の取組 産業・観光の振興	10.9
川上地区		リニアを活用したまちづくりの推進 14.6	出生数の増加につながる取組 12.2	地域医療の充実、健康増進の取組 持続可能でコンパクトな都市と地域づくり 9.8		移住・定住の推進 雇用の場の確保 道路、橋梁、上下水道など、社会インフラ整備 7.3
加子母地区		出生数の増加につながる取組 14.3	教育環境の充実 高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.4		地域医療の充実、健康増進の取組 移住・定住の推進 雇用の場の確保	8.6
付知町地区		出生数の増加につながる取組 17.1	教育環境の充実 高齢化に対応した福祉サービスの推進 11.4		地域医療の充実、健康増進の取組 雇用の場の確保 公共交通の充実 市の財政再建	7.1
福岡地区		出生数の増加につながる取組 17.6	産業・観光の振興 10.1	公共交通の充実 9.2	教育環境の充実 8.4	高齢化に対応した福祉サービス リニアを活用したまちづくりの推進 7.6
蛭川地区		出生数の増加につながる取組 リニアを活用したまちづくりの推進 15.0		教育環境の充実 13.3	移住・定住の推進 10.0	高齢化に対応した福祉サービス 産業・観光の振興 8.3

問 10. 将来、中津川市にはリニア駅が設置されます。リニアを活用したまちづくりについて、何が重要だと考えますか？

①全体

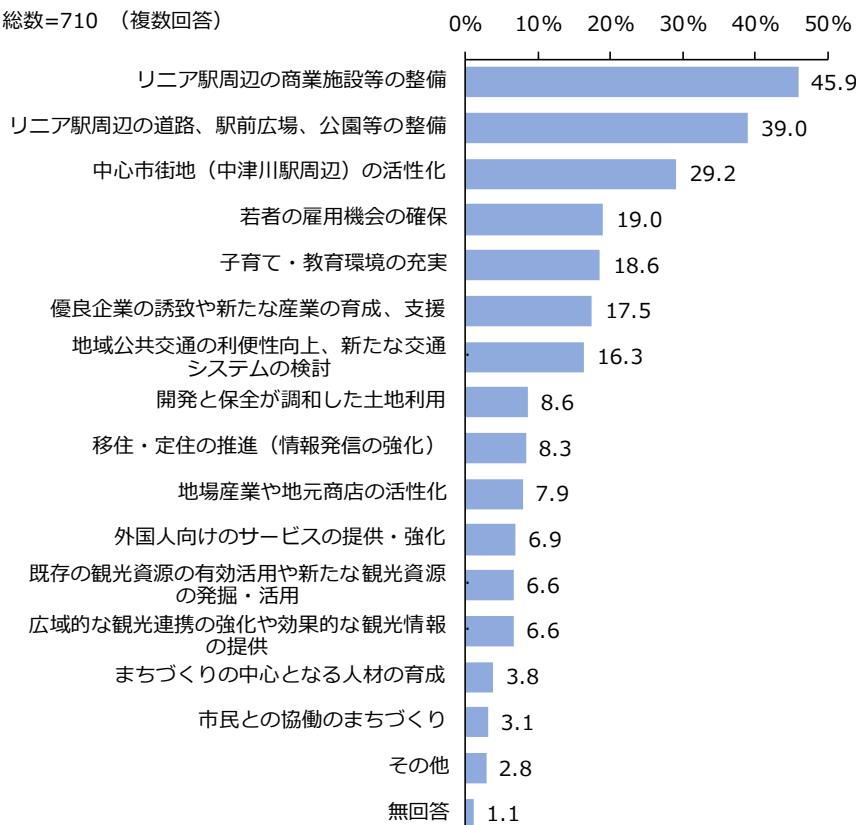
【市民 1,500 人】

総数=550 (複数回答)



【web アンケート】

総数=710 (複数回答)



【市民 1,500人】

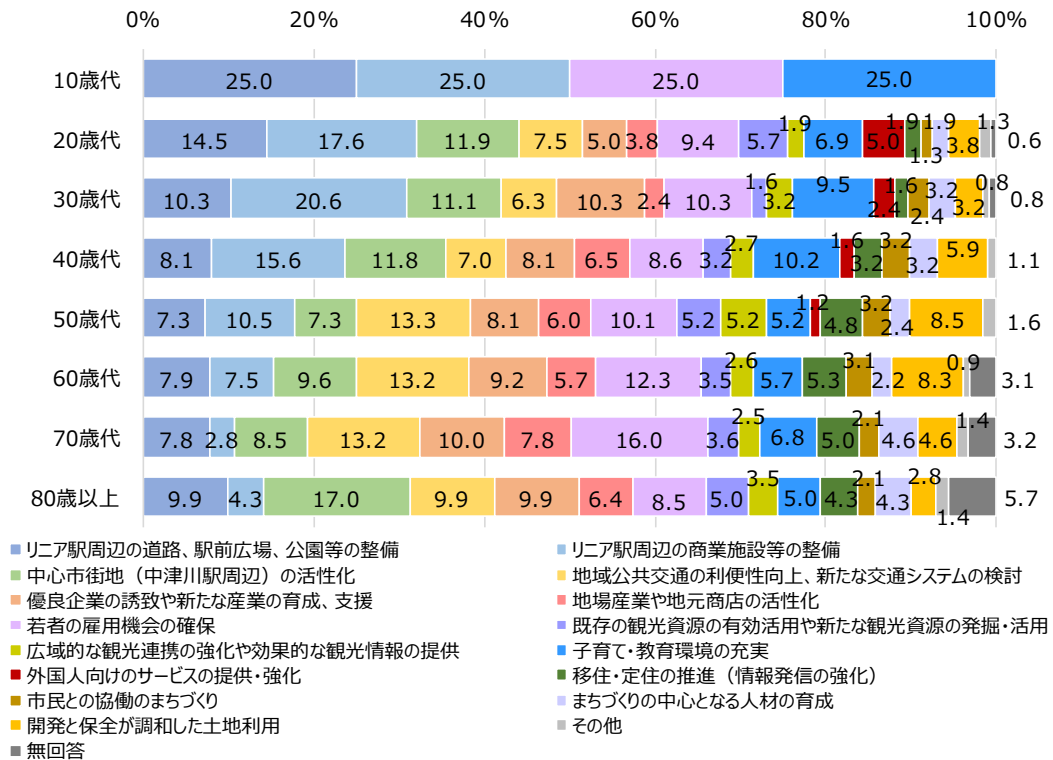
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
全体	若者の雇用機会の確保 11.2	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 10.8	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 10.3	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 10.1	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の 整備 8.9	
年齢別	29歳以下	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 17.8	リニア駅周辺の道路、駅 前広場、公園等の整備 14.7	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 11.7	若者の雇用機会の確保 9.8	地域公共交通の利便性向上、新たな交通シ ステムの検討 7.4
	30～39歳	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 20.6	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 11.1	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 若者の雇用機会の確保 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 10.3		
	40～49歳	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 15.6	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 11.8	子育て・教育環境の充実 10.2	若者の雇用機会の確保 8.6	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 8.1
	50～59歳	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 13.3	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 10.5	若者の雇用機会の確保 10.1	開発と保全が調和した 土地利用 8.5	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 8.1
	60～69歳	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 13.2	若者の雇用機会の確保 12.3	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 9.6	優良企業の誘致や新た な産業の育成、支援 9.2	開発と保全が調和した土地利用 8.3
	70歳以上	若者の雇用機会の確保 13.5	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 12.1	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 11.4	優良企業の誘致や新た な産業の育成、支援 10.0	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の 整備 8.5
	中津地区	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 14.9	若者の雇用機会の確保 10.7	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 10.0	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 9.4	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の 整備 9.2
苗木地区	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 12.6	若者の雇用機会の確保 リニア駅周辺の商業施設等の整備 10.8	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 9.9	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 9.0	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の 整備 9.0	
坂本地区	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 17.1	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 14.3	子育て・教育環境の充 実 7.1	若者の雇用機会の確保 6.7		
落合地区	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 14.3	優良企業の誘致や新たな 産業の育成、支援 13.2	若者の雇用機会の確保 11.0	リニア駅周辺の道路、 駅前広場、公園等の整 備 8.8	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 子育て・教育環境の充実 市民との協働のまちづくり 開発と保全が調和した土地利用 7.7	
阿木地区	移住・定住の推進（情報 発信の強化） 17.6	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 開発と保全が調和した土地利用 18.8	若者の雇用機会の確保 8.8	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 8.8		
神坂地区	若者の雇用機会の確保 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 広域的な観光連携の強化や効果的な観光情報の提供 18.8		既存の観光資源の有効 活用や新たな観光資源 の発掘・活用 12.5	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 地域公共交通の利便性向上、新たな交通シ ステムの検討 リニア駅周辺の商業施設等の整備 子育て・教育環境の充実 移住・定住の推進（情報発信の強化） 6.3		
山口地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 移住・定住の推進（情報発信の強化） 14.3		中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 広域的な観光連携の強化や効果的な観光情報の提供 9.5	開発と保全が調和した土地利用 リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 9.5		
坂下地区	若者の雇用機会の確保 14.1	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 子育て・教育環境の充実 12.0	優良企業の誘致や新た な産業の育成、支援 10.9	地域公共交通の利便性向上、新たな交通シ ステムの検討 9.8		
川上地区	若者の雇用機会の確保 25.0	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 子育て・教育環境の充実 12.5	移住・定住の推進（情報発信の強化） まちづくりの中心となる人材の育成 12.5			
加子母地区	若者の雇用機会の確保 31.3	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 12.5	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 9.4	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 地場産業や地元商店の活性化 移住・定住の推進（情報発信の強化） 6.3		
付知町地区	若者の雇用機会の確保 23.6	地域公共交通の利便性向上、 新たな交通システムの検討 13.5	優良企業の誘致や新たな 産業の育成、支援 11.2	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 9.0	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 リニア駅周辺の商業施設等の整備 既存の観光資源の有効活用や新たな観光資 源の発掘・活用 子育て・教育環境の充実 6.7	
福岡地区	優良企業の誘致や新たな 産業の育成、支援 13.8	リニア駅周辺の商業施設 等の整備 11.9	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 子育て・教育環境の充実 9.2			
蛭川地区	地域公共交通の利便性向 14.7	若者の雇用機会の確保 10.3	子育て・教育環境の充実 まちづくりの中心となる人材の育成 7.4	中心市街地（中津川駅周 辺）の活性化 リニア駅周辺の商業施設等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 地場産業や地元商店の活性化 広域的な観光連携の強化や効果的な観光情 報の提供 開発と保全が調和した土地利用 5.9		

【web アンケート】

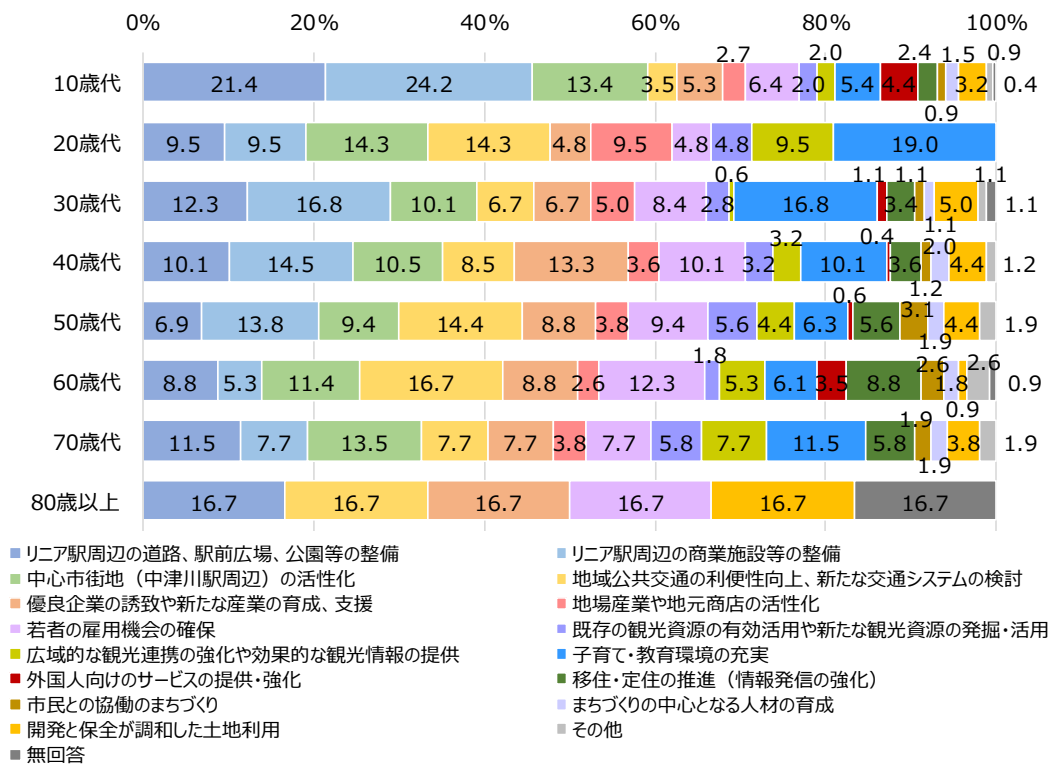
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	
全体	リニア駅周辺の商業施設等の整備 19.0	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 16.2	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 12.1	若者の雇用機会の確保 7.9	子育て・教育環境の充実 7.7	
年齢別	29歳以下	リニア駅周辺の商業施設等の整備 23.9	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 21.2	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 13.4	若者の雇用機会の確保 6.4	子育て・教育環境の充実 5.7
	30～39歳	リニア駅周辺の商業施設等の整備 子育て・教育環境の充実 16.8	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 12.3	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 10.1	若者の雇用機会の確保 8.4	
	40～49歳	リニア駅周辺の商業施設等の整備 14.5	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 13.3	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 10.5	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 若者の雇用機会の確保 子育て・教育環境の充実 10.1	
	50～59歳	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 14.4	リニア駅周辺の商業施設等の整備 13.8	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 若者の雇用機会の確保 9.4	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 8.8	
	60～69歳	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 16.7	若者の雇用機会の確保 12.3	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 11.4	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 移住・定住の推進（情報発信の強化） 8.8	
	70歳以上	リニア駅周辺の商業施設等の整備 中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 12.1	子育て・教育環境の充実 10.3	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 若者の雇用機会の確保 8.6		
	地区別	中津地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 18.0	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 15.3	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 14.2	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 8.3
苗木地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 14.7	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 14.0	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 12.6	子育て・教育環境の充実 8.4	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 若者の雇用機会の確保 7.7	
坂本地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 22.4	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 15.5	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 10.3	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 9.8	子育て・教育環境の充実 8.6	
落合地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 17.9	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 14.1	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 11.5	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 10.3	子育て・教育環境の充実 9.0	
阿木地区	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 25.0	リニア駅周辺の商業施設等の整備 中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 15.6	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 子育て・教育環境の充実 9.4			
神坂地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 18.5	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 14.8	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 11.1	若者の雇用機会の確保 子育て・教育環境の充実		
山口地区	若者の雇用機会の確保 子育て・教育環境の充実 16.7	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 開発と保全が調和した土地利用 8.3	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 地場産業や地元商店の活性化 広域的な観光連携の強化や効果的な観光情報の提供			
坂下地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 22.5	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 21.1	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 9.9	優良企業の誘致や新たな産業の育成、支援 8.5	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 地場産業や地元商店の活性化 若者の雇用機会の確保 5.6	
川上地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 23.8	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 14.3	移住・定住の推進（情報発信の強化） 11.9	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 若者の雇用機会の確保 9.5		
加子母地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 若者の雇用機会の確保 13.2	子育て・教育環境の充実 10.5	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 7.9			
付知町地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 14.3	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 若者の雇用機会の確保 子育て・教育環境の充 11.7	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 7.8			
福岡地区	リニア駅周辺の商業施設等の整備 17.2	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 12.3	子育て・教育環境の充実 10.7	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 9.8	地域公共交通の利便性向上、新たな交通システムの検討 9.0	
蛭川地区	リニア駅周辺の道路、駅前広場、公園等の整備 22.4	リニア駅周辺の商業施設等の整備 20.7	中心市街地（中津川駅周辺）の活性化 若者の雇用機会の確保 12.1			

②年代別

【市民 1,500人】

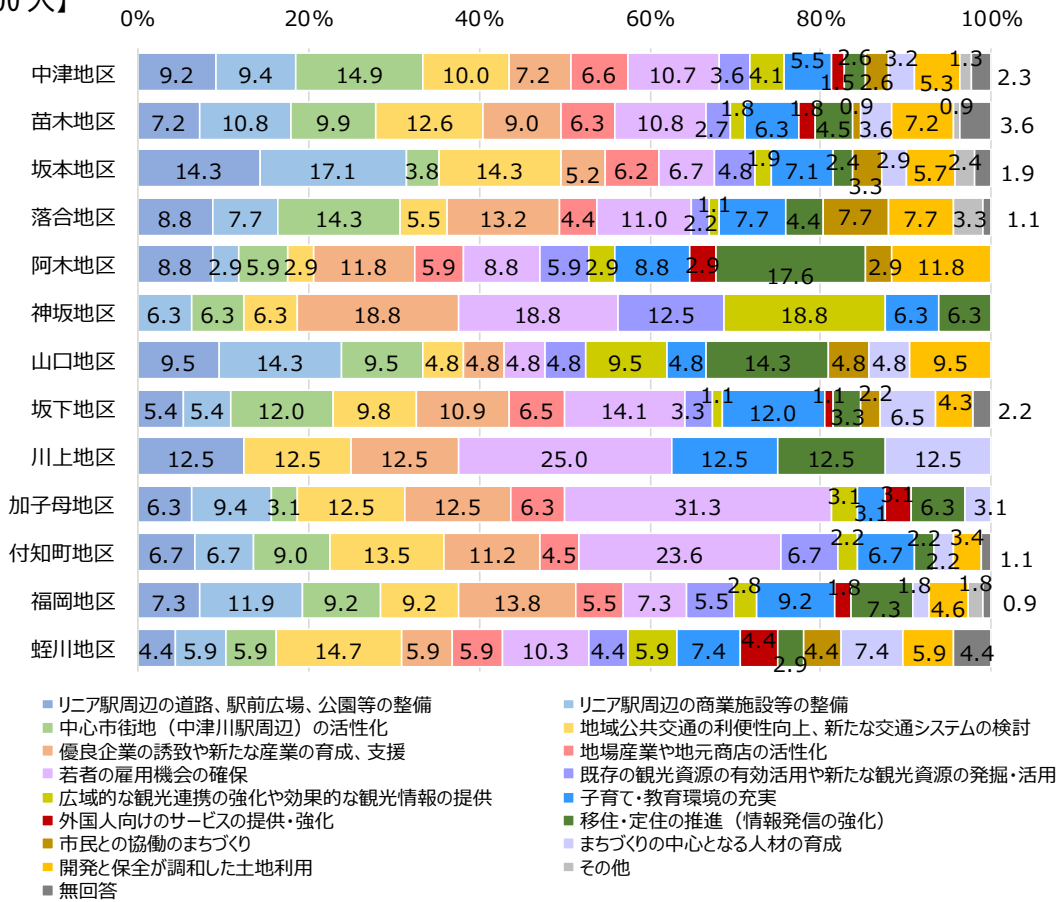


【web アンケート】

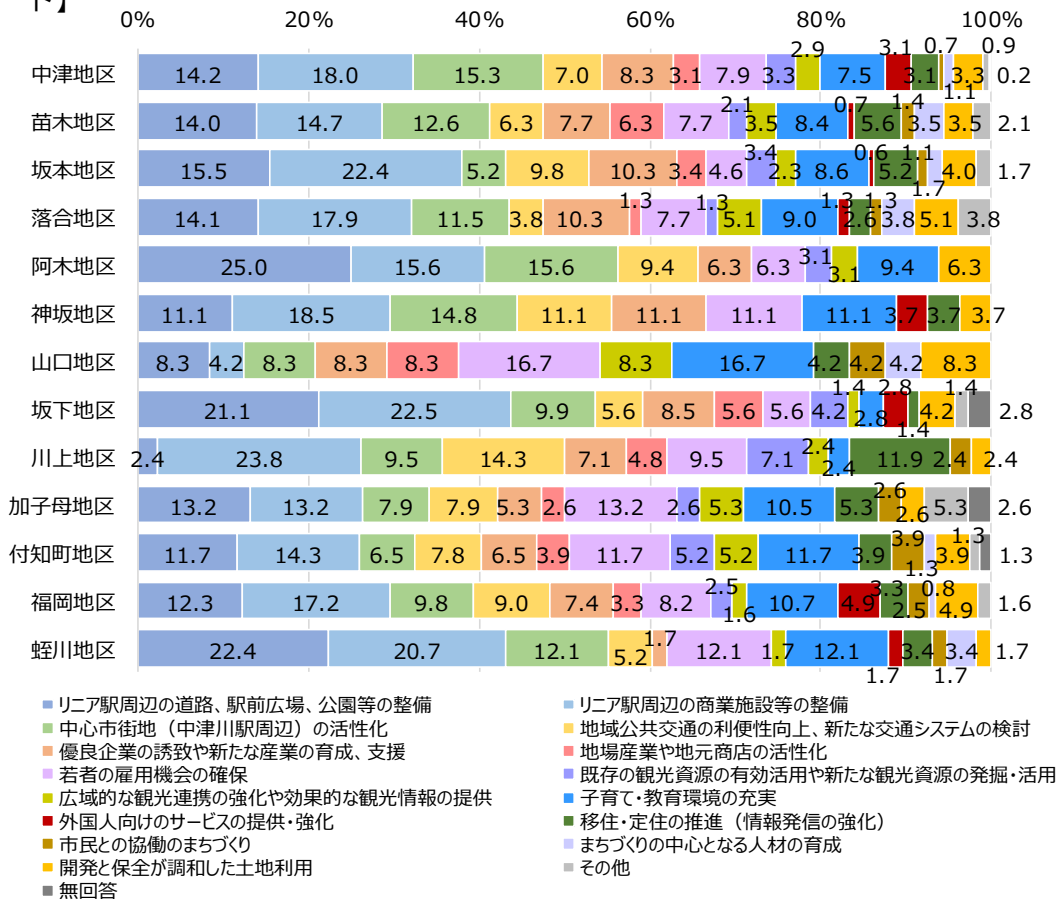


③地区別

【市民 1,500人】



【web アンケート】



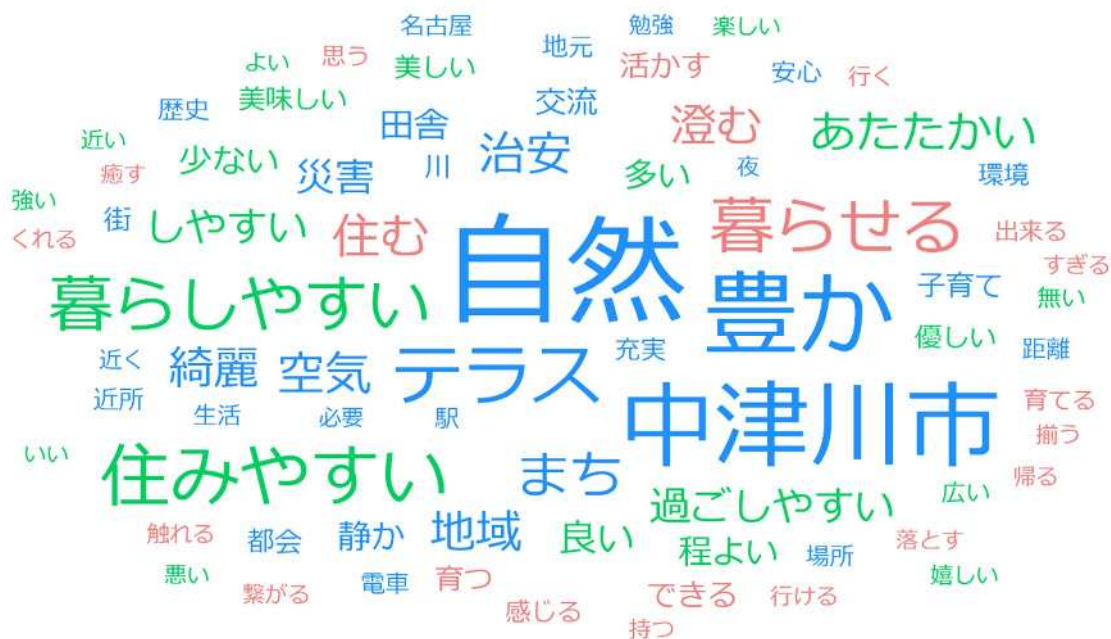
●主な意見の分類

意見分類	回答数
自然が豊か	59
人のやさしさ、温かさ、親切	32
災害が少ない	28
便利で住みやすい	18
子育てしやすい	16
歴史・文化がある	15
その他	97

●その他の意見

- ・地域は電車やバスの公共交通機関があり、また自動車による近隣への移動についても利便性は良いが、救急医療については市民病院のみであり、市内全域をカバー出来ているのか疑問に思うのでカバーできるようドクターカーの配備整備して欲しい

【WEB アンケート】



ワードクラウド：住んでいてよかったと思うこと/思ったこと（WEB アンケート）

●代表的な意見、特徴的な意見

- ・自然が豊かで、のんびりした時間を過ごせる事の有り難さを感じられる、静かな町。都会にしばらく行くと、人の多さと、スピードに疲れしまい、中津川に帰ってきた時、この町の空気に触れてホッとする自分がいます。
- ・「知り合いの知り合いで繋がる中津川のコミュニティ」が人間関係、防犯、歴史の伝承、子育てのしやすさに繋がっていると思います。
- ・必要なものは近場でそろそろ。少し行けば大きな商業施設もある。嫌になる程人が溢れておらず、自然も豊かでとても生活するにはバランスがいいと思う。
- ・財布落としても返ってきた。
- ・小さな子供がいます。ひとまちテラス(子育て支援センター)や児童館にいつでも入れるところ、安心して遊ばせることができるのはとてもありがたいです。職員さんも優しく、親身になってくれます。

●主な意見の分類

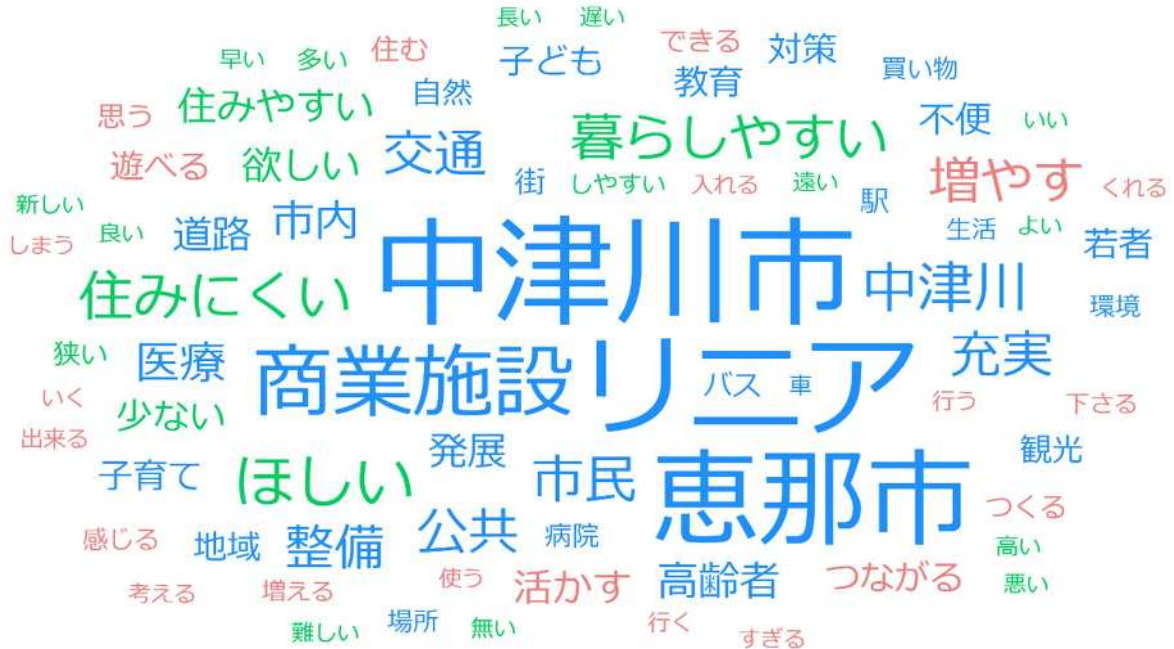
意見分類	回答数
自然が豊か	72
人のやさしさ、温かさ、親切	30
便利で住みやすい	22
治安が良い	18
静かで住みやすい	17
ひと・まちテラス	15
その他	129

●その他の意見

- ・自然豊かで良い場所だと思っていたが、太陽光パネルによって環境を侵害し、景観が著しく悪くなってきた様に思う。

問 12. 中津川市のまちの発展や市民のみなさんの暮らしを豊かにするために、ご意見やご提案、夢をお持ちでしたら、ぜひ、お聞かせください。

【市民 1,500 人】



ワードクラウド：まちの発展や市民の暮らしを豊かにするための意見や提案、夢（市民 1,500 人）

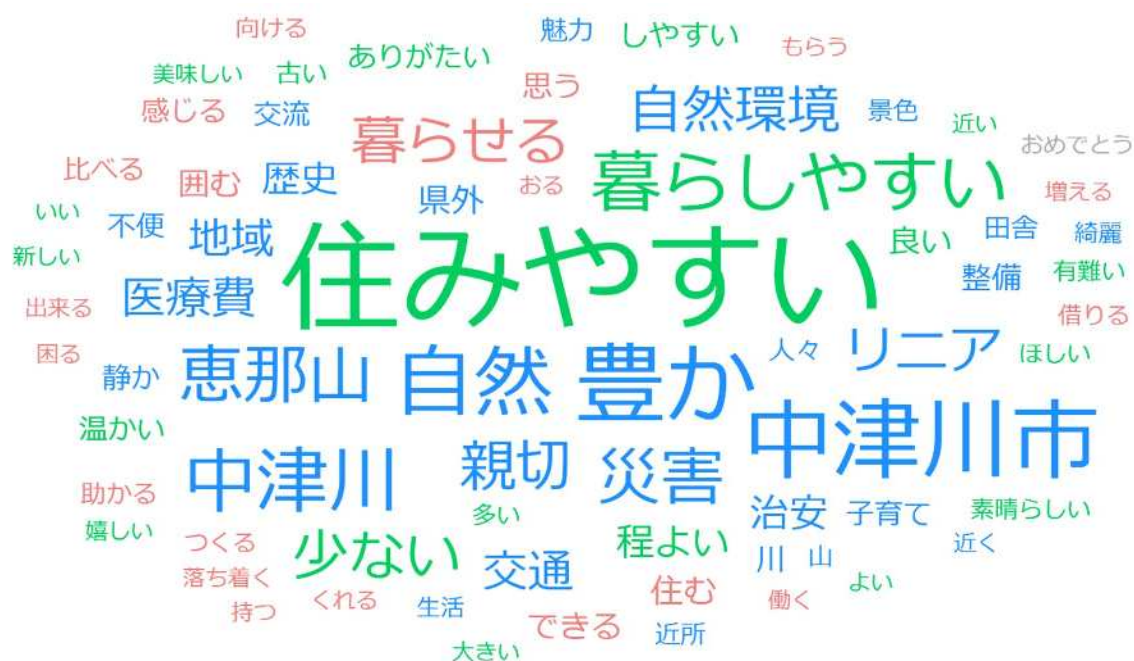
●代表的な意見、特徴的な意見

- ・駅前や商店街が寂しいので、気軽に入れるパン屋やカフェや外国人が訪れる銭湯などが増えると良いと思います。歩いて行ける場所に、大人も子供も楽しめるスポーツ施設が欲しい。
- ・子育て支援の充実に積極的に取り組んでほしい。幼保の区別なく、子どもを預けられる制度、長時間保育、病児保育等、母親が安心して働くことができるまちにしてほしい。移住、定住希望者には様々な助成制度を設けて、若い世代の移住者を増やして欲しい。
- ・坂下診療所の総合病院化の早期推進を望みます（民営化含め）
- ・「田舎の風景」という視点でまちづくりをしています。若い人たちがほっとするような空間を、お金をかけなくても、こつこつやれたらいいなと考えます。将来の自分の住宅などの処理が不安。
- ・中津川の町は坂が多く、公共施設に出入りする場所は階段が多いのでバリアフリーにしてほしい。

●意見の分類

分野	回答数
子育て・教育	32
健康・福祉	52
人権・共生社会	2
協働・コミュニティ	17
移住・定住	15
生涯学習・社会人教育	0
文化・スポーツ	6
防災・防犯	23
自然環境	10
生活環境	7
商工業	62
観光	19
農林業	6
基盤整備	46
都市計画・整備	51
公共交通	27
広報・広聴	8
行政運営	31

【WEB アンケート】



ワードクラウド：まちの発展や市民の暮らしを豊かにするための意見や提案、夢

(WEB アンケート)

●代表的な意見、特徴的な意見

- ・買い物・遊べる場所をもっと増やして若者が楽しめる街づくりをしてほしい
- ・出産育児について。育休を取ると、在園時が退園させられる制度は無くして頂きたい。
- ・医療施設、特に小児科や婦人科をもっと増やして欲しい。
- ・各地域の観光資源の整備と近代的な開発を両立させ古き良き物と最先端が共存するまちづくりが必要。
- ・今後、リニアを重視した街づくりにシフトしていくのだと予想しますが、少し離れたところの地域においても最低限の生活環境は維持していただきたいです。そして、リニア駅～中心部と農村地域、それぞれの良さをリニアとつながる関東圏に積極的にアピールしてってください。

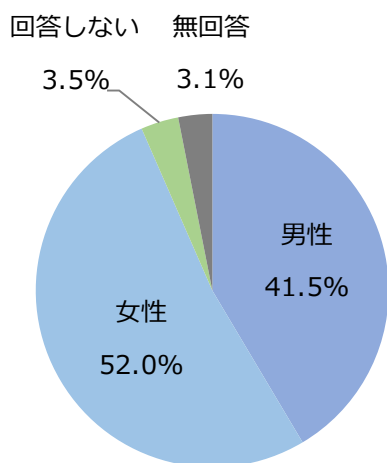
●意見の分類

分野	回答数
子育て・教育	48
健康・福祉	45
人権・共生社会	1
協働・コミュニティ	15
移住・定住	18
生涯学習・社会人教育	0
文化・スポーツ	12
防災・防犯	5
自然環境	3
生活環境	4
商工業	146
観光	14
農林業	5
基盤整備	31
都市計画・整備	37
公共交通	29
広報・広聴	15
行政運営	33

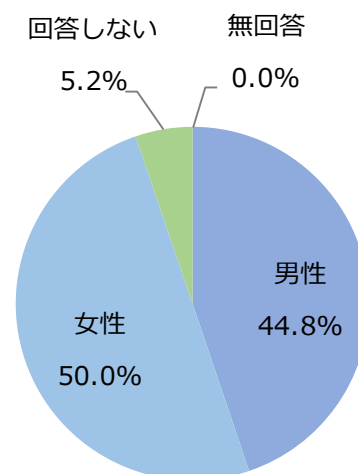
問 13. あなたの性別を教えてください。

①全体

【市民 1,500人】

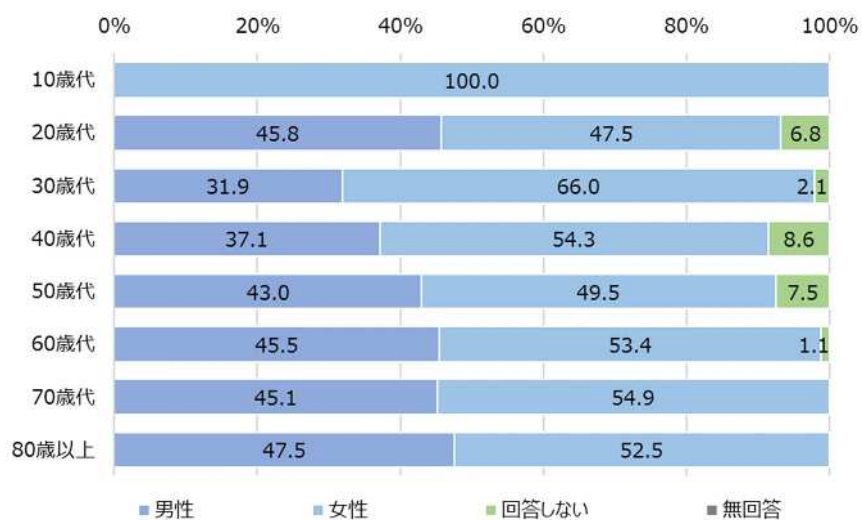


【web アンケート】

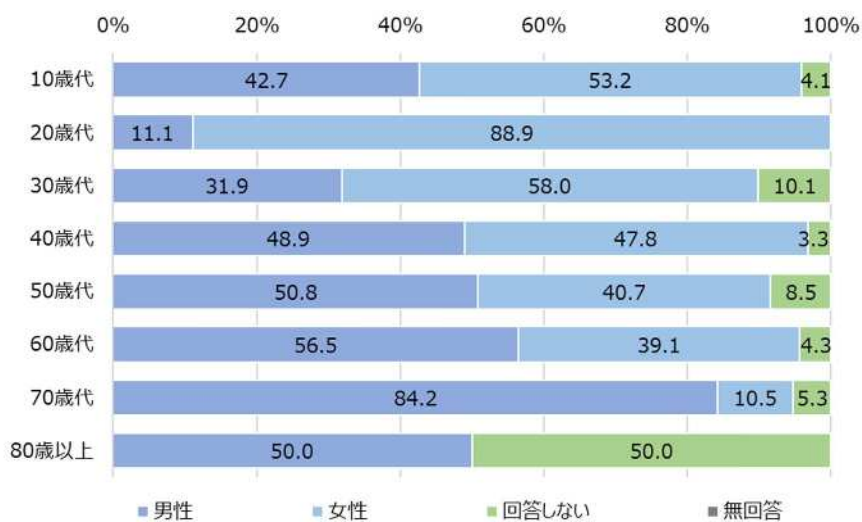


②年代別

【市民 1,500人】

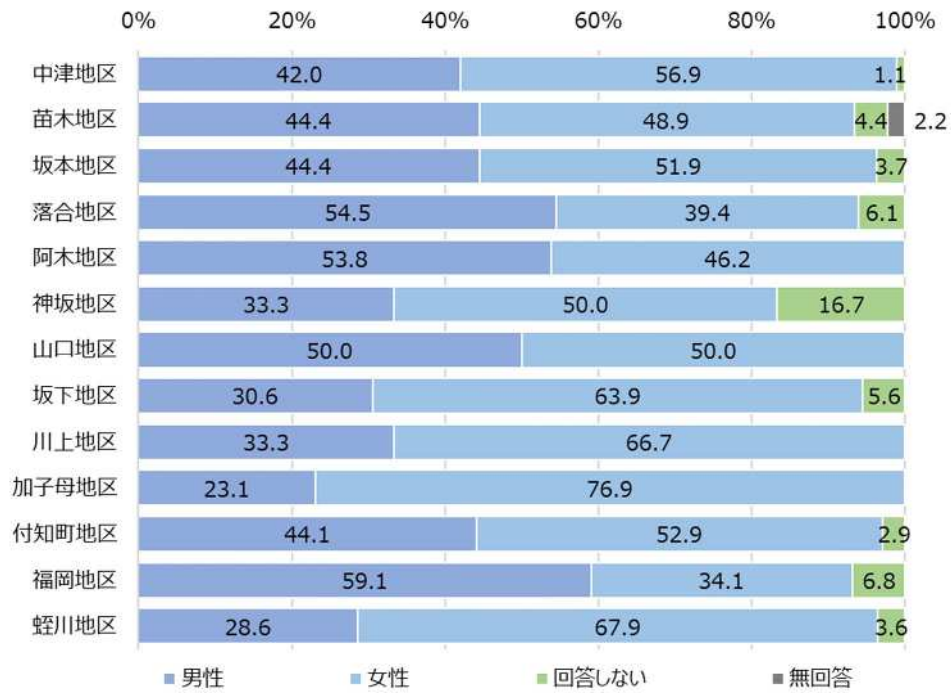


【web アンケート】

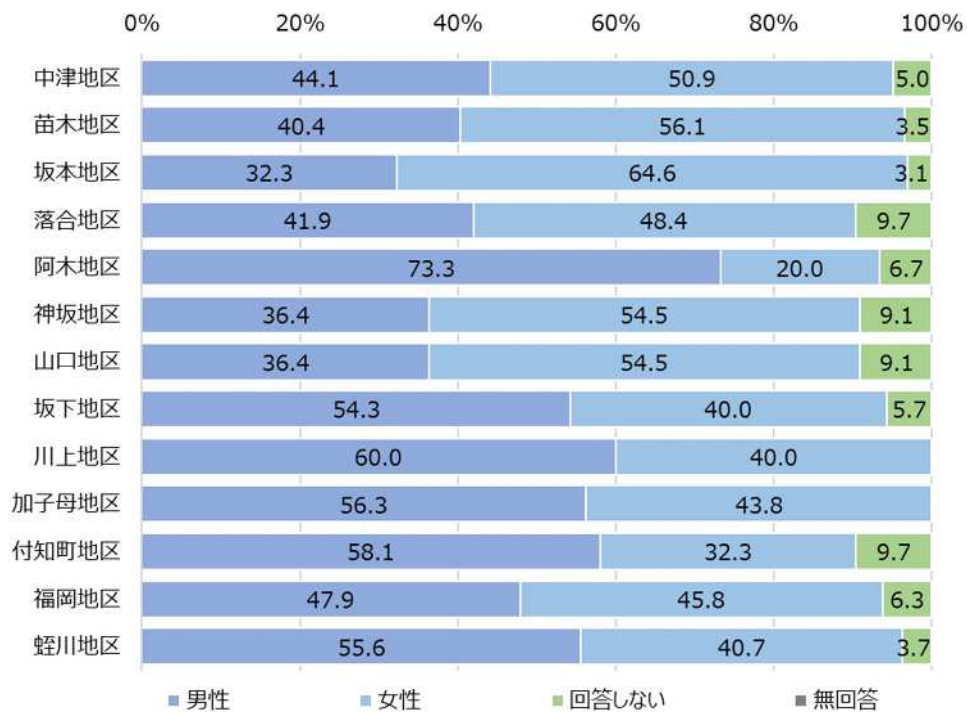


③地区別

【市民 1,500人】



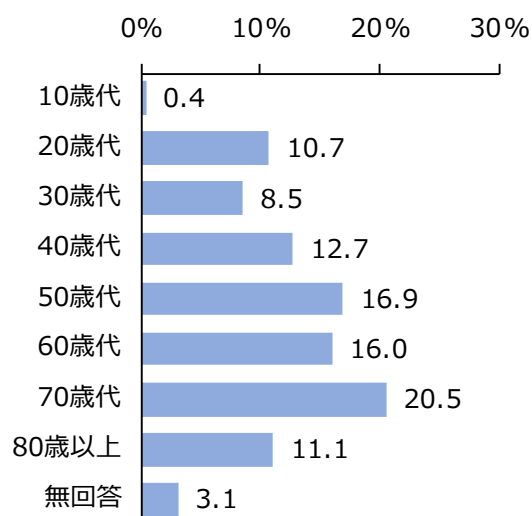
【web アンケート】



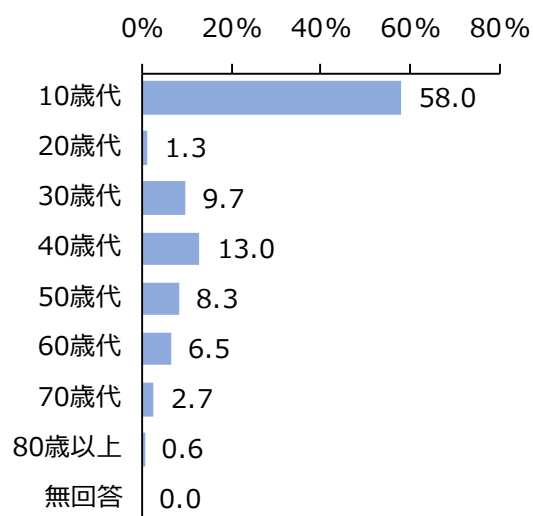
問 14. あなたの年齢を教えてください。

①全体

【市民 1,500 人】

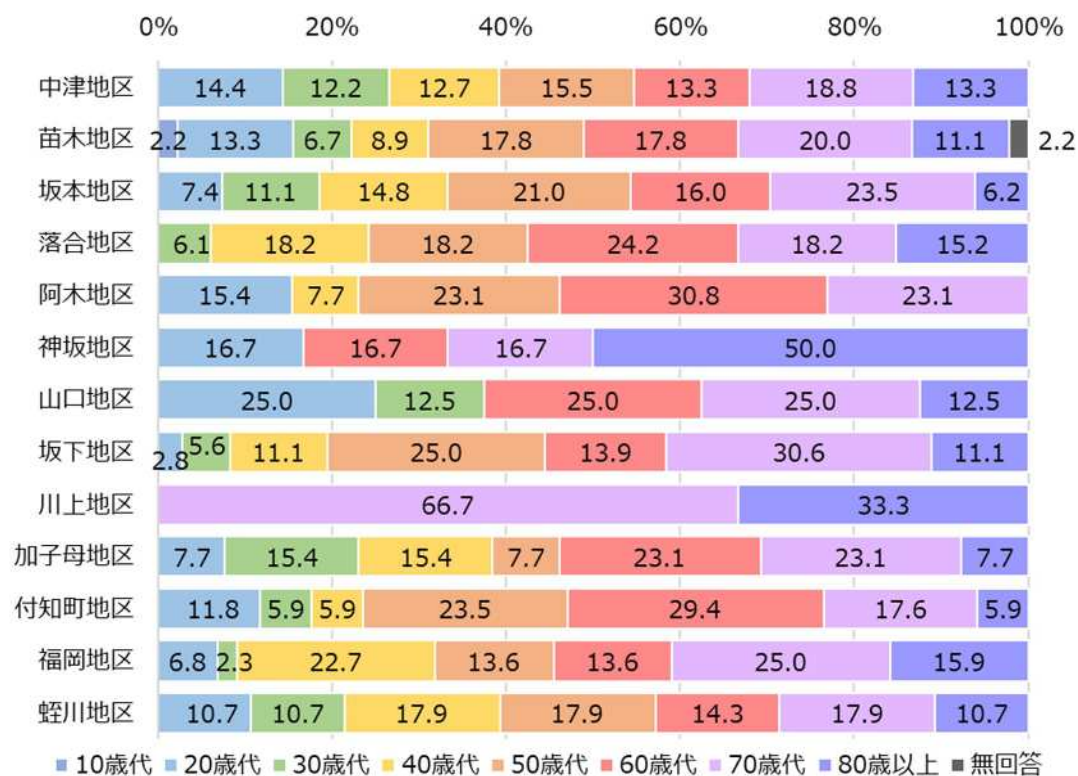


【web アンケート】



②地区別

【市民 1,500 人】



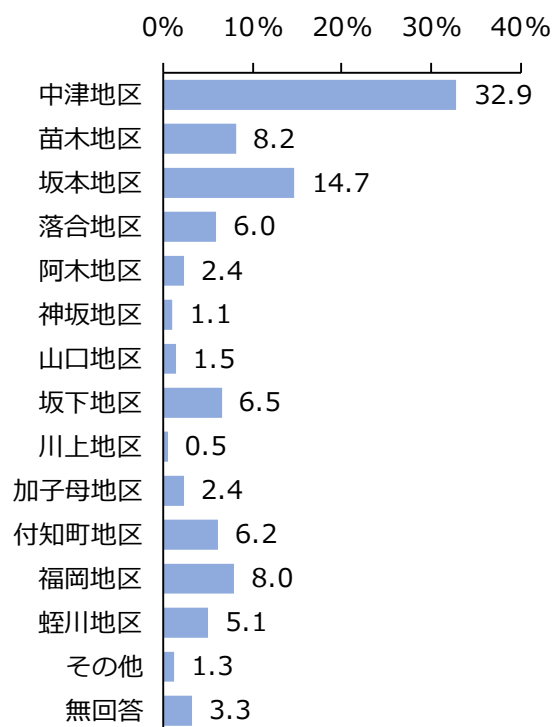
【web アンケート】



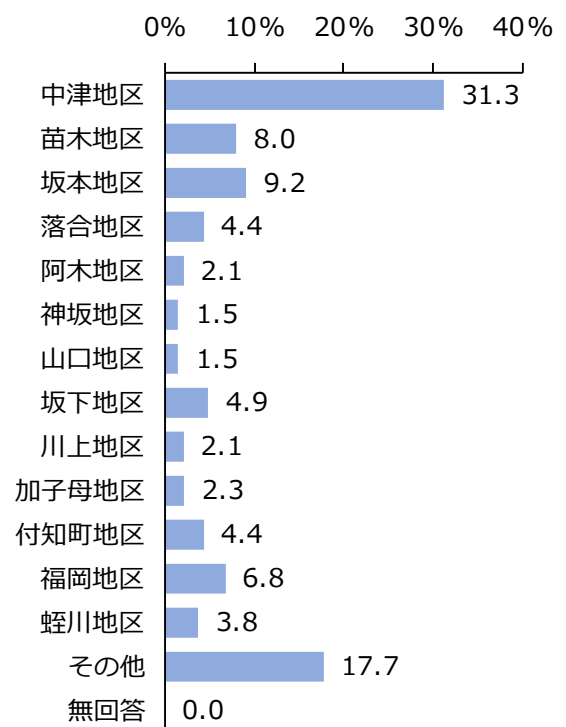
問 15. あなたの住んでいる地区を教えてください。

①全体

【市民 1,500人】

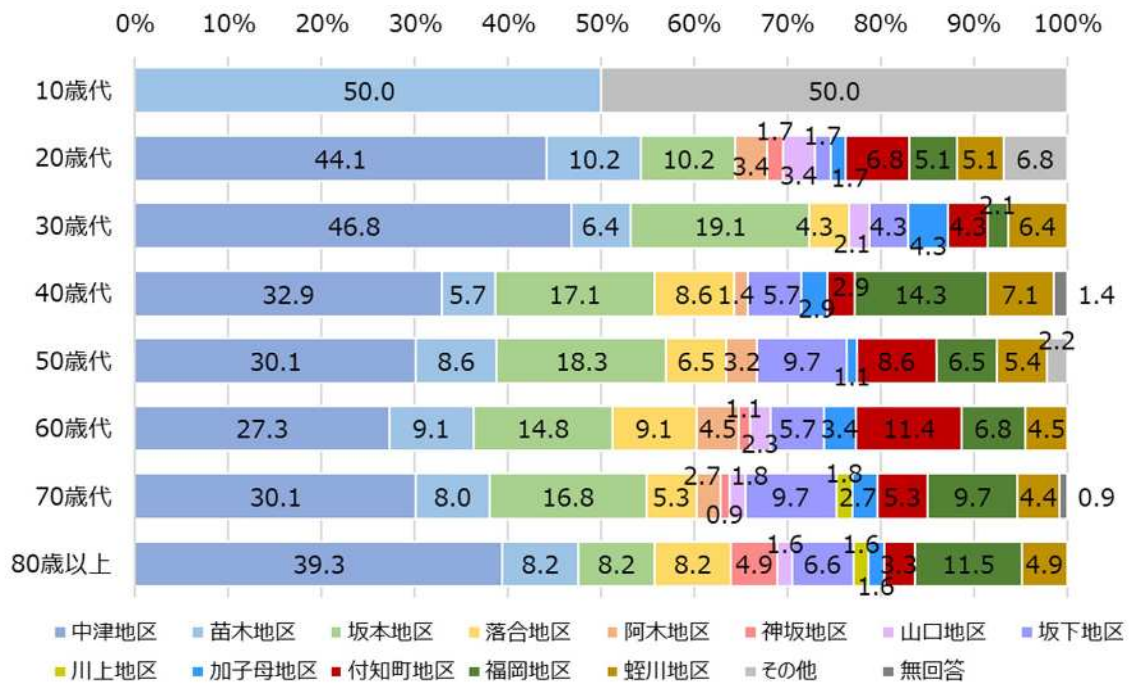


【web アンケート】

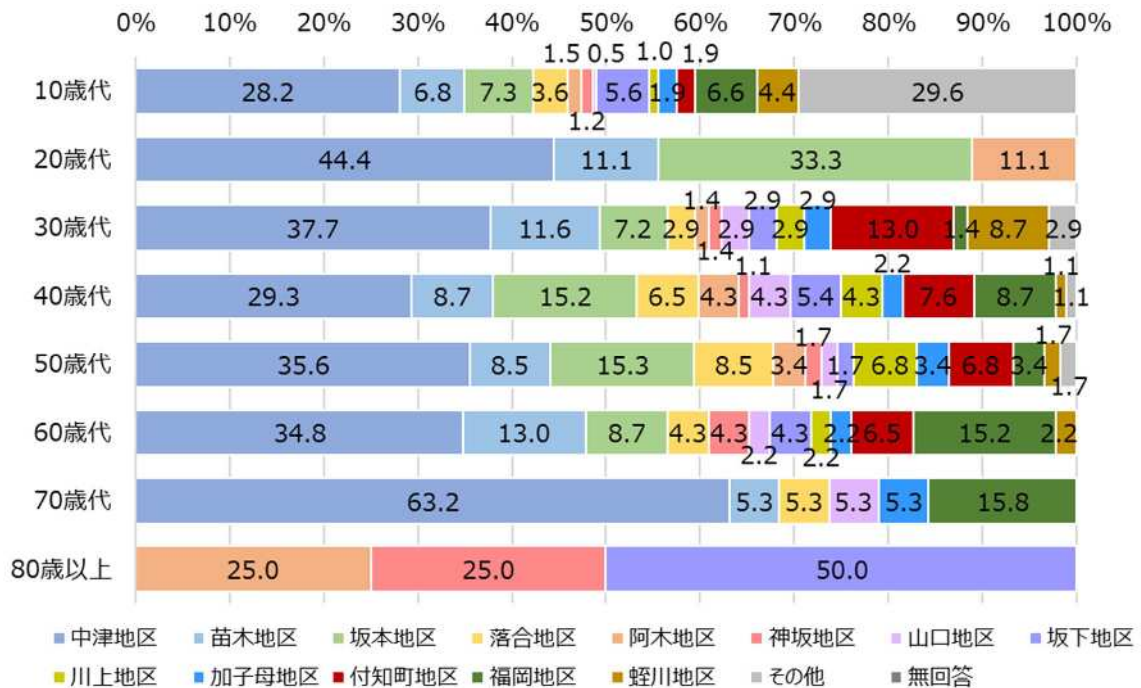


②年代別

【市民 1,500人】



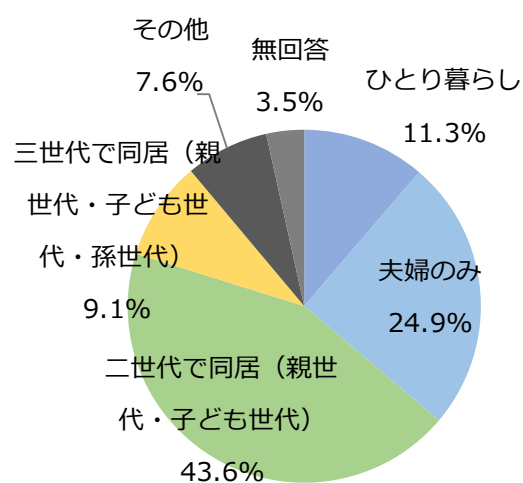
【web アンケート】



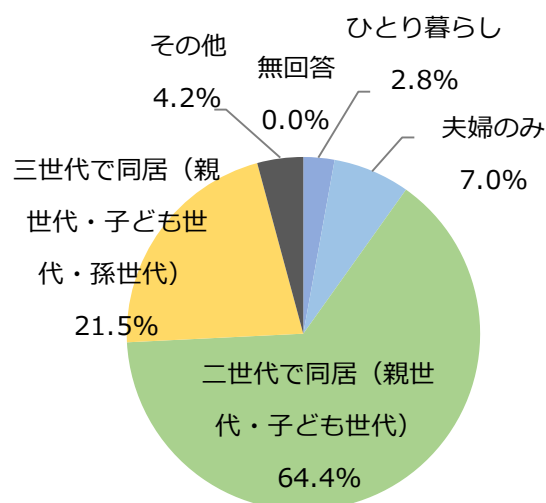
問 16. あなたの家族構成を教えてください。

①全体

【市民 1,500人】

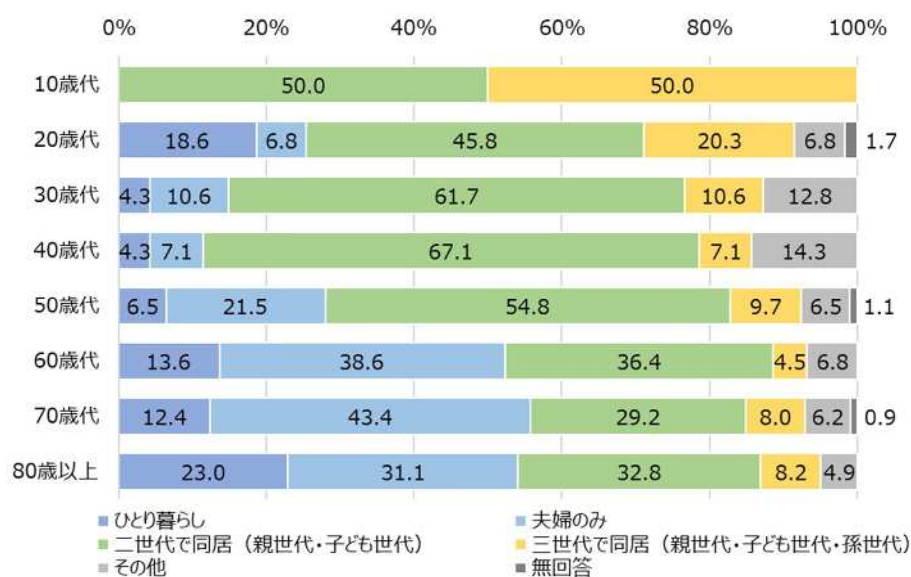


【web アンケート】

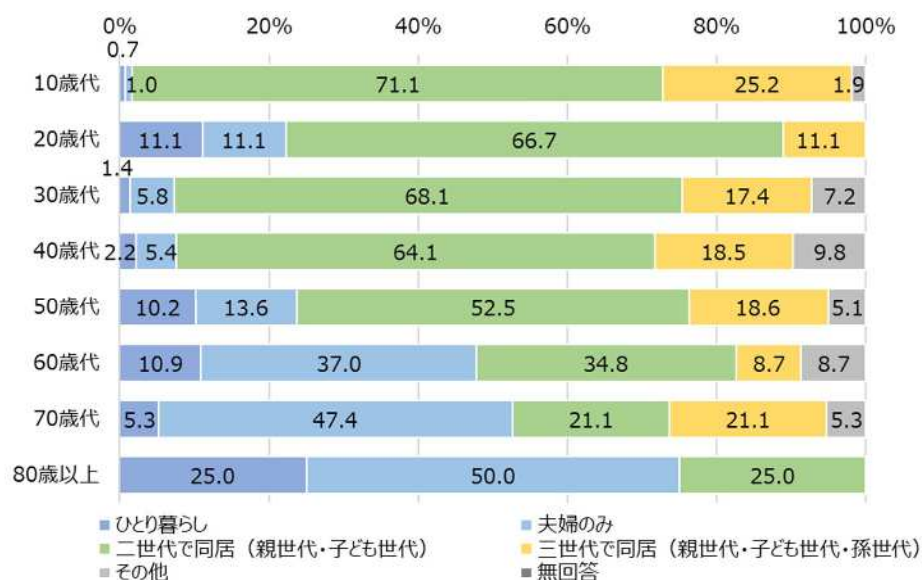


②年代別

【市民 1,500人】

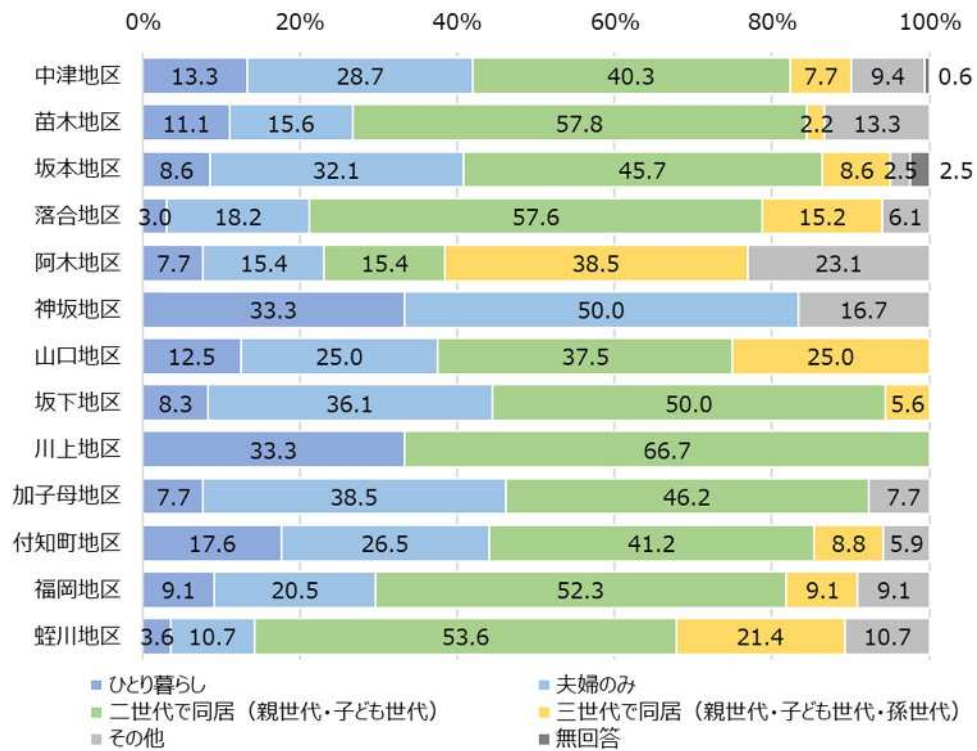


【web アンケート】

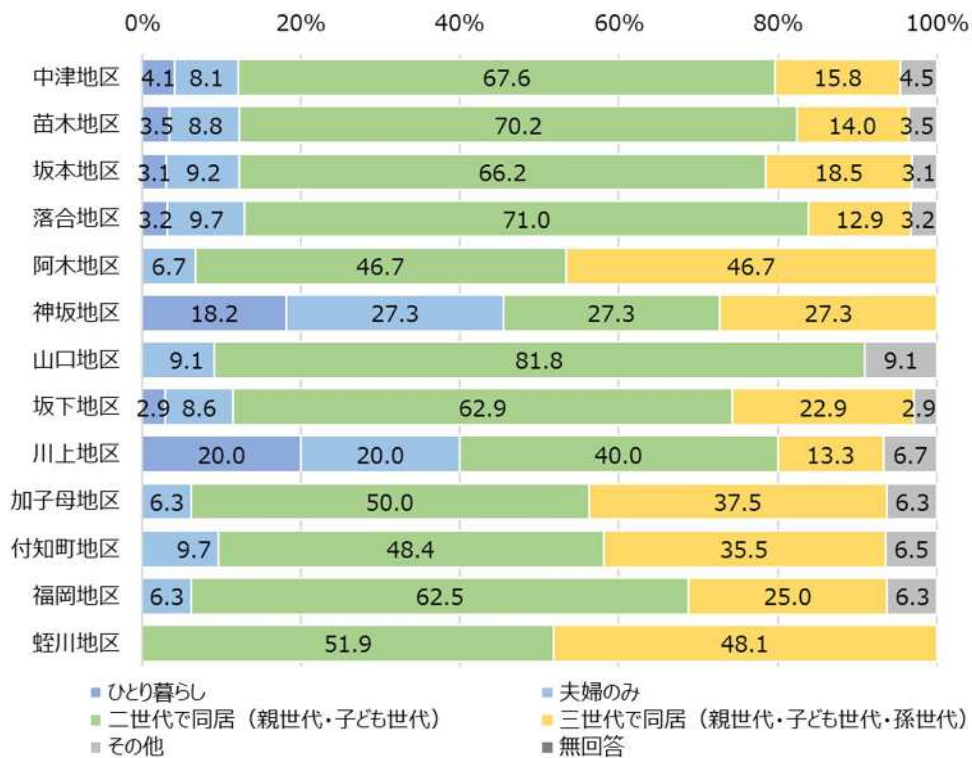


③地区別

【市民 1,500人】



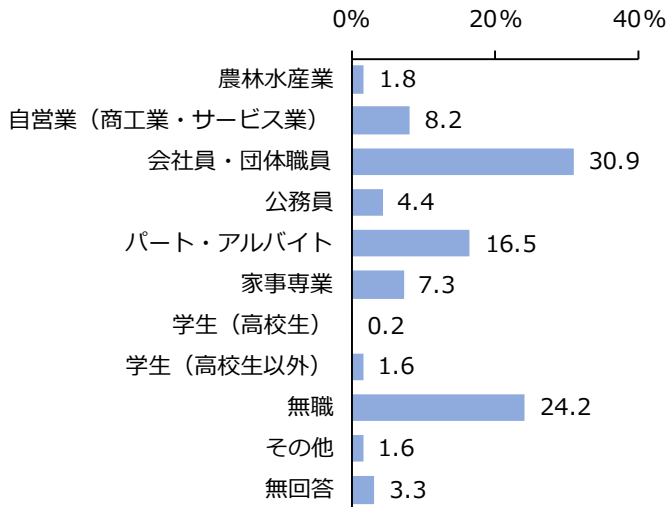
【web アンケート】



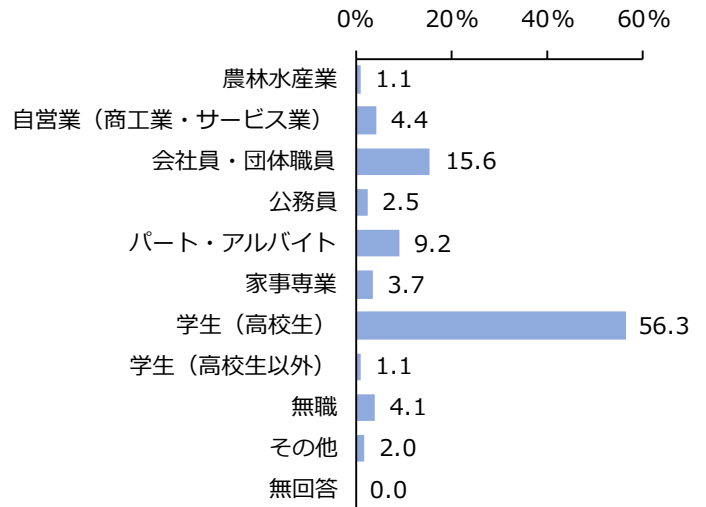
問 17. あなたの職業を教えてください。

①全体

【市民 1,500人】

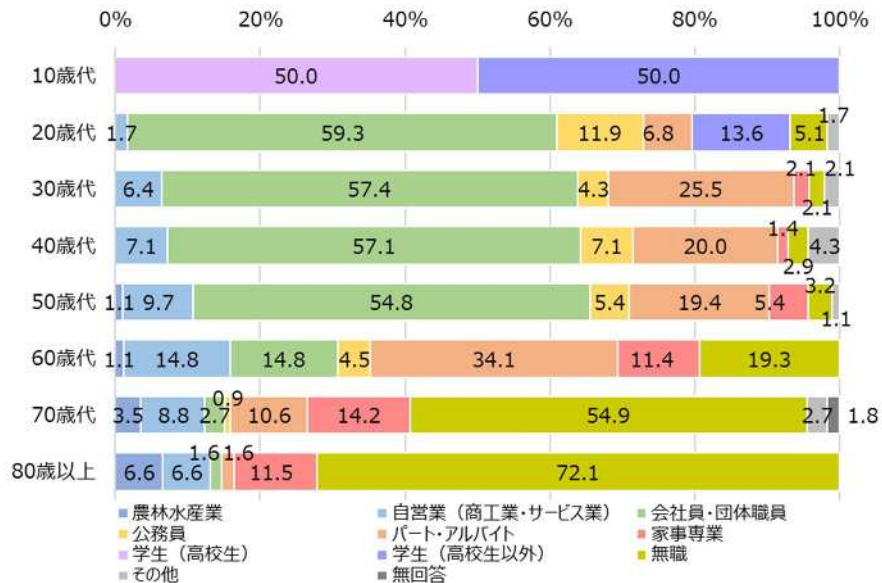


【web アンケート】

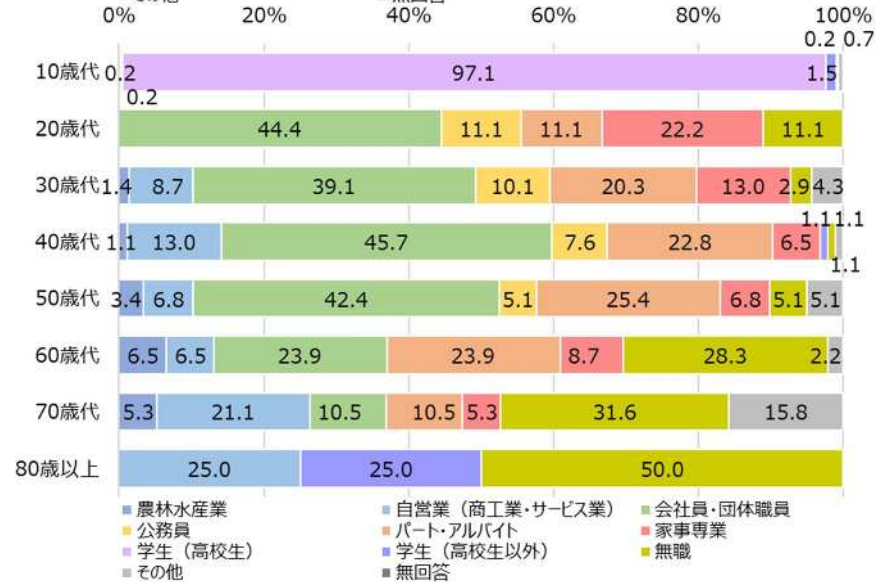


②年代別

【市民 1,500人】

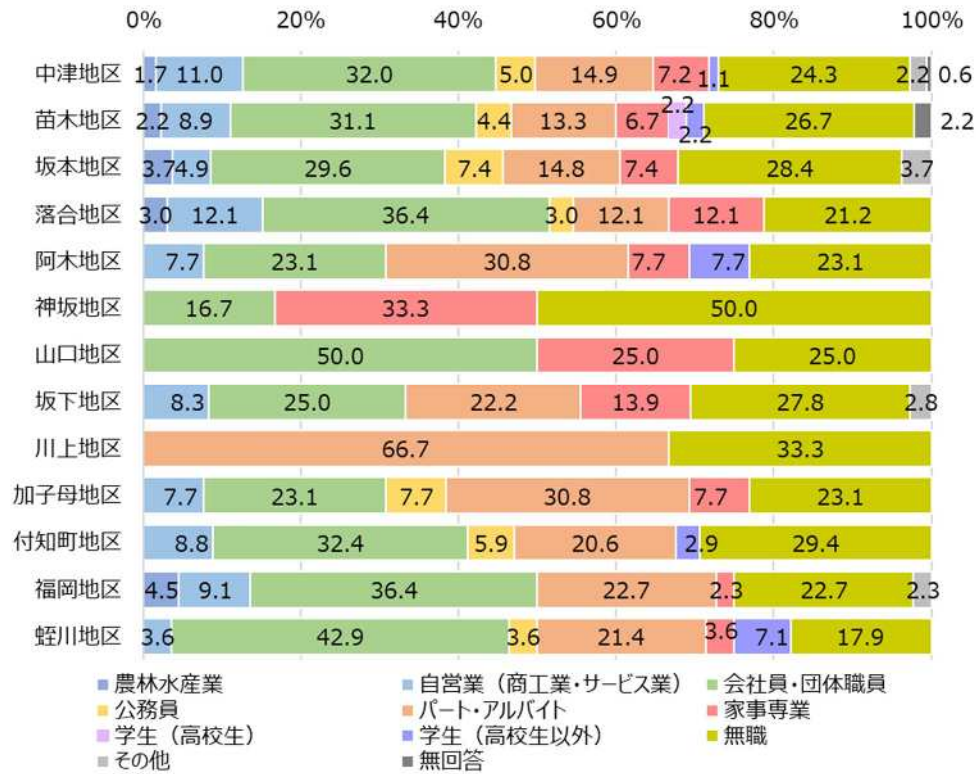


【web アンケート】

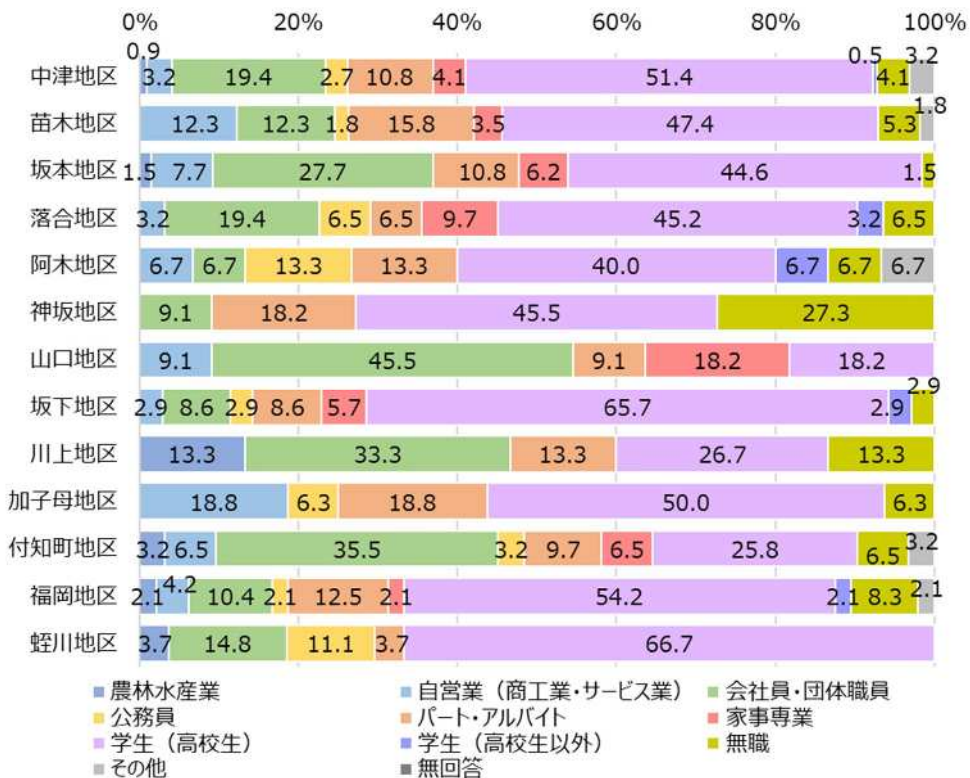


③地区別

【市民 1,500人】



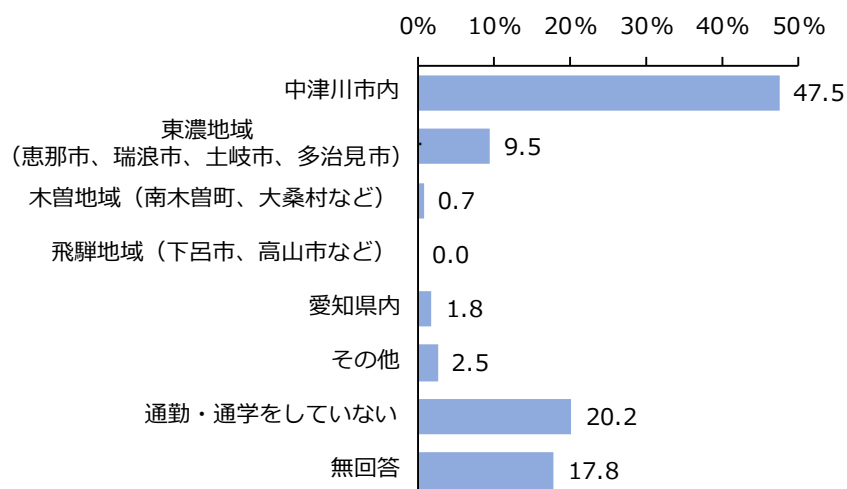
【web アンケート】



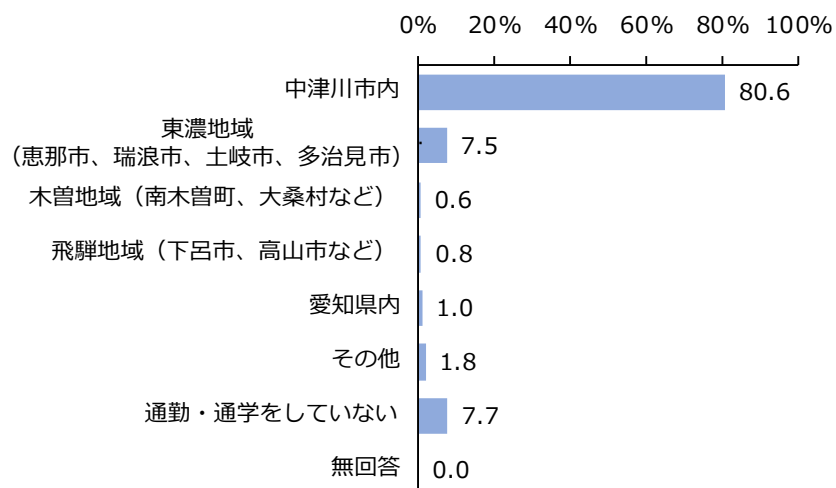
問 18. あなたの通勤・通学先を教えてください。

①全体

【市民 1,500 人】

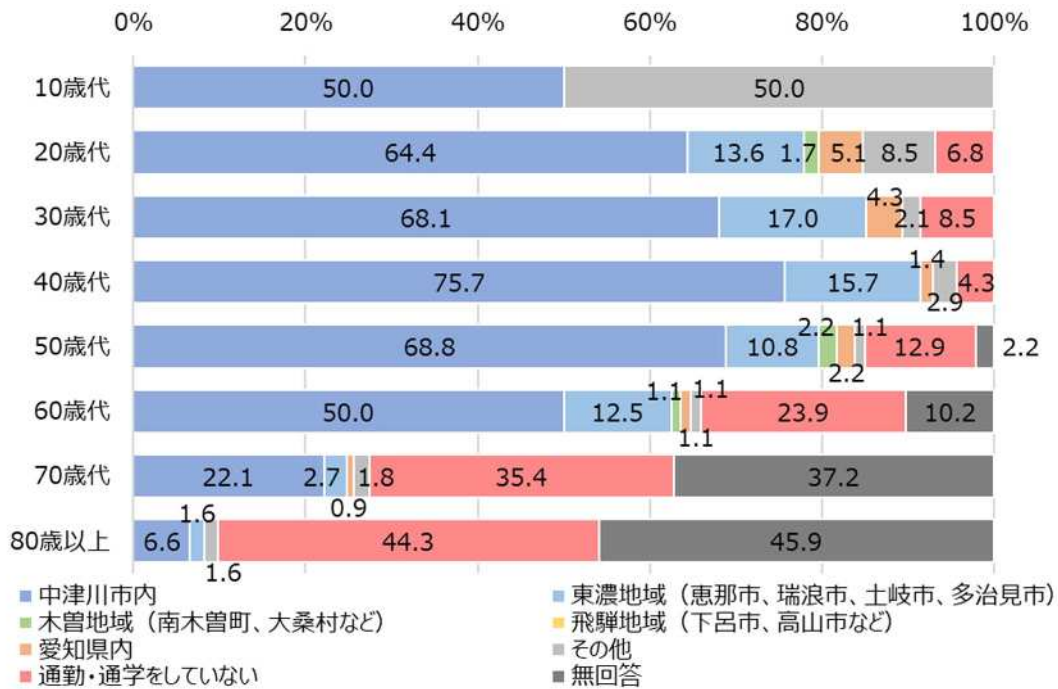


【web アンケート】

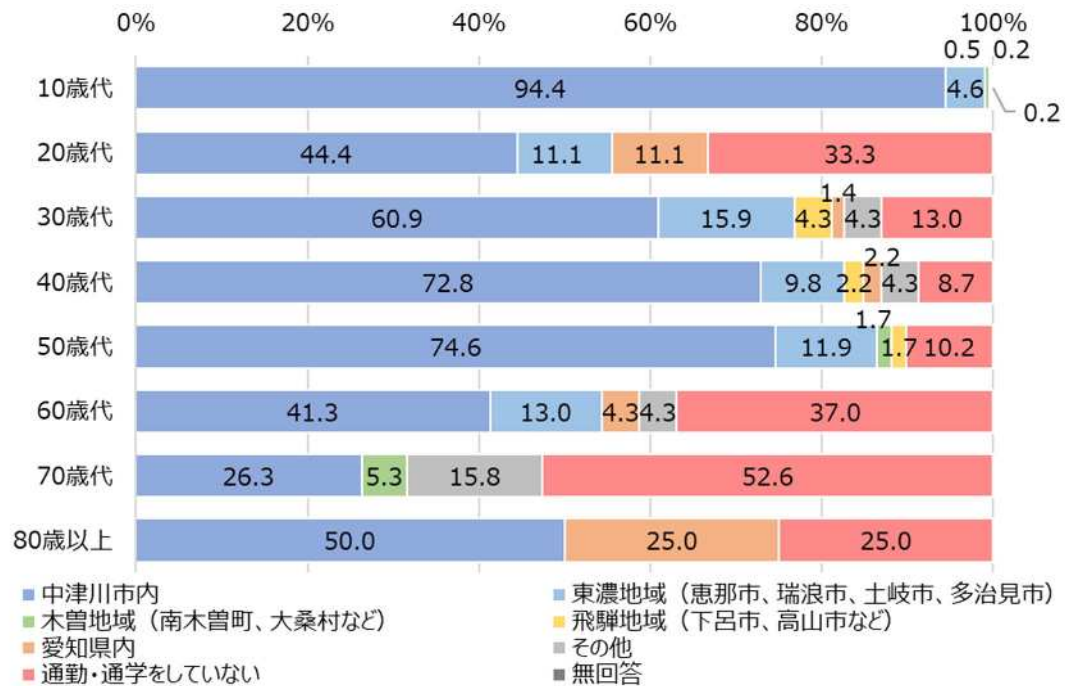


②年代別

【市民 1,500人】

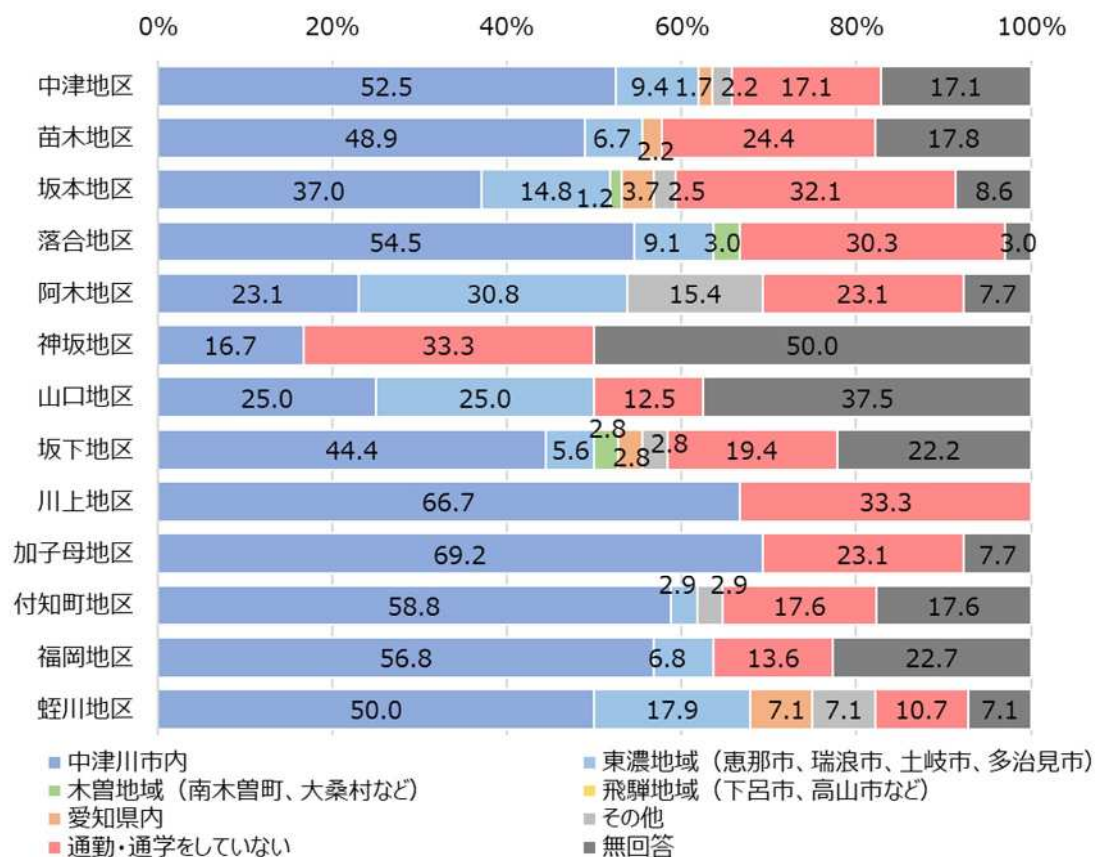


【web アンケート】

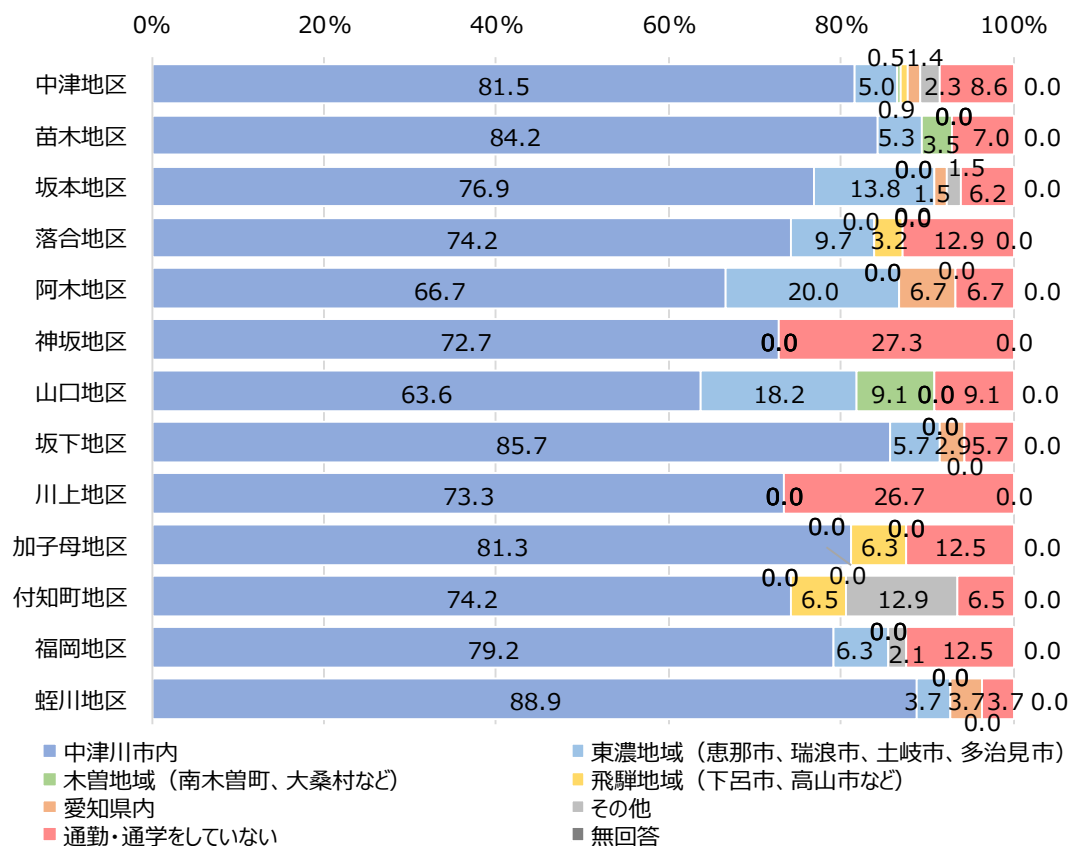


③地区別

【市民 1,500人】



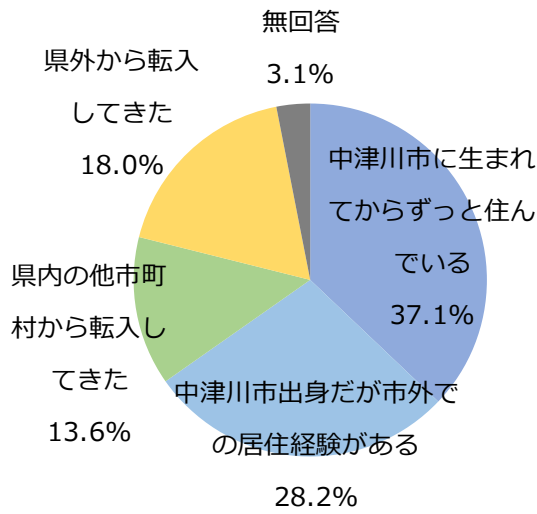
【web アンケート】



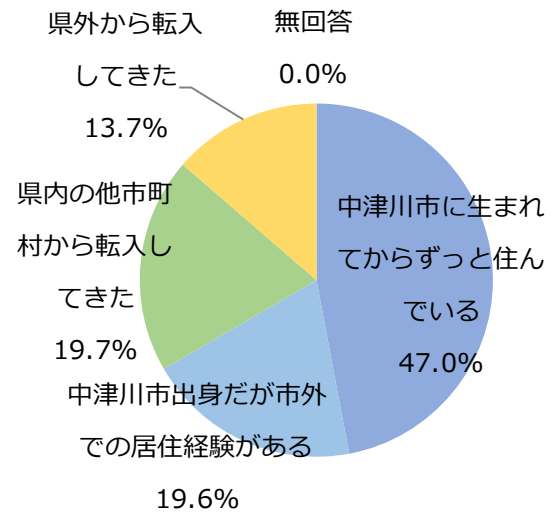
問 19. あなたの居住経験を教えてください。

①全体

【市民 1,500人】

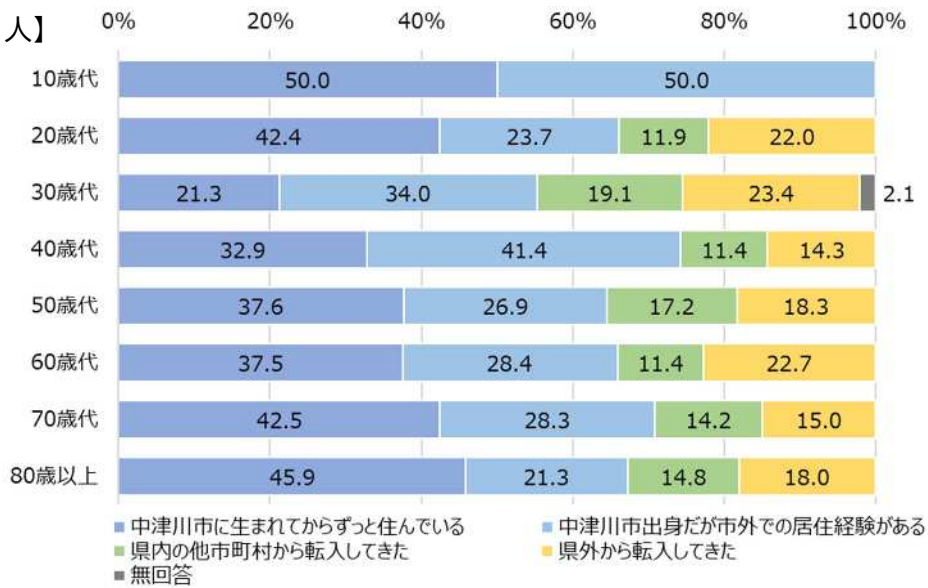


【web アンケート】

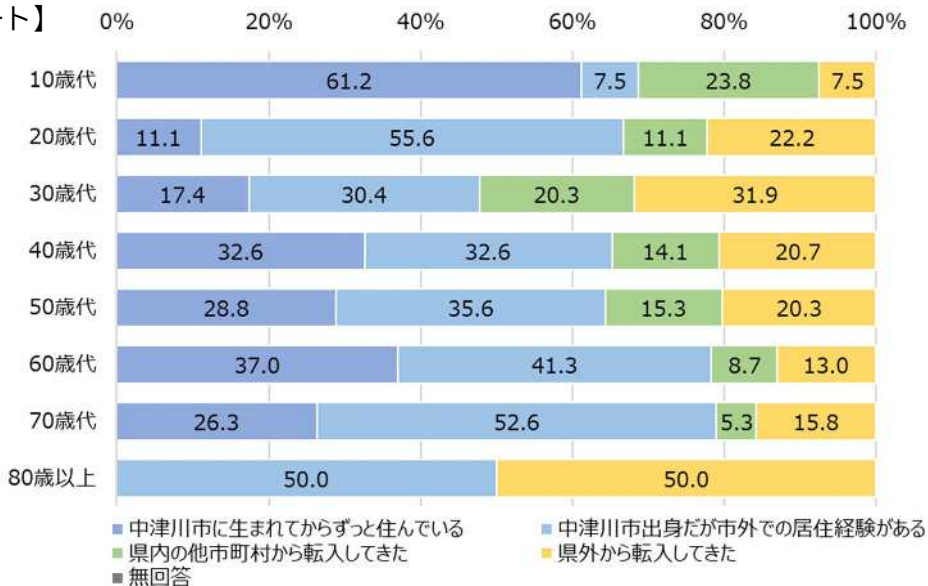


②年代別

【市民 1,500人】

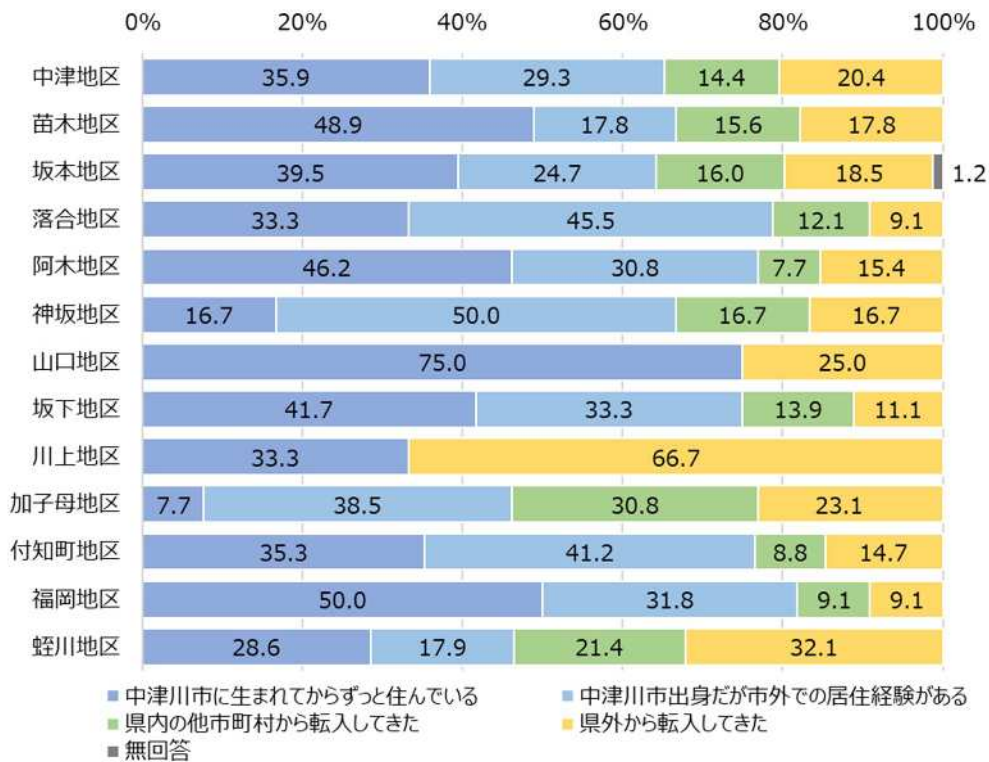


【web アンケート】

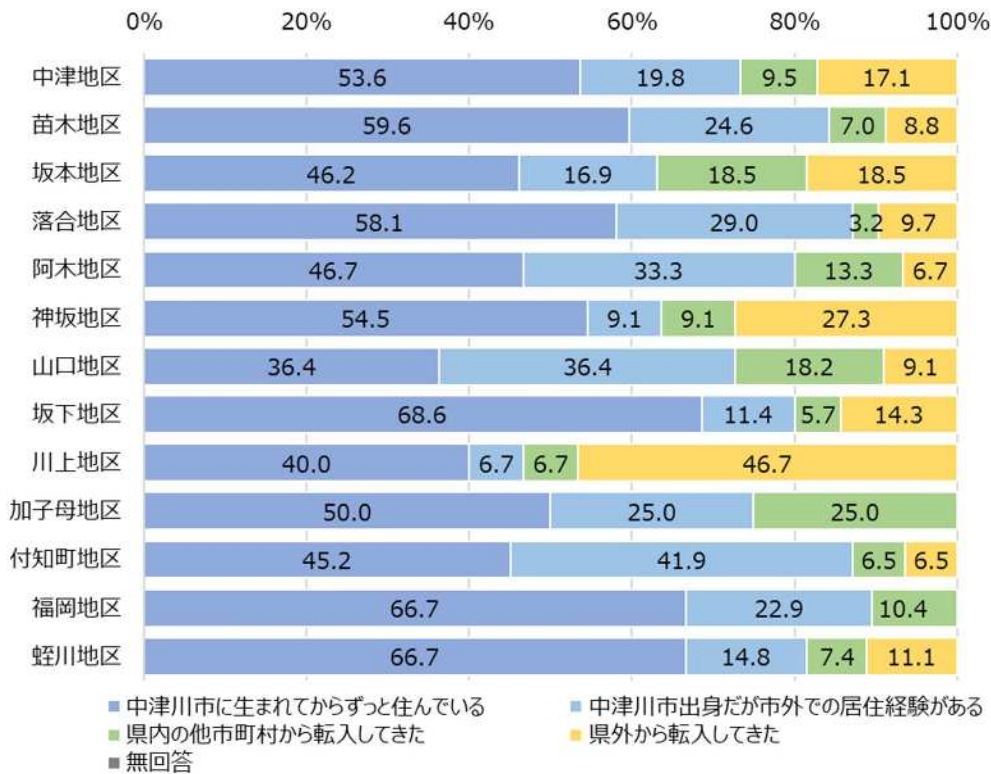


③地区別

【市民 1,500人】



【web アンケート】



1-2 市民意識調査（アンケート調査）：小中学生

(1) 実施概要

調査目的	中津川市総合計画を策定するための基礎資料として、中津川市の現状や課題、まちの姿など、小中学生を対象とした意向調査を行うことを目的とする
調査対象者	小中学生（市内の小学6年生、中学2年生） 1,172人
調査期間	令和6年9月20日～10月18日
調査方法	web アンケート形式
有効回答数	1,172票

(2) 設問構成

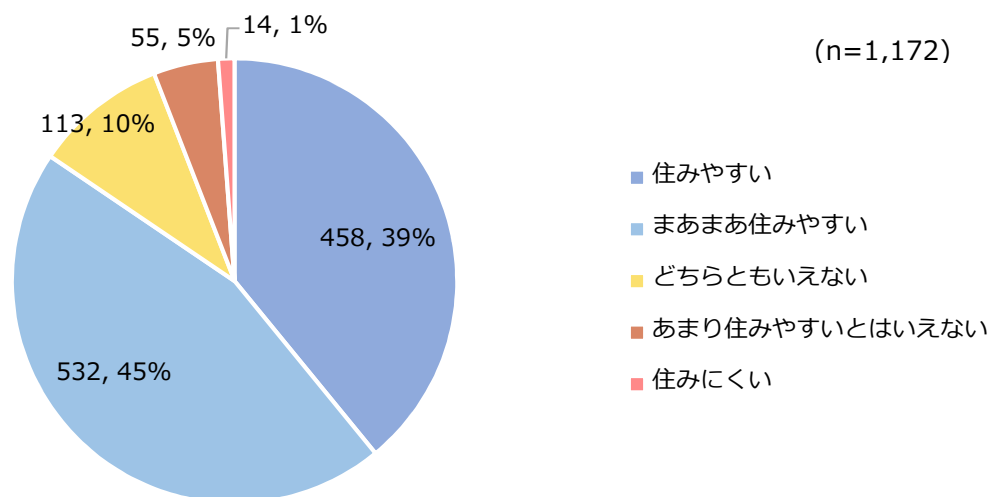
1. 現状の暮らしについて	
問1	暮らしやすさ
問2	誇りや愛着
2. 今後の居住意向について	
問3	今後の居住意向
問4	住み続けたい理由
問5	移りたい理由
3. これからのまちづくりについて	
問6	市の自慢（誇れるもの、他の市町村に負けていないと思うもの）
問7	市長になったらしたいこと
問8	リニアを活用したまちづくりで重要なこと
4. 自由意見	
問9	住んでよかったと思うこと／思ったこと
問10	まちの発展や市民の暮らしを豊かにするための意見や提案、夢
5. 基本属性	
問11	性別
問12	学年
問13	住んでいる地区

(3) 各問の集計、分析

1. 現状の暮らしについて

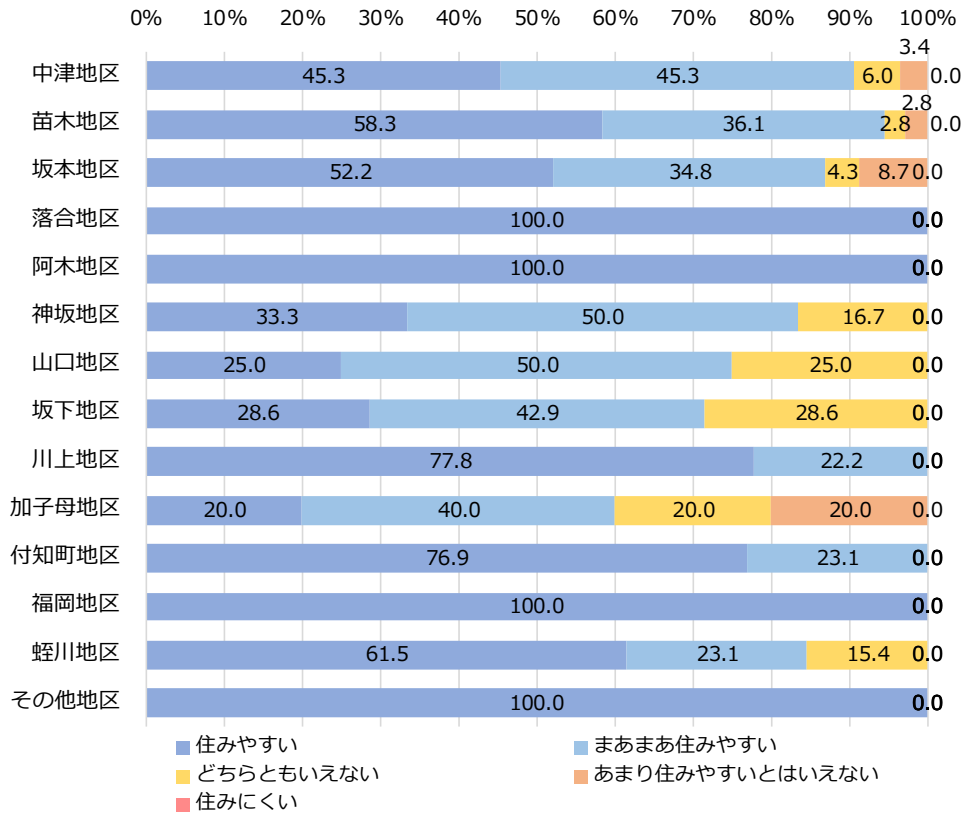
問1 あなたにとって、中津川市は住みやすいまちですか？

① 全体

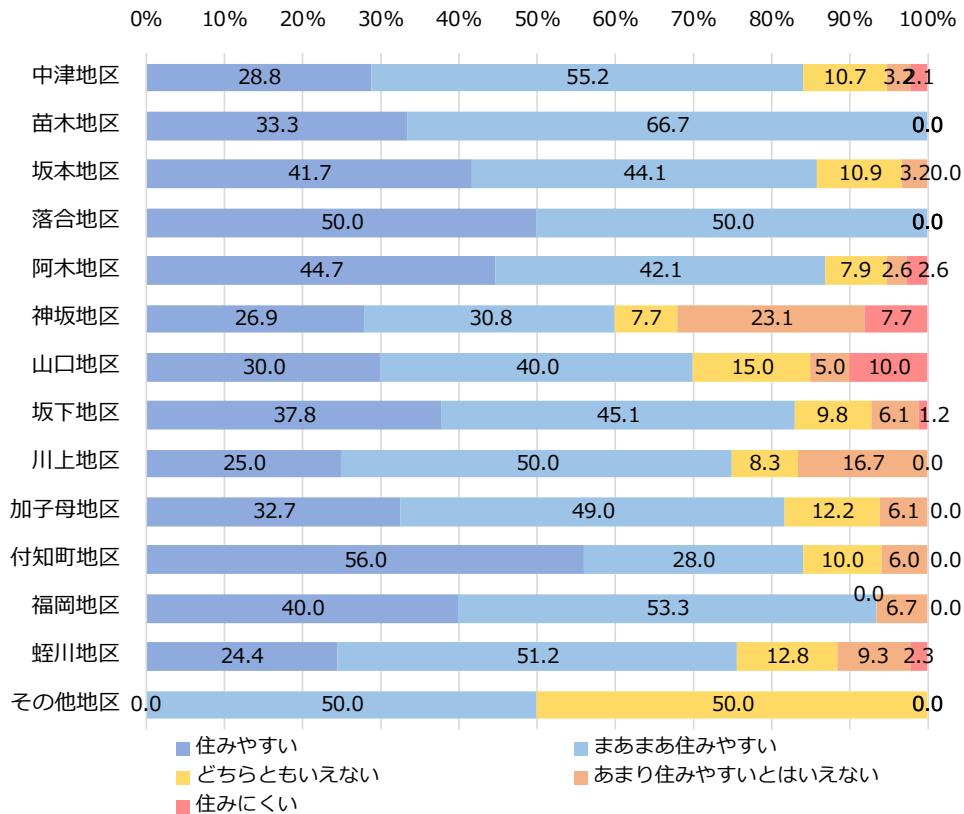


② 地区別

小学生

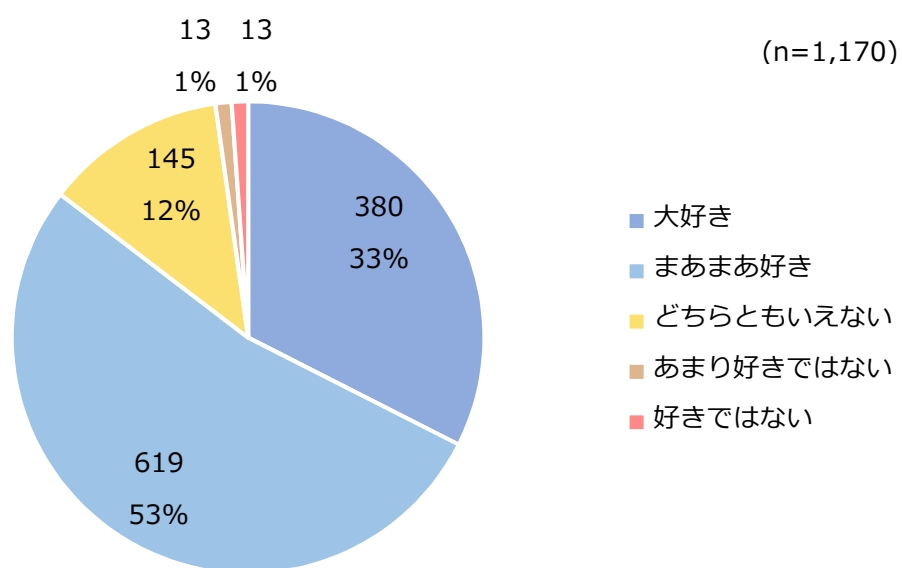


中学生



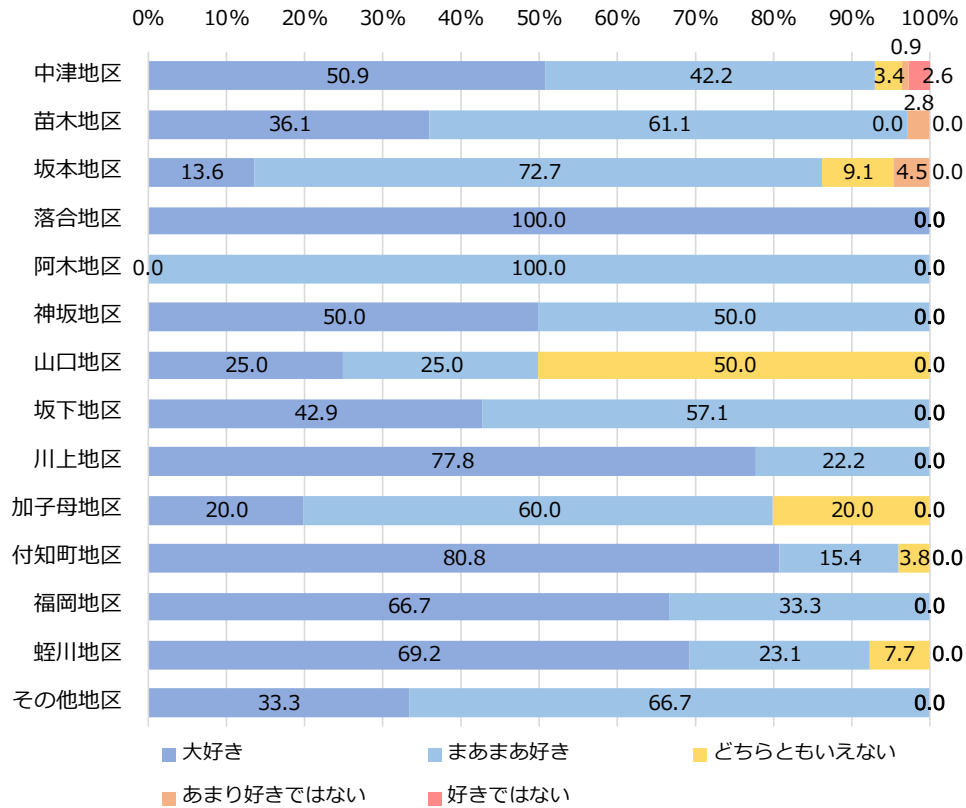
問2 あなたは、中津川市のことが好きですか？

① 全体

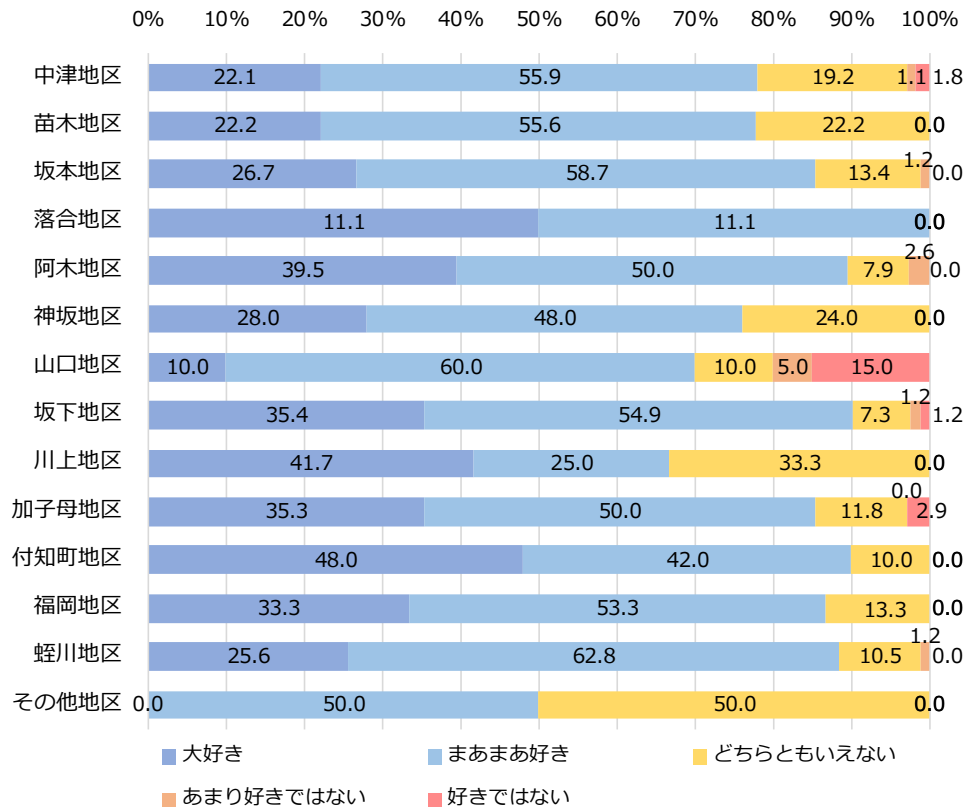


② 地区別

小学生



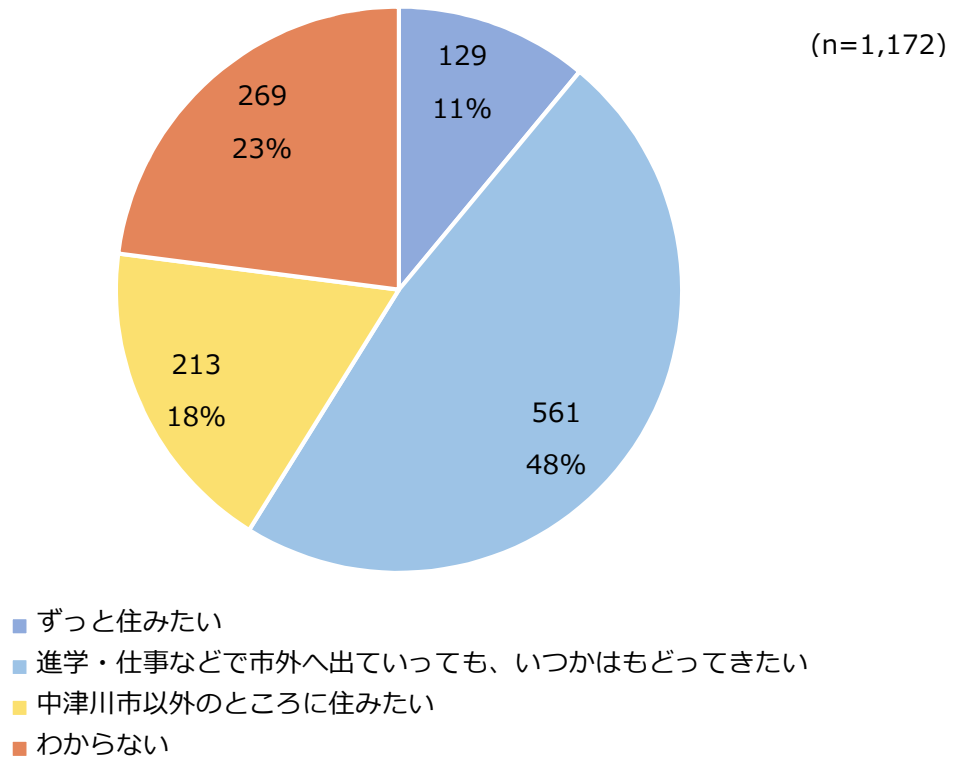
中学生



2. 今後の居留意向について

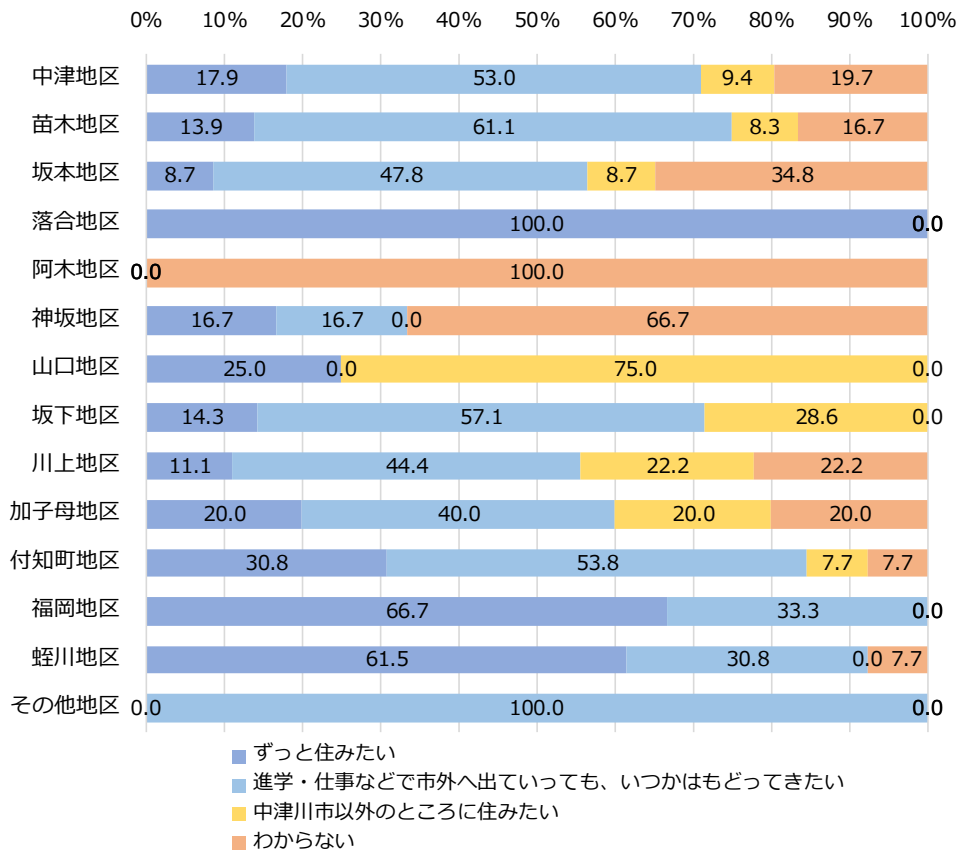
問3 あなたは大人になってからも中津川市に住みたいと思いますか？

① 全体

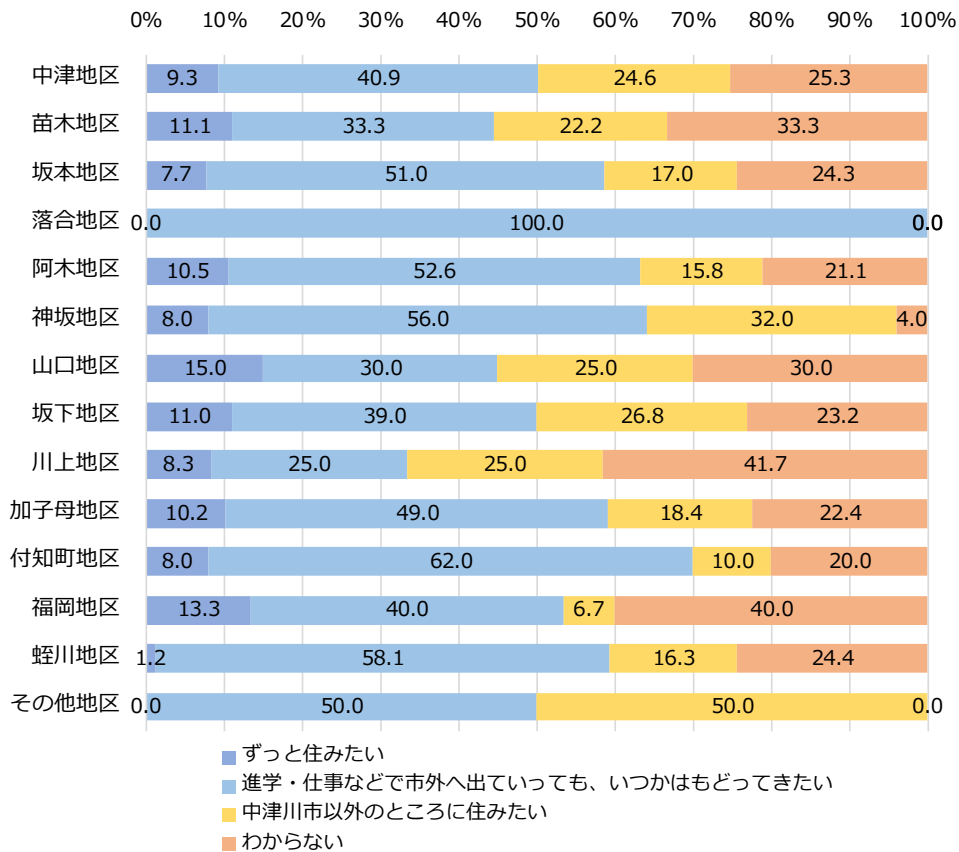


② 地区別

小学生

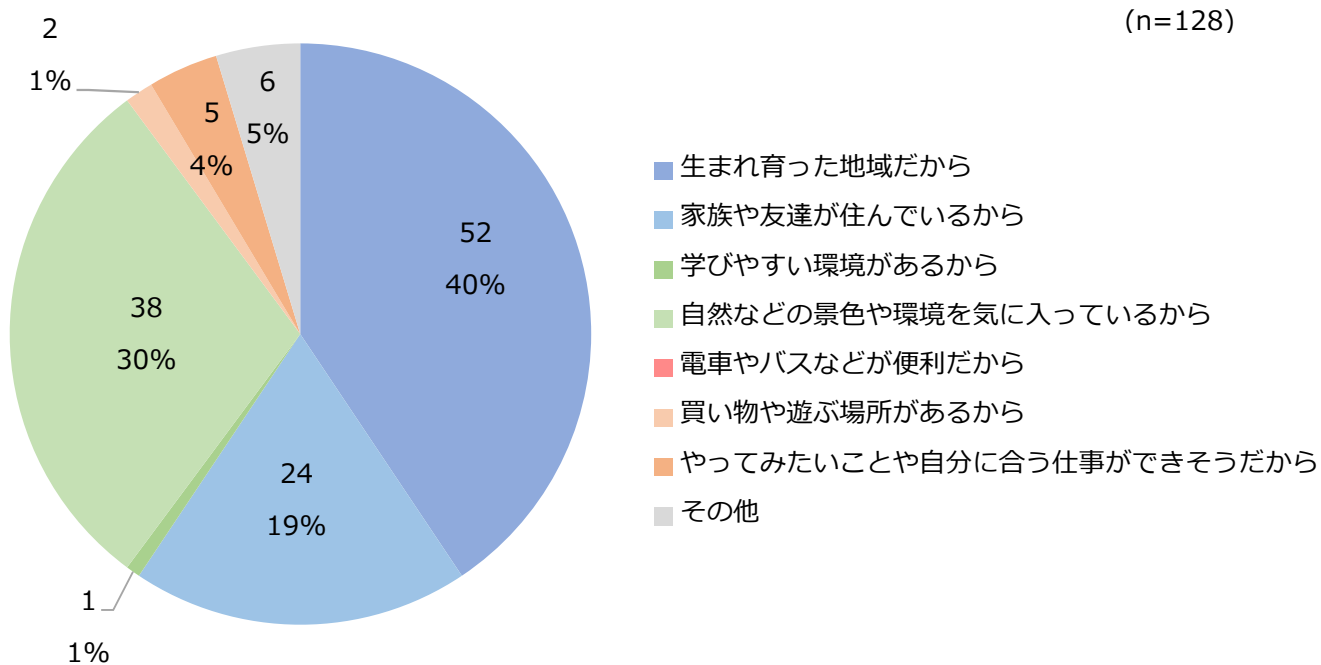


中学生



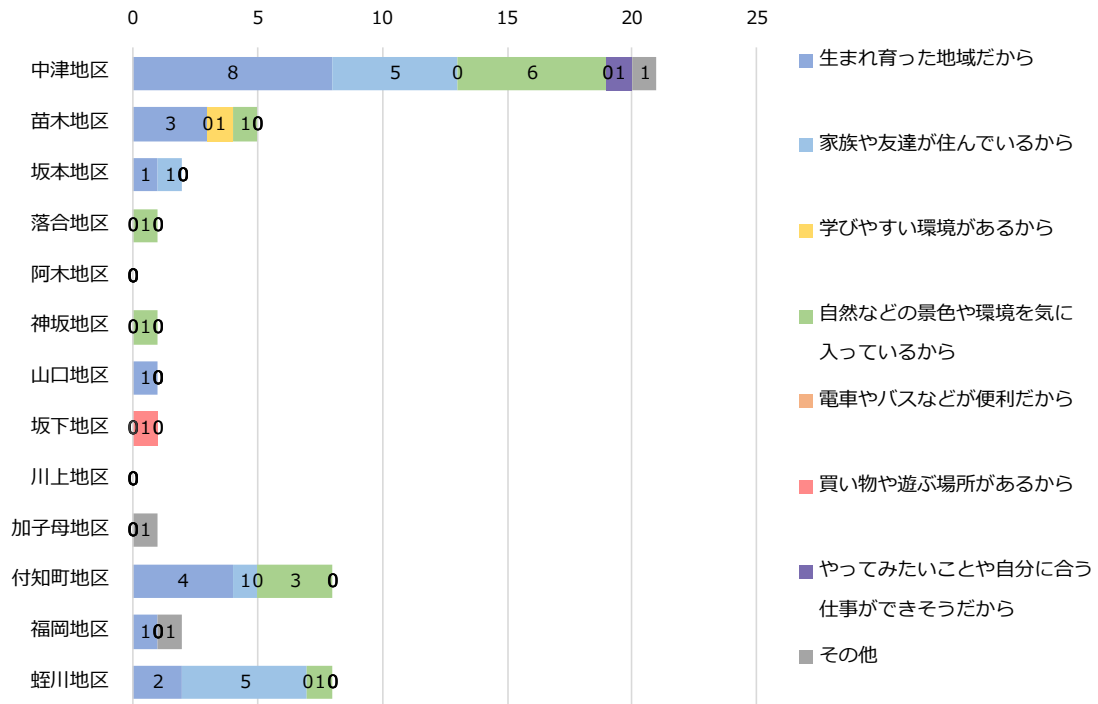
問4 問3で「1. ずっと住みたい」「2. 進学・仕事などで市外へ出ていっても、いつかはもどってきたい」と回答した方にお聞きします。それはどうしてですか？

① 全体

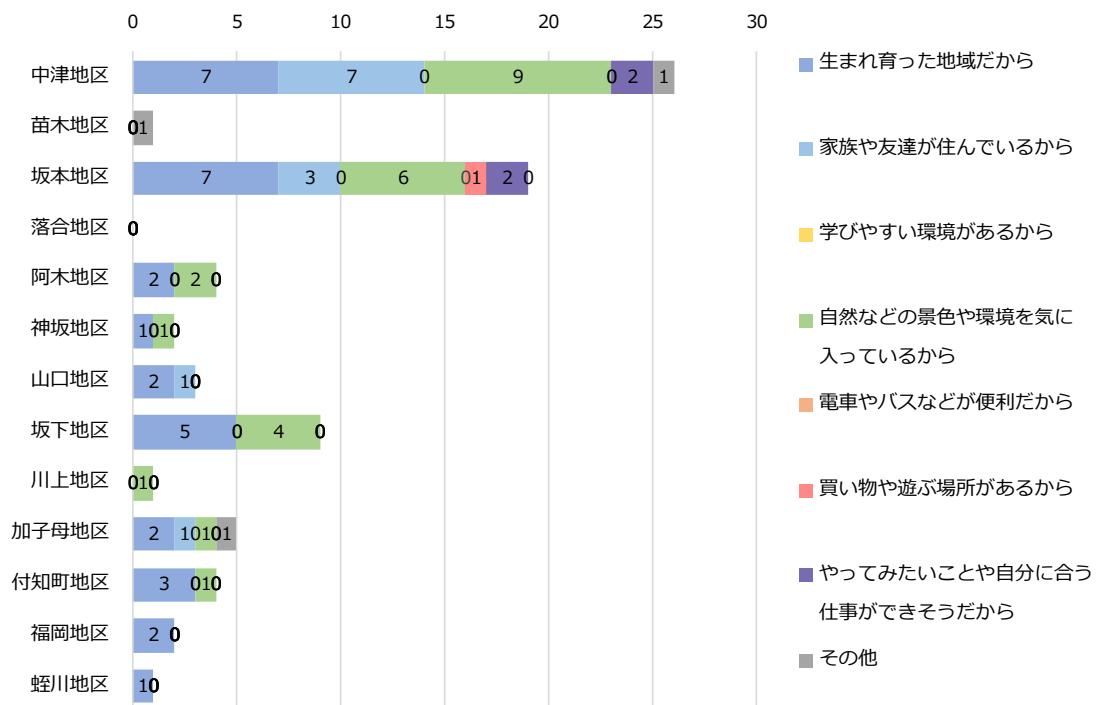


② 地区別

小学生



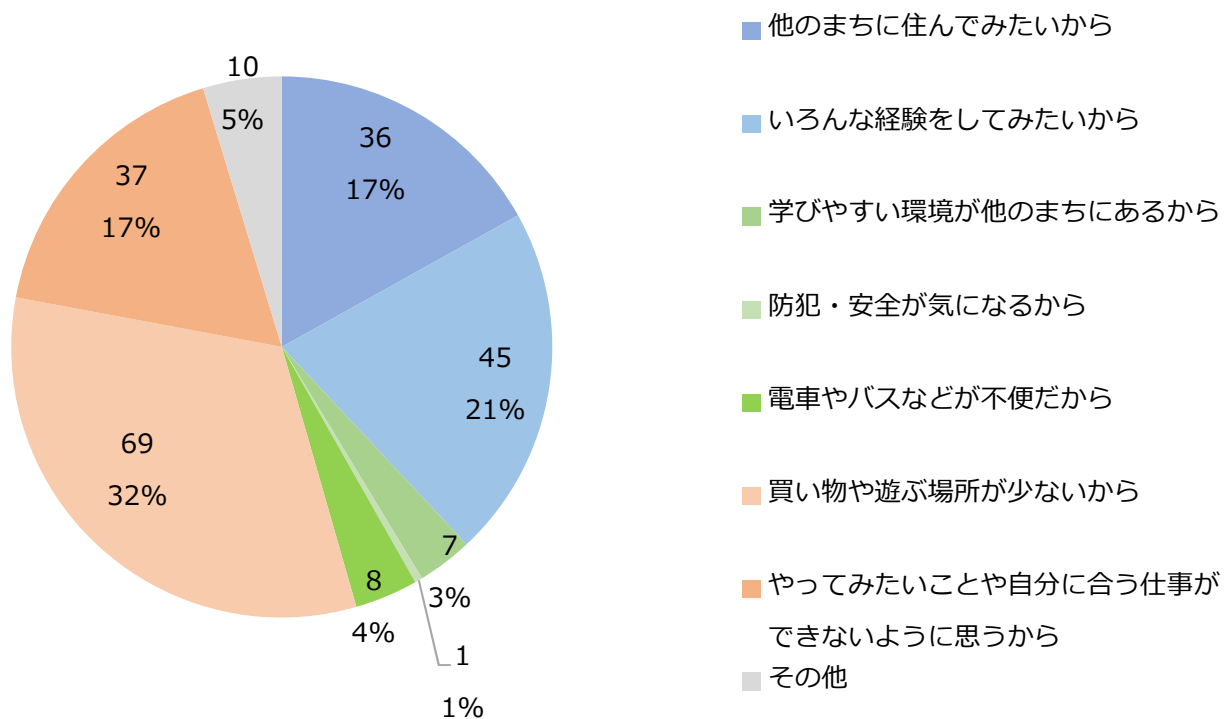
中学生



問5 問3で「3. 中津川市以外のところに住みたい」を選んだ方は、その理由を教えてください。

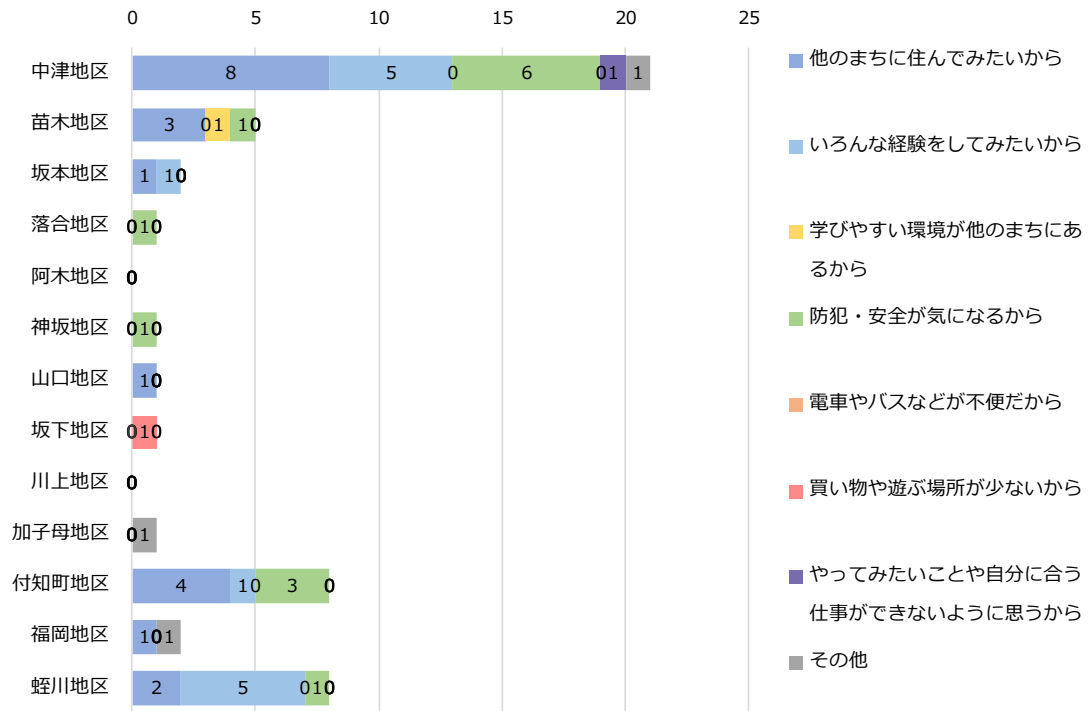
①全体

(n=213)

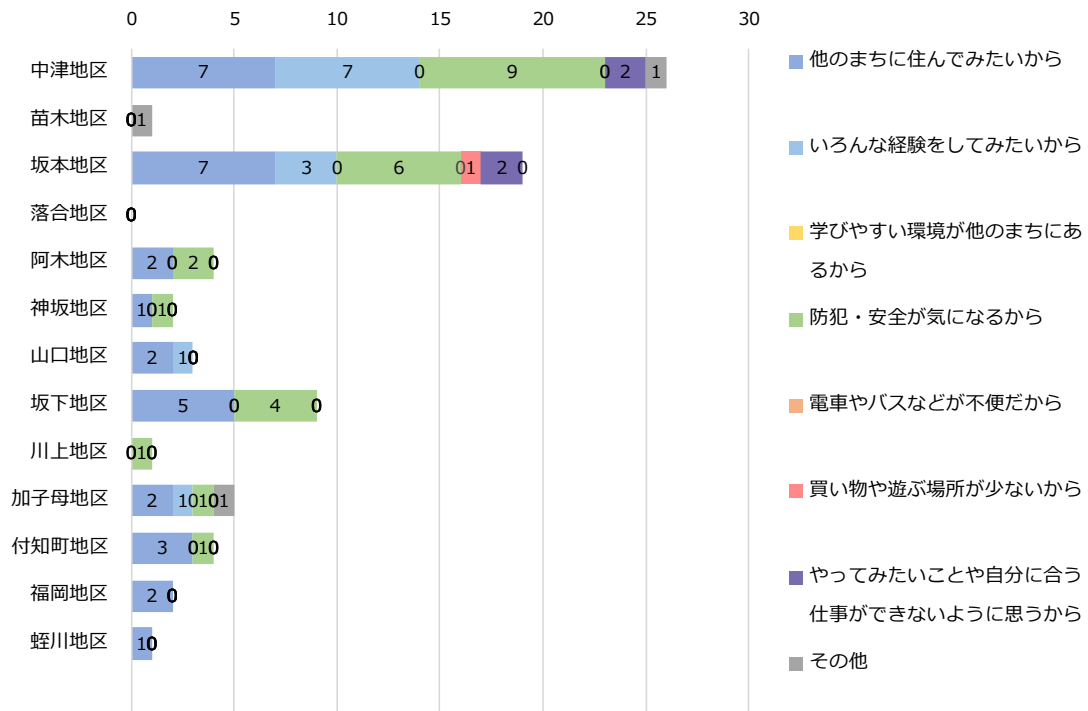


②地区別

小学生



中学生



3. これからのまちづくりについて

問 6 あなたは、中津川市が自慢（じまん）できるもの、他の市町村に負けていないと思うものは何だと思えますか？

●意見分類

意見分類	回答数
食べ物がおいしい、豊か(栗きんとん・郷土料理・新鮮な食材等)	541
自然が豊か	377
人がやさしい、あいさつ	78
その他	78
観光スポットや観光客の多さ	76
歴史や文化がある	74
リニア	72
水が綺麗、おいしい	69
空気が綺麗、おいしい	57
安心・安全	34
山がある	29
地域イベント	20
程よい田舎	18
景色	18

●主な意見

主な意見
・ひとまちテラスという勉強などがしやすく、きれいな場所ができたこと ・リニアの駅ができる ・栗きんとんなど有名なものがある
中津川市市民国際交流事業「中学生タイ研修」
緑などの自然の豊かさ 中山道や馬籠宿などの歴史の観光場所
いい陸上競技場がある所
面積の大きさ、特産品、中津川市民病院日本で初めての MRI 装置が診療用に設置されたこと
子供の成果を称えるのが良いところ、子供金メダルなど
緑のすてきな街でもあるし、ぎおんばや西七区では他地域では少ない火の用心などの防災活動をやっていることを誇りに思っている。
通りすがりの人が、挨拶をしてくれたり、挨拶をすると笑顔で挨拶を返してくれる所

問7 もしあなたが中津川市の市長だったら、中津川市をどんなまちにしたいですか？

●意見分類

意見分類	回答数
住みやすい、住み続けたい	229
商業施設（ショッピングモール、コンビニ、映画館などの娯楽施設）	201
その他	166
自然	160
楽しい	83
都会にしたい	81
安心・安全	77
交流	60
来てみたいと思う、観光	60
交通	44
綺麗	42
観光スポット	40
便利	39
子育てしやすい	31
地域固有のもの	30
笑顔	26
賑やか	25
医療・福祉	17
イベントの実施	14
市民の意見を取り入れる	11
現状維持	11

●主な意見

主な意見
自然がたくさんあって、交通手段も便利で、もっと産業や人が集まるよう計画を立てて、誰もが便利に生活できて、災害などの対策もしっかりして、他の市や県が困っていたら助けられて、全国を支えられるまちづくり
中津川市の特産品や苗木城等の観光地を世界に発信して世界や他県観光客に注目される中津川市、SNS 等でおすすめの地域伝統料理や五平餅の発信やふるさと等のオンラインショッピングを使った販売、移住者へ子育て費用や教育費、医療費への補助金支出
「こだわる」中津川市にしたいです。（「個」人個人が中津川に住む人が増えるようにするために、「駄」菓子や「和」菓子造りを行ったりして、「ル」ンルンな中津川市にする。）

問 8 将来、中津川市にはリニア駅がつくられます。リニアを活用したまちづくりのために、何が重要だと考えますか？

●意見分類

意見分類	回答数
商業施設をつくる	390
その他	352
観光スポットの整備	306
自然を守りつつ、活かす	196
まちの魅力を伝える	176
駅前の活性化	140
お土産など特産品をつくる	136
公共交通の充実	82
町の発展	76
安心安全	60
駐車場や道路の整備	56
人の多さ	52
飲食店をつくる	50
町を綺麗にする	44
にぎやかな場所をつくる	38
ホテルなどを建てる	38
住みやすい町	32
イベントを行う	30
意見を聞く、協力する	26
言語対応	24
公園の整備	20
リニアへの理解	18
リニアの利用のしやすさ	18
住宅	14
金銭的支援	14

●主な意見

主な意見
リニア等身大模型を作り、駅に置く・リニアのマスコットキャラクターなどをつくる
リニアの駅から中津川市内に人が来るようなルートづくり 無印のバスの導入 芸能人が住みたい、発信したいと思える土地づくり

4. 自由意見

問9 中津川市に「住んでよかったと思ったこと」がありましたら、教えてください。

●意見分類

意見分類	回答数
自然・緑豊か	343
人	160
その他	142
空気が綺麗	119
特産品など食べ物がおいしい	73
川	63
治安が良い	57
静か	45
便利	43
災害が少ない	37
のどか・過ごしやすい	35
人の規模がちょうどいい	25
歴史や文化	24
都会過ぎず田舎過ぎない	16
お店がある	16
空気	12
リニア	11

●主な意見

主な意見
夏場は川遊びにたくさん出かけられること。また、中津川市は広いので、自由研究で、地域による温度差や特産物の違いを知ることができた
中津川市市民交際交流事業「中学生タイ研修」でタイの方達と交流できたこと
大きな災害がない 意外に便利 18歳までの医療費の無償化
ひとまちテラスができて、たくさんのお店やイベントが増えたことと、木曾三川があっただけに思ったこと。

問 10 中津川市のまちがより良くなり、市民のみなさんのくらしを豊かにするための、ご意見や夢を聞かせてください。

分野	施策	回答数
子育て・教育		38
	子育て支援の推進	9
	学校教育の推進	29
	幼児教育の推進	0
健康・福祉		39
	健康づくりの推進	1
	地域医療の充実	10
	児童福祉の充実	11
	障がい者福祉の充実	0
	高齢者福祉の充実	6
人権・共生社会		5
	多様性の尊重・多文化共生の推進	4
	人権教育の推進	1
協働・コミュニティ		52
	協働・市民活動・コミュニティ活動の充実	52
	国際交流の充実	0
移住・定住		12
	移住・定住の促進	12
生涯学習・社会人教育		0
	生涯学習の充実	0
	社会人の学び直しの充実	0
文化・スポーツ		16
	歴史・文化、伝統芸能の保全・伝承・利活用	7
	スポーツの振興	9
防災・防犯		26
	防災・減災対策の充実	3
	消防・救急体制の充実	0
	防犯・交通安全対策の充実	23
	消費生活対策の充実	0
自然環境		74
	自然環境の保全	73
	再生可能エネルギー・新エネルギー導入の推進	1
生活環境		44

分野	施策	回答数
	ごみ対策の充実	44
	し尿収集・処理の充実	0
	生活環境保全の推進（斎場・墓地の整備等）	0
商工業		794
	商業の振興	386
	工業の振興	1
	地場産業の振興	8
	雇用対策の充実	17
	企業誘致の推進	382
観光		38
	観光の振興	38
農林業		6
	農業の振興	3
	畜産の振興	0
	鳥獣害対策の充実	3
	林業の振興	0
基盤整備		55
	道路、橋梁の整備・維持管理	46
	上下水道の整備・維持管理	0
	リニアを活かした基盤整備	9
都市計画・整備		108
	良好な街並み・景観の整備	8
	計画的な都市整備の推進	74
	公園・緑地の整備・維持管理	22
	居住環境の整備（住宅改修補助、空き家対策など）	4
公共交通		65
	公共交通機関の整備・充実	65
広報・広聴		10
	情報発信の強化	10

●主な意見

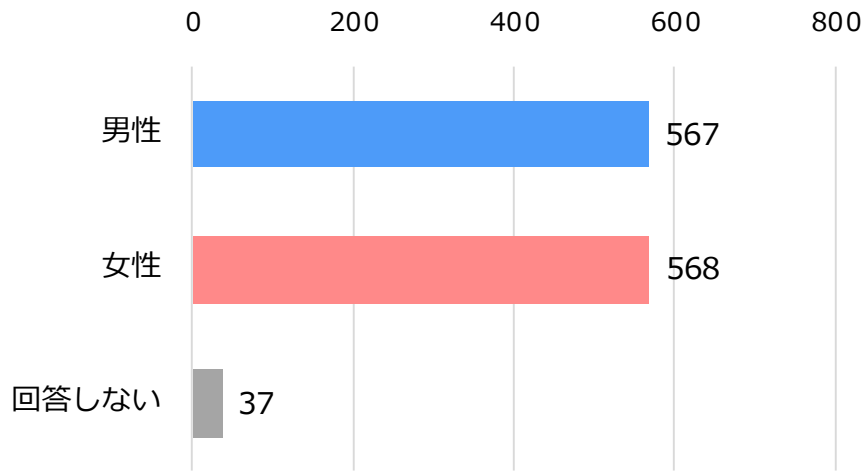
主な意見
図書館などでわからない問題を調べることのできるスペースを作ってほしい。若者向けのお店を増やしてほしい
もう少しお店がほしいことと、電車やバスでの移動がしやすくしてほしい
今の景観を残しながらも、もっと暮らしやすい便利なまちにしてほしい
通学路の道の整備をしてほしい
栗きんとんの街中津川ミュージアム、中山道の里マラソン、東濃大都市計画

5. 基本属性

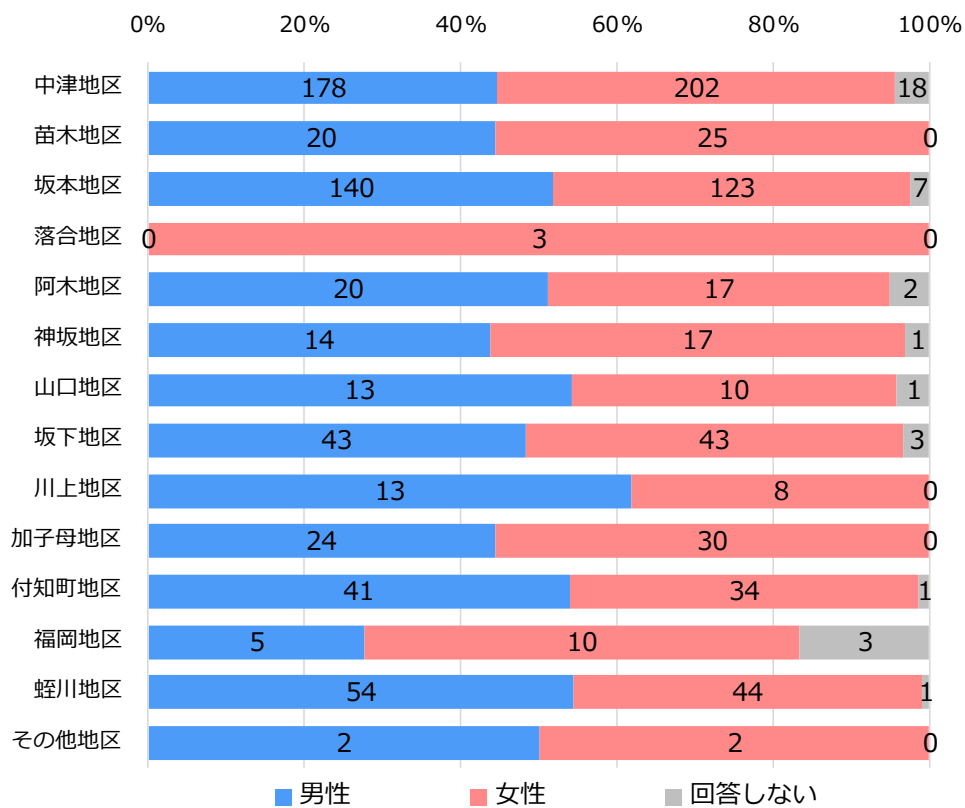
問 11 あなたの性別を教えてください。

①全体

(n=1,172)

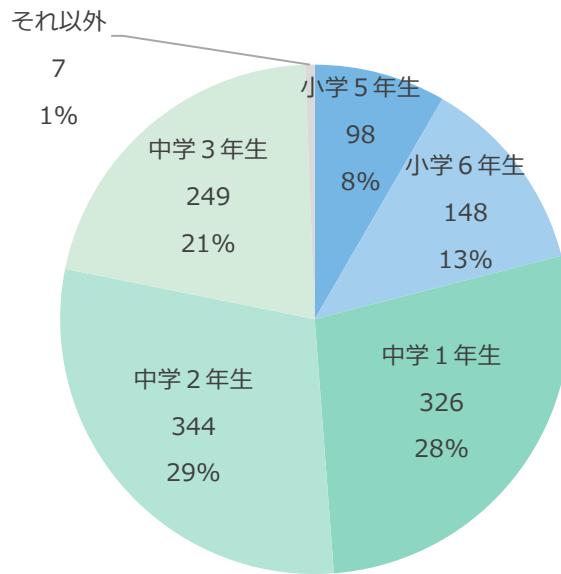


②地区別



問 12 あなたの学年を教えてください。

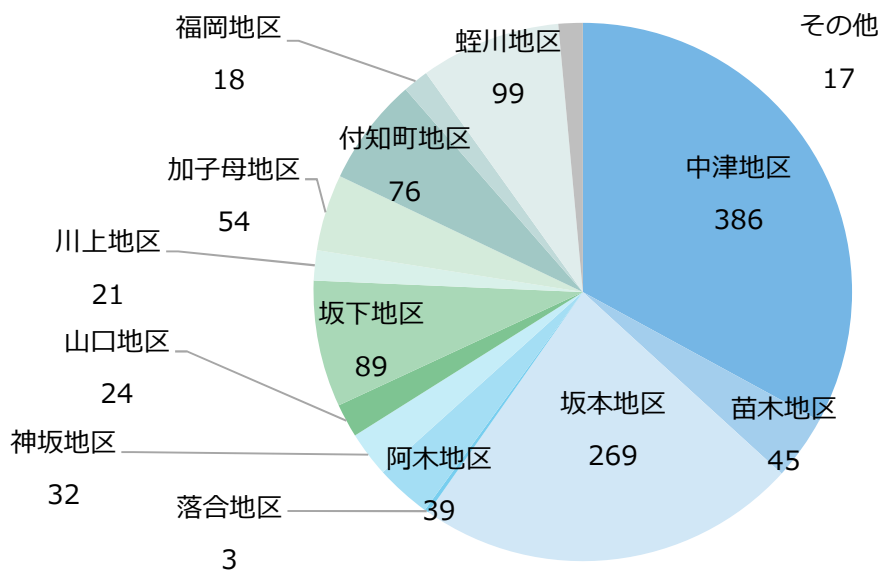
(n=1,172)



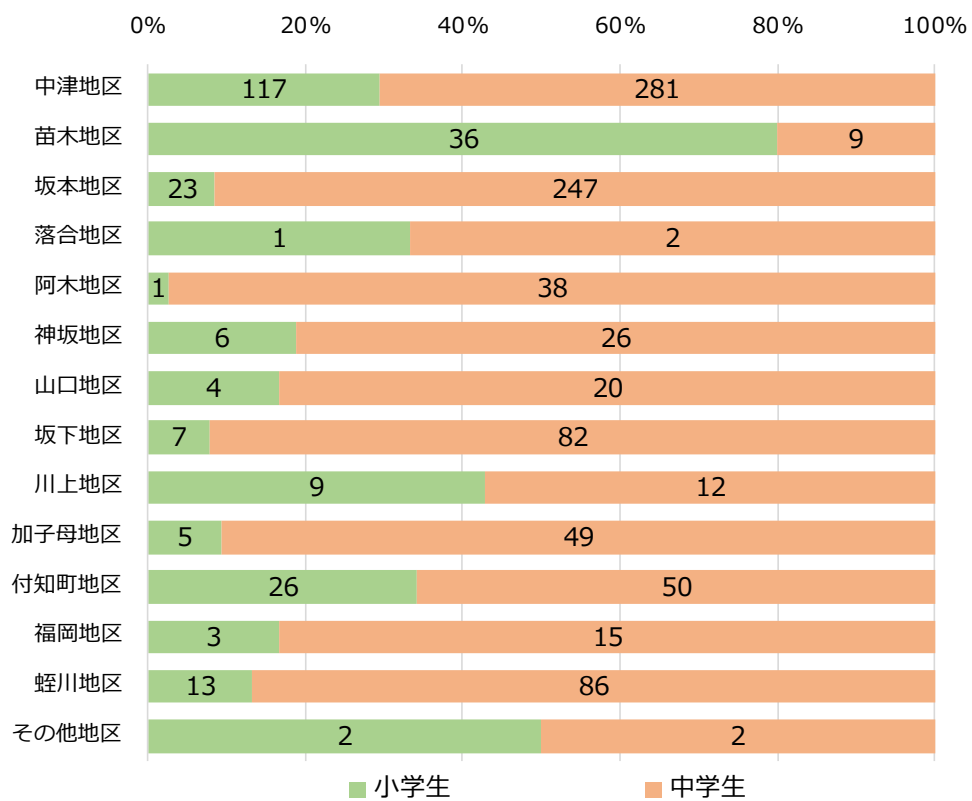
問 13 あなたの住んでいる地区を教えてください。

①全体

(n=1,172)



②年代別



1-3 グループインタビュー

(1) グループインタビューの概要

調査目的	中津川市総合計画を策定するための基礎資料として、各団体の代表者及び職員から中津川市の現状や課題、まちの姿など、調査票を用いたインタビュー形式で意向把握を行うことを目的とする
調査対象者	市に関係する各分野の団体・グループ ※商業、観光、工業、農林水産業、地域活動関係者、子育て関係団体等
調査期間	10月～11月
調査方法	郵送配布・回収

(2) 設問構成

1. 現状について	
問1	市のイメージを一言、その理由
問2	市の強み(魅力、満足しているところ)と弱み(不満や不足しているところ)
問3	施策で、満足しているものと不足しているもの
問4	施策で、今後も必要としているものと不必要と思うもの
2. ご所属の専門・関係分野について	
問5	現状や悩み
問6	団体別各種取り組み
3. 市の今後について	
問7	2036年の将来像
問8	魅力的なまちにするための必要な取組
問9	その他、自由意見

(3) 各問の集計、分析

分類	団体数
保育・子育て	22
まちづくり	14
商工	4
人権	1
文化・芸術	5
福祉	4
防災	6

(4) インタビュー結果

1. 現状について

問1. 中津川市のイメージを一言でお願いいたします。

分類	主な意見	回答数
自然の豊かさ	・素朴な風土、恵まれた歴史的景観、自然環境	22
行政運営	・アピールが苦手 ・新しい事業に消極的 ・何事もスピードがない	22
まちづくり	計画的なまちづくりがされてなく、農地と住宅が混在化しているばかりでなく、荒廃化した田畑、里山、里川が広がっている	20
歴史・文化	・苗木城、馬籠といった歴史と自然豊かな都市	11
商工業	・大きい商業施設が無い ・三菱電機とか王子製紙といった工業がある	10
その他	・古（いにしえ）文化の香りと先端産業の織りなす日本のど真ん中都市なかつがわ	7
リニア	・リニア新幹線により発展する町 ・リニアに未来を託す田園小都市	6
特産物	・和菓子（栗きんとんが有名）	5
人口減少	・恵那山の懐に抱かれる町だが人の営みにぬくもりと活気がない。	4
防犯・防災	・事件、事故、災害が少ない。 ・犯罪に対し、人ごとと思っている方が多いように感じる	3

問2. 中津川市の強み（魅力、満足しているところ）と弱み（不満や不足しているところ）を教えてください。

●強み

分類	代表意見	回答数
自然の豊かさ	・森林・清流などの自然資源がある	29
歴史・文化	・宿場町ならではの歴史ある家屋や名所がある。 ・地歌舞伎、獅子舞など伝統芸能活動を絶やすことなく続けている	19
観光	・観光資源が多い（馬籠宿、苗木城、中山道、滝など）	15
特産物	・栗（栗スイーツが市を活性化している）	13
商工業	・大規模な製造業が集積していることで、市内で働く場があり、域内での経済循環が生まれる。	11
リニア	・リニアや高速道路建設をして、今後大きく成長できる	11
その他	・昔ながらの住民同士の相互扶助の精神と仕組みが自然な形で残っている	11
交通	・利便性が高い（リニア、JR、中央道）	9
行政運営	・子育て世代の支援を強化しているところ	6

分類	代表意見	回答数
防犯・防災	・近年大きな被害無く、災害に強い	4
まちづくり	・リニア駅建設による都市開発	1

●弱み

分類	代表意見	回答数
行政運営	・行政に要望を出しても全然前に進まない ・近年は他都市に比べ、新規分野・新規開拓への取組が停滞気味 ・将来ビジョンが描かれていない（住民に伝わっていない）	36
交通	・公共交通機関が充実していない ↳タクシーの稼働数が少ない ↳バスの本数が少ない ↳結果、高齢ドライバーが免許を返納できない	20
まちづくり	・合併後の6ヵ町村のそれぞれの活力が弱くなっている様に思う ・一体感の醸成が全くもってできていない	18
人口減少	・若年層の流出と高齢化により地域の活力が低下している	16
商工業	・工業は発展してきているが、行きたいような商業施設は少ない	15
観光	・公共交通網が弱いと感じており、豊富な観光資源等を持ちながら活かしきれていないと感じる。	5
その他	・将来を見据えた取り組みがわかりづらい。	2
歴史・文化	・最近では文化活動も停滞気味・青砥の美術館もない	1

問3. 中津川市が行っている施策のうち、満足しているものと不足していると感じているものについて教えてください。

●満足

分類	代表意見	回答数
その他	・六斎市、お祭り、マルシェ ・休日でもごみの収集をしてくれること	14
子育て	・18歳までの子供医療助成 ・3歳からの給食の無料	12
行政運営	・生活応援商品券の発行 ・リニア開通を見据えた取り組み等はHPで確認できることはよい	9
都市基盤	・上下水道施設の充実・拡大 ・ひとまちテラス	8
リニア	・リニア開業により、町づくりが進んでいく事。	8

分類	代表意見	回答数
教育	・各小学校に支援クラスがあること ・小中学校の教室空調設備、タブレットの導入	7
健康・福祉	・高齢者福祉は比較的充実している ・障害者の医療費補助は、身体障害4級から補助されているので助かっている	6
交通	・コミュニティバスの実証実験（付知）	3
防災	・治山、治水対策（災害が少ない）が継続的に行われている	2
地域医療	・市民病院など医療機関（総合病院がある）	1
商工業	・空き店舗が比較的少ない	1

●不足

分類	代表意見	回答数
行政運営	・何をしているかわからない、情報発信不足である ・地区間の格差（人口のかたより）	22
子育て	・病児保育の場所や枠の少なさ、アウトリーチ型の子育て支援、制度を利用しにくい申し込み方法	12
その他	・コンサートや催し物がもっと県外からも来てもらって数多くやってほしい ・各種の委員会に若者や女性の参加が少ない ・統合された保育園や学校の跡地（空き家）の有効活用。	12
交通	・高齢運転者の事故が増加する中、免許返納後の支援、また、交通手段への取り組み ・道の整備	11
商工業	・駅周辺の活気の回復。空きテナント対策 ・休日に親子が行ける場所が少ない。	10
都市基盤	・水道の老朽化市道など管理が個人や自治会に頼っている ・斎場建設事業	10
地域医療	・市民病院の医師が少なく、産婦人科があっても、婦人科でやらなければならない手術は、出来なくて、多治見の県病院を紹介される	9
教育	・多様な価値観を得られる教育環境（国際環境、多様な経験 ・小学校の体前館にエアコン設置	8
人口減少	・地域別（各総合事務所単位）の人口減少に対する危機感の希薄さと具体的な取り組み	6
健康・福祉	・介護保険のサービスにおいて、市内より旧恵那郡地域は不足気味である	3
リニア	・リニア新幹線を利用して国の機関を誘致	3
防災	・防災無線が聞こえない	1

問4. 中津川市が行っている施策のうち、今後も必要と感じている施策と不必要と感じている施策について教えてください。

●必要

分類	主な意見	回答数
都市基盤	・都市計画の見直し ・斎場の建設	20
子育て	・保育士等修学支援金貸付 ・子育て世帯への支援	15
その他	・あるものを活かす ・観光案内所等の多言語対応を強化 ・地区内の新旧住民間のコミュニケーション	15
人口減少対策	・人口減少・少子高齢化に対する継続的な改善・取り組み	11
健康・福祉	・高齢福祉施設(老人福祉施設の充実、介護士の確保、介護保険料の負担補助など)	11
商工業	・観光の方が訪れたいような施設(リニアが来るので坂本に道の駅とか・・・) ・地域経済の維持、活性化を図るための外貨を稼ぐ仕掛けづくり	9
教育	・教育、給食費無償化 ・教育(学力体力の見える化)	7
行政運営	・市民の声が届く市政 ・DX(光ネットワークなどを活用し、少子化でも対応できるデジタル社会の実現)	7
リニア	・リニアに向けた魅力あるまちづくり	7
防災	・防災意識と新消防署建設	5
地域医療	・医療機関を充実させる	3
交通	・コミュニティバスの運行	3

●不必要

分類	主な意見	回答数
その他	・農林業の後継者対策(基本的問題の解決が先) ・移住促進は不要。日本全体で人口減少が続いているため移住者が増えても根本解決とはならないと思う	10
リニア	・リニア関連で不必要なものはないだろうか?精査してほしい	4
行政運営	・地域区長会・連合区長会のあて職運営 ・目的、成果が不明瞭な大型事業	3
教育	・中津川市では家庭教育の取り組みが行われているが、帰宅時間遅い親にとって、家庭だけでの対応は大きな負担となっている	2
交通	・コミュニティバス(乗降客の利用頻度を検討、他の方法があるのでは)	2
都市基盤	・箱物を作る	2
人口減少対策	・少子高齢化対策(これは国の事業)	1
子育て	・子ども支援は多いがバランスが悪い	1

地域医療	・人口減少に伴う、病院（2つ）が必要かの早急な検討	1
防災	・防災士の資格を取っても、何処の地区の区長も、防災士を受け入れてくれないため資格が必要なのか疑問である	1
健康・福祉	—	0
商工業	—	0

問5. ご所属の団体・グループの専門・関係分野に関して、現状や悩みを教えてください。

●悩み

団体の分類	悩みの内容	回答数
保育・子育て	人手不足	13
	資金不足	7
	施設・土地不足	5
	情報発信不足	1
	情報不足	0
	利用者不足	2
	仕事の複雑化	1
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	3
	安全面	1

団体の分類	悩みの内容	回答数
まちづくり	人手不足	11
	資金不足	5
	施設・土地不足	0
	情報発信不足	3
	情報不足	0
	利用者不足	2
	仕事の複雑化	1
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	3
	安全面	0

団体の分類	悩みの内容	回答数
商工	人手不足	0
	資金不足	0
	施設・土地不足	0
	情報発信不足	0
	情報不足	0
	利用者不足	0
	仕事の複雑化	0
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	1
	安全面	0

団体の分類	悩みの内容	回答数
人権	人手不足	1
	資金不足	1
	施設・土地不足	0
	情報発信不足	0
	情報不足	0
	利用者不足	0
	仕事の複雑化	0
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	1
	安全面	0

団体の分類	悩みの内容	回答数
福祉	人手不足	2
	資金不足	1
	施設・土地不足	1
	情報発信不足	0
	情報不足	1
	利用者不足	0
	仕事の複雑化	0
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	1
	安全面	0

団体の分類	悩みの内容	回答数
文化・芸術	人手不足	3
	資金不足	2
	施設・土地不足	2
	情報発信不足	0
	情報不足	0
	利用者不足	0
	仕事の複雑化	0
	モチベーション不足	0
	制度が不十分	1
	安全面	0

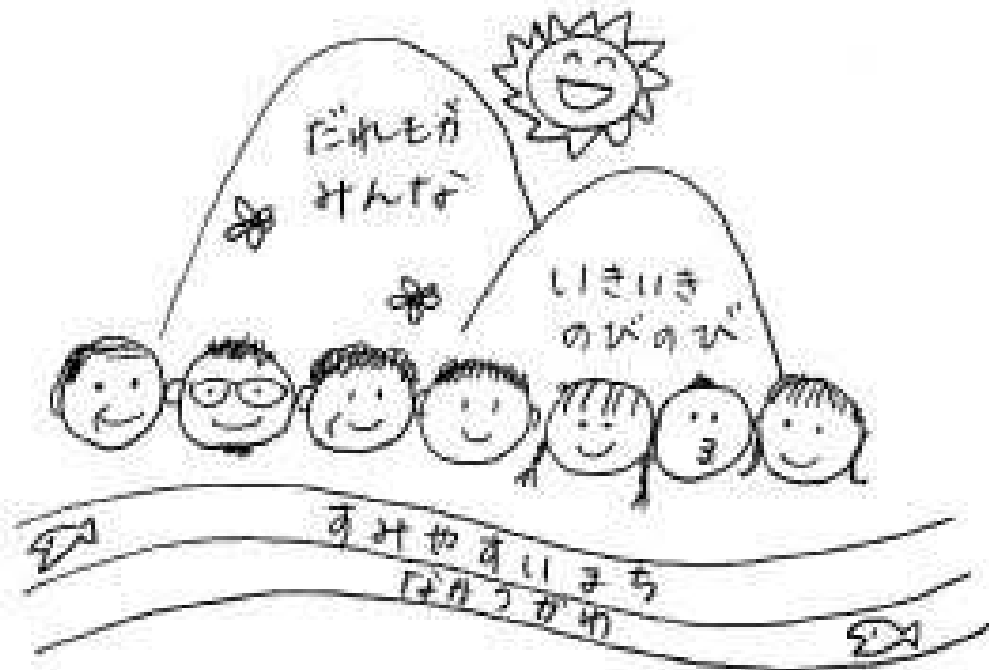
団体の分類	悩みの内容	回答数
防災	人手不足	4
	資金不足	0
	施設・土地不足	0
	情報発信不足	0
	情報不足	1
	利用者不足	0
	仕事の複雑化	0
	モチベーション不足	2
	制度が不十分	3
	安全面	0

問7. 次期総合計画の最終年となる令和18年(2036年)に中津川市がこうあってほしいという将来像について、キャッチフレーズやイラスト等、どのような形でも構いませんので、教えてください。

●主な意見

主な意見
「だれもが心地よく暮らせる中津川市」
キャッチコピー「子育て、もっと楽しく。家族みんなの笑顔シティ」 観光で外貨を稼いで、子育て支援・教育に投資。地域に愛着を持った若者が外に出ることなく地元で働き、子育てをし続けるエコシステムの実現。
・リニアを通勤通学として利用する(若い世代を自然あふれる中津川へ) ・地域で世代問わず支えあい助け合う笑顔あふれるまち
「自然と歴史に囲まれ、心地よく暮らせるまち・中津川」
やはり、安全、安心な街
若い世代が働きやすく子育てがしやすい。休日も自然に囲まれてのびのび過ごせる
・みんなイキイキ中津川 ・住んでいる人や子どもたちが地元ファン ・もっと若い人達が増えて産業商業が賑やかになって欲しい
「本町和菓子横丁」の実現
・「中津川端から端まで(8地域)みんな幸せ」 ・各世代が文化、スポーツなどに余力をもってたのしみ、子供達を大切に、高齢者を思いやれる中津川市になってほしい ・子育て世帯もお年寄りも暮らしやすい中津川
『笑顔あふれるマイナスイオンの街』 『人がさらに集まり安心・安全な活気溢れる街』 『緑豊か心豊か』※(イラスト付き)
利便性が良く、自然豊かな住みよい町中津川
「センス・オブ・ワンダー」を大切にするまち！ 人が集まるまち中津川！ 現在とかわらず地域の方々が温かい市であってほしい※(イラスト付き)
・子供達が自然の中で生き生きと過ごす中津川 ・子育て世代にやさしい中津川

●将来像のイラスト



問8. 中津川市を魅力的なまちにするためには、市や団体・グループなどがどのような取組をする必要があると考えているか教えてください。

●意見分類 ※ 〈〉内は団体・グループの分類

〈保育・子育て〉

分野	回答数
行政運営	9
情報発信	8
商工業	8
福祉	6
学校教育	1
交通	2
まちづくり	2
防犯・防災	0
観光	6
歴史・文化	0
住環境	2

〈まちづくり〉

分野	回答数
行政運営	14
情報発信	5
商工業	3
福祉	0
学校教育	0
交通	0
まちづくり	5
防犯・防災	0
観光	6
歴史・文化	1
住環境	0

〈商工〉

分野	回答数
行政運営	3
情報発信	1
商工業	1
福祉	0
学校教育	0
交通	0
まちづくり	2
防犯・防災	0
観光	0
歴史・文化	0
住環境	0

〈人権〉

分野	回答数
行政運営	1
情報発信	1
商工業	0
福祉	0
学校教育	0
交通	0
まちづくり	1
防犯・防災	0
観光	1
歴史・文化	0
住環境	0

〈文化・芸術〉

分野	回答数
行政運営	2
情報発信	1
商工業	1
福祉	0
学校教育	0
交通	0
まちづくり	1
防犯・防災	0
観光	2
歴史・文化	4
住環境	1

〈福祉〉

分野	回答数
行政運営	2
情報発信	1
商工業	1
福祉	4
学校教育	1
交通	0
まちづくり	1
防犯・防災	2
観光	2
歴史・文化	0
住環境	0

〈防犯・防災〉

分野	回答数
行政運営	0
情報発信	2
商工業	2
福祉	0
学校教育	0
交通	0
まちづくり	2
防犯・防災	0
観光	2
歴史・文化	1
住環境	0

●主な意見

主な意見
<p>合併というものは大きいものに小さいものが合わせる仕組みです。しかし、中津川市はそれぞれの地域がとても特徴的です。平等に、公平にを意識しながらも、差別化を使い分けて個性を活かす活動をサポートし、各地区が切磋琢磨して中津川市全体を盛り上げていけるように市として応援していただきたいです。</p>
<p>地域共生社会の実現のため「重層的支援体制整備事業」の取組みが必要であると考えます。重層的支援整備事業は、地域の福祉サービスを一体的に提供し、住民の生活を総合的に支援する取り組みです。簡単に言うと、地域全体で住民を支えるための仕組みです。現在では国の任意事業です。</p>
<p>坂下地区に遊歩道、公園、ジョギング、ウォーキング周回コースを作るべき。商店に対しての補助金を減らさないで下さい。年末の売り出しが予算不足で中止になりました。</p>
<p>・中津川市を代表する画家を一堂に集めた美術館の建設又は各画家の展示場を結ぶバスの運行。・中津川市の魅力を発信するため、テレビ、取材等の活用。・現在駅前にあるにぎわい物産館を大規模にし、発展させるため市内にあるに各和菓子店の集約施設の建設。(大規模駐車場が必要)</p>

問9. その他、まちづくりへのご意見があればお聞かせください。（自由回答）

●意見分類 ※ 〈〉内は団体・グループの分類

〈保育・子育て〉

分野	回答数
人口減少対策	1
子育て	1
健康・福祉	1
教育	1
地域医療	0
商工業	0
交通	4
都市基盤	1
行政運営	6
リニア	0
防災	0
その他	3

〈まちづくり〉

分野	回答数
人口減少対策	0
子育て	0
健康・福祉	0
教育	1
地域医療	1
商工業	0
交通	1
都市基盤	4
行政運営	7
リニア	1
防災	0
その他	4

〈商工〉

分野	回答数
人口減少対策	1
子育て	0
健康・福祉	1
教育	0
地域医療	0
商工業	1
交通	0
都市基盤	3
行政運営	2
リニア	1
防災	0
その他	1

〈人権〉

分野	回答数
人口減少対策	0
子育て	0
健康・福祉	1
教育	0
地域医療	1
商工業	0
交通	0
都市基盤	0
行政運営	1
リニア	0
防災	1
その他	1

〈文化・芸術〉

分野	回答数
人口減少対策	1
子育て	0
健康・福祉	0
教育	1
地域医療	0
商工業	1
交通	2
都市基盤	2
行政運営	3
リニア	0
防災	0
その他	3

〈福祉〉

分野	回答数
人口減少対策	0
子育て	1
健康・福祉	3
教育	0
地域医療	1
商工業	0
交通	1
都市基盤	2
行政運営	3
リニア	0
防災	0
その他	2

〈防犯・防災〉

分野	回答数
人口減少対策	0
子育て	0
健康・福祉	1
教育	0
地域医療	1
商工業	0
交通	0
都市基盤	0
行政運営	1
リニア	0
防災	1
その他	1

●主な意見

主な意見
中津川市は大変広く、地域ごとに生計を主とする産業、文化、環境、人(すべて観光につながる)が大きく異なる。地域に根ざしたまちづくりを各地域にて行い、地域の特色を生かした産業文化環境、教育が発展すれば、各地域による多様性が生まれる。 多様性＝魅力がたくさんある中津川市となる。 行政は地域ごとの平準化ではなく、地域の特徴を伸ばしていくまちづくりを支援してほしい。
大阪府茨木市を視察に行くのはどうでしょう都会ではありますが、どんどん若い人が増えていて子育てしやすいと聞きます。市の施設、イベントの作り方、全て企画が新しく人気の理由がわかります。市政が時代遅れにならないようにしてほしい。
取組を明確にしてほしい。調べないと分からないレベルではなかなか伝わらないと思います。

1-4 パブリックコメント結果

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
1	総論	全体的な意見として、計画が構想の言い直しになっていて具体的な取組みをイメージできない。	具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。
2	総論	地域ごとの特性活用について、13地区それぞれの課題・資源に即した施策展開を明記することが望ましい。「地域特性」に即した多様な戦略を実行し、地区間の格差を縮小すべき。	「施策3-5 移住・定住」において、中津川市の自然、文化などの各地域の資源を活用し、移住・定住を推進すること、「施策3-4 協働」において、地域課題の解決に向けた活動や、地域の特性を生かした取り組みなどを支援することを記述しています。
3	総論	数値目標（KPI）の明確化と実効性について、「住み続けたいと思う割合」等の満足度指標は良いが、施策との因果関係が見えにくい。人口動態、移住者数、事業所数など「客観的データ」をあわせて指標化すべき。	人口動態、移住者数、事業所数などの客観的な数値は、事業実施計画において指標として記載します。
4	総論	全体として抽象的で具体性に欠けている。	具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。
5	総論	満足度スコアの計算方法が分かりにくい。中津川市民の健康寿命のように一目でわかるような数値にしてほしい。	市民満足度スコアは、市民意向調査において実施した各分野における満足度調査のアンケート結果から産出しています。アンケートは「満足」から「満足でない」までの5段階で評価しているため、それらの意見をすべて反映するために市民満足度スコアを用いています。直接的な指標は実施計画で検討します。
6	総論	10年後には自動運転のタクシーなどが普及し、買い物や通院など高齢者にも優しい社会になっていると思う。ロボットの普及や、温暖化、国際情勢など不透明な事態もあるので、シナリオを一本に絞らず、多様な未来を描き、どんな社会になっても対応できる柔軟性が必要である。	計画の推進のために、基本計画「4-3 新しい時代の流れの活用」に定める通り、新しい技術や考え方を柔軟に取り入れ、多様化する市民ニーズに対応します。
7	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs」はいいと思うが、「WATERs」を追加できないか。 中津川市には豊富な水資源があり、森林資源以上のポテンシャルがある。 水資源を入れることで、中津川水素産業クラスター構想※に示す実行策も考えられる。これにより、政策6「恵まれた自然を守り、生かすまちづくり」、政策7「商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり」、政策9「計画的に整備されたまちの中、快適に暮らせるまちづくり」をより支持、補強した構想にできるのではないかと。 再生可能エネルギーの活用が世界的な課題となっている現在、100年の運用実績を誇る木曾川の水力発電による水資源と電力資源を、次の100年に向けて「水素資源の地産地消による都市モデル」へと転換し、世界に先駆けて提案・実装することで、リニア開通の時点には、移住・定住、観光の面でも高い魅力を備えたまちづくりが実現できるのではないかと。 ※「中津川水素産業クラスター構想」の添付あり。概要：既に中津川市にある地域資源・産業基盤を活用し、水素関連企業との連携や誘致を通じて、製造・活用・教育・雇用・発信までを一体化した「水素産業クラスター」を形成し、リニア中央新幹線の開通後は水素モデルを世界のエネルギー課題と接続する「実証フィールド」として位置づけ、国内外の技術・政策・産業との連携を加速させる「自然循環型水素先進都市」を目指すもの。	将来都市像の「WONDERFUL WOODs」の「WOODs」には、森林を育む水資源も含まれています。中津川市の豊かな水資源を最大限に活用し、環境や産業に生かすという発想、構想は将来都市像である「WONDERFUL WOODs」と合致し、包含されているものと考えます。提言いただいた「中津川水素産業クラスター構想」につきまして、将来に向けた方向性の一つであると考えます。現段階においては水素産業に限定することなく、森林資源や水資源などの自然資源はもちろん、それ以外にも市が古くから守ってきた文化的資源やリニアの開通などによって新しく生まれる資源など、様々な市の資源を幅広く活用する中で検討していきます。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
8	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	将来都市像「WONDERFUL WOODs～ほどよいまち なかつがわ～」の方向性は、市民の愛着や自然資源を活かした発展を意識しており、共感できる。	豊かな自然や文化の中で、未来への期待にあふれ、自然体で居心地よく幸福に暮らすことができる将来都市像「WONDERFUL WOODs」の実現を目指して、計画を推進します。
9	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs ほどよいまち なかつがわ」は「ワクワクする里山 なかつがわ」がよい。日本語の方が親しみやすい。	「WONDERFUL WOODs」は、中津川市の目指す姿を象徴的に示す言葉であり、英語での表現も、これまでの中津川市になかった新たな挑戦を表すものです。 小中学生にもわかる英単語を使用して、分かりやすく、訴えかける力があり、市民や中津川市に興味を持った人の目を引く言葉といたしました。より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
10	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs」や「ほどよい」など、説明しなければ伝わらないキャッチコピーは変更すべきと考える。市民にとって分かりやすいことが最も重要だと考える。	「WONDERFUL WOODs」は、中津川市の目指す姿を象徴的に示す言葉であり、英語での表現も、これまでの中津川市になかった新たな挑戦を表すものです。 小中学生にもわかる英単語を使用して、分かりやすく、訴えかける力があり、市民や中津川市に興味を持った人の目を引く言葉といたしました。より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
11	5-1 まちづくりの方向性と将来都市像	「WONDERFUL WOODs」と副題の「ほどよいまち なかつがわ」の関連があまり読み取れない。中津川市は森林面積も多く、自然豊かで林業や木工業も盛んであることから、将来都市像は「WONDERFUL WOODs」のみとしてはどうか。	将来都市像「WONDERFUL WOODs」は中津川市の目指す姿を象徴的に表す言葉であり、副題の「ほどよいまち なかつがわ」は中津川市の目指す姿を説明した言葉です。 将来都市像について、より親しみやすく、分かりやすい表現について検討します。
12	5-2 人口の将来展望	人口の将来展望、合計特殊出生率の市独自推計の数値について、現状とあまりにも違いすぎる。社人研の推計が現実的。この総合計画は2027年度からの計画であるため、「2025年1.61」はあり得ない。その後の数値もあり得ない。頑張れば実現可能な数字を示した方がよい。 市独自の将来人口の表の2025年の人口73,480人は、広報なかつがわによれば72,765人である。	「5-2 人口の将来展望」に定める目標将来人口については、中津川市が将来にわたって持続していくために必要となる合計特殊出生率、人口の移動率に基づき計算しています。 表に掲載している人口は、国勢調査に基づく推計であり、広報なかつがわに掲載している住民基本台帳に基づく人口とは異なります。また、人口の推計は2020年の国勢調査の結果を基に策定した「中津川市人口ビジョン」を基にしておりますが、表示する年度については検討させていただきます。
13	5-2 人口の将来展望	人口目標の実現可能性について、2036年に67,000人超という目標は挑戦的だが、出生数減少の構造的要因を考えると根拠が弱い。「移住・定住促進」「若年層の雇用創出」を具体的に組み合わせる必要がある。 政策の優先順位づけについて、多くの政策が並列的に掲げられており、リソース分散が懸念される。人口維持につながる施策（子育て支援・雇用創出・交通環境改善）を最重点にすべき。 「人口目標」達成のために若者世代の定着・雇用を最優先とすべき。	「5-2 人口の将来展望」に定める目標将来人口については、中津川市が将来にわたって持続していくために必要となる合計特殊出生率、人口の移動率に基づき計算しています。 目標将来人口の達成に向けて、若者世代に選ばれる中津川市となるために、まずは市の魅力を最大限に引き出す取り組みに重点的に取り組みます。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
14	5-2 人口の将来展望	目標将来人口を 67,163 人と設定しているが、人口は日本全国で減少しており、自治体間で限られた人口の奪い合いになるのは避けるべきである。出生数の劇的な増加も見込めない中、人口はもはや目標とするべき数値ではないのではないかと考える。	人口の減少は、労働力不足や消費の縮小、担い手不足による地域コミュニティの衰退など、さまざまな問題の要因となり、持続可能な中津川市であるためには将来的に解決しなければならない課題です。人口が減少していく状況で社会を維持するために、一定の人口水準の維持を目標とするものです。
15	2-3 重点施策の取り組み	人口減少・少子高齢化のスピードに対し、計画の実効性や優先順位づけが十分かどうか疑問である。 今後 10 年を見据えるにあたり、「選ばれるまち」となるためには、具体的かつ即効性ある施策を重点化すべき。	急速に進む人口減少・少子高齢化に対して、今後の 10 年を見据えて「選ばれるまち」となるために、前期基本計画においては、まずは市の魅力を最大限に引き出すことで、将来的に人口の増加につながると考えています。
16	2-3 重点施策の取り組み	35 施策のうち 6 つの重点施策の絞り込みについて、市民アンケートに基づいて選択すれば、地域医療、公共交通、社会保障、雇用対策、居住環境、道路・橋梁となる。Web 調査でも同様の状況であり、あえて入れるならば商業・公園・都市整備である。少なくともリニアと観光ではない。重点施策を選びなおして欲しい。	市民満足度調査において、満足度が低い項目の主な要因は、総合的に「人口減少」であると考えています。 各種人口の減少抑制、増加促進につなげるために、中津川市の魅力を高め、選ばれるまちとなることが必要であり、市民の希望に応えるために、前期基本計画では、市の魅力を高めるために取り組む分野を重点施策としています。
17	2-3 重点施策の取り組み	重要施策に観光やリニア、誘致が上がっているが、過去 10 年間のあいだにコロナ禍があり、インバウンド事業、観光業は世界情勢に大きく影響を受けることが分かった。基本構想、基本計画は、市の事業の背骨となる部分であり、外部の影響に大きく左右される観光や誘致、リニア事業を中心に事業を行っていくと、計画の中断、遅延が余儀なくされる場面が想定される。重要施策は農業や地域交通、人権問題等、普遍的な課題を置くべきと考える。また、市民アンケートを取ったにも関わらず十分に反映されていない。市民にとって重要度の高い地域医療や公共交通を最重要課題としてあげるべきである。	今後の 10 年を見据えて、市が重点的に取り組むべき課題は人口減少であると考えています。そして、課題の解決には中津川市が「選ばれるまち」となる必要があり、そのために、市の魅力を最大限に引き出す取り組みを重点施策としました。 市民満足度調査において、満足度が低い項目の主な要因は、総合的に「人口減少」であると考えています。 各種人口の減少抑制、増加促進につなげ、市民の希望に応えるために、前期基本計画では、市の魅力を高めるために取り組む分野を重点施策としています。
18	政策 1 心身共にたくましい子を育てるまちづくり 政策 3 さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり	グローバルな感覚とは、まず自国、自分の街を知るところからはじまる。国際化イコール外国を学ぶという短絡的な取り組みは間違っている。外国人に自国（地元）の成り立ちや歴史などを説明できることが重要である。	「施策 1-2 教育」において、市民が参加する教育体制の整備を促進し、地元学習等を推進するとともに、「施策 3-2 グローバル」において、外国籍の市民の地域内での交流を推進し、相互理解を推進することを記述しています。
19	施策 1-2 教育	恵那市の給食について、週 1 回は恵那市の食材のみで給食作っているようであり、増やしていきたいとのことである。地元の食材の給食は大切であり、食は子どもたちの健康の為に大切である。	「施策 1-2 教育」において、児童・生徒が安心して、安全に楽しく生活・学習できる環境の整備を推進することを記述しています。 中津川市の学校給食では食材を選定、発注する段階で、できる限り県内産、市内産の食材を選定しています。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
20	施策1-2 教育 施策5-1 防災・減災	災害リスクが高まっている。夏もかなり暑くなっている中で子供たちを暑さから守る為、暑い時は体育館で運動が出来るようにするため、また、万が一避難所が必要な時でも小、中の体育館のエアコン設置は緊急課題である。恵那市は小中の体育館のエアコン設置をした。子ども達の学びの環境を整える為にも、災害時体調くずす人が一人でも少なくする為にも小、中学校のエアコン設置は至急やらなければいけない課題である。	「施策1-2 教育」において、児童・生徒が安心して、安全に楽しく生活・学習できる環境の整備を推進することを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
21	政策2 住み慣れた地域で、自分らしく健やかに安心して暮らせるまちづくり	健康で一番大事なのは食だと思う。その部分に触れた部分が少ないか全くない。予防医療との関連も考え、食をどの様に改善するか勉強が必要である。	「施策2-1 健康」において、関係機関と連携し、健康教育による健康意識の向上や食も含めたライフスタイルに対応した健康づくり、予防医療の推進により、健康寿命の延伸を推進することを記述しています。
22	施策2-1 健康	坂下診療所を19床の有床診療所として運営して欲しい。 市民病院は専門医不足を解消し、地域の中核病院として市民が安心して利用できる医療を確立して欲しい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
23	施策2-1 健康	坂下診療所を19床の有床診療所として運営し、市民病院は専門医不足を解消し、地域の中核病院として確立して欲しい。 具体的な進捗状況を市民に知らせていく施策を実施して欲しい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
24	施策2-1 健康	目指す姿では「誰もが便利に医療を利用することができる」とあるが、住んでいる地区では年齢を重ねるごとに「誰もが」から抜け落ちていくように思える。 坂下診療所を民営化し、本当に安心して過ごせるようお願いしたい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
25	施策2-1 健康	市民が安心して利用できる医療の提供とあるので、こうなるように取り組んでいただきたい。住民にとっては近くに入院することができる病院があることがとても重要である。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
26	施策2-1 健康	誰もが安心して医療を利用できるためには、医療機関が身近にあるのが一番大きな要因だと考える。そのため、地域にある顔なじみの開業医は、多くな役割を果たす大切な存在である。 内科、小児科、眼科、整形、透析があるため、広域に渡り安心は大きい。19床の入院ベッドが稼働すれば、なお安心となる。既存の設備を使用しないのはもったいない。 人口が減少していく中で、排除していくのではなく、開業医も含めた今ある医療施設を大切に補修しながら残し、利用していき、中津川市内すべての医療機関のネットワークを立ち上げて、それぞれの得意分野を生かし、支え合う機関が必要ではないか。これからは助け合う中津川独自の新しい医療構想を全国に先駆けて実現すれば注目をあびる。今埋もれている人材も大切に生かしてほしい。	「施策2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めるとともに、地域の医療機関との連携強化に努めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
27	施策 2-1 健康	<p>坂下診療所の民営化が断念され、この先遠方の病院まで送迎してくれる家族もなく、身体が不自由だったり、病気の時にとてもバス、電車を乗り継いでいくことはできない。</p> <p>この先のことを考えると不安である。病院機能の復活を断念したのであれば、19床の活用や、医師の確保をお願いする。一日も早く住民が安心して暮らせる医療の実現を求める。</p>	<p>「施策 2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
28	施策 2-1 健康	<p>坂下診療所の民間譲渡に対しての 23,118 筆の署名をどうとらえて受け止めているか。中津川市の状況を見ると、1歩も進んでいないのではないかと。</p> <p>坂下診療所の 19 床を稼働を必ず実現してもらいたい。</p> <p>全国的にどこも病院機能が逼迫しているので、中津川市全体の地域医療の専門化を加えてプロジェクトを作って早急に進めてもらいたい。病気になっても地域の病院、市民病院で対応してもらえず遠い病院に行かされている状況である。公共サービス送迎を求める。</p> <p>総合計画の目指す姿、取り組みがカタチだけで終わらないように取り組んでもらいたい。</p>	<p>「施策 2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
29	施策 2-1 健康	<p>「政策 2 住みなれた地域で自分らしく健やかに安心して暮らせる街づくり」とあるが今後 1 人暮らし、高齢化が進むなか自分らしく生きていくには具体的にどうするのか。</p> <p>坂下診療所で回復期の入院が可能なことは大切である。今の中津川市の医療体制は高齢者、ひとり暮らしには問題が多々ある。</p> <p>中津川の人気の観光地馬籠その街道を支えている人の平均年齢は 70 代ときいた。次の世代に帰ってきてもらう為にも、近くの坂下診療所の病院化が必要である。</p> <p>今頑張ってる親の世代ももっと高齢になると介護が必要となる。仕事をしながら介護となると近くの病院の入院設備のある病院が必要である。馬籠、妻籠の観光地を守る為にも、そこで生活する人達が何かあったら近くで入院できる病院は緊急課題である。中津川地区の人にも回復期、慢性期の柱となる病院が必要である。</p> <p>四国の丸亀町商店街はメディカル通りを作り、安心、安全の街だということ近くで人口が増えていってるとのこと、岐阜市の柳ヶ瀬商店街もメディカル通り実現に向けて取り組んでいるようである。中津川の開業医も高齢化がすすみそのうち街から医者いなくなるという意見もあり、安心、安全の魅力ある街づくりの為にも医療をどうするのが一番大切な問題である。今、精神を病んでいる子どもたちも増えている。大湫病院は予約がなかなか取れず電話もつながりにくいとのことである。よい精神科医、心理カウンセラーによる「子ども心の相談室」を坂下診療所に開設できれば坂下診療所にかかりたい子どもは多いと考える。</p>	<p>「施策 2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>
30	施策 2-1 健康	<p>いつまでも住み続けたい、住みやすい中津川市のために、「医療行政が充実している」「福祉全般が行き届くその関係機関を整える」「教育関係・環境を整える」「生活全般（物価など）が安定し、安心できる」ことが必要であると考える。</p> <p>特に、医療に関しては坂下診療所については民営化の決定をしていた事案は残念である。市民 2 万人以上の署名が集められたことは重いことであり、一番大切なことは何か考えていただきたい。</p>	<p>「施策 2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。</p> <p>具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。</p>

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
31	施策 2-1 健康	坂下診療所民営化についての報告会に参加したが、残念な結果であった。今とても困難であるという条件も、すべて解消できると考える。 地域に住む人々すべての健康と命が守られてこそ地域の発展はあるものだと考える。坂下地域、その周辺の人々の誰もが安心して医療を受けられるために、体制づくりを今後も続けてほしい。	「施策 2-1 健康」において、中津川市民が安心して医療を受けられることを目指して、地域医療を安定して供給する環境の整備を進めることを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
32	政策 3 さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり	育成就労制度の導入に反対する。 外国人労働者が増えることによる犯罪のリスクの増加、生活習慣や文化の違いによる地域住民との摩擦など、地域社会への影響が懸念される。地域の治安や調和を守るためにも、慎重な議論と地元の声を十分に反映させるべきである。	令和 6 年 6 月 21 日の法改正により、人材の育成・確保を目的とする育成就労制度が創設されました。 「施策 3-1 共生」「施策 3-2 グローバル」において、新しく転入する外国人住民と、もともと地域に住んでいた住民が同じ地域社会の一員として安全・安心して暮らせるように、相互理解を促進するとともに、生活習慣や文化の違いによる摩擦を可能な限り低減できるよう取り組むことを記述しています。
33	政策 3 さまざまな人々が尊重し合い、共に活躍できるまちづくり	安心して暮らせる街に共生の名の下に移行政策を行うのは間違っている。政策 1 と政策 3 の共生は相反している。なぜ外国人を受入れる必要があるのか。 今日本各地で外国人問題でデモや抗議活動が市民から起きている。 国の政策をそのまま取り込むと恐ろしいことになるのではないかととても危惧する。JICA のホームタウン構想は世論によって撤回されたが、名前だけ変えて実際には移行政策が進められていると言われている。今始まったことではなくもう何年も前からそうした動きがある。渋谷では道路を封鎖してイスラム信者がお祈りをするといった、日本人から見たら大迷惑な行いがある。すでに外国人比率が過半数になろうかとする自治体も出てきているらしい。日本人はとても優しい民族であるが外国人は根本的に違う。気を抜くと殺されるような国もある。そのことを知らずに移行政策を進めたらどんなことになるか恐ろしくなる。フランスをはじめ、すでに移行政策で失敗した国がたくさんある。その失敗を学ぶ必要がある。	「施策 3-1 共生」において、新しく転入する外国人住民と、もともと地域に住んでいた住民が同じ地域社会の一員として安全・安心して暮らせるように、相互理解を促進するとともに、生活習慣や文化の違いによる摩擦を可能な限り低減できるよう取り組みます。
34	施策 3-3 人権	重要施策の中に子育て・教育が含まれているが、大人の望む子どもの姿しか感じられず、子どもの意見表明権など、子どもの権利、意志が軽視されている。子どもの人権については国連からも指摘を受けており、どうすれば子どもの声を引き出すことができるのか、政策に反映することができるのか、子どもや弱者が自分らしく自己肯定感をもって過ごせるのか、誰にとっても生きやすい社会を目指していただきたい。	「施策 3-3 人権」において、子どもを含むあらゆる人が人権の主体として尊重され、また、他者を尊重できるように取り組むことを記述しています。
35	政策 4 人々が学びや活動を通していきいきと暮らすことができるまちづくり	学びの喜びは具体的にどの様に感じられるのか。具体性を考えてほしい。	具体的な進め方、取り組み等については、基本構想、基本計画に基づいて作成する事業実施計画に記載します。
36	施策 4-2 文化	子ども達が心豊かに育つ為に年に 1 回でも生の音楽に触れる機会があるとよい。恵那市はやっているそうである。芝居を見るも大事である。文化にふれられるだけでも市の姿勢をアピールできる。	「施策 4-2 文化」において、芸術に親しむことができる取り組みを推進することを記述しています。 具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
37	政策5 支えあい、安全・安心に暮らせるまちづくり	食料安全保障の観点の防災が無い。輸入依存度の高い食料事情を改善する対策を望む。	「施策8-1 農業」「施策8-3 畜産業」において、農業及び畜産業の持続可能性の向上を推進することを記述しています。 食料の輸入依存度等については国策として検討されるものと考えており、中津川市の総合計画に記載することは困難です。
38	政策6 恵まれた自然を守り、生かすまちづくり	ゼロカーボンが地球温暖化を改善するという前提を再検討していただきたい。世界ではすでに前提が崩れている。真面目に対応しているのは日本だけという情報もある。日本各地でメガソーラーによる自然破壊が問題になっている。中津川市での法対応はできているか。リサイクルが本当にエコか検証したことがあるか。無駄がないか検証していただきたい。	「施策6-2 脱炭素」において、環境にやさしい持続可能な社会の実現を目指すことを記述しています。事業の実施にあたっては、その効果などについて検証を行いながら推進します。
39	施策6-3 生活環境	辻原地区への火葬場建設は周辺に住宅があるため不適である。辻原地区木曾川沿いに景勝の場所があるため、そちらのほうが理解を得やすい。現状だと、道路、河川整備に約26億の予定であるが、話を進めていく段階で地元同意を得るまでには大幅な増額が必要となると思われる。 懸念点として、ため池崩壊時のハザードマップ浸水地域に指定されているのと、現状の指定案ゾーン開発による水量の増加を加味すると、現状の予算より多額となること、周辺に住宅があること、地権者2名が反対していることがある。	「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。 具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。
40	施策6-3 生活環境	斎場の選定について、地域に事前に相談なく新聞で発表となったため、地域の合意ができていない。このため、地域内でも反対賛成に分かれており、今後地域が分断されていくことが予想される。 市の説明は「最新式の斎場」のハコの話だけで、地域住民に対する視点が全く欠けており、分断された地域社会に関するビジョンが全く提示されていない。 他市町村の火葬場を見てもほぼ例外なく道路の突き当りにあり、地域社会の中心である倶楽部の目の前かつ、周りから見下ろせる観光道路脇に検討しているのは明らかに異常である。他の市町村が行わなかった選択を価格が安いことを理由に選ぶ理由が分からない。当該地点は、ため池の下流に当たり、ため池が決壊した場合、この施設ができることで、周辺地区、民家に及ぶ影響が不明確であり、ハザードマップを軽視している。 通学する子供への影響や、今後の人口動態への負の影響など、わからないことが多すぎる。上記を含む環境アセスメントを全く行わないまま、20年近く選定できなかった地点をわずか1年程度で選定するに至ったのは、行政の不手際以外のなにものでもない。行政の自己都合ばかりを優先した結果であり、全くもって不十分な取り組みと断定せざるを得ない。	「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。 具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。
41	施策6-3 生活環境	施策6-3に「市民に安心と安らぎ」とあるが、メモリアル施設が建設されたならば、近隣住民は日常的に霊柩車と喪服をまとわれた方を目にすることになり、安心と安らぎとは無縁となる。 施策9-4には「将来にわたって暮らしやすいまちを形成するための土地利用の検討を進めることで、土地の適正な管理と利用を推進します。」とあるが、選定された土地はハザードマップによると、ため池決壊時に浸水する想定となっている。候補地横に営農研修センターがあり、床がたわんでおり、建て替えを切望するほどになっている。	「施策6-3 生活環境」において、市民が心安らかに過ごすことができる生活環境を実現するため、斎場の適切な整備を実施することを記述しています。 具体的な進め方については、地元のご意見を伺いながら、個別の事業において検討します。

No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
		候補地選定理由として「ライフラインが整備されており、造成が容易で、地形的に立地しやすい」とされているが、候補地は長年水田として利用してきた土地であり、火葬場の重さに耐えられる地盤であるか確認されているか疑問である。例え造成が容易であっても、建てた建物が浸水する、たわんで傾く可能性のある土地を火葬場にするということが果たして土地の適正な利用と言えるか。住民は、田園風景を守りつつ静かに暮らしたいというのが本音であり、今回のメモリアル施設建設候補地に選定されたという発表は災い以外の何物でもない。減反政策の最中にはいくつかの水田を野菜や果樹に転作してきたが、候補地が転作されることなく水田として残ってきた理由の一つとして、水田として優良な農地であったことが挙げられるように思う。農業振興地域でもある優良な農地を潰してまでもこの候補地にメモリアル施設を造る大義はあるのか。この候補地でなく、俗世を感じさせない、もっと静かで落ち着いた場所に建設すべきである。	
42	政策7 商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり	青木から新しい道路が伸び、すぐに新しい商業施設が道路周辺に建ちはじめた。道路計画の重要性を感じた。観光とも関連するが、道路、駐車場、渋滞など合わせて計画をしていただきたい。 雇用に関しては政策1、政策3と関連して外国人受け入れは十分に注意していただきたい。カーボンニュートラルやこの点に関しては特に国策に流されていると感じる。本当に市民のためになるのか疑問である。インバウンドに関してもオーバーツーリズムで市民が大変困っているケースがある。そうならないような対策もセットで考える必要がある。	持続可能な中津川市のために、重点施策として観光、雇用に取り組みます。「施策7-5 観光」においては、地域住民の生活環境との調和を図ることで、持続可能な観光産業の活性化を推進することを記述しています。
43	政策7 商工業や観光業などが活発で、市内に活気があるまちづくり	観光と産業振興について観光振興だけでなく、地域資源を活用した産業連携が必要である。農林業×観光×教育のクロス分野で新しい付加価値を生む仕組みを検討してもらいたい。 「観光・産業・教育」をつなげた新しい地域づくりに取り組んでもらいたい。	基本計画4章「4-4 さまざまな連携」に定める通り、様々な地域課題に対して、分野を横断して取り組みます。また、市の内部、外部を問わず、様々な主体がそれぞれの強みを活かし、つながりによる相乗効果を生み出すことで将来都市像の実現を目指します。
44	施策7-3 雇用	人手不足の職種は、労働環境や賃金などの構造的な改善が必要であり、外国人労働者に頼ることは一時しのぎに過ぎず、根本的な解決にはならない。 外国人労働者の雇用よりも日本人、特に若い世代が働きたくなるような職場環境の整備や待遇改善を優先するべき。	「施策7-3 雇用」において、労働者が安心して長く働き続け、その力を発揮できるように、働きやすい環境の整備を推進することを記述しています。
45	施策8-1 農業	中津川市の特徴となる地場産業としての農業生産に取り組む必要がある。 農産物の流通について、大型スーパー等による体制が一般化しており、また、東濃東部卸売市場が民営となり、農産物を生産しても売れない状況にある。 恵那市のような、地元生産物から食のブランド化を進める為の施策が必要ではないか。 農協が取り扱っているものしか計画に記載がない。 特に坂本地区はほ場整備すらしていない農地がかなりの面積を有しており、用水路、頭首工等の整備を含めた攻めの農業基盤整備が必要である。 農と食を結び付けた健康産業としての農作物生産に向かうことが必要ではないか。中津川市民の健康を推進するための攻めの農業を目指すべき。 鳥獣害対策については、耕作放棄地の解消、里山林の整備を林業施策からも挙げてもらいたい。	「施策8-1 農業」において、農業のブランド化、特色ある農業の活性化を推進し、農業の持続可能性の向上に取り組むこと、適切な農地の保全と施設管理を実施し、農地の持つ多面的機能を守る取り組みを推進することを記述しています。 数値目標では主要品目として生産量を把握できるものを代表として定めており、それ以外の品目についても取り組みます。 「施策2-1 健康」において、関係機関と連携し、健康教育による健康意識の向上や食も含めたライフスタイルに対応した健康づくり、予防医療の推進により、健康寿命の延伸を推進することを記述しており、基本計画「4-4 さまざまな連携」に定める通り、様々な課題に対して、分野を横断して取り組みます。

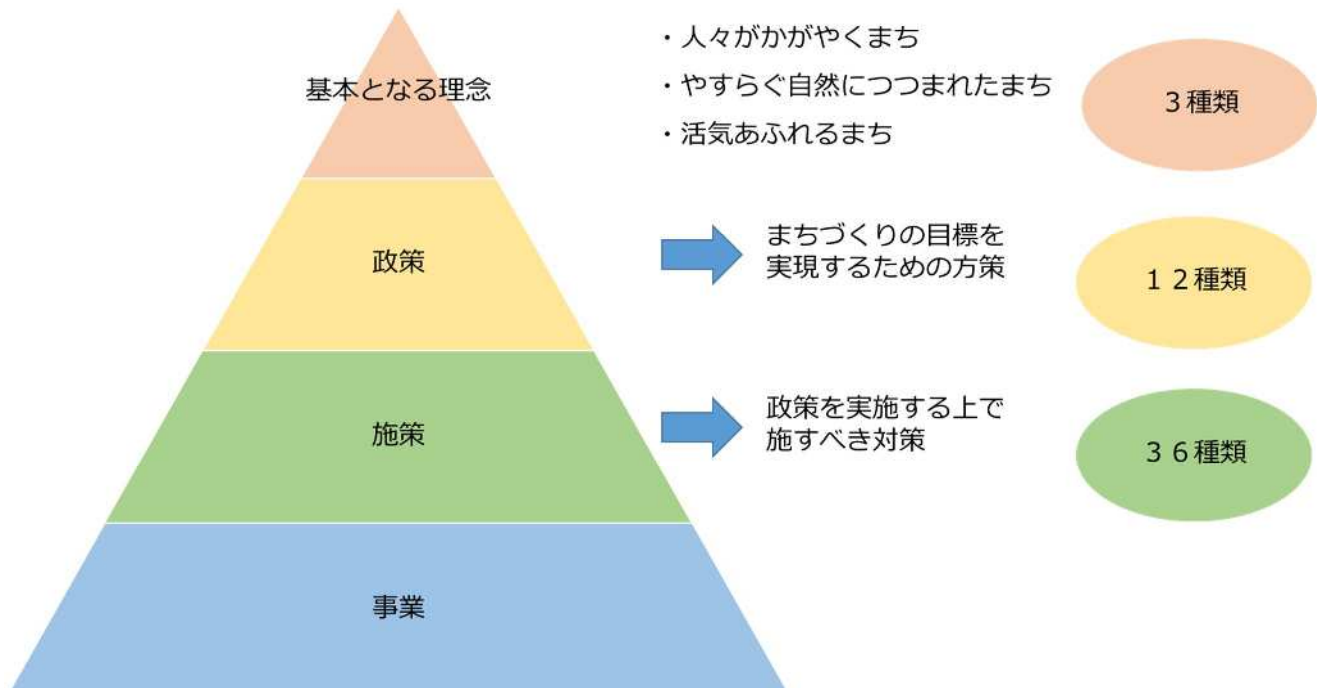
No	項目	意見の概要	市の考え方（回答）
46	施策 8-2 林業	個人で管理できない人工林の整備について書かれているが、里山の雑木林、竹林の整備が最重要ではないか。人の入れる里山づくりこそ「ワクワクする森」として考える。里山の整備こそ重点施策ではないか。荒れ果てた里山では言葉遊びで終わると考える。	「施策 8-2 林業」において、森林の多面的機能を発揮させるため、里山の整備の推進も含めた森林の適切な管理を推進することを記述しています。具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
47	施策 8-3 畜産業	飛騨牛の表現は、肥育経営しか思い浮かばない表現となっている。飛騨牛では土地利用型農業である和牛繁殖経営、酪農では受精卵移植を活用した子牛生産を拡大、拡充することが重要である。 酪農がかなり衰退している。酪農は新規就農するには2億円以上の初期投資が必要であるため、個人対応では非常に難しい。企業、団体等の出資による経営の創出が必要である。 中小畜養豚、採卵鶏、ブロイラー経営等は、地元と結びついた経営とはなっていないが、加工など関連業種の発展が必要ではないか。	「施策 8-3 畜産業」において、安定した経営基盤の構築の推進による持続可能な畜産生産体制を目指すことを記述しています。また、地域農業との連携を推進します。具体的な進め方等については、それぞれの事業において検討します。
48	施策 9-3 リニア	岐阜羽島駅の周辺整備では、開業されてから30年近くかかり、何とか見えるようになった。企業等の誘致も必要かもしれないが、まずは地元の人が集まり、講座、研修、運動等ができる施設をつくるとともに、まずは中津川市のみならず、恵那市等も含めた楽しい、かつワクワクする「道の駅」を整備することによるにぎわいを創出すべきだと考える。	「施策 9-3 リニア」において記述しているとおり、区画整理事業により道路や駅前広場の整備や宅地の利用増進を図りつつ、利便性が高く、人々が集い、にぎわいが感じられるリニア岐阜県駅周辺の施設整備を行います。
49	施策 9-5 公共交通	中津川市全体の地域交通について「木曾町地域公共交通計画」を参考にして計画案を作っていただきたい。	中津川市でも「中津川市地域公共交通計画（2018-2026）」を策定しています。現在、次期計画の改定中です。
50	施策 9-5 公共交通	恵那市は65才以上の人に年間1万円のタクシーチケットが配布されているそうである。体調が悪く、病院に車の運転できない時や救急車で運ばれて自宅に帰る時も助かる。これだけでも市民の安心につながる。タクシーも台数が少なく、いつ来てくれるか分からない。夜中調子わるくても12:00~6:00までタクシーが1台も動いていない。	「施策 9-5 公共交通」において、すべての人が利用しやすい交通網の構築を目指し、快適に住み続けられる環境の整備を推進することを記述しています。 地域の特性に合った新たなモビリティサービスを検討し、各地域の拠点を結ぶ2次交通や拠点内を結ぶ3次交通の整備を推進します。
51	施策 10-1 広報・広聴	市民参画の強化について、市民に計画が十分に浸透していない点が課題である。計画策定・評価段階での市民参加の仕組みをさらに強化すべき。「市民参画」を強化し、計画の進捗・成果をわかりやすく発信すべき。	「施策 10-1 広報・広聴」において、市民参加型の行政運営を推進し、市政の「見える化」を推進することを記述しています。 計画の推進のために、基本計画「4-1 計画の評価・検証」に定める通り、市民の意見をいただくことで事業の有効性や効率性を検証し、その結果を広く公表し、透明性の向上を図ります。
52	施策 10-1 広報・広聴	恵那市の良さを吸収して必要なことをサッサと実行する。良いところは真似るべきである。18才までの医療費の無料化は中津川より早く実現した。きっかけは面談で出た要望を実現したと聞いた。「小栗市長との語る会」の注意事項のひとつに「要望は出さない。」とあった。要望を聞かなければ市民の思いを市政に生かせない。その点も恵那市と違う。「恵那市の方が行政サービスがいい、中津川市は恵那市と合併して恵那市になればいい」という意見がある。 「市が行っている取り組みの認知度が低く周知不足を解決する必要がある」とあるが、市民の声をきこう市民に伝えようという姿勢は乏しい。そういう思いが伝わらない。そもそも聞く気がない。今回のパブリックコメントも本当に聞く気があるのか。もっと工夫すべきで。そうでないと恵那市が良いという若い人が増えいく。	「施策 10-1 広報・広聴」において、市民の声を聴く仕組みを設け、いただいた意見などとそれに対する市の考えや対応を公表するなど、市政の「見える化」を推進することを記述しています。

1-5 各課ヒアリング

(1) 実施概要

調査目的	次期計画を策定するにあたり、中津川市総合計画（2015-2026）の各施策における課題を洗い出すとともに、次期計画策定の骨組みを作成することを目的とする
調査対象	中津川市総合計画（2015-2026）の施策における担当各課
調査期間	8月下旬～10月上旬
調査方法	ヒアリングシートを施策の担当各課に配布し、回答者がファイルに直接入力
評価対象	中津川市総合計画（2015-2026）に定める36の施策の進捗などを評価（令和6年度時点）

■中津川市総合計画（2015-2026）における施策の構成



(2) 設問構成

●進捗評価（A～Eの5段階）

- ・A：施策が計画以上に進捗し、期待以上の成果を得た
- ・B：施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た
- ・C：施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった
- ・D：施策の進捗が遅れており、成果もあまり得られていない
- ・E：施策が進捗しておらず、成果はない

●現況

- ・施策の目指す方向に対して現況がどのような状況であるかを、目指す姿との差への留意を念頭に置き記載

●課題

- ・現況を踏まえて、目指す姿を達成できていない理由やそれを阻む要因、達成はできたが残る課題などを記載

●今後の目指す方向

- ・現在の施策の目指す方向を踏まえて、方向性を維持するのか、一部修正などを加えるのか、又は新たに取り組むべき事項があれば記載

●将来目指す姿（各施策における市のあるべき将来像）

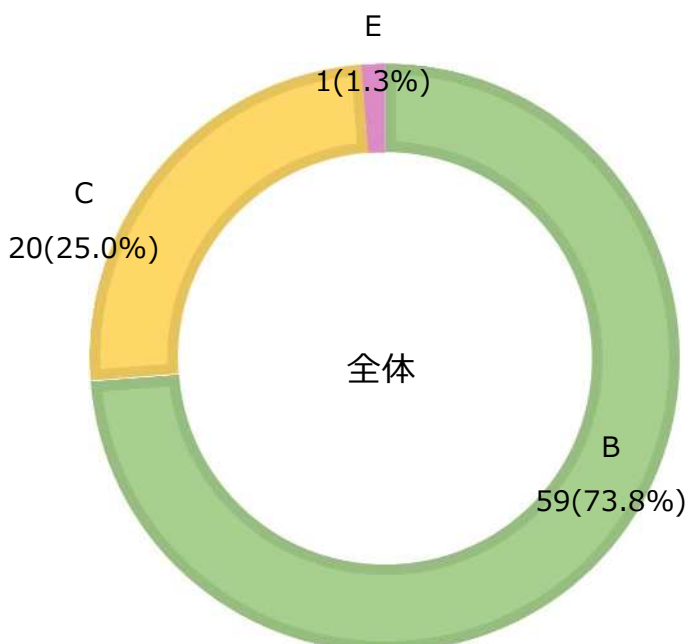
- ・今後の施策の目指す方向を踏まえて、次期計画期間を問わず、当該施策で担当課が考える『市の将来的にあるべき姿』を記載

(3) 進捗評価の回答結果

①全体の進捗評価割合

B（施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た）が多数を占めており、次点でC（施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった）が続く結果となった。E（施策が進捗しておらず、成果はない）はわずか1であった。

また、A（施策が計画以上に進捗し、期待以上の成果を得た）とD（施策の進捗が遅れており、成果もあまり得られていない）は0であった。



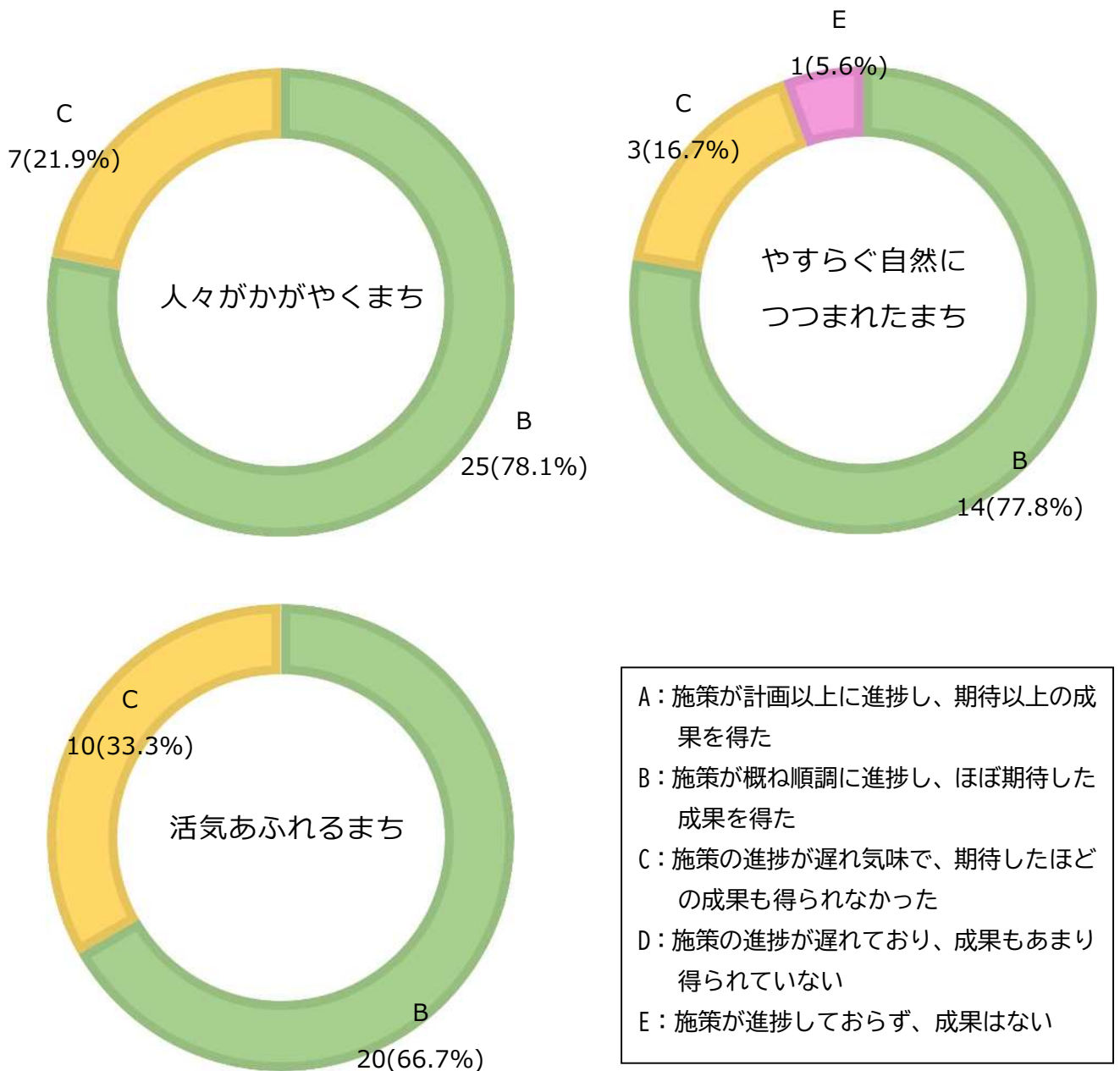
- A：施策が計画以上に進捗し、期待以上の成果を得た
- B：施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た
- C：施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった
- D：施策の進捗が遅れており、成果もあまり得られていない
- E：施策が進捗しておらず、成果はない

②基本となる理念別の進捗評価割合

3つの「基本となる理念」別にした進捗評価割合を示す。

全体の進捗評価割合で示したように、B（施策が概ね順調に進捗し、ほぼ期待した成果を得た）が多数を占めており、次点でC（施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった）が続く。

「活気あふれるまち」については、ほかの基本となる理念と比較し、C（施策の進捗が遅れ気味で、期待したほどの成果も得られなかった）が唯一3割を超える結果となった。



(3) 課題の抽出

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	1 将来を担う人材が育つまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習調査の調査結果が目標値に達していない。 ・「命の教育」「生徒会サミット」「岐阜サマー・サイエンス・スクール」など中津川市教育の特色ある取組みは、どれも10年以上継続しているため、マンネリ化という課題がある。 ・学校施設適正配置計画を策定し、適正な学校規模の確保を進めているが、統合に向けた保護者や地域の同意が必要。 ・学校施設の統廃合を見据え、校舎、調理場等の長寿命化、新增築の具体的な実行計画を作り、計画に沿った事業実施を行う必要がある。 ・不登校児童生徒の学校復帰に向けて、校内支援センターと教育支援センターとが効果的に連携していくことが必要である。 ・阿木高等学校では、自己理解が困難な生徒（自分の適性を理解するまでに多くの時間やカウンセリングが必要な生徒）の社会的自立を一層促すことが必要である。 ・適正配置計画については計画策定当初の予測より少子化の進みが早く、適正な規模の保育の維持が難しい状況である。 ・婚活事業に関しては、一般企業等アプリが多くあり「手軽に始める」という部分において課題がある。また、会員に関しては、女性の会員が少ない。 ・婚活事業の相談員の後継者確保に課題がある。 ・育児に自信が持てない保護者が増加している ・少子化の進行に歯止めがかかっていないという課題がある。 ・放課後児童クラブの利用希望者数が増加傾向にあり、ニーズに合わせた事業の展開が必要。 ・ひと・まちテラス子育て支援センターの一時預かりの利用が少ない。

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	2 健康に暮らせるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の胃がん・子宮がん・乳がん検診の受診率が、国の目標である60%には達していない。 ・脳血管疾患の年齢調整死亡率が国、県と比較すると高く、高血圧の有病率も高い。 ・メタボリックシンドローム予備軍及び該当者の割合及び肥満者の割合が増加している。 ・中津川市民病院で研修を修了した医師が、キャリア形成等のために他医療機関に勤務するため、直接の医師確保につながらない。 ・不要不急な受診を控え、傷病の緊急度に応じて適切に受診するよう、市民に十分な情報提供を行う必要がある。 ・医業収益の増加及び医業費用の削減による本質的な経営改善が課題となっている ・新病院建設のための財源の確保や、広域化を想定した建設場所の検討ができていない。 ・医師等医療スタッフの確保については、PRを実際の赴任につなげることが課題となっている。 ・市民病院と他の医療機関との連携については、逆紹介先の確保に課題がある。 ・医療スタッフの確保が十分ではなく、特に看護師の確保が課題となっている。

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	3 温かい福祉のまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士修学資金貸付希望者が少ない。 ・独居・認知症など相談内容が複雑かつ多様化しており、今後も相談支援体制の機能強化及び各関係機関との連携をさらに推進する必要がある。 ・出生数が減少する中、核家族化やひとり親家庭の増加など、家族を取り巻く環境の変化により、妊娠や出産、子育てに対する不安や負担が増大している。またDVのほか、経済的困窮など、子どもを取り巻く様々な要因が子どもの健やかな成長を困難にしており、支援を必要とする子どもや家庭、障害のある子どもに継続的に寄り添う支援が求められている。 ・支援が必要な子どもの「早期発見・早期療育」について、市の担当課、保育園等との連携の強化が必要。 ・各施設のバリアフリー化の充実が求められている。 ・障がい者の社会参加について、地域との連携や交流、情報共有する場が求められている。 ・地域での「共助」によるまちづくりに向けて民生委員・児童委員による活動が不可欠であるが、担い手の確保が難しくなっている。 ・生活困窮者の早期自立について、傷病の長期化等により自立までの継続した支援が必要となっている。 ・国保被保険者数が年々減少し、収入が減少している半面、医療の高度化や高齢化に伴い医療費の増加が続いており、国保財政は厳しい状況となっている。 ・健診を受診しない被保険者が多い。また、若年層の健診への関心が薄い。

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	4 地域の活力があるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な体制づくり、地域課題の主体的な解決に向けて、自治組織の基盤づくりに課題がある。 ・自治会加入世帯が減少しており、自治会加入率が減少傾向にある。 ・自治会役員の負担が増加しており、役員のなり手不足が深刻化している。 ・地域コミュニティの活力や住民自治機能の低下が課題となっている。 ・多様化する問題に対応した人権啓発や人権教育を推進・強化していく必要がある。 ・路線バスの運行本数維持が困難になってきていることや、十分なタクシーの配車できていないという課題がある。 ・今後、リニア開業の見通しが立ってきた際には、全市的な公共交通の再編についての検討が必要。 ・バス運賃の値上げによる高校生の定期的増額が見込まれ、保護者の負担が増加する懸念がある。 ・人口減少と高齢化の進展する中山間地域での持続的発展に課題がある。 ・交通インフラの整備効果の最大化（二次交通の強化）を行う必要がある。

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	5 いきいきと暮らせるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくり型生涯学習」を進めるにあたり、コミュニケーション能力に長けた人材の発掘、養成が必要となっている。 ・公民館講座や養成講座の受講生が、自ら学んだ成果を活かせる場を提供をしていく必要がある。 ・「一市民1スポーツ」の実現に向け、スポーツ推進の指導や助言を専門的に行う必要がある。 ・子どもの本離れを防ぐ取り組みが必要である。 ・読書推進に向けて、より多くの人々が図書館に来る動機づくりを工夫する必要がある。 ・実施している各講座において、図書館の利用や読書推進につなげられる内容にしていく必要がある。 ・市民と図書館とが協働して読書推進を行う必要がある。

基本理念	人々がかがやくまち
政策の柱	6 歴史文化に魅力があるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各種伝統芸能団体活動が継続的に行われ、後世に伝えていくには、人材と資金が必要であり、指導者の高齢化、衣装、道具の管理や公演にかかる費用の増加などが課題である。 ・指定文化財の整備では、国庫補助金の減額など、計画どおりに整備等が進まないという課題がある。 ・指定文化財の維持管理に関して、環境の変化や老朽化などに対応するため、修繕費等に多額の費用を要する ・郷土資料の種類、数量が多く、集約する資料の選定、集約施設の選定を進める必要がある。 ・芸術作品に触れる機会の創出、幅広い世代の文化芸術活動等の活性化には、より時流にあった対応が必要である。

基本理念	やすらぐ自然につつまれたまち
政策の柱	1 災害に強い安全なまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した橋梁の架替えには多大な事業費が必要であるため、既存橋梁を長く使用するための対策が必要である。 ・有事の際に、共助により、地域の減災へ繋がる取り組みを実践できる防災意識を市民一人ひとりに浸透させる必要がある。 ・市内建築物の耐震化を速やかに完了する必要がある。 ・市内の農林業施設の老朽化が進み、維持管理費用が増加していくことが予測される。 ・災害時において人命を守るための十分な備えを行い、人的な被害を発生させないためには、今後も多額の費用が必要である。 ・災害時に自らの命を守ってもらうため、応急手当講習の新規受講者を増やしていく必要がある。 ・消防車両等の価格高騰により、財政的負担の増加が課題である。 ・施策の効果を適切に測ることができる評価の指標を定める必要がある。 ・歩道の設置には、道路隣接者の理解と協力が必要となる。

基本理念	やすらぐ自然につつまれたまち
政策の柱	2 きれいで豊かな自然を守るまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化及び環境教育・保全活動を行う指導者やスタッフの高齢化、なり手不足の影響で自然環境保全活動参加者の目標値達成が困難な状況である。 ・下水道処理施設の老朽化に伴って維持修繕に多額の費用が必要となっており、財政状況が悪化の傾向にある。 ・上下水道経営において、経常費用の削減、適正な使用料の検討が必要である。 ・山林が多く急峻な地形から流れ込む河川も多く、河川改修だけではなく、砂防や急傾斜等の対策が必要となっている。 ・脱炭素社会の実現に向け、市（公共施設等）が率先して温室効果ガス排出量の削減と再エネ導入に取り組まなければならない。 ・ごみ収集委託は人件費の増額および燃料費の価格高騰により、業務委託料が増加傾向である。 ・不法投棄について、減少の傾向にあるが、未だ発生するため、未然に防止することが課題である。 ・し尿・汚泥処理施設運営の課題として、技能労務職員の高齢化がある。 ・斎場候補地選定（案）について、地域の理解がどこまで得られるか不透明。 ・無縁墓や空き区画の増加による墓地環境が悪化が進んでいる。

基本理念	活気あふれるまち
政策の柱	1 働く場所があり住み続けられるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上支援（先端設備導入計画）を行っているが、零細企業では人手不足が顕著であり、また、資金もなく取り組むことができない。 ・企業の景気は上向きであり事業拡大（設備投資）を視野に入れているが、人材確保が困難な状況である。 ・生産年齢人口の減少と転職者の増加。 ・人口減少や少子高齢化の進行に伴い、中心市街地において、空き家・空き地が増加している。 ・ひと・まちテラスでのイベントにおいて、来館者は多いが、来館者を中心市街地全域へ誘導する仕掛けが不足している。 ・ふるさと納税の新たな返礼品提供事業者の開拓や季節商品、トレンドをとらえた新たな商品の追加、開発等が必要である。 ・中心市街地の活性化につながる事業を継続できる仕組みや、イベントを主導できる個人の発掘や団体の育成など、将来の担い手づくりが課題である。 ・農事組合法人等の土地利用型の営農を行う認定農業者がいない地域では、担い手不足による農地の遊休化が進むことが懸念される。 ・木育に携わる人材育成が課題となっている。 ・市内の林道、林道橋梁、土地改良施設等の老朽化が進み、豪雨などによる被害も多発している。 ・石材業や木工業などでは後継者不足が課題となっており、廃業しているところもある。 ・子牛価格の低迷により、和牛の繁殖を行う畜産農家の経営が厳しい状況にある。

基本理念	活気あふれるまち
政策の柱	2 便利に暮らせるまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路を軸とした道路網の強化、すれ違いを可能とする生活道路の改良が必要となっている。 ・地籍調査において、市全体での進捗率が低いため、その成果を利用した土地取引等の公私とも適切な土地利用、保全ができていない。 ・リニア関連工事における地域住民の生活環境への影響を極力抑え、万全の安全対策の下で事業を進めて行くため、関係者による情報共有を徹底、対応することで地域住民への負担を軽減しなければならない。 ・今後リニア工事がピークを迎えると、工事車両台数が増加するため、工事車両台数を調整し、地元の理解を得る必要がある。 ・リニア開業が見通せないことから、民間企業とにぎわいの創出に向けた民間活力の導入について具体的な検討ができない。 ・本庁舎は、昭和47年度の建設から51年が経過し、施設の更新が必要である。 ・水道施設の耐震化について、令和5年度末における耐震化率は15.4%に過ぎず、安心できる状況にない。 ・上下水道料金の改定を、物価高騰による市民生活の影響を鑑みて令和5年度から見送っている状況であり、その補填を一般会計から行っている状況である。公営企業として独立採算制の維持の観点から早期の料金改定実施による収入の確保が必要である。 ・公営住宅の有効活用を進めているが、耐用年数を超える住宅が増えている。

基本理念	活気あふれるまち
政策の柱	3 世界に向けて情報発信するまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・交流拠点である、ひと・まちテラスが完成したことに伴い、域学連携拠点である coagari の役割を、人が交流する「場所」から域学連携ツールとして移行させ、地域の活性化や課題解決に向けた取組をしていく必要がある。 ・外国人観光客向けの商品開発や受入環境の整備や、海外に向けた地域の魅力の発信が不足しており、対策が必要である。 ・若者に市内企業の魅力を知ってもらう取り組みを行っているが、都市部への流出を抑制できていない。 ・中津川市内企業の詳細を知らない生徒が多いため、周知方法の改良が必要。 ・企業誘致を実施した際に、企業の業種によっては、既存企業と雇用者の取り合いとなることが懸念される。 ・若者の地元定着に主眼をおいた支援を実施していることから、移住者に特化した支援が少ない。

基本理念	活気あふれるまち
政策の柱	4 市外との交流が盛んで、訪れたいまち
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・馬籠宿は世界的旅行誌などで取り上げられ、認知度は向上しているが、当市の他の観光地の認知度が低く周遊性が低いため一層の PR が必要。 ・来訪者の滞在期間の長期化や、主力観光地以外の広い地域への受け入れを実現し、観光産業の振興を図る必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症等により国内姉妹都市交流(蛭川地区)が停滞状態であり、蛭川地区(長崎県対馬市)と山口地区(神奈川県大磯町・長野県小諸市)は、今後の取り組み方針を再検討する必要がある。 ・付知地区(西尾市幡豆地区)は 10 年以上交流がない状態となっているため廃止を視野に検討する必要がある。

1-6 市民の意見を聞く取り組み

(1) 出前講座

市内の高校と大学においては、令和6年9月に授業の一環として総合計画をテーマに講義を行い、このまちの課題や将来の姿について意見をいただきました。



(2) まちの現在を知り将来を考える企画展

オープンハウス型意見聴取として、計画の策定経過の説明や意見聴取を行いました。

3会場、のべ20日間で約170人に来場いただき、現在のまちの姿を示した展示を見ていただくほか、シールアンケートなどにも参加いただきました。

開催概要

まちの現在を知り将来を考える企画展	
時 期	令和7年3月～6月
場 所	ひと・まちテラス、福岡総合事務所、ルビットタウン



第6章 指標一覽

総合計画数値目標の設定の根拠・目標に対する考え方

目標設定項目	現状値(R6)	現状値の根拠	目標	将来値(R13)	目標の根拠・目標に対する考え方
①市民満足度	-0.1	R6年度に実施した市民意識調査により、各施策の満足度の平均値により算出した。 -5.17(全満足度スコアの合計値)/50(全満足度スコアの数)=-0.1034	0.65(増加)	0.55	・現計画において、H25年度からR6年度までの市民満足度スコアが0.63上昇していることを受けて、市民満足度スコアを現状値(R6年度)からR13年度までに0.65上昇させることを目標とした。 ・市民意識調査において、「満足」から「満足でない」の5段階で評価したそれぞれの評価を1段階上昇させることを目標とし、各段階の人数の10%、12%、14%、16%のいずれかを満足度スコアの値に基づき算出し、上昇目標人数を算定した。
②中津川市民の健康寿命	80.8(男) 85.0(女)	国保データベース(KDB)システムより算出されるデータを使用しています。	0.4(増加)(男) 0.7(増加)(女)	81.2(男) 85.7(女)	・「健康寿命のあり方に関する有識者研究会」より、健康寿命の将来推計等を参考にした目標が、「2016年から2040年までに3年以上延伸」とされている。この目標において「健康寿命」とは「要介護度2以上を除いた数」(≒自立生活できる人)としている。 市ではH29年を基準年としてR22年(2040)までに健康寿命を3年延伸することを目標に今まで施策に取り組んでおり、その目標を維持することとして、R13年の目標値を記載のとおりとする。
③市民1人1日当たりのごみ排出量(g)	884	R6年度実績値	-62(減少)	822	・総ごみ排出量は人口減少により取り組みにかかわらず減少が予想される。一人当たりのごみ排出量とすることで、取り組みによる減少を評価することができる。 ・中津川市環境基本計画において定める減少値。市民一人当たりのごみの量を2035年に2018年度比で20%減少させる。
④年間商品販売額(卸売・小売業)※5年毎に調査(百万円)(R3)	122,053	令和3年度の経済センサス-活動調査	5,825(増加)	127,878	・コロナ禍を除く直近の経済センサスであるH28年度調査に基づく市内年間商品販売額である131,253百万円から、人口減少率の推計に合わせて年間商品販売額を推計すると、6,865百万円(約5.23%)の減少が予想される。 ・この数値に対して商業活性化、観光消費額の増加等に取り組むことで、3,490百万円の増加を目指す事とする。 131,253百万円 - 6,865百万円 + 3,490百万円 = 127,878百万円
⑤市内製造品出荷額(百万円)(R4)	432,512	経済構造実態調査	47,488(増加)	480,000	・経済産業研究所の産業構造推計モデルにおける試算より、2040ベースケースにおける労働生産性の成長率(年率)の1.2%を乗じて算出した。
⑥市内観光消費額(推計)(百万円)	18,045	毎年実施する岐阜県観光入込客統計調査による観光入込客数と観光マーケティング調査(観光局実施)による1人当たり観光消費額を掛けることにより算出した。 観光入込客数(延べ人数)4,284,074人×実人数補正62.1%×1人当たり観光消費額6,782.77円	3,518(増加)	21,563	・観光入込客をコロナ前水準である485.9万人へと回復させ、その後、年10万人(約2%成長)を目指す。 ・1人当たり観光消費額は、R3調査開始からの4年平均5,814円から、毎年約2%成長を目指す。 ・観光入込客数目標(延べ人数)525.9万人×実人数補正61.4%×1人当たり観光消費額6,678円

目標設定項目	現状値(R6)	現状値の根拠	目標	将来値(R13)	目標の根拠・目標に対する考え方
⑦主要品目(米、トマト、ナス、栗)の生産量(t)	7,694	・米については、主食用米の作付面積(中津川市農業再生協議会で把握している面積)に中津川市の基準収量(10a当り)を乗じて算出 ・トマト、ナス、栗については令和6年産のJAひがしみのへの出荷実績	6(増加)	7,700	・人口減少と農業者の高齢化が進む中で農業者の減少が避けられないため、新規就農者の育成や、認定農業者等が行う経営発展等の取り組みへの支援を通じて、直近の実績値を維持することを目標とする。
⑧市内畜産産出額(千万円)	503	令和5年度市町村別農業産出額(推計)(農林業センサス結果等を活用した市町村別農業産出額の推計結果)	維持	503	・人口減少と農業者の高齢化が進む中で農業者は減少するが、新規就農者の育成や、認定農業者等が経営発展等に取り組むための支援を通じて、直近の推計値を維持することを目標とする。
⑨森林整備面積(ha)	31.9	R6年度実績値	250(増加)	281.9	・令和9年から令和13年までの5年間で250haの森林を整備することを目標とする。 現状値(31.9ha) + 50ha × (R9~R13) = 281.9 ※計画期間外であるR7, R8は除く
⑩自主財源比率(%)	42.3	決算統計における自主財源比率 R6年度: 自主財源 21,691,897千円/歳入総額51,242,830千円 = 42.3%	0.7(増加)	43	・中津川市財政計画における財政見通しから推計し、将来的にも健全な財政の維持を目指す。